

ゲタ通りデアリマス、政府ハ此重大ナル惡影響ヲ御認ニナルヤ否ヤ御尋シタイノデアリマス、ドウカ慎重ニ御攻究ヲ重ネラレテ、其結果ヲ御答辯アランコトヲ切望致シマス、第二ニ御伺致シタイコトハ、華府會議ニ關聯シテ近ク開カルベキ支那特別關稅會議ニ對スル政府ノ方針ニ付テアリマス、華府會議ニ於キマシテ外國輸入品ニ更ニ現在ノ五割、所謂二分五厘——一般輸入品ニ二分五厘、其他ノ輸入品ニ五分以内ノ附加稅ヲ課スルト云フコトヲ大體華府會議ニ於テ規定致シマシタ、而シテ近ク特別關稅會議ガ支那ニ催サレルコトニナツテ居ルノデアリマス、我が政府ノ方針ハ支那ノ財政ヲ援助スル爲メ進ンデ此華府會議ノ規定ヲ承認シテ、或ハ無條件ニ之ヲ實行スル御意思デアルクト疑ハレルノデアリマス、若シ果シテ左様ナ御方針デアルト致シマシタナラバ、第二ノ質問中ニ詳シク申上ゲマシタ通り、現在ノ關稅サヘモ絶大ナル惡影響ヲ與ヘツ、アルノニ、更ニ之ヲ増加致シマシタ結果ハ、殆ド言語ニ絶シ、如何ナル損害、如何ナル結果ヲ我國ニ與フルヤ測リ知ルコトハ出來ヌノデアリマス、故ニ政府ハ此點ニ關シ、慎重ニ新ナル御考慮ヲ拂ハレ、來ルベキ會議ニ於テ、華府會議ノ規定ヲ承認シ實行スル附帶條件トシテ、現在我國ガ被リツ、アル打撃、及將來被ラントスル大打撃ヲ緩和スル爲メ、支那國內製品ノ生産稅、内地通過稅ヲモ増加シ、以テ輸入品對支那製品ノ負擔ノ均衡ヲ得セシムルヤウニ圖ルコトヲ希望セザルヲ得ヌノデアリマス、私ハ殊ニ其必要ヲ痛感スル者デアリマス、華府會議ニ於キマシテモ、支那製品保護ノ結果ヨリ生ズルコトニ對シマシテ、各國共反對ノ意ヲ表シテ居ルノデアリマス、故ニ我國ノ如キ大打撃ヲ被ル儼然タル大事實アル以上ハ、無理ナル註文ニアラザル以上ハ、支那ノ財政援助ト云フ本當ノ目的ニ適フ所以デアリマス、勿論此日本ノ主張ニ對シテハ相當ニヤカマシキ問題ヲ惹起シマセウ、無論支那ニ於ケル内外人工業家、及支那ノ知識階級全部ノ反對ヲ受ケマセウ、是ハ豫想デアリマスルガ、我國ノ存亡問題トハ何トシテモ換ヘル譯ニハ參リマセヌ、以上ニ對スル政府ノ御方針如何、或ハ會議前ハ明言出來ヌトノ御答ニナルカモ知レマセヌガ、國家ノ爲メ憂慮ニ堪ヘマセヌカラ、敢テ御答辯ヲ求メル次第デアリマス、第四ニ御尋致シタイコトハ、日支親善ノ要諦ニ付テデアリマス、日支親善ノ眞意ハ譬ヘテ申サバ、兩國共存共榮ト云フ大ノ蟲

ヲ生カス爲ニハ、單ニ國ニ不利ト云フ小ノ蟲ヲ犠牲ニスルノデアアル、即チ一方ノ國ノ存亡ニ關スル利害問題ニシテ、唯一方ノ國ニ取リテハ不利デアアルガ、直ニ存亡ニ關セザルモノハ之ヲ讓リ、御互ニ協調ヲ圖ルニ在ルヤ申スマデモナイト考ヘマス、然ルニ先日中村政務次官ハ、松本君平君ノ質疑ニ對シテ斯様ニ答ヘラレテ居ル「政府ハ積極的ニ支那ノ産業發達ヲ援助スル方針デアアル」若シ政務次官ノ御意思ガ産業、詰リ産業ノ意味ガ、支那ニ取リマシテ最モ急務デアアルベキ農業交通業、或ハ鑛山業等ヲ指スモノデアリマスレバ、格別、工業ガ此中ニ含ムモノト致シマシタナラバ、日本ノ絕對利益ト相容レザルモノデアリマス、又華府會議ニ於キマシテ、支那財政援助ノ爲メ關稅ノ引上ニ同意セラレタル事實モ亦我國ノ合理的立場、我國ノ絕對利益ヲ犠牲ニシタルモノニシテ、親善ノ眞意ニ背馳スルモノト思ヒマス、政府ハ如何ニ御考ニナリマスカ、御尋ヲ致シタイノデアリマス、更ニ一般日本人ハ支那全體ノ好感ダニ得レバ、日支親善ハ容易ク出來ルト樂觀シテ居リマスケレドモ、是ハ私ハ大ナル間違デアルクト思ヒマス、何トナレバ日支兩國ハ相隣接シテ居リマス關係上、利害ガ衝突シテ兩立セナイモノガ數限リナクアルノデアリマス、デアリマスカラシテ政府ハ平素ニ於キマシテ親善ノ眞意ヲ成ベク具體的ニ兩國國民ニ理解セシムル方針ニ出デラル、必要ガアルト思フノデアリマス、然ルニ政府ハ過般ノ奉直戰爭ノ際ニ於ケル場合ノ外ハ、概ネ沈黙主義ヲ執レルノハ其必要ナシト御認ニナルカドウデアアルカ、是モ御伺シタイ、モウ一ツ序ナガラ御參考マデ、今日御答辯ヲ得レバ結構デアリマスルガ、一體支那ノ國民ハ日支共存共榮ト云フモノヨリカ、列國ノ關係ダニ許サバ大小ノ利益ヲ自國ニ收ムルト云フ希望ノ方ガ強烈デアリマス、之ニ反シテ日本ノ輿論ハドウデアアルカ、長イ間排日ニ懲リミシテ、今デハ自國ノ利害如何ヲ第一ニ措キ、支那ノ利益ニ迎合セントスル反動的傾向ガアルノデアリマス、更ニ斯様ナ日支親善ニ全然相背馳セル情勢ノ在ルコトヲ政府ハ御認ニナルヤ否ヤ御伺シタイノデアリマス、第五ニ御伺致シタイコトハ外交官ノ經濟的識見ニ關シテ、アリマス、是ハ私ハ少シ極端ナ、又洵ニ失禮ナコトヲ申上ゲルカモ知レマセヌガ、元來明治初年以來ノ我が國情ハ我が外交官ヲシテ、自カラ經濟的識見ノ練磨ヲ疎ンズル風尙アラシメタコトハ、是ハ已ムヲ得マ



セヌ、併ナガラ若シヤ其餘酌ガ残ツテ居ルノデハアルマイカトハ天下ノ憂フル所デアアルノデアリ  
 マス、又前段申述ベタル各種ノ實際問題ニ依リマシテモ、我が外交官ノ經濟的識見ガ如何デアッ  
 タカ、未ダ不十分デナカッタカト思ハレル、所謂國家ニ若干ノ損害ヲ與ヘタル事實ハ乏シカラ  
 ト思フノデアリマス、承リマスレバ近頃我が外務省内ニモ一般ニ經濟的研究ヲ尊重スル意識ハ、  
 以前ニ比シテ遙ニ濃厚デアルトノコトデアリマスルガ、斯様ナル意識「テンデンシー」、……折角意  
 識ヲシテ多年ノ情勢ニ妨ゲラレザルヤウ利導セラレンコトヲ切望ニ堪ヘヌノデアリマス、固ヨリ  
 私ハ外交官補ノ試験制度ノ改善トカ、或ハ人選等ノ細カイコトヲ意味スルノデアリマセヌ、外  
 務省ニ斯ウ云フ新シキ從前ヨリモ一層經濟的知識ヲ充實セラレ、時代ノ要求ニ應ゼラル、ヤウニ  
 高メラレタイトノ意味デアリマス、政府ハ之ニ對シテドウ御考ニナッテイラッシャルカ、實ハ今ヤ  
 經濟約國難ニ直面シテ、而モ其原因ハ多ク對外關係ニ屬シテ、我が外交官ノ手腕、識見ニ待ツコ  
 ト大ナルモノアリマスルガ爲ニ、敢テ卒直ニ此質問ヲ致ス次第デアリマス、願クハ以上ノ質問ニ  
 對シテ、誠意ヲ以テ御答辯セラレンコトヲ切望シテ此壇ヲ降りマス

之ニ對シ高橋農商務大臣、幣原外務大臣及濱口大藏大臣ハ同日書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

- 一 我國現下ノ經濟上ノ困難ハ主トシテ震災ニ基ク復興復舊材料等ノ輸入ニ因ル對外貿易ノ逆  
 調並戰後ニ於ケル世界ノ一般經濟不況ノ影響ヲ受ケ居ルニ因ルモノト認メラルル處政府ニ  
 於テハ之カ對策トシテ財政ノ整理緊縮、國內產業ノ獎勵、輸出貿易ノ振興及海外ニ於ケル邦  
 人ノ經濟的發展ヲ助長スルカ爲最善ノ努力ヲ爲シツツアリ
- 一 現行支那輸入關稅ハ其ノ稅率左迄高カラサルヲ以テ政府ニ於テハ帝國ノ對支貿易カ現行支  
 那輸入關稅ノ下ニ於テ特ニ不利益ノ地位ニ在ルモノトハ認メ居ラス

- 一 政府ハ追テ開催ヲ見ルヘキ支那關稅特別會議ニ於テハ條約ノ定ムル所ニ從ヒ各國ト協調ヲ  
 保チ華府會議ニ於テ定メラレタル趣旨ノ下ニ同國ニ於ケル關稅改正ヲ認ムルト共ニ右改正  
 ノ爲帝國ノ對支貿易カ蒙ルコトアルヘキ打撃ヲ緩和スルニ必要ナル措置ヲ講セシメ度キ意  
 嚮ナリ

- 一 政府ハ日支兩國互ニ其合理的立場ヲ尊重シ國民的諒解ノ基礎ノ下ニ精神的文化的乃至經濟  
 的ノ提携協力ヲ圖ルコトヲ以テ兩國親善ノ要諦ト認ム
- 一 政府ハ外交官ノ養成ニ對シ經濟的素養ノ方面ニ付テモ常ニ十分ノ注意ヲ拂ヒ必要ニ應シ之  
 カ改善ニ努ムル意向ナリ

二 國防上海軍ニ關スル質問

一米國上院ハ昨年十二月十日海軍擴張ノ豫算案ヲ決議セリ其ノ内容ハ左ノ如シ

- 一 航洋巡洋艦 八隻
  - 二 河川用砲艦 六隻
  - 三 主力戰艦ニ對シテ大ニ改装ヲ施シ燃料ヲ石油トセリ
- 右擴張ニ係ル臨時軍事費一億一千一百三十六弗ヲ決議セリ之レ確實ナル軍備擴張ニシテ之カ我



カ國防上ニ關シ其ノ影響如何

- 一前掲擴張ノ外ニ更ニ「一萬噸級ノ航洋巡洋艦二十二隻及大潜水艦四萬八千噸ノ建造ヲ必要ナリ」トノ同海軍協會ノ決議ニシテ若其ノ實現ヲ見ハ我カ國防上ニ於ケル大脅威ナラスヤ如何
- 一米國海軍ハ布哇ヲ以テ前進大根據地トシテ「ホノルル」港真珠灣等ニ大艦隊ヲ收容スルノ設備アリト果シテ然ルヤ
- 一米國海軍ハ本年一月ヨリ六月迄半歳ニ互リ大西洋艦隊及太平洋艦隊ノ全部ヲ擧テ太平洋上布哇附近ニ集中シ或ハ日本帝國ヲ以テ假想敵國トシ以テ攻防ノ大演習ヲ行ヒ更ニ六月ヨリ九月迄ハ濠洲及新西蘭等ヲ歴訪シテ戰術上ノ大行動ヲ作ス是レ蓋太平洋ノ制海權掌握ニ擬スルモノナラムカスノ如キノ行動ハ帝國ニ對スル脅威ナリト認ム政府ノ所見如何
- 一米國ニ於テハ現下ニ於ケル日英米ノ補助艦艇勢力比較ヲ以テ米國ハ大ニ劣等ニアルモノトセリ吾人ノ調査ニ於テハ然ラス我カ當局ノ正確ナル調査如何
- 一華府會議ノ結果ヲ見レバ慄然トシテ肌ニ粟ヲ生ス而シテ該會議後列強ハ著々トシテ新計畫ノ事實ヲ表現セリ然ルニ又近來傳フル所ニ由レハ米國ハ第二軍縮會議ヲ主催セムトス吾人ハ寧ロ國際聯盟規約第八條ニ依ル軍備縮小會議ノ成立ヲ促シ然ル後大ニ列國ノ軍縮ヲ行ハムコトヲ希望ス我カ政府ノ所見如何

一英國保守黨内閣成立ニ由リ愈以テ新嘉坡大海軍根據地建設ニ決シタルモノノ如シ是レ我カ國防上大ナル脅威ナラスヤ如何

- 一近時戰術ノ變化長足ノ進歩ニシテ彼我攻防共ニ空軍ノ威力ニ依ルモノ偉大ナリ今日英米日三國ノ比較ニ於テ我カ海陸共ニ其ノ實力ニ於テ我ハ彼ノ三割ニモ達成セス之レ實ニ我カ軍備ノ大缺陷ニシテ吾人ハ甚々戰慄ニ耐ヘサルナリ思フニ我カ當局怠慢ナラスヤ如何
- 一斯ル現狀ニ在テハ我カ國防上更ニ大ニ慎重ナル研究考查ヲ必要トス政府ハ政治家軍人及實業家等ヲ以テ組織シ國防調査會ヲ設ケテ之カ國家樞要ノ機關タラシムルノ意思ナキヤ如何

十四年一月二十二日三善清之君ハ右質問主意書ヲ提出シ二月十日左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

諸君、米國ニ於キマシテハ第二回ノ華府會議ヲ開催サル、模様デアリマス、幸ニシテ列強ノ間ニ圓滿ナル協調ノ下ニ、列強ガ若シ公平ナル軍備縮小ヲ爲スコトヲ得マシタナラバ、極メテ結構ナ事デアリマス、我國ニ於テモ無論贊成ヲ致サナケレバナラヌト考ヘルノデアリマス、然ルニ現在ニ於キマシテ、英米ノ二國ハ盛ニ軍備擴張ヲ爲シツ、アルノデアリマス、現ニ其軍備擴張ガ我が國防ノ上ニ大ナル脅威ヲ致シテ居ルト感ジマス、隨テ本日ノ質問ハ主トシテ海軍當局ノ意見ヲ質スノデアリマスケレドモ、自然事外交ニ及ビ、國策ノ上カラ總理大臣ノ答辯ヲ煩スコトモアリマス、又民間航空事業ニ付テハ遞信大臣ノ明確ナル答辯ヲ煩シタイト考ヘマス、尙ホ一言附加シマスガ、或ハ政務次官ヨリ御答辯ガアルカモ知レマセヌガ、外交上ノ事ナリ軍事上ノ事ハ、成ベク主管ノ大臣ヨリ御答辯ヲ煩シタイモノデアリマス、一言申シテ置キマス、先年ノ華府會議ハ其



目的世界ノ平和ト人類ノ幸福ノ爲ニ、五大強國ノ軍備制限ト四國條約トガ成立ヲ致シタノデア  
 リマス、其目的、斯ル美名提唱ノ舌根未ダ乾カザルニ當テ忽チ今日英米二國ガ盛ニ軍備ノ擴張、  
 軍備ノ競争ヲ致シマスコトハ、或ハ又是ガ世界平和ヲ攪亂スルノ禍ノ因トナリハシナイカトモ  
 考ヘラレルノデアリマス、併ナガラ曩ノ華府會議ニ就キマシテハ、各國ニ於テ種々ノ批評ガアル  
 サウデアリマスガ、私ノ或ル外人カラ聞ク所ニ依リマス、其批評ハ面白イ、ソレハ軍備ノ制限  
 ヨリモ寧ロ日本ノ膨脹ト其極東ニ於ケル勢力ヲ殺グ爲ニ用キラレタ手段デアッタト申スノデア  
 リマス、併ナガラ私共ハ決シテ左様ニハ考ヘテ居リマセヌ、併シ歐洲大戰ノ平和克復ニ當リマシ  
 テ、彼ノ平和條約國際聯盟等ニ對シテ米國ガ執リマシタ所ノ態度、其意思ニ付キマシテハ、吾  
 尙ホ頗ル遺憾トスル所デアリマス、即チ世界ノ平和ト人類ノ幸福ニ貢獻シ、之ヲ維持スル爲ニハ  
 國際聯盟ノ如キハ最モ理想的最良ノ方法ナリト信ズルノデアリマスニモ拘ラズ、米國ハ此國際  
 聯盟ヲ拒否シ、然シテ平和條約ニ付テモ極メテ亂暴狼藉ナル言論ガ米國ノ議會ニ於テ弄サレマ  
 シタコトハ、尙ホ諸君ノ記憶ニ新ナル所デアルト考ヘマス、其當時米國ノ上院ニ於テ行ハレマシ  
 タ言論ノ一部ヲ申シマスレバ、殆ド終始我ガ帝國ヲ罵詈譎、離間中傷、毒舌ヲ弄シテ、日本ハ最  
 モ辛辣ナル侵略的國デアアル、又曰ク、日本ハ最モ横暴ナル軍國主義國家デアアル、米國ハ斯様ナ國  
 家ニ對シテハ鷹懲ヲ加ヘテ以テ、斯ル害蟲ヲ撲滅驅除シナケレバナラヌト云フヤウナ言論ヲ弄  
 サレタコトヲ記憶致スノデアリマス、諸君、米國ハ如何ナル理由ニ依テ我ガ帝國ヲ侵略的國家デ  
 アルト申スノデアルカ、甚ダ怪訝ニ堪ヘナイ、今ヨリ二百年前後ニ於キマシテ、歐洲ノ各國ハ或  
 ハ軍艦ニ依リ、或ハ商船ニ依リ、東洋及南洋方面ニ向ッテ盛ニ領土侵略、領土擴張ヲ致シマシタノ  
 ハ事實デアリマス、當時我國ニ於キマシテ大船巨船ヲ造ルコトヲ禁ジ、國民ニ海外ニ遠征致スコ  
 トヲ禁ジマシタ、故ニ明治初年ニ於キマシテスラ我ガ海軍ハ絶無デアリマス、海外ニ向ッテ領土  
 侵略的行爲ヲ施スニハ、最モ海軍ノ力ニ依ラナケレバナラヌコトハ無論デアアル、而モ明治二十七  
 八年ノ役頃ニ於テスラ、我國ニ於テハ海軍ハ無カッタ、其當時日清ノ國交ハ破レマシテ、品川ヲ出  
 マシタ船ガ吾妻艦、金剛艦、或ハ浪速艦ト云フヤウナ、斯ル軍艦ハ二千噸許リ、或ハ三千噸許リ、

今日カラ見マスルト、全ク「ストンボッチ」ノヤウナモノデアリマス、而モ左様ナモノガ二三隻ホ  
 カ無カッタ、故ニ樺山大將ハ商船西京丸ニ乗ッテ戰ツタト云フ事實ガアリマス、斯ノ如ク海軍ノ絶  
 無デアリマシタ我國ガ、ドウシテ海軍ノ海外ニ向ッテ侵略的行爲ガ出來ルデアリマセウ、由來我  
 國ハ建國以來二千五百八十餘年、此間ニ於テ未ダ嘗テ海外ニ向ッテ領土侵略的行爲ヲ施シタコト  
 ハアリマセヌ、斯様ナ事實デアリマス、其二國干涉ノ後ニ於テ及ニ岬ヲズシテ遼東半島ヲ領シ、  
 一宣教師ノ殺害ヲ以テ山東半島ヲ領シ、一軍艦モ用キズシテ威海衛ヲ領シマシタル各國ニ對シ  
 テハ、米國ハ未ダ嘗テ一言半句ノ抗議モセズ、攻撃モ致サズ、他ヲ見テ願ミザルモノ、如クデア  
 リマシタ、然ルニ歐洲大戰平和克復ニ際シマシテ「ヴェルサイユ」條約ノ時ニ於テ、我ガ全權ハ山  
 東ニ於ケル支那ノ主權ハ全部之ヲ支那ニ還付スルモノデアルト云フコトヲ堂々トシテ聲明サレ  
 テ居ルノデアリマス、然ルニ拘ラズ米國ノ上院ニ於キマシテハ、尙且ツ盛ニ我國ヲ非難攻撃ヲ致  
 シマシテ、日本ノ山東ニ對スル行爲ハ盜賊的行爲デアアル、國際間ノ大罪惡デアアル、又曰ク、山東百  
 萬ノ蒼生ハ東洋暴君ノ鐵鎖ニ繫ガレテ居ル者デアアル、又曰ク、米國ハ「アルサス、ローレン」ヲ佛  
 蘭西ニ取返シテヤル爲ニ獨逸ト戰ツタノデアアル、此次ハ山東ヲ取返シテ支那ニヤル爲ニ日本ト戰  
 フコトヲ辭セナイモノデアルト云フコトヲ、米國ノ上院ニ於テ斷言ヲサレマシタ、如何ニモ其大  
 膽ニ驚カザルヲ得マセヌ、而モ其言論者ハ米國一流ノ大政治家「ロジイ」氏、「ボラー」氏、「ジョン  
 ソン」氏、「シャーマン」氏、斯ノ如キ有力ナル政治家ニ依テ斯様ナ言論ヲ致サレタコトハ、頗ル遺  
 憾トスル所デアリマス、斯様ナ有力者ノ政治家ニ依テ宣傳サレマシタル其事ハ、米國ノ多クノ國  
 民ノ腦髓ニ徹底シ、大ナル誤解ヲ來シ、是ガ加奈陀「ニュージブランド」濠洲等ニマデ波及致シマ  
 シテ是ガ遂ニ恐日病トナリ、排日主義トナリ、今日尙ホ國際ノ間ニ於テ禍ヲ爲シツ、アルハ洵ニ  
 遺憾ニ堪ヘナイ次第デアリマス、更ニ又華盛頓會議ノ當初ニ遡ッテ見マシテモ、英米二國ハ共鳴  
 シテ以テ主力艦ノ勢力十割ヲ主張致シタ、然ルニ我國ニ對シテハ六割ヲ押付ケタ、我國ハ之ニ對  
 シテ七割ヲ要求致シマシタガ、之ニ應ジナイ彼等ニ大強ガ一割ノ差ヲ以テ何程ノ影響ヲ致スデ  
 アラウカト吾々ハ考ヘル、而モ之ニ應ジナイ、尙且ツ太平洋上ノ防備制限ニ付キマシテハ、我國



ハ本土ヲ距ル僅ニ五百哩ノ小笠原ノ防備スラ現状維持、將來擴張相成ラズ、之ニ反シテハ米國ハ  
 西海岸ヲ距ル二千哩ノ布哇、ホノル、眞珠灣等ヲ中心トシテ、新戰隊海軍根據地ニ自由ニ擴張  
 ヲ爲シツ、アルデアリマセヌカ、又英國ハ東緯百十度以東ニ於テ云々ト云フコトヲ華盛頓條  
 約ニ掲ゲテ置キマシテ、唯一歩西ニ偏シタル所ノ新嘉坡ニ於テ、此度大海軍根據地ヲ作成スルガ  
 如キハ、何人ガ見マシテモ華盛頓會議ノ條約ノ如キモノハ、決シテ公平無私デアルトハ申サレナ  
 イ、即チ所謂優勝劣敗、弱肉強食ノ一端ヲ露ハシタモノデアラウト思フ、斯様ニ慨嘆ニ價スルノ  
 デアリマス、併ナガラ諸君、華盛頓會議ノ當初ニ於キマシテ、若シ我が國民ガ我國ノ權利ヲ強ク  
 主張致シマシタナラバ、華盛頓會議ハ遂ニ破裂ニ至ツテ、當時列強ガ盛ニ擴張シツ、アッタ軍備ノ  
 擴張ハ、今日マデ繼續致シテ居ルノミナラズ、ソレガ爲ニ如何ナル誤解ヲ來シタルカモ分ラヌ、  
 斯ク考ヘマスト、今日尙ホ慄然トシテ寒心ニ堪ヘザル次第デアリマス、要スルニ此會議ニ於キマ  
 シテハ、日、佛、伊ノ三國ガ漸ク協調ヲ保チ、殊ニ我が帝國ハ隱忍自重シテ此協調ヲ保チ、華盛頓  
 會議ヲ成立致シタノデアアル、即チ世界ノ平和ト人類ノ幸福ニ對シテ、我が帝國ハ多大ノ貢獻ヲ呈  
 シテ居ルモノデアリマス、而シテ將來モ尙且ツ我國ハ此方針ヲ以テ圓滿ナル協調ノ下ニ軍備縮  
 小ニ盡シマスコトヲ希望シテ止マザル所デアリマス、然ルニ現今ニ於キマスル英米列強ノ軍備  
 擴張、軍備ノ競争ハ實ニ甚シイノデアアル、即チ國民ニ向テハ軍事思想ノ養成ニ努メ、國民亦是ガ  
 修養ニ就キ、而シテ陸海軍ノ軍事費ノ如キハ、年々歲々其擴張ヲ見ツ、アルノデアリマス、私ハ  
 是ヨリ第一問トシテ先以テ海軍當局ニ御尋致シマス、昨今米國ニ於ケル海軍擴張ノ一部ヲ申シ  
 マスレバ、千九百二十三年度ノ海軍ノ經常費ハ二億五千八百萬弗ヲ海軍ガ決議ヲ致シマシタ、所  
 ガ上院ハ更ニ之ヲ増額擴張致シマシテ、二億九千四百萬弗ニ増加致シタ、其増加ノ内容ヲ見マス  
 ルト、航空軍ノ擴張及船艦ノ改造等デアリマス、更ニ驚ク勿レ舊艦十二月十日ニ於テ、米國上院  
 ハ海軍ノ臨時擴張費ヲ一億一千二百二十萬弗ヲ決議致シマシタ、其内容ヲ見マスルト、更ニ優秀  
 ナル巡洋艦八隻ヲ新造致シ、更ニ砲艦六隻ヲ新造致シ、此砲艦ハ支那ノ揚子江等ニ用ケルモノデ  
 アリマシテ、現在ニ於キマシテ既ニ米國ノ砲艦ハ揚子江二十艘浮ンデ居ルニモ拘ラズ、更ニ茲ニ

六隻ヲ新造致シ、更ニ又主力艦ニ向ツテ改造ヲ爲シ、即チ空中防備ニ備ヘ、大潜水艦ノ襲來ニ備  
 ヘ、而シテ燃料ヲ油ニ代ヘル、斯様ナル事ニ向ツテ此臨時費ヲ投ズルノデアリマス、而モ此臨時費  
 ノ擴張ヲ、議會ニ對シマシテ米國ノ海軍長官ハ説明シテ曰ク、今後米國ハ二十箇年間毎年一億一  
 千萬弗ノ海軍ノ臨時費ヲ要スル、左様致シマスルト、二十二億弗ノ臨時費ヲ將來ニ加ヘルト云フ  
 コトニ相成リマス、而モ今日海軍ノ經常費ハ千九百二十四年、五年ニ於キマシテモ、約三億萬弗  
 デアリマス、又同年度ノ陸軍ノ經費ノ如キモ經常費ニ於テ三億二千萬弗、其内容ヲ見マスルト航空  
 軍擴張ニ主トシテ用ケル、又比律賓ニ向ツテ更ニ八千ノ守備兵ヲ増加スル、八千ト申シマスレバ  
 一個師團ニ當リマス、斯ノ如キ米國ノ盛ナル軍備熱、軍備擴張ニ對シマシテハ我が國防ハ大ナル  
 脅威デアアル、殊ニ海軍ニ於テハ最モ是ハ用意周到ヲ要スル事デアルト思ヒマス、先以テ此第一問  
 ニ對スル海相ノ明確ナル意見ヲ尋ヘルノデアリマス、第二問ハ米國ノ海軍協會ニ於キマシテハ、  
 更ニ何ハ免モアレ大至急ニ一萬噸級ノ巡洋艦二十二隻ト、大潜水艦四萬八千噸ヲ急造シナケレ  
 バナラヌ、斯様ナ建議デアリマス、諸君、制海權ヲ有スル國民ニ非ザレバ勝利者トナルコトガ出  
 來ヌ、相對スル國家ニ對スル十割以上ノ海軍ガナケレバ、ソレ以下ノ海軍デハソレハ全ク無用ノ  
 長物、無益ノ浪費デアルト斷言ヲ致シテ居リマス、甚ダ亂暴ナル斷言デアリマスケレドモ、ソレ  
 ハ事實デアアル、即チ歐洲大戰ノ「ジュットランド」大海戰ニ於キマシテ、英獨ノ大海戰、又日本海ニ  
 於ケル日露ノ大海戰ヲ見マシテモ、其數ト其量ニ於テ雄大ナルモノガ常ニ勝者デアッタ事實ガ斯  
 ノ如キ事ヲ證明致シテ居ルノデアリマス、此意味ニ於テ、此理想ニ於テ海軍協會ノ議論ハ出テ參  
 ルモノデアルト考ヘマス、斯様ナ次第デアリマシテ、是ガ米國上下兩院ヲ通過スルヤ否ヤハ未定  
 デハアリマスケレドモ、由來現在ノ米國上院ハ對外硬デアアル、而シテ、昨今爲シツ、アル所ハ軍  
 備擴張ニノミ努メテ居リマスル次第デアリマスカラ、或ハ是ガ實現ヲ致スカモ知レマセヌ、左様  
 ニ致シマス場合ハ、我國ニハ更ニ重大ナル影響ヲ致ス、此點ニ付テ又海軍當局ノ明確ナル御答辯  
 ヲ煩シタイト思ヒマス、第三ハ既ニ一二ノ議員カラ質問ヲ致シマシタヤウデアリマスガ、本年  
 一月カラ六月ニ於キマシテ米國ノ海軍ハ、大西洋艦隊、太平洋艦隊ノ全部ヲ提ゲテ、太平洋ノ中



心布哇附近ニ大集中ヲ行ツテ、以テ我が日本帝國ヲ假想敵國トシテ、以テ大ナル攻防演習、大ナル海軍戰術ノ研究ヲ致スノデアリマス、六月カラ九月ニ掛ケマシテハ彼ノ排日思想ノ盛ナル濠州、新西蘭方面ニ向ツテ歴訪ヲ致スノデアリマス、其行動タルヤ勿論彼ガ太平洋ノ制海權ヲ掌握スルコトニ歸スルコトハ疑フ容レザルモノデアリマス、諸君、從來人種上ノ偏見ヲ有シ、昨年五月排日移民法ヲ決定致シマシタル米國ハ、此事ヲ經濟的國內問題デアルト申シマスルケレドモ、斯ノ如キハ實ニ人種上ニ於ケル大問題、而モ一等國ノ一員タル帝國ニ對シテハ侮辱デアリマス、吾ハ甚ダ遺憾骨髓ニ徹シマス、諸君、斯ノ如キ事柄、斯ノ如キ不祥事、斯ノ如キ非人道ノ事柄ハ、一日モ速ニ兩國ノ間ニ於テ解決ヲシ、將來ノ圓滿ヲ圖ラナケレバナラヌコト、考ヘマス、是ニ於テ外務大臣ニ御尋申シマスルコトハ、先刻私ガ申シマシタ歐洲大戰ノ直後ニ於テ盛ニ我が帝國ヲ攻撃シ、又ソレガ爲ニ各方面ニ誤解ガ來シテ居ル、爾來今日マデ日米間ニ今少シ努力ヲセラレタナラバ、斯様ナ事ニハナラナカッタデアラウカト感ジマス、加之事此ニ至ツテ外務大臣ハ、將來時機ノ至ルヲ待タナケレバナラヌト云フヤウナ過日説明ガアリマシタヤウニ伺ヒマスガ、斯様ナ事柄ニ對シマシテハ、餘リ緩漫ナル外務當局ノ御意見ノヤウニ伺ヒマス、今少シク國民ヲシテ満足セシムル御答辯ヲ伺ヒタイモノデアリマス、又此大演習ニ付キマシテハ、之ニ就テハ外交上何等抗議ヲ申ス餘地ガ無イデアラウト思ヒマス、併ナガラ米國ノ如ク富ノ力ノ雄大ナル、而シテ天產物ノ豐富ナル、何ニ依テ斯ノ如キ大海軍演習ヲ爲スノデアアル、一面カラ考ヘマスルト云フト、或ハ帝國ニ對スル示威運動デナイカト云フ疑ヲ生ジマス、之ヲ要スルニ米國ハ盛ナル軍國主義トマデ申シタイ位ノ今日ノ有様デアリマス、斯様ナル狀況ニ付テハ更ニ海軍ハ如何ナル所見デアルカ、餘程ノ海軍ハ將來ニ用意ヲシナケレバナラヌコト、考ヘマスノデアリマス、第四問ハ最モ奇怪ナ事デアリマスガ、最近米國ガ日英米ノ補助艦艇ノ比較ヲ天下ニ公表ヲ致シマシタ、米國ノ補助艦艇ノ勢力比較ハ、日英兩國ニ比シテ遙ニ劣等デアアル、斯様ナコトヲ天下ニ公表シテ居リマス、恐ラク是ハ米國內ノ國民ヲ煽動シ、及我が國內ノ軍事上ニ疎イ國民ヲシテ我が國防ガ雄大ナルモノデアアルカノ如ク感ゼシムルモノデナカラウカト思ヒマス、實ニ此公表ハ全然嘘デアリ

マス、私共十分調査ヲ致シテ居リマスガ、嘘デアリマス、就キマシテハ我が當局ハ明確ナル茲ニ比較ヲ現ハシテ、内外國民ヲシテ了解セシメラレンコトヲ希望スルノデアリマス、第五ハ英國ノ新嘉坡ニ海軍根據地作成ノコトデアリマス、由來英國ハ香港ニ於キマシテ相當ノ防備ヲ有シテ居ル、而シテ香港ハ我が橫濱ヲ距ルコト僅ニ千四百哩、艦隊ノ行動半徑ノ以內ニ在ルノデアリマスニモ拘ラズ、此度更ニ新嘉坡ニ大海軍根據地ヲ作成シテ、一朝東洋ニ事アル場合ニ於テハ、英國ノ有力ナル艦隊ヲシテ此方面ニ差向ケマスルニ於キマシテ、十日程アリマスレバ其出動ヲ爲シ得ルノデアアルト思ヒマスニモ拘ハラズ、一千萬磅ハ最初ノ豫算デアリマシテ、更ニ追加豫算ガアル、更ニ航空旅團等モ設ケマシテ居リマスルト云フコトデアリマス、而シテ新嘉坡ハ先刻申上ゲマシタ華盛頓條約ノ十九條ニ、東緯百十度ヨリ僅ニ一步西ニ偏シテ居ルノデアリマス、併ナガラ僅ニ一步西ニ偏シテ居ル爲ニ、新嘉坡ニ於テ斯ノ如キ海軍根據地ヲ作成スルコトハ、華盛頓條約ノ精神ニ於テ違反デアルト私ハ思フ、併シ條約ノ文面ニハ違反デアリマセヌ、條約ノ文面ニハ緯度ヲ示シテアル、緯度ヲ示シテアルカラ差支ハナイト申スコトナラバ、英國ノ此行爲ハ三百的行爲デアルト考ヘマス、而モ亦現外務大臣ハ華盛頓條約ノ際ニハ、全權委員ノ一人トシテ之ニ出席セラレ署名セラレタ方デアリマス、其當時ハ此新嘉坡海軍大根據地作成ノコトハ御存知ナカタカ、御承知ガアツタカト云フコトヲ伺ツテ見タイノデアリマス、私共ノ知ル所デハ、遠ク其以前ヨリ英國ノ希望ガアツタノデ、即チ歐洲大戰ノ初期ニ於テ英國艦隊司令官ノ某ガ、ドウシテモ英國ハ新嘉坡ニ大根據地ヲ作成シナケレバナラヌ、是ハ日本ノ海軍ニ對抗スルニ必要デアルト唱ヘタノデアリマス、又最近ニ至ツテハ亂暴ナル保守黨ノ議員ハ、新嘉坡ニ根據地ヲ置クコトハ、米國ノ比律賓ノ防備ノ援助ニ必要デアルト云フコトヲ承ツタノデアリマス、甚ダ奇怪ニ堪ヘザル次第デアリマス、吾ハ日英同盟ニ付キマシテハ洵ニ忠實デアリマシテ、歐洲大戰ノ當時ニ於キマシテハ、海軍ノ忠實ナル出動ニ依テ太平洋ハ申スニ及バズ、印度洋、地中海ノ安定ヲ得テ、ソレガ爲ニ加奈陀、濠洲、新西蘭、印度ノ安定ヲ得タモノト思ヒマス、英國ハ此事ハヨモヤ忘レハシマイ、然ルニ大戰後ニ於キマシテ、掌ヲ翻ス如ク日英同盟ヲ廢棄サレマシタ、併ナガラ今更吾ハハ



ソレニ對シテハ何等ノ疑問モアリマセヌ、而シテ今日日英ノ間ニ於キマシテハ何等ノ問題、何等ノ交渉ガ起キテ居ラヌ、將來モ尙ホ日英ノ國交ハ千載一日ノ如ク致シタイト考ヘテ居リマス、然ルニモ拘ラズ英國ガ斯ノ如ク大軍備ノ擴張ヲ東洋ニ致スト云フコトハ、如何ナル意思デアルカ、差向キ我が國防ノ上ニ對シテ大影響ヲ致ス、殊ニ海軍ノ上ニ大影響ヲ致スノデアリマスカラ、其意見ヲ伺フノデアリマス、第六問ニ於キマシテハ、過日一二ノ議員ヨリ質問ガアリマシタガ、私ハ日米ノ海軍ノ空軍ニ付テ少シク比較ヲシテ、サウシテ當局者ノ意見ヲ質スノデアリマスガ、米國ノ海軍ノ航空母艦ハ現在五隻アリマス、更ニ著々造リツ、アリマス、日本ハ僅ニ二隻デアリマス、航空船ノ數ガ米國ガ十五隻アリマス、日本ハ僅ニ二隻デアリマス、而シテ飛行機ノ如キハ數倍、飛行家ノ如キモ數倍、飛行中隊ノ數モ二倍若クハ三倍、今日デハ二倍デアリマスガ、著々ヤツテ居リマス、又陸軍ヲ見マシテモ、我が陸軍ノ飛行機ガ僅ニ五百臺バカリデアリマスガ、彼ハ既ニ二千臺以上、航空所ニ於テハ更ニ數倍デアリマス、日米空軍ノ比較ヲ見マスト實ニ雲泥ノ相違デ、其品質、其實力ニ於キマシテハ、實ニ月ト鼈ノ差ガアリマス、而シテ其技術ガ最モ進歩致シテ居リマス、故ニ今日ニ於キマシテハ、米國ノ西海岸カラ極東ノ一端ニ向ッテ、四十時間アリマスレバ優秀ノ空軍ヲ送ルコトガ出來ルノデアリマス、而モ航空母艦ニ數百ノ飛行機ヲ搭載致シマシテ日本ノ近海ニ押寄セマシテ、航空機ノ行動半徑以內ニ於キマシテ活動ヲ致シマシタナラバ、我が六大都市ノ如キハ一撃ノ下ニ粉碎サレマス、諸君、我國ハ八億萬圓ノ帝都復興費ヲ投ジ、其中四億萬圓ハ東京市燒跡七十萬坪ニ對シ、大小二百數十ノ碁盤ノ目ノヤウナ道路ヲ造ル、博覽會ニ出品スル都市ノ模型ノヤウナモノヲ造ルノデアリマス、諸君、此八億萬圓ノ中ノ二億萬圓ヲ我が航空事業ニ投ジマシタナラバ、國防ノ上カラ申シテモ輸送ノ上カラ申シテモ、發達進歩ニ於テ大ナル貢獻ヲ呈スルモノデアルト考ヘルノデアリマス、然ルニ我が大政治家ノ爲ス所斯ノ如ク愚劣デアリマス、一朝若シ帝都ガ不幸ニシテ敵空軍ノ襲撃ヲ受ケマス場合ニハ、道路ドロコデハアリマセヌ、畏多クモ上一天萬乗ノ君主ヲ始メ奉リ、都民二百萬ノ生命財產ヲ一撃ノ下ニ粉碎サレルノデアリマス、斯様ナコトハ常ニ講究ヲ爲スベク相當ノ設備ヲ爲スベキモノデアリマス、是ニ於

テ米國海軍長官ノ言明ヲ藉リ來ッテ申シマスレバ、米國ノ空軍ハ尙且ツ不足デアル、而モ民間ノ航空事業ニ對シテ更ニ國庫ガ補助シテ、其發達進歩ヲ圖ラナケレバ相成ラヌ、ソレガ國防ノ上ニ於ケル大急務デアルト、斯様ニ米國ノ海軍長官ハ言明シテ居リマス、私モ其通リ申シタイノデアリマス、是ニ於テ犬養遞相ニ伺ヒタイノデアリマスルガ、此處ニ見エテ居リマセヌノハ甚ダ遺憾デアリマス、遞相ハ遞信ノ現業員ノ現狀ニ付テハ極メテ涙脆イ御方デアリマス、國家大局ノ上カラ見ルノ明ガ有ルカ無イカ、甚ダ疑ハシイモノデアルト思フ、成程現在ノ我國ハ財政ガ窮乏デアリマス、併ナガラ只今一例ヲ擧ゲテ申シマシタ如ク、國家ノ大局カラ緩急前後ヲ鑑別シテ相當ノ事ヲ爲スベキモノデアアル、是ニ於テ本員ハ犬養遞相ノ茲ニ賢明ナル答辯ヲ煩シテ、國民ヲシテ満足セシメタイノデアリマス、若シ遞相ガ居ナケレバ次官デモ宜シイ、明確ナル答辯ヲ要シマス、次ハ第七問、是ハ總理大臣ニ對シテ伺ヒタイノデアリマスガ、遺憾ナガラ總理大臣ガ御見エニナラナイノハ甚ダ遺憾デアリマス、本員ハ先刻要求致シテ置イタガ、如何ナル御差支ガアッタカ更ニ伺ヒタイ、私ノ總理大臣ニ伺ヒタイノハ、先刻申シマシタ第二華盛頓ニ於ケル會議、此主催ハ今日上院委員長タル「ボーラー」氏モ主張シテ居リマス、「ウキツチ」氏モ希望シテ居ル、私共モ無論贊成デアル——大希望デアリマス、併ナガラ自己本位ノ國防デハ駄目ダ——軍縮デハ駄目デス、申スマデモナク小國家ハ弱肉強食ヲ免ル、ガ爲ニ、相當ノ國防ト相當ノ防備ヲ要スルコトハ勿論デアリマス、是ニ於テ英國ノ如キ、米國ノ如キ、國力ノ大ナル國家、又自ラ先ンジテ軍縮ノ模範ヲ示スベキモノデアルト考ヘマス、我國ノ如キハ他國ノ干渉ヲ受ケズトモ、既ニ陸軍ノ如キ或ル程度ニマデ軍縮ヲ致シテ居ルノデハナイカ、故ニ將來ノ軍縮ニ對シテ相當ノ名案ガアルナラバ、先以テ名案ヲ示スベシ、果シテ公平無私デアレバ吾々之ニ贊同スルニ於テ吝ナラザル者デアリマス、併ナガラ諸君、屢新聞ニ現レマス所ノ仰角問題云々ノ如キ、又大砲或ハ軍艦ノ製造ニ付テ云々ノ如キ、航空機ノ製造ニ付テ云々ノ如キ、斯ノ如キ技術上ノ問題ニマデ立入ッテノ協定ハ恐ラク出來マイ、主トシテ總理大臣ニ伺フノハ是カラデアリマスガ、國際聯盟ハ一般ノ國家ニ對シテ極メテ公平無私デアルト思フ、既ニ國際私法裁判所モ出來テ居ルノデアリマス、爭ハ



相争フ所ノ兩國ニ於テ其請求ヲ國際私法裁判所ニ持出サナイ場合ニ於テモ、聯盟國ハ義務的ニ之ヲ國際私法裁判所ニ持出シテ、相當ナル裁斷ヲ受ケ、サウシテ仲裁ヲシテ圓滿ニ解決ヲシタ  
 イ、更ニ進ンデ相互安全保障ノ如キモ爲サントシテ居ル、而シテ今ヤ平和議定書ハ特ニ成ラント  
 シテ、英國ガ批准ヲシナイト云フコトデアリマス、實ニ怪シカラヌコトデアルト考ヘル、其原因  
 ヲ推測致シマスルノニ、所謂恐日病ノ濠洲、新西蘭等ノ反對抗議ノアル爲ダトモ言ヒ、又米國ニ  
 對シテ英國ガ氣兼ネ遠慮ヲスルノデヤナイカト云フ惡口モアリマス、左様ナ事デアリマスマ  
 イガ、兎ニ角國際聯盟ノ如キハ、世界ノ平和ト人類ノ幸福ニ對シテ極メテ必要ナル機關デア  
 ル、而シテ歐洲大戰、平和克復ノ一大產物デア  
 ル、此產物ニ對シテ米國ハ第一著ニ反對ヲシテ之ヲ壞  
 シタ、而シテ今又平和議定書ノ成ラントスルニ對シテ、英國ガ之ニ批准ヲシナイト云フコトデア  
 レバ、國際聯盟ハ英米ニ依テ打壞サレ、何ガ爲ニ今日列強ガ努力ヲ致シマシタ、而シテ總理大臣  
 ニ伺ヒタイノハ、總理大臣ハ外交家出身者デア  
 ル、殊ニ又英國ニ付テハ相當ノ知己モ有ルヤウデ  
 アル、然ラバ此國際聯盟ヲ堅實ニ實現セシムルダケノ努力ヲスル御者ガ有ルカ無イカ、最早國際  
 聯盟ト云フモノハ一片ノ反古ニナツテシマツテ、將來ニ見込ガ有ルカ無イカ、此點ヲ明確ニ總理大  
 臣ヨリ答辯ヲ求ムルノデア  
 リマス、若シ總理大臣ガ居ナクテモ、私ノ申シタコトヲ他日承ルヤウ  
 デハ残念デア  
 ルカラ、外務大臣ガ之ニ代ツテ御答辯ヲ願ヒマス、第八問ハ世界ハ斯ノ如ク今日不  
 安デア  
 ル、而シテ列強ハ危險ナル軍備ノ大擴張ヲ爲シテ居ル、而シテ國民ニ向ツテ軍事思想ノ養  
 成ヲ爲シテ居ル、國民亦其德薄ニ就イテ居ル、然ルニ我國ニ於テハ將來國家ノ中心、國家ノ中堅  
 トナルベキ大學生ノ如キハ、青少年訓練ニ對シテ多大ノ反對ヲ爲シ、言論機關亦之ニ應援スルト  
 云フガ如キハ、我が國家亡國ノ兆デア  
 ルト斷言ヲ致シマス、斯様ナル場合ニ於キマシテハ、同僚  
 諸君ト共ニ政府ハ勿論ノコト、畢竟國民ガ列強ガ盛ニ軍備ノ擴張ヲシテ居ル、斯様ナル事ヲ知  
 ラナイ、唯他ノ宣傳ニ依テ我國ノ國防ガ既ニ過大ノモノデア  
 ルカノ如キ大ナル誤解ヨリ生ジタ  
 モノデア  
 ル、由テ以テ之ヲ十分ニ周知セシムル必要ガアルト思フ、是ニ於テ總理大臣ノ決心ヲ促  
 スコトガアリマス、即チ前年我國ニ於テハ防務會議ト申スモノガアリマシタ、防務會議ナルモノ

ハ秘密會デア  
 ル、英國ノ防務會議、佛蘭西ノ防務會議ハ秘密會デア  
 リマス、併ナガラ亞米利加ノ  
 如キ、伊太利ノ如キハ秘密デナイ、即チ軍機軍制ニ關スルコトハ別トシテ、或ハ種々ナル用意ニ  
 於テ調査會ヲ設ケテ居ルノデア  
 リマス、是ニ於テ我國ニ於キマシテモ防務會議ニ非ズシテ國防  
 調査會ナルモノヲ至急ニ設クル必要ガアラウカト思フ、左様致シテ秘密ニ屬セザルモノハ、成ベ  
 ク之ヲ公開シ、國民ヲシテ周知セシメ、而シテ將來華府會議ノ場合ニ之ニ應ズル準備トシテ國論  
 ヲ造ル上ニ必要ガアルト思フ、即チ至急ニ國防調査會ヲ御設ケニ相成リタイト思フ、過日總理大  
 臣ハ貴族院ニ於テ、或ハ委員會ニ於テ、質問ニ對シテ、防務會議ハ必要ハナイ、成程アリマスマ  
 イ、是マデア  
 リマシタ防務會議ハ、例ヘバ我國ノ防務會議ハ大正三年大隈内閣ノ當時ニ於テ二箇  
 師團ヲ設クル爲ニ拵ヘタ防務會議デア  
 ル、ソレ故ニ大正十二年ニ於テ廢シマシタ、私ノ申スノハ  
 左様ナ事デハナイ、國民的國防調査會ヲ至急御設ケニナリタイト思フ、此點ニ付テ御快諾ヲ願ヒ  
 タイ、總理大臣ニ十分御傳ヘテ願ヒタイ、總理大臣ノ御快諾ヲ願ヒタイ、何等差支ナイ事デア  
 ル、此點ニ付テ總理大臣ニ代ルベキ大臣ヨリ御説明ヲ願ヒマス、以上第一問ヨリ第八問ニ至ルマデ、  
 當局者ヨリ明確ナル御答辯ヲ煩シマス、終ニ一言致シマス、本期議會ハ貴族院ノ改革ノ如キ、普  
 選案ノ如キ、重要ノ案件ヲ御同様ハ抱擁シテ居ル、併ナガラ此質問ノ如キハ、國際間ニ關スル重  
 大ナル問題デア  
 リマス、願クハ同僚諸君ト共ニ更ニ研究ヲ進メタイト思ヒマス、一言申シテ置キ  
 マス

之ニ對シ秦政府委員及幣原外務大臣ハ同日口頭ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

秦政府委員ノ應答

只今三善君カラノ御質問デア  
 リマシタ、此事ハ極メテ重要ナル問題デア  
 リマス、ソレ故ニ海軍大  
 臣カラ御答スルコトヲ適當ト考ヘマスガ、生憎差支ガアリマス、併ナガラ此質問ニ御答スルニ付  
 キマシテハ、政府トシテノ所見ヲ十分ニ練リマシテ、サウシテ御答スルノデア  
 リマスカラ、左様



御承知ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、三善君ノ御尋ニナリマシタ此米國ノ海軍ノ建造計畫ノ事デアリマス、是ハ政府ト致シマシテハ補充案デアルト考ヘテ居ルノデアリマス、又此主力艦ノ燃料ヲ石油ニ改メタト云フコトニ付テノ御質問ガアリマシタガ、是ハ華盛頓條約ノ規定ニ違反スル性質ノモノト政府ハ認メテ居リマセヌ、而シテ是等ハ政府ハ我が國防上ニ於テ特ニ重大ナル影響ヲ及ボスモノトハ考ヘテ居リマセヌ、又次ニ米國海軍協會ガ主張致シテ居ル所ノ建造計畫ニ付キマシテ、御心配ニナツテ政府ノ意見ヲ御尋ニナリマシタガ、併ナガラ此米國ノ海軍協會ナルモノハ、言フ迄モナク私立ノ團體デアツテ、其海軍協會ガ歴大ナル製艦計畫ヲ立テ、之ヲ主張致シテ居リマスコトニ付キマシテ、政府ト致シマシテ此假想的ノ事實ヲ基礎トシテ、之ニ對シテ意見ヲ述ブルコトハ得ナイノデアリマス、又次ニ米國ハ本年ノ一月ヨリシテ施行スル所ノ海軍大演習ニ付テノ御尋ガアリマシタ、是ハ御話ノ通り其規模が大デアル、又其期間ガ長キニ互リ、又其實施スル所ノ海面ガ遠ク太平洋ノ南西部ニ及ブト云フコト、是等ノ點カラ考ヘマシテ、我國ニ於キマシテモ多大ナル輿論ヲ惹起シタコトハ事實デアリマス、併ナガラ政府ト致シマシテハ、之ヲ以テ直ニ我が帝國ノ國防上ノ脅威ト認メルコトハ能ハザルモノト考ヘテ居ル次第デアリマス、次ニ補助艦艇ノ比率ノコトデアリマスガ、米國ニ於テハ日本ヨリモ遙ニ劣勢デアアル、斯ウ云フ風ナ意見ガ米國ノ一部ノ人士ノ間ニ行ハレテ居ルト云フコトハ事實デアリマス、屢サウ云フ風ナコトガ發表セラレテ居ルノモ存ジテ居リマス、併ナガラ實際ニ於キマシテハ決シテサウ云フ譯デハナイ、我が日本ノ補助艦艇ノ勢力ト云フモノハ、米國ニ較ベテ見マスト遙ニ劣ッテ居ルト云フコトハ事實デアアルノデアリマス、本年ノ一月一日現在ノ勢力ヲ比較シテ見マスト、即チ此水上艦、巡洋艦、驅逐艦ヲ併セマシテ米國ヲ百ト致シマスレバ、日本ハソレニ對シテ四十二ノ割合ニシカ當ラヌノデアアル、即チ其隻數ヲ申シマス、巡洋艦二十九隻、驅逐艦八十一隻合計百十隻ガ我が日本ガ持ッテ居ル所ノ水上艦デアリマス、其總噸數ハ合計二十五萬五千六十八噸、然ルニ米國ノ方ニ在リマシテハ、巡洋艦ガ三十二隻、驅逐艦ガ三百九隻合計三百四十一隻ノ多キニ達シテ居ルノデアアル、サウシテ其噸數ハ總計六十一萬一千六百三十八噸トナツテ居ルノデアリマス、ソレ

故ニ米國ヲ百トスレバ我國ハ四十二ノ割合ニシカナツテ居ラナイノデアアル、又潜水艦ヲ比較シテ見マスト、我國ニ於キマシテハ五十隻、三萬五千八百二十四噸ノ潜水艦ヲ持ッテ居ルノデアリマス、米國ニ於テハ百十八隻、七萬七千三百四十九噸ノ多キ潜水艦ヲ持ッテ居ル次第デアリマス、而シテ此巡洋艦、驅逐艦、所謂水上艦ト潜水艦ト併セマシテ之ヲ比較致シテ見マシテモ、米國ノ百ニ對シテ矢張日本ハ四十二ノ割合ニシカ持ッテ居ラヌ所ノ實際デアリマス、サウ云フ次第デアリマスカラ、米國ノ補助艦艇ノ勢力ハ我が日本ニ比シテ遙ニ劣勢デアルト唱ヘテ居ルコトハ事實ニ相違シテ居ルト云フコトハ明デアルト信ズルノデアリマス、次ニ英國ガ新嘉坡海軍根據地ヲ建造セントスル所ノ計畫ガアルト云フコトニ付テノ御質問デアッタノデアリマスガ、是ハ御話ノアツタ通り、既ニ日英同盟ガ解カレタ後ニ於テ、直ニ此議ガ英國ニ起キマシテ、保守黨内閣ニ於テハ既ニ之ニ著手セントシタコトガアル、現ニ幾分ハ著手セントシタコトガアルノデアリマス、併ナガラ彼ノ勞働黨内閣ニ至ツテ新嘉坡根據地ヲ建造スルコトヲ見合シマシテ、之ニ代フルニ巡洋艦五艘ヲ建造スルコトニ改メタコトハ御承知ノ通りデアアル、然ルニ此度又保守黨内閣ニナリマシテ、此新嘉坡ノ海軍根據地ヲ設クルト云フコトノ議ガ起ツテ居ルト云フコトヲ聞イテ居リマス、マダ之ニ就テ傳ヘル所ハ色々アリマスガ、確定シタルコトヲ聞キマセヌガ、是ガ決定致シタル場合ニ於キマシテハ、我が帝國ハ是ガ爲ニ相當影響ヲ受ケルト云フコトハアルト考ヘマス、併ナガラ之ヲ以テ直ニ帝國ニ對スル大ナル脅威ナリトハ政府ハ考ヘテ居ラナイノデアリマス、又我が海軍ノ航空力ニ付テ質問書ニハ記載サレテ縷々御述ニナリマシタガ、成程列強ニ比シテ遜色アルコトヲ免カレヌト云フコトハ認メテ居ル所デアリマス、目下既定計畫ヲ運用シ、充實スルコトニ銳意努メテ居ル次第デアリマシテ、尙ホ將來ニ於テ財政ノ許ス範圍内ニ於キマシテハ、之ヲ擴張セントスル所ノ考ヲ持ッテ居ル次第デアリマス、又此華盛頓會議ノ結果ガ甚ダ我國ニ取ツテ不十分デアッタト云フ所ノ見地カラデアリマセウガ、此米國ノ第二軍縮會議、是ヨリハ國際聯盟、軍縮會議ノ方ノ海軍制限等ノ問題ニ掛ツタ方ガ公平ニ裁カレハセヌカト云フ風ニ伺ヒマシタガ、此米國ノ第二次軍縮會議ト云フコトモ、大統領ニ意圖アルガ如ク傳ヘラレテ居リマスケレドモ、併ナガラ



マダ政府ニ於テハ何等ノ申出ニ接シテ居リマセヌ、又國際聯盟會議ニ付テハ御承知ノ通り六月十五日ニ開ク豫定ニナラテ居リマスガ、彼ノ英國ノ自治領等ノ關係ニ於テ會議ヲ開クト云フコトモ極ツテ居リマセヌ、サウ云フ次第デアリマシテ、此國際聯盟ノ軍縮會議ノ内容モ未ダ極ツテ居ラヌコトハ私ガ言フ迄モナイコト、信ジマス、ソレ故ニ此兩會議ニ對シテ何レヲ取り、何レニ向ツテ進ムガ宜イト云フ帝國政府ノ態度ト云フモノハ、今日ニ於テ決定スル時期デハナイト云フコトヲ政府ハ認メテ居ルノデアリマス、又國防調査會ノコトニ付テ御尋ガアリマシタガ、是ハ既ニ總理大臣ニ於テ言明致シテ居ル通デアル、即チ豫算ノ許ス範圍内ニ於キマシテ最善ノ考慮ヲ拂ッテ居ルノデアリマス、特ニ官民合同ノ國防調査會ヲ設ケテ對策ヲ講ズルト云フ必要ハ今日ノ所認メテ居リマセヌノデアリマス、右御答ニ及ビマス

幣原外務大臣ノ應答

只今三善君ヨリ御質問ノ要旨ニ對シマシテハ、既ニ海軍政務次官ヨリ御答辯致シタコト、承知致シテ居リマス、唯最後ニ國際聯盟ノ事ニ付テ御質問ガアリマシテ、此事モ大體既ニ政務次官ヨリ御答辯致シタノデアリマスガ、過般ノ「ジユネーヴ」ニ於キマスル國際聯盟ノ總會ニ於テ決議セル所謂「ジユネーヴ」平和議定書、此ノモノヲ英吉利ガ批准シナイノハ國際聯盟ヲ破壊スルモノデアル、斯ノ如キ行動ヲ日本政府トシテハ默ツテ居ルカト云フ風ナ御質問ノ趣旨ノヤウニ伺ヒマシタガ此平和議定書ハ英吉利ハマダ之ヲ批准スルトモシナイトモ決定致シテ居ラヌノデアリマス、日本政府自身モマダ決定シテ居ラヌノデアリマス、之ヲ批准シナイカラト云フテ國際聯盟ノ行動ヲ否認スル、國際聯盟ヲ破壊スルモノデアルト云フ結論ハ決シテ來ナイモノデアルト私ハ考ヘル、日本政府ハ國際聯盟ノ事業ニ對シマシテハ、常ニ深甚ナル同情ヲ表シ、其成功ヲ祈リ是ガ發達ノ爲ニハ出來ルダケノ力ヲ盡スコトヲ躊躇致サナイ次第デアリマス、是ダケヲ御答申上ゲテ置キマス

右ニ對シ三善君ハ左ノ如ク希望ヲ述フ

私ハ英國ガ批准ヲシナイカラ國際聯盟ガ破壊サレルト云フコトハ申サナイ、批准シナイ模様デアルカラ我が當局ハ全力ヲ注イデ國際聯盟ノ破壊サレナイヤウニ盡力シテ貰イタイト云フコトヲ要求シタ、更ニ遞信大臣、總理大臣ノ御出席ヲ要求シテアリマシタノニ、御出席ガナイカラ其點ニ付テハ御答辯ヲ保留致シマスカラ、他日明確ナル御答辯ヲ願ヒマス

三 輸入超過並農村振興ニ關スル質問

輸入超過ノ防遏ト農村振興トハ我カ國ニ於ケル刻下ノ大問題ナリ而シテ近時物價猶昂騰ノ傾向アルハ極メテ憂慮スヘキ事態ナリトス思フニ斯ノ如キニ至リタル所以ノモノ蓋歴代ノ内閣カ其ノ對策宜シキヲ得サルニ因ルニ非サルカ政府ハ是等重要ナル問題ニ對シ如何ナル新政策ヲ立テムト欲スルカ敢テ明白ナル答辯ヲ求ム

十四年一月二十三日神崎勳君ハ右質問主意書ヲ提出シ其ノ趣旨辯明ヲ爲スニ先チ二月十日高橋農商務大臣、濱口大藏大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

一 輸入超過ニ關スル件

輸入超過ノ防遏ニ付政府ハ一昨年關東地方震災ノ結果復興材料等ノ輸入激增ヲ見我國際貸借ノ逆勢頓ニ顯著トナリタルニ鑑ミ輸入抑制ノ對策ヲ講スルノ一層緊要トナルヲ認メ即チ勤儉ヲ獎



勵シ國民ノ消費ニ對シ節制ヲ加ヘシムコトヲ期シ又贅澤品等ニ對シ高率ナル關稅ヲ賦課スルト  
共ニ内地品ノ愛用ノ風ヲ涵養スルニ努ムル等ノ方策ヲ採リ來リタルカ今後ニ於テモ更ニ考究ヲ遂  
ケ尙輸出商品ノ製産及販賣ニ關スル共同施設ヲ獎勵スル等ニ依リ輸出ヲ促進スル等其ノ他適切  
ノ對策ヲ講スル考ヘナリ又物價騰貴ノ現狀洵ニ憂慮スヘキモノアルニ鑑ミ政府ニ於テモ之カ調  
節ニ付努力スル方針ニシテ曩ニ行政財政ノ整理ヲ實行シタルカ如キハ即チ物價調節ニ趣旨ニ出  
テタルモノナリ勤儉獎勵ノ方策爲替維持恢復ノ方策ノ如キ亦物價調節ニ資スルノ貢獻センコト  
ヲ其主要ナル目的ノ一トナシタルモノニ外ナラス惟フニ最近物價騰貴ノ原因ニ付テハ生産消費  
金融其ノ他内外各方面ニ存シ頗ル複雑ナルヲ以テ政府ハ充分ノ考究ヲ遂ケ今後ニ於テモ適當ノ  
對策ヲ講スル所アルヘシ

一 農村ノ振興ニ關スル件

農村ノ現狀ニ鑑ミ農村振興上必要ナル各般ノ方策ニ付テハ從來政府ニ於テ各種調査機關ノ研  
究ヲモ參酌シ施設ヲ怠ラサル所ニシテ今後大ニ施設劃策スヘキモノ多カルヘキモ農業ニ關スル  
協力經營ヲ普及セシメ以テ生産品ノ節減、金融ノ緩和、農産物販賣方法ノ改善ヲ期スル等農家收  
入ノ増加ヲ計ルヲ以テ急務ナリトシ本期議會ニ對シ新ニ農村振興費豫算ヲ提出シ農業共同施設  
獎勵、農業倉庫、共同繭倉庫及共同乾繭裝置獎勵、產業組合事業督勵、副業獎勵、農具改良普及獎

勵、卵ニ關スル共同施設獎勵、牧野改良ニ關スル共同施設獎勵、種牡牛馬ノ補充並畜力利用獎勵等  
ノ費途ニ充テ尙農村問題ト密接ナル關係アル水産業ニ於テモ其ノ經營上ノ基本トナルヘキ各種  
ノ必要ノ共同設備ノ施設ヲ助成シ其ノ改良充實ヲ獎勵スル爲之ニ關スル經費ヲ計上シ船揚場及  
船溜設備、販賣設備、製造設備、増殖設備、倉庫設備、漁船及漁具設備、運搬設備並救難設備獎勵等  
ノ費途ニ充ツル豫定ナリ

右ニ對シ神崎勳君ハ三月十七日意見ヲ陳述セリ

四 國民思想ニ關スル質問

- 一 國民思想ニ對スル政府ノ根本的對策如何
- 一 普通選舉施行後ニ於ケル政治的並思想的團體出現ノ傾向如何

十四年一月二十三日原惣兵衛君外一名ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ三月七  
日若槻內務大臣、岡田文部大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

一 國民思想ノ根本的對策

政府ハ、聖旨ヲ奉體シ益教育ノ改善振興ヲ圖リ特ニ國民道德ノ涵養ニ努ムルト共ニ社會的



教化施設ノ充實ヲ期シ民間ニ於ケル斯種施設ニ獎勵助成ヲ加ヘ一面立法其他各般ノ施設ニ依リ現下ノ難境ニ對スル國民ノ自覺ヲ促シ奢侈安逸ノ陋習ヲ一洗シテ勤儉力行ノ美風ヲ振起シ國民相率キテ質實剛健ノ風ヲ作興セムコトニ努メツツアリ尙社會政策的立法及行政手段ヲ講スルハ不健全ナル思想發生ノ防止ニ資スル處尠ナカラサルヲ以テ時勢ノ要求ニ應シ緩急ヲ圖リ之ニ關スル法律及制度ノ制定改善ヲ期セムトス

一 普通選舉施行後ニ於ケル政治的竝思想的團體出現ノ傾向如何

所謂普通選舉施行後ニ於ケル政治的竝思想的團體出現ノ傾向ニ就キテハ猝カニ之ヲ豫斷スルコト難カルヘシト認メラル

五 蠶絲業ノ國策ニ關スル質問

蠶絲ハ本邦重要ノ物産ニシテ斯業ノ盛衰ハ直ニ以テ國力ノ消長ニ關ス然ルニ内物價勞銀ノ昂騰ニ因リテ其ノ經營年一年ニ困難トナルモノアリ外支那蠶絲業及人造絹絲ノ脅威アルカ爲ニ近時米國蠶業ノ擡頭セムトスルモノアリテ當業者ハ頗ル不安ノ念ニ驅ラル此ノ際最善ノ方策ヲ講シ斯業百年ノ大計ヲ樹ツルハ刻下ノ急務ナリト信ス政府當局ノ所見如何

十四年一月二十三日加藤知正君ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ一月二十九日高橋農商務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

支那蠶絲業及人造絹絲業ノ發達竝米國蠶業ノ擡頭ニ付テハ政府ハ常ニ注意ヲ怠ラサル所ナルモ此ノ際本邦蠶絲業發展ノ爲採ルヘキ最善ノ策ハ我カ生絲ノ品位ヲ改善統一シテ進歩セル歐米機業ノ現狀ニ適セシメ一面生産費ノ低減ニ努メ以テ優良品ヲ廉價ニ海外ニ供給スル策ヲ講スルト共ニ繭及生絲ノ取引方法ヲ改善シテ其ノ價格ノ安定ヲ圖ルニ在リト認ム仍テ政府ハ原蠶種ノ改良統一、桑園ノ改良、養蠶及製絲方法ノ改善等ニ關シ獎勵費ノ交付其ノ他ノ手段ニ依ル指導獎勵ノ施設ヲ繼續シ新ニ乾繭所及繭倉庫ノ設置ヲ助成シテ繭取引法ニ漸次改善ヲ加ヘ以テ絲價ノ安定ヲ圖ルト共ニ蠶絲ノ經營ノ基礎ヲ安固ナラシメムトス

右ニ對シ加藤知正君ハ二月十七日意見ヲ陳述セリ

六 森林伐採ニ關スル質問

歷代ノ政府カ經營スル森林伐採販賣事業ニ關シ第四十九回議會ニ於テ質問書ヲ提出シタルニ單ニ植林ヲ爲ス爲ニ伐採ヲ繼續スルモノナリトノ答辯ナレトモ元來此ノ事業ハ百害有リテ一利無ク殊ニ民業ヲ壓迫スルノミナラス森林伐採ノ爲漸次灌漑用水ニ缺乏ヲ來シ吾カ國ノ誇リトスル



水力電氣事業ハ減水ニ起因シテ減電シ爲ニ内務省ハ窮餘ノ窮策トシテ之ヲ補足スルニ火力ノ設備ヲ勸誘スルモノノ如シ政府ハ尙且從來ノ方針ニ依リ伐採ヲ繼續スルヤ明確ナル答辯ヲ請ハムトス

十四年一月二十四日佐藤富十郎君ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ二月二日高橋農商務大臣、犬養遯信大臣及若槻内務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

國有林ニ於ケル產物採取方法ノ良否ハ森林ノ更新撫育上極メテ重大ナル關係ヲ有スルノミナラス國土保安ニ亦尠カラサル影響ヲ及ホスヘキモノナルカ故ニ國有林經營上其ノ必要ニ應ジ政府自ラ其ノ伐採事業ヲ行フモノニシテ之カ爲民業ヲ壓迫スルカ如キ事實アルヲ認メ難ク將來仍ホ繼續施行ノ要アリトス  
治水上ノ關係ニ至リテハ國有林ハ固ヨリ一般公私有林ニ對シテモ深甚ナル注意監督ヲ怠ラス以テ水源ノ涵養ヲ期シツツアリ  
右ニ對シ二月十日佐藤富十郎君ハ意見ヲ陳述セリ

七 陸軍軍備ノ整理並行政整理ニ關スル質問

一 陸軍軍備ノ整理ニ就テハ師團數減少ノ外他ニ適當ノ方法ナキヤ

二 師團數ヲ減スルハ假ニ已ムヲ得ストシテ砲兵ヲモ減スルハ果シテ機宜ニ適シタルモノナルヤ

十四年一月二十四日蟻川五郎作君ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ二月三日宇垣陸軍大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

一 今同企圖セル新施設ノ整理ヲ見ル曉ニ於テハ師團數ヲ減少スルモ國防上支障ナク又其ノ他十四年ノ方法ニ據ルコトハ動員作戰ハ勿論經費捻出等ノ關係ニ於テ適當ナラスト認メ今回實施セントスル方法ヲ最良ト信シ之ヲ採用スルコトトセリ

二 歩砲兵ノ比率ニ關シテハ最近戰役ノ經驗ニ鑑ミ特ニ審議研究セラレタル所ニシテ歐米列強ハ相競フテ其ノ比率ヲ高上センコトヲ努メアリテ我國軍ニ於ケル該比率列強ニ比シ及ハサル状態ニ在ルハ爭フヘカラサル事實ナルモ元來國軍ノ裝備ハ其ノ行動スヘキ舞臺ト敵手トヲ考ヘ且戰時補給力等ヲモ考慮シテ決定スヘキモノニシテ目下ノ状態ニ於テハ我國軍砲兵ニ關シテ質ノ改良ヲ行ヒ其數量ノ如キハ必スシモ歐米列強軍ト同一ナラシメサルモ妨ナシト考ヘ茲ニ内外四圍ノ狀勢ニ照シ國防上必要ノ最小限度ヲ整備シ尙既定ノ繼續費ノ運用



ニ依リテ其他ノ改善ヲ企圖ス

右ニ對シ蟻川五郎作君ハ二月十七日意見ヲ陳述セリ

八 教育ノ方針問題ニ關スル質問

教育ノ普及ニモ拘ラス近來國民ノ思想德操風俗ノ荒廢ハ教育在來ノ方針ニ於ケル缺陷ヲ暗示セ  
スヤ政府ハ教育方針ノ更新ヲ考量スルノ必要ヲ認メサルカ

十四年一月二十七日建部遜吾君ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ二月十日岡田  
文部大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

我カ國ノ教育ハ明治二十三年煥發セラレタル教育勅語ニ率由スルモノニシテ將來ニ於テモ此ノ  
方針ヲ變更スルノ必要ヲ認メス然ルニ時勢ノ變遷ニ伴ヒ近時國民ノ思想德操等ニ關シ遺憾トス  
ヘキ現象尠カラス故ニ政府ハ銳意教育當事者ヲ策勵シテ教育勅語ノ趣旨貫徹ヲ期シツ、アリ今  
回師範教育ヲ改善シテ教員ノ德操識見ニ一段ノ進歩ヲ加ヘ又學校ニ於ケル教練ヲ振作シテ學生  
生徒ノ心身ヲ鍛鍊シ其ノ資質ヲ向上セシメムト企圖スルモノ亦前述ノ目的ヲ達成セムトスル手  
段ニ外ナラス

右ニ對シ建部遜吾君ハ二月二十四日意見ヲ陳述セリ

九 山林政策ニ關スル質問

- 一 我カ國山林ノ材積(本國)ハ現在六百億立方尺ニ過キス而シテ一箇年伐採高二十五億立方尺  
ニ達セムトス此ノ趨勢ヲ以テ進ムトキハ二十四箇年ニ伐採シ盡シ而モ幼木ノ成育之ニ伴ハ  
サルハ明白ナリト信ス之ニ對スル政府ノ方針如何
- 二 我カ國山林ノ最豐富ナルハ北海道(二百四十億立方尺)樺太(約六十億立方尺)ナリトス然ル  
ニ山火豫防ノ方法不完全ヲ極ムル爲大正十三年中ノ被害北海道ノミニテモ尙三百七十四件  
此ノ反別十九萬九千三百七十一町ヲ算ス是レ眞ニ國家ノ重大事トモ謂フヘシ政府ハ之ニ對  
シ徹底的豫防計畫ヲ樹ツルノ意思ナキヤ
- 三 山林政策ハ國家永遠ノ利害休戚ニ直接影響スル大問題ナリ故ニ國有公有私有等其ノ所有者  
ノ如何ニ關セス一定ノ方針ノ下ニ經營セシムルヲ可ナリト信ス之ニ對スル政府ノ所見如何

十四年一月二十七日坂東幸太郎君ハ右質問主意書ヲ提出シ其ノ趣旨辯明ヲ爲スニ先チ二月十七日  
加藤内閣總理大臣、高橋農商務大臣及若槻内務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ



一 我國森林中御料林及國有林ニ付テハ施業案ヲ編成シ生産保續ノ原則ノ下ニ植伐シツツアルヲ以テ生産涸渴ヲ憂フルノ要ナシ、公私有林一般ニ付テハ樹苗養成費補助、竹林造成費補助、山林會事業費補助等ニ依リ造林ノ促進ヲ圖リ特ニ公有林ニ付テハ治水事業費ニ依リ部落有林野統一、入會整理、施業計畫案編成等ニ依テ開發ヲ圖ルノ外造林補助ヲ爲シ更ニ進テ公有林野官行造林法ニ依リ國營造林ヲ實行シテ生産保續ノ道ヲ講シツツアリ私有林ニ付テハ其ノ過伐ノ現狀ニ鑑ミ植伐均衡ヲ得セシムル爲相當考慮中ニ屬ス

二 樺太島ノ森林ハ古來斧鉞ヲ加ヘサリシ原生的森林ナルヲ以テ一朝之ニ火氣ノ觸ルルアラシカ其ノ損害實ニ計ルヘカラサルモノアリサレバ之ヲ未前ニ防禦スルノ方途ニ付テハ常ニ深甚ノ注意ヲ拂ヒ取締規則等ヲ發布シ殊ニ災厄季タル融雪季ニ於テハ當務吏員ヲ督シ一般ニ山林出入者ノ取締ヲ嚴ニスルト共ニ林内要所ニ消防設備ヲ施シ一面ニハ國有林火防組合規則ヲ發布シ地方住民ヲシテ火防組合ヲ設ケシメ獎勵金ヲ交付シ出火豫防ニ努ムルノ外樺太廳ニ於テハ年々火防線ノ伐開ヲ爲シ萬一ニ備フル等極力火災防備ニ力ヲ致シタル結果其ノ被害漸次減少スルニ至レリ尙今後ニ於テモ本件ニ對シテハ絶ヘス研究ヲ怠ラサルコトヲ期ス

北海道ニ於ケル山火發生ノ原因ハ多ク融雪期開墾火入等ニアルヲ以テ之カ防止ノ施設トシ

テ一面防火線ノ開設森林主事之ニ附屬スル巡視人及騎馬巡視ノ配置其ノ他消防器具ノ配備等ノ外他面森林防火組合ノ獎勵竝地方住民ノ愛林思想ノ涵養ヲ期シツツアリ漸次效果ヲ舉ケツツアルモ累年山火頻出ノ狀況ニ鑑ミ今後尙是等施設ノ十全ヲ期スルノ要アルヲ認メ目下之カ調査中ニ在リ

三 森林經營ニ付テハ國有林ハ勿論公私有林ニ付テモ常ニ治水其ノ他國土ノ保安ヲ考慮シ生産保續ノ方針ノ下ニ經營スル様指導シ保安關係特ニ重大ナルモノニ付テハ保安林編入其他森林法上ノ監督ヲ爲シツツアリ

一〇 海外移住獎勵ニ關スル質問

一 海外移住政策ノ確立實行ハ帝國現下ノ急務ナルニ拘ラス政府ノ施設極メテ不十分ナルノ憾アリ政府ハ本件ニ關シ現狀ヲ以テ満足スルモノナリヤ若不足ナリトセハ如何ナル方策ヲ樹テ之ヲ實行セムトスルカ詳細ナル具體的答辯ヲ望ム

一 移殖民獎勵費ノ使途ニ關シ政府ハ如何ナル處置ヲ執レリヤ其ノ詳細竝其ノ結果ニ關スル政府ノ答辯ヲ望ム



十四年一月二十七日津崎尙武君ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ二月十六日幣原外務大臣及若槻内務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

- 一 政府ハ海外移殖民獎勵ニ關シ其ノ現ニ實行シツツアル施設ヲ以テ未タ充分ナリトハ思料セズ將來財政其ノ他諸般ノ事情ヲ斟酌シ更ニ出來得ル限りノ施設ヲ講セムコトヲ期ス然レト茲ニ豫メ其ノ内容ヲ具體的ニ言明スルコトハ帝國公共ノ利益ニ反スル所アルモノト認ム
- 一 移殖民獎勵費ノ使途ニ關シテハ政府ハ移殖民思想ノ宣傳教養ノ目的ヲ以テ各地ニ講習、講演會ヲ開催シ又海外興業株式會社、海外移殖民獎勵團體、移殖民學校等ニ補助金ヲ交付シテ之ヲ助成スルノ外「ブラジル」移住民ニ對シテハ海外興業株式會社ヲ通シテ一人二百圓ノ渡航準備金ヲ交付シ又海外渡航者ニ對スル移民會社ノ取扱手數料ヲ補給シ其ノ他「ブラジル」國ニ邦醫ヲ留學セシメ又内地移住ニ關シテハ北海道及朝鮮移住者ニ一戸當二百圓ノ補助金ヲ交付セシムル等移殖民ノ獎勵保護ニ努メツツアリ而シテ大正十二年度ニ於ケル北海道移住戶數ハ二百四十二戶、朝鮮移住戶數三十三戶ニシテ海外興業株式會社ノ取扱ニ係ル海外移殖民ハ大正十年一、八三九人、大正十一年一、二七〇人、大正十二年一、五二七人、大正十三年四、七六七人、總計九、四〇三人ニシテ相當效果ヲ收メツツアルモノト信ス

一 海外移住獎勵ニ關スル再質問

- 一 海外移殖民獎勵ハ現下我カ國內ニ横ハル社會問題思想問題農村問題商工業問題等各種ノ重要問題ト直接間接ニ關係スル所極メテ多ク是等諸問題ヲ解決スル根本要件ノ一ナリト信ス政府ノ所見如何
- 二 我カ國民ノ海外移住ハ雷ニ國內ノ諸問題ヲ緩和シ解決スルノミナラス併セテ世界未開ノ土地ヲ拓キ人類ノ幸福ヲ増進シ延テ世界ノ平和ニ貢獻スル所以ナリト思惟ス政府ノ所見如何
- 三 移殖民政策ノ確立實行ニハ拓殖省ノ設置ヲ必要トセスヤ政府ノ所見如何
- 四 政府ハ過般移民調査會ヲ設置セリト聞ク果シテ然ラハ同會ハ如何ナル目的ヲ以テ如何ナル調査ヲ行ヒ如何ナル結果ヲ得タルカ
- 五 政府ハ我カ國ノ海外發展ニ關スル民間ノ適當ナル施設ニ付テ積極的援助ヲ爲スノ意思アリヤ
- 六 海外投資ノ獎勵拓殖會社ノ設立拓殖金融機關ノ設置ハ海外移住獎勵ニ緊要ノコトナリトス然ルニ是等ノ點ニ關シ施設ノ觀ルヘキモノナシ政府ハ此ノ際相當ノ方策ヲ樹テ其ノ實現ヲ期スルノ意ナキカ
- 七 海外投資實行方法ノ一トシテ組合活用ノ必要アリト思惟ス政府ハ右ニ關シ移住組合法制定



ノ意ナキヤ

八 海外移住獎勵ノ目的ヲ以テ「ブラジル」ニ土地ヲ購入セムトスルニ當リ外務當局者中窃ニ之カ妨害トナルヘキ行爲ヲ敢テシタル事實及是等移住地ニ渡航セムトスル土地所有者ニ對シ之カ阻止ヲ爲シタル事實ヲ認メサルヤ

九 移民渡航費ヲ補助スルノミニシテ移民ニ對スル諸般ノ施設ヲ缺クニ於テハ海外移住獎勵ノ目的ヲ達スルモノニ非ス而シテ偶渡航費ヲ補助スルニ當リテモ單ニ海外興業株式會社ノ手ヲ經ル「ブラジル」ヘノ家族移民ノミニ與フルハ移民獎勵費ヲ置ケル目的ニ副フ所以ナリト謂フヘカラス政府ノ所見如何

十 政府ハ「ブラジル」移住者ニ對シ海外興業株式會社ヲ通シテ一人二百圓ノ渡航準備金ヲ交付シ又海外渡航者ニ對スル移民會社ノ手数料ヲ補給シ居レリト謂フ然ラハ右取扱手数料ハ一人ニ對シ幾何ナルカ而シテ海外興業株式會社ハ右手数料ニ相當スル金額ヲ別ニ二百圓ノ渡航準備金中ヨリ汽船會社ノ手ヲ經テ拂戻ヲ受ケタル事實ナキヤ若アリトセハ政府ハ之ヲ默過スルヤ

十一 移民渡航船賃ノ補助ヲ爲スノ報誇大ニ傳ハルヤ「ブラジル」ニ於テハ「サンパウロ」州政府ノ補助金復活運動中止セラレタルコト及同國ニ於テ日本移民問題カ特ニ論議セラレ排日的

氣勢ヲ煽ルノ結果ヲ招徠セルコトナキカ

十二 移住國ノ感情補助移民ノ成績ニ自信ナク單ニ船賃ノミヲ補助シテ幾何カノ移住者ヲ海外ニ送リタリトノ口實ヲ得タルノミニシテ却テ我カ國ノ海外移住政策確立ノ障害ヲナシタル事實ナキヤ

十三 營利會社ニ多額ノ補助金ヲ與ヘテ海外移住ノ獎勵ヲ爲スコトハ世間ノ誤解ト惡評トヲ招ク虞ナキヤ寧ロ營利事業ト獎勵事業トハ之ヲ區別シ獎勵事業ヲ發達セシムルカ當今ノ急務ナルニ非スヤ所見如何

十四 海外移住政策ノ確立ニハ海外事情ノ普及宣傳ト共ニ移住者ノ教養訓練ヲ必要トス即チ海外學校移民講習所移住者指導員養成所等ノ設置ヲ必要ト信ス政府ノ所見如何

十五 各府縣ニ於ケル海外渡航手續ニ區區タルモノアリ爲ニ海外移住者ノ迷惑少カラス政府ハ海外渡航ニ關スル手續ヲ簡易ニスルト共ニ其ノ取扱吏員ニ手續ニ關スル智識ヲ授クル必要アリト信ス政府ノ所見如何

十四年二月二十一日津崎尙武君ハ右再質問主意書ヲ提出シ其ノ趣旨辯明ヲ爲スニ先チ三月三日加藤内閣總理大臣、幣原外務大臣、若槻内務大臣及濱口大藏大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ



- 一 政府ハ移植民獎勵ノ諸種ノ社會問題解決ニ資スル所多キヲ認ム
- 二 我カ國民ノ海外移住ハ其ノ移住地並移住者ノ選擇宜キヲ得タル場合ハ世界ノ未開地ヲ開拓シ其ノ平和ニ貢獻スル所アルヘシト思惟ス
- 三 政府ハ經費其ノ他諸般ノ事情ノ許ス範圍ニ於テ移植民ノ獎勵ヲ爲シツ、アリ目下之カ爲ニ拓殖省ヲ設置スルノ必要ヲ認メス
- 四 政府ハ過般移民委員會ヲ設置シタリ同會ハ各省關係官ヲ以テ組織シ大體移民ヲ送ルヘキ地方並移民及之ニ關聯スル海外企業ノ保護獎勵方法等ノ事項ヲ審議スルコトヲ目的トシタリ同會ハ屢次會合ヲ重ネタル結果成案ヲ得タルモノアリタレトモ經費ノ關係上政府ニ於テ未タ確定實行スルニ至ラス
- 五 政府ハ海外發展ニ關スル民間ノ事業ニ對シ現ニ或ル程度ノ援助ヲ與ヘツツアリ現在以上ニ如何ナル援助ヲ與フヘキヤハ經費ノ關係モアリ豫メ明言シ難シ
- 六 海外投資、拓殖金融等ノ機關ハ海外移住獎勵ニ緊要ナルコトハ政府ニ於テモ之ヲ認ム然レトモ其ノ發達ノ爲メ將來政府ニ於テ執ラントスル處置ニ付テハ經費ノ關係モアリ未タ豫斷スルコトヲ得ス
- 七 政府ハ目下移住組合法制定ノ意思ナシ

- 八 政府ハ伯刺西爾國ニ於ケル土地ノ購入ヲ外務當局ノ私ニ妨害シタル事實及土地所有者ノ同國渡航ヲ不當ニ阻止シタル事實ヲ認メス
- 九 移民渡航費ヲ補助スルノミニテ海外移住獎勵ノ目的ヲ十分ニ達成スルコト能ハサルハ政府ニ於テモ之ヲ認ム海外興業株式會社ノ手ヲ經ル伯刺西爾行移民ノミニ渡航準備金ヲ補助スルコトハ移民保護獎勵費設置ノ目的ニ背反スルモノニ非スト認ム
- 十 政府ハ伯刺西爾行移植民ニ對シ海外興業株式會社ヲ通シ一人二百圓(十二歲未滿七歲以上半額、七歲未滿三歲以上四分ノ一、三歲未滿ナシ)ノ渡航準備金ヲ交付シ又移民取扱人ノ手數料大人一人當リ三十五圓ヲ補給シ居レリ而シテ海外興業株式會社ハ汽船會社ヨリ船客取扱ニ對スル報酬トシテ伯刺西爾行移民一人ニ付三十五圓(十二歲未滿七歲以上半額、七歲未滿三歲以上四分ノ一、三歲未滿ナシ)ヲ受ケツツアリ右ハ私立會社間ノ取引ニ係リ政府ニ於テ立入りテ干涉スヘキ限リニ在ラサルモ其處置ニ付テハ目下考慮中ナリ
- 十一 伯刺西爾行移民ニ對シ帝國政府ヨリ補助金ヲ交付スルコトカ「サンパウロ」州政府補助金ノ復活及排日問題ニ惡影響アリタルヲ認メス
- 十二 政府ハ渡航準備金交付ニ對シテ移住國ノ事情補助移民ノ成績ニ充分考慮ヲ加ヘタリ而シテ之カ爲メ帝國ノ海外移住策ニ障害ヲ與ヘタル事實ヲ認メス



十三 政府ハ營利ノ事業ニ對シテ補助ヲ行ヒタルコトナシ海外興業株式會社ニ對シテハ補助ヲ行フモ其ノ使途ニ關シテハ嚴ニ制限ヲ加ヘテ營利ノ目的ニ使用スル能ハサラシムルヲ以テ何等誤解ヲ生セシムル虞ナシト信ス

十四 移住者ノ教養訓練等ニ就テハ政府ニ於テモ夙ニ其ノ必要ヲ認メ現ニ神戸、横濱及長崎ノ三ヶ所ニ移民講習所ヲ設置シ尙ホ移民取扱人ヲシテ各移民船ニ移民監督ヲ乗込マシメ船内ニ於ケル移民ノ教養ニ當ラシメツ、アリ然レトモ海外學校移住者指導員養成所等ノ設置ハ經費ノ關係アルニ付キ俄ニ實行シ難シ

十五 海外渡航手續ニ關シテハ各府縣ノ取扱ニ一任シアルモノ多キヲ以テ多少區々ニ互ル所アルハ已ムヲ得サル所ナリ然レトモ政府ハ成ルヘク其ノ手續ヲ簡易ニスルト共ニ取扱者ニ之ニ關スル智識ヲ授クル爲メ常ニ必要ノ手段ヲ講シツ、アリ

一二 朝鮮統治ニ關スル質問

一 自作農ノ増加ハ我カ國農業振興ノ一良策タルハ世ノ定論ナリ東洋拓殖株式會社ノ朝鮮ニ於ケル大地積ヲ兼并スルコトハ此ノ趨勢ニ逆行スルノ嫌アリ加之會社ト小作人タル朝鮮人トノ間ニハ屢階級的鬭爭ヲ生シ殆ト其ノ怨府トナリ餘憤ハ延テ國家ニ及ホサムトス政府ハ會

社ニ關スル法令ヲ改廢シテ之ニ善處スルノ意思ナキヤ

二 慶尙南道昌原郡鎮海面全羅南道珍島郡珍島面等ニ於テ内地人地主又ハ小作權認許名義人タル内地人ト小作人タル朝鮮人トノ間ニ激烈ナル小作爭議ヲ生シ其ノ累ヲ國家ニ及ホサムトス政府ノ之ニ對スル方針如何

三 慶尙南道尙州金鑛ハ元朝鮮人ノ舊式採掘ニ委セシカ併合後之ヲ國家ニ移シ總督府ハ大正二年鑛務所ヲ設ケ兩三年前ヨリ官營ヲ以テ採掘ニ著手スル計畫ナリシカ俄ニ方針ヲ一變シ或資本團ニ引渡シ資本團之ヲ採掘スル由ナリシモ爾來今日ニ至リ尙著手セサルヲ以テ朝鮮人ノ疑惑喧傳ス依テ政府ハ其ノ内容ヲ闡明シ疑惑ヲ解クノ意思ナキヤ

四 朝鮮人ハ阿片「モルヒネ」「コカイン」等ヲ嗜好スルニ乘シ其ノ賣買ハ内地人ニ依テ盛ニ行ハレ之カ因ヲ爲シ其ノ身神ヲ萎微衰弱セシムルコト甚シ政府ハ之ヲ嚴重ニ取締ル意思ナキヤ

五 江原道襄陽郡朱鳳山ノ國有不要林六千町歩ハ併合前地方民ノ入會燃料採取地ナリシノ故ヲ以テ該地方ノ各面(町村)ハ基本財産トシテ貸下出願セルヲ無視シ之ヲ内地人ニ貸付セムトスト聞ク果シテ然ラハ朝鮮人ノ先取權ヲ排斥シ内地人ヲ曲庇スルノ結果トナリ延テ内鮮融和ヲ害スルモノト信ス之ニ對スル政府ノ所見如何

六 朝鮮獨立運動者ハ不逞鮮人ナリトスルモ亦一種ノ偏狹ナル民族的義人ナリ故ニ之ヲ取締ル



六 同情ト理解トヲ以テシ須ク兩民族融和ノ本旨ニ副ハムコトヲ要ス然ルニ由來政府ノ之ニ臨ムヤ聊カ白眼ニ偏スルノ憾ミアリ而モ之ヲ憤怒激情セシムルハ朝鮮統治上ノ障礙ヲ爲スモノナリト信ス政府ノ所見如何

七 朝鮮ニ在住スル内地人中朝鮮人ヲ奴隸ノ如ク嘲罵酷遇ヲ極ムル者往往アリ爲ニ其ノ餘怨國

正 家ニ及ヒ人心離反ノ深因ヲ爲スノ傾向アリ政府ハ之等ノ内地人ヲ嚴重ニ取締ル意思ナキヤ

八 朝鮮ヨリ内地轉住竝入稼者ノ年年増加スルニ伴ヒ時トシテ種種ナル問題ノ惹起スルハ永年

四 間風俗習慣等ヲ異ニスル結果ナルモノ多ク頗ル之ヲ遺憾トスト雖亦同情ニ値ス然ルニ朝鮮

人中内地人及官憲ニ對シ差別待遇ヲ受クルモノナリト誤解スルモノナキニ非ス之レ實ニ内

鮮融和上極メテ重大問題ナリ依テ政府ハ之ニ對シ最善ノ注意ヲ拂ヒ完全ナル方針ヲ樹ツル

ノ要アリト認ム政府ノ所見如何

三 十四年一月二十九日坂東幸太郎君ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ二月十四日

加藤内閣總理大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

一 東洋拓殖株式會社ハ大正三年以來朝鮮ニ於ケル土地改良工事用地等ノ外社有地増加ノ目的

ヲ以テ土地ノ買收ヲ爲シタルコトナキノミナラス却テ會社ハ自作農創成ノ目的ヲ以テ移住

民其ノ他ニ對シ年々土地ヲ讓渡シツツアリ又現ニ所有スル土地ニ付テハ會社ハ温情ヲ以テ

小作人ニ對スルカ故ニ特ニ同社所有地ナルノ故ヲ以テ小作爭議ヲ生シタル跡ナシト認ムル

ヲ以テ此等ノ點ニ關シ東洋拓殖株式會社法ヲ改正スルノ必要ヲ認メス

二 慶尙南道昌原郡鎮海面ニ於ケル小作爭議ハ農業用地トシテ内地人ニ貸付セル國有地ノ内中

間小作ニ付シタル土地ニ關シ發生セルモノニシテ政府ニ於テハ、貸付期限滿了シタルモノ

ハ將來可成實耕作者ニ貸付ノ方針ヲ以テ事實調査中ナリ

全羅南道珍島郡ニ於ケル小作爭議ハ同島ニ於ケル地主ト小作人間ノ一般的爭議ニシテ内地

人地主ノミニ付起リタルモノニアラス而モ小作料不納ノ誓約アルニ拘ハラズ平素相當温情

ヲ以テ小作人ニ對セル内地人地主ニ對シテハ既ニ大部分其ノ納付ヲ了セルノ狀況ニ在リ從

テ小作爭議ノ爲累ヲ國家ニ及ホスカ如キ虞ナシ

三 慶尙北道尙州郡所在本府所屬金鑛區ハ大正十年度末ニ於テ大體ノ探鑛作業ヲ終了シタルカ

同年九月朝鮮總督府ニ於テ開催シタル産業調査會ニ於テハ之ヲ民間ノ經營ニ移スヲ可トス

ル旨決議シタルヲ以テ其ノ後慎重ニ詮議ヲ重ネ大正十二年九月相當ノ條件ヲ附シテ民間企

業者ヲシテ之カ經營ニ當ラシムルコトトシ鑛業權者ト爾來著々企業計畫ヲ進メ目下技術者

ヲ派シ更ニ詳細諸般ノ事項ニ付調査中ナルノミナラス許可ノ日ヨリ三年以内ニ株式會社ヲ



- 組織シ事業ニ著手スルノ條件ヲ附シアルヲ以テ近ク之カ著手ヲ見ルニ至ルヘシ
- 四 朝鮮ニ於ケル阿片煙ノ吸食ハ舊來ノ弊風ニシテ殊ニ隣接國境地方ハ對岸ノ影響ヲ受ケ其ノ流毒甚タシカリシヲ以テ舊韓國政府時代ヨリ之カ取締ヲ行ヒ併合後總督府ニ於テハ明治四十五年三月朝鮮刑事令ヲ發布シテ阿片ニ關スル制裁ヲ嚴ニシ癮者ニ對シ漸禁主義ヲ採リタル結果惡習感染者ノ減少ヲ見タリ依テ大正三年九月以降絶體禁止ノ方針ニ改メ同時ニ極力癮者ノ救治ニ努メ以テ弊習ノ一掃ニ努メタリ然ルニ原料阿片ハ多ク支那地方ヨリ密輸入セラレ且世界大戰藥品ノ暴騰ニ伴ヒ鮮内ニ於テモ罌粟ノ密栽培ヲ企ツル者アリタルヲ以テ大正八年六月朝鮮阿片取締令ヲ發布シ之カ取締ノ周到ヲ期スルコトトセリ又「モルヒネ」「コカイン」及其ノ鹽類ノ取締ニ付テハ大正九年十二月取締規程ヲ制定シテ之カ輸移出入竝取引ニ關スル制限ヲ設ケ更ニ大正十二年規程ノ改正ヲ行ヒ警察官憲ノ認證又ハ身分證明アルニアラサレハ此種藥品ノ購入ヲ認メサルト共ニ適法ニ取得シタル者ニアラサレハ其ノ所有所持ヲモ禁止シ尙此等患者ノ治療ヲ爲シタル醫師ニハ届出義務ヲ負ハシムル等詳密ナル規定ヲ設ケ不正使用ノ禁遏ニ努メツツアリ
- 五 江原道襄陽郡朱鳳山ノ不要存國有林ハ其ノ面積二百八十五町步餘之レカ處分方針ハ目下尙未定ニシテ質問書ノ如キ事實ナシ

- 六 朝鮮統治ノ大方針ト牴觸セサル政治運動ニ對シテハ内鮮人間ニ於テ之カ取締ヲ異ニスルコトナシ而シテ鮮人ノ民族運動ニ付テハ近時穩健ニ向ヒツツアルモ尙名ヲ民族運動ニ藉リテ治安ヲ紊スノ虞アル言行ヲ爲ス者ニ對シテハ毫モ假借スル所ナク取締ヲ勵行セムトス
- 七 朝鮮在住内地人ノ鮮人ニ對スル態度ハ最近著シク其面目ヲ改メ日韓併合ノ大精神ニ從ヒ兩者提携シテ共存共榮ヲ圖ルノ要ヲ痛感スルニ至リ政治、經濟、宗教社會事業等各般ノ事項ニ互リ國家社會ノ爲共ニ努力セムトスルノ風ヲ馴致セルカ故ニ此點ニ關シ特別ノ考慮ヲ加フルノ要ナキ狀況ニアリ
- 八 内地在留朝鮮人カ風俗習慣等ヲ異ニスル結果往々誤解ヲ生シ易ク爲メニ種々ナル問題ヲ惹起スルハ誠ニ遺憾トスル所ナリ政府ハ之カ融和ヲ計ルノ必要ヲ認メ民間有志者ト協力シ鮮人勞働者ノ職業紹介、宿舍給與延テハ鮮人ノ教育等ニ關シ相當施設ヲ爲シテ指導誘掖ニ努力セリ而シテ政府ハ將來益融和ノ徹底ヲ圖ラムトス
- 一三 帝國國防竝外交ニ關スル質問主意書
- 帝國ノ地位責任竝師團設置ノ歴史ニ鑑ミテ師團單位ノ變更ハ國防上政治上極メテ重要問題ト信ス



イ 四箇師團ノ減少ハ作戰上至當ト認メタルヤ即チ財政上ノ見地ヨリ爲セルニ非ス作戰上差支ナシトセルモノナルヤ從テ十七箇師團ハ今後絶對ニ動かサル所要師團數ナリヤ或ハ二十五師團ヲ必要ト力説シ或ハ二十一師團ヲ唱ヘ曩ニハ五師團ニ相當スル兵馬ヲ縮少シ今又四師團ヲ減少セムトス斯ノ如クシテ帝國師團ノ兵馬ハ十二師團ニ縮少サル變轉輕餘リニ甚シカラスヤ

ロ 師團單位ヲ其ノ儘トシ全師團ノ中隊以下ノ單位ヲ整理スルコトニ依リテ四箇師團減少ノ實ヲ舉クルハ一面四箇師團減少ノ目的ヲ達シ師團單位ニ變更ヲ加ヘス又常備軍所在地ノ地方經濟ニ及ホス惡影響ナク此ノ際採ルヘキ最上ノ手段ニ非スヤ當局カ此ノ良手段ヲ採ラサリシ理由如何又師團單位ヲ其ノ儘トシ全師團ノ中隊以下ノ單位ヲ整理スルト今回ノ政府案タル四箇師團單位ノ減少トノ作戰上並地方經濟ニ及ホス利害ニ關スル比較研究如何

ハ 今回ノ陸軍ノ整理並新兵器ノ充實ハ列國ノ現勢ニ比シ極メテ不徹底ノ感ナキヤ即チ政府ハ近ク陸軍ノ各般ニ互リ根本的改造充實ノ意ナキヤ

ニ 東洋ノ平和ハ實ニ日支ノ協力ニ依テ期スヘク勿論歐米各國トノ協調ハ必要ナリトスルモ日支ノ關係ハ國ヲ接スルカ故ニ直接利害關係ヲ有スル點ニ於テ歐米各國ト其ノ趣ヲ異ニス

信ス

イ 帝國政府ハ對支外交ニ關シ東洋ニ於ケル特種ノ地位ト責任ヲ明確ニスルノ意ナキヤ

ロ 東洋ニ於ケル利害責任全ク異ナル歐米ニ漫然タル協調追從ヲ重ヌルハ帝國ノ地位ト責任ヲ完ウシ得サルノミナラス爲ニ支那ノ破滅ヲ招キ進ムテ帝國ノ存立ヲ危クスルノ虞ナキヤ

ハ 單ニ滿蒙ノ利益擁護ノミヲ高唱シ帝國ノ特種地位ト責任ヲ顧ミス全亞細亞民族ノ爲ニ計ラサルハ遠ク歐米ニ親シミ却テ隣邦ノ支那ト離ルルモノニシテ日支ノ親善ヲ根本的ニ破ルモノニ非サル乎

十四年一月二十九日今里準太郎君ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ二月十四日幣原外務大臣及宇垣陸軍大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

一 今回ノ軍備整理ニ於テ師團四個ノ減少等ヲ斷行シタルハ戰後列強軍備ノ趨勢ト帝國ノ現狀トニ鑑ミ慎重審議ノ結果ニシテ今回企圖セル新施設ノ整備ヲ見ル曉ニ於テハ師團數ヲ減少スルモ國防上ニ支障ナク寧ロ其不備ヲ補ヒ得ヘシト信シ居レリ

而シテ將來内外ノ形勢ニ變化ヲ來タササル限リ整理後ノ威力ヲ以テセハ國防ニ支障ナキモ



ノト信ス

ロ 陸軍ハ曩ニ大正十一年ノ軍備整理ニ當リ既ニ中隊數及中隊内ノ人員ヲ極度ニ減少シタルヲ以テ此上更ニ中隊以下ノ單位ニ手ヲ觸ルルコトハ動員、作戰、教育、勤務等ノ關係ニ於テ適當ナラスシテ今回實施セントスル方法ヲ最良ト信シ之ヲ採用スルコトセルモノナリ  
一 今回實施セントスル方法ハ中隊以下ノ單位ニ手ヲ觸ルル案ニ比シ經濟的影響ヲ蒙ルヘキ若干ノ地方ヲ見ルニ至ルヘシト雖前述ノ要求ニ適應スル爲ニハ亦已ムヲ得サル處ナリ  
ハ 今回ノ軍備整理ハ慎重研究ヲ重ネタル結果新施設ノ實現ト相俟チテ國防ニ缺陷ヲ生セサル限度ニ於テ均衡按配ヲ圖リタルモノニシテ帝國ノ現状ニ於テ國庫ノ面目ヲ一新スル爲ニ採リタル最良ノ策案ナリト信シ居レリ然レトモ將來尙時代ノ要求ニ適應スル如ク内容ノ改善進歩ヲ圖ル者ナリ

二イ 政府ハ對支外交ニ關シ列強トノ協調ヲ保ツコト必要ト認ムルモ同時ニ常ニ日支兩國特殊ノ關係ヲ顧念シ我對支關係ヲ律シツツアリ  
ロ 政府ハ前記ノ方針ニ從ヒ日支兩國ノ利益ヲ增進スル爲最善ノ努力ヲナス覺悟ナリ何等追從ノ事實ナシ

ハ 政府ハ滿蒙地方ニ對スル我カ密接ナル關係ニ顧ミ同地方ニ於ケル我國ノ利益擁護上適當

ナル措置ニ出ツヘキハ勿論廣ク支那全局ノ關係ニカヲ用キ支那國民カ其康寧ノ增進ト東洋ノ平和確保トニ貢獻セムトスル努力ニ對シ出來得ル限りノ援助ヲ與ヘ以テ益兩國民間ノ親善ヲ期セムトス

#### 一四 教育ニ關スル質問

教育ハ國家百年ノ大計ニシテ眞ニ國家ノ隆昌ト人民ノ幸福ヲ計ラムト欲スレハ教育ノ改善ヲ計ルヲ以テ第一ト爲ササルヘカラス然ラハ政府ハ此ノ更始一新ノ時機ニ於テ

一 小學校令 私立學校令 中學校令

二 高等女學校令 高等學校令 大學令

三 帝國大學令 師範教育令

四 等ノ改正ヲ必要ト認ムルヤ

五 大學專門學校實業學校等ノ整理ノ必要ヲ認ムルヤ

六 天才秀才ヲ認ムル教育制度ヲ設クル意思アリヤ

七 教員ノ地位ヲ高ムヘキ制度ヲ設クル意思アリヤ

八 私學ヲ獎勵スルノ意思アリヤ



- 六 私立學校教員ヲ優待スル意思アリヤ
- 七 人格養成ハ今日ノ制度ニテ充分ナリト認ムルヤ
- 八 中學校ハ高等學校ノ豫備校ト認ムルヤ
- 九 思想善導ノ方法如何
- 十 教員免許令ヲ改正スルノ必要アリヤ
- 十一 教育ノ大目的如何

十四年一月三十日山下谷次君ハ右質問主意書ヲ提出シ其ノ趣旨辯明ヲ爲スニ先チ二月十七日岡田文部大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

- 一 諸學校令ハ時勢ノ進運ニ應シ斷ニス之カ改正ヲ圖リツ、アリ
- 二 大學、專門學校、實業學校等今後益其ノ擴張ノ必要ヲ認ムルト同時ニ之カ内容ノ整備ニカムヘシ
- 三 從來ニ於テモ秀才ノ修學ニ關シ相當意ヲ用ヒタレトモ尙學理ト實際トニ照シテ今後モ之カ研究ヲ怠ラサルヘシ

- 四 教員ノ地位ヲ高ムルコトハ當局ニ於テ相當ニ意ヲ用ヒ今日ハ往時ニ比シテ大ニ優レルモノアリト信スレトモ尙今後モ財政經濟トノ緩急ヲ計リテ一層力ヲ盡スヘシ
- 五 内容充實セル私立學校ノ發達ハ政府ノ希望スル所ナリ
- 六 私立學校教員ノ優待ニ就キテハ當局ノ常ニ留意スル所ナリ
- 七 政府ハ學校教育ニ於テ人格ノ養成ノ緊要ヲ認メ大正八年以來諸學校教育ノ目的ヲ改正シタレトモ今後益當事者ヲ督勵シテ一層之カ實績ヲ舉クルニカムヘシ
- 八 中學校ハ高等普通教育ヲナスヲ目的トスルモノニシテ高等學校ノ豫備校ニアラス
- 九 思想善導ノ事タル朝野ノ協力ヲ要スヘシト雖學校教育、社會教育ニ就キテハ最モ深ク意ヲ用フルノ必要アリ之カ爲ニ斷ニス當事者ヲ策勵シ且其ノ方法ヲ研究セシメツツアリ
- 十 教員ノ免許ニ關スル規定ハ時勢ノ進運ニ伴ヒ斷ニス之ヲ改正シツツアリ
- 十一 教育ノ大目的ハ明治二十三年下賜セラレタル教育勅語ニ率由スルニアリ

十四年一月三十一日 一五 失業問題ニ關スル質問

- 一 現今各階級ヲ通シテ失業者續出シ其ノ影響スル所頗ル重大ナルモノアリト思考ス政府ノ所見如何



一 失業者増加ノ原因其ノ數並現状及之カ救濟ニ關スル政府ノ所見如何

十四年一月三十一日津崎尙武君ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ二月十四日若槻内務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

- 一 各階級ニ互リ失業者ノ輩出スルハ社會的ニ大ニ留意ヲ要スルモノト考慮ス
  - 二 失業者増加ノ根本原因ハ一般經濟界ノ不況ニ基ク公私事業ノ不振ニ起因スルモノ多シ而シテ我國ノ統計ニ於テハ失業者ノ的確ナル數ヲ得ルコト困難ナルモ相當ノ數アリト認ム
- 失業者ノ現状ハ官公營事業ニ關シテハ特別賜金、民間ニ於テハ退職手當アリテ一應其ノ生活ヲ支持シツ、アルモノト認メラル而シテ失業問題ノ對策トシテハ政府ハ益職業紹介制度ノ普及充實ニ努メ労働市場ノ調節ヲ圖リ失業者ニ對シ就職ノ途ヲ講スルト共ニ尙出來得ル限リ失業保險制度ニ關スル調査ヲ促進セムトス

一六 教育上ノ新主義ニ關スル質問

岡田文部大臣ハ嚮ニ大正十三年八月地方長官會議ニ於テ教育上ノ新主義ニ關シテ訓示セラルル所アリシカ其ノ趣旨未タ教育者間ニ充分理解セラレサルノ憾アルカ如シ故ニ左ノ諸項目ニ就キ

明確ナル答辯アラムコトヲ望ム

- 一 學校教員ニシテ輕卒ニ之ニ共鳴シテ實際ニ之ヲ試ミツツアル教育上ノ新主義ノ名稱其ノ要旨及創唱者若ハ鼓吹者ノ氏名ヲ示サレタシ
- 二 右ハ其ノ主義其ノモノカ教育上好マシカラサルヤ或ハ輕卒ニ之ヲ行フカ故ニ不都合ナルヤ
- 三 右何レニシテモ其ノ不都合ニシテ人ノ子ヲ損フ諸點及其ノ理由ヲ明ニセラレタシ
- 四 新主義ニ依リ如何ナル法令上ノ規定ヲ無視シタルヤ其ノ事實及其ノ學校名ヲ例示セラレタシ
- 五 學校教員中ニハ何故ニ斯ノ如ク其ノ新ヲ術ヒ奇ヲ弄シテ新主義ヲ輕輕ニ試ムル者アルヤ其ノ原因ヲ示サレタシ
- 六 一部ノ眞理ヲ有スル教育上ノ新説ノ名稱及其ノ要旨ヲ示サレタシ
- 七 教育上ノ新説ニ關シ教員ヲシテ誤ナカラシムル爲政府ハ如何ナル方法ヲ講シツツアリヤ
- 八 政府ハ我カ國教育ノ現情ニ鑑ミ目的論上方法論上刷新ヲ要スヘキ點無シト考フルヤ若何リトセハ其ノ重ナル諸點及之ニ關シ政府ノ執リツツアル對策ヲ示サレタシ



十四年一月三十一日山根儀重君ハ右質問主意書ヲ提出シ其ノ趣旨辯明ヲ爲スニ先チ二月十七日岡田文部大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

教育ノ内容及方法カ斷ニス發達改善ヲ要スルハ論ヲ須タス然トモ輕卒ニ新奇ノ說ヲ實行シ嚴正ナル批判慎重ナル考慮ヲ加フルコトナクシテ從來ノ教育ノ方針竝其ノ方法ヲ變更スルコトアラハ人ノ子ヲ賊フノ結果アルヘシ殊ニ法令ニ定メタル學科課程ニ違背シ教科書ヲ無視シテ濫ニ教材及其ノ程度等ヲ定ムルカ如キハ嚴ニ之ヲ戒メサルヘカラス但シ時勢ノ進運ニ應スヘキ改正ニ就キテハ、或ハ政府直轄ノ機關ニ命シテ之ヲ研究セシメ或ハ眞摯ナル實際家ヲ招集シテ之ヲ討議セシムル等ノ方法ニ依リテ之カ實施ニカムヘシ

一七 樺太廳ノ綱紀肅正ニ關スル質問

樺太廳官制改正ニ關シ昨年十二月當局ノ爲セル失政ハ綱紀ノ上ニ重大ナル關係アルノミナラス憲政運用上寸時モ默視スルヲ許サス之ニ對スル政府ノ所見如何

十四年一月三十一日藏園三四郎君ハ右質問主意書ヲ提出シ其ノ趣旨辯明ヲ爲スニ先チ二月九日加藤內閣總理大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

本質問ハ昨年十二月樺太廳ノ公布ニ係ル官制附帶規程ノ改正ニ關スルモノナルヘシト認ムルモ右ハ不可抗力ニ基クモノニシテ綱紀ノ上ニ關係アル失政ト認メス  
右ニ對シ藏園三四郎君ハ三月十七日意見ヲ陳述セリ

一八 外交及經濟ニ關スル質問

- 一 輓近銀行支店ノ設置頻ニ行ハレテ政府ハ之カ取締ヲ聲明セルモ毫モ其ノ實舉ラサルノミカ制限ヲ受ケサル出張所派出所ヲ濫設シテ支店ノ業務ヲ執行シツツアリ政府ハ之ヲ取締ル意思ナキヤ
- 二 大正九年五月中露領「オホツク」地方漁區ニ於テ漁場建設物漁船漁具用鹽等ヲ燒棄セラレ我カ漁業者ニシテ致命的損害ヲ被リタルモノアルカ之ニ對シ政府ハ如何ナル補償又ハ援助ノ途ヲ講セシヤ又今後之ヲ爲ス意アリヤ
- 三 政府ハ明治四十四年華府ニ於テ日英米露四箇國間海獸保護會議ノ結果締結セラレタル條約ハ大正十五年十一月三十日ニ期限滿了トナルカ政府ハ更ニ之ヲ繼續スル意思アルヤ
- 四 米國ハ第二次軍縮會議ヲ列國ニ提議スルトノ說アリ我カ政府ハ周圍ノ事情ニ鑑ミ其ノ必要ヲ認ムルヤ如何



五 加藤首相ハ往年大隈内閣ノ外務當局トシテ當時珍田大使ト米國國務卿「ブライアン」氏トノ間ニ進行中ナリシ日米協定交渉ヲ打切りタルカ其ノ理由及之ニ依リテ生シタル日米國交ニ關スル影響如何

六 大正十三年七月一日ヨリ米國ニ於テ施行セル排日的新移民法ニ對シ政府ハ如何ナル交渉ヲ爲セシヤ米國ハ今後更ニ邦人子孫ノ市民權ヲ剝奪セムトノ計畫アリト聞ク果シテ然ルヤ

十四年一月三十一日中村嘉壽君ハ右質問主意書ヲ提出シ其ノ趣旨辯明ヲ爲スニ先チ二月十七日幣原外務大臣及濱口大藏大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

一 銀行支店ノ設置ニ關シテハ數年來漸次其ノ取締方針ヲ嚴重ニシ其ノ認可申請アリタルトキハ常ニ嚴密ナル審査ヲ爲シ濫設ニ陥ラサルコトヲ期シ居レリ又銀行ノ出張所ト稱スルモノノ内ニハ支店トシテ認可ヲ受ケ居ルモノ尠カラサルモ出張所又ハ派出所ノ名ノ下ニ支店ノ實ヲ收メ居ルモノナキニ非サルヲ以テ之等ニ對シテハ十分監視ヲ怠ラス尙一般出張所派出所ノ設置ニ付テモ濫設ノ弊ナキ様取締リ居レリ

二 「オホツク」沿岸漁場損害事件ニ關シテハ大正十年被害者ニ對シ漁業資金調達上ノ援助ヲ與ヘ且同年及翌年自治出漁ニ當リ露領水産組合カ被害者ニ對シ借區料ヲ課セサルコトニ付認

可ヲ與ヘ又大正十二年六月露國政變及西比利亞事變ニ因ル損害ニ對スル救恤金下付ニ際シ損害者ニ對シ約十萬圓ヲ交付シタリ

三 膺納獸保護條約ノ繼續方ニ關シテハ關係國ノ意嚮ヲ參酌シテ帝國ノ態度ヲ決定スル方針ナリ

四 國際聯盟主唱ノ軍縮會議開催ニ付キテハ大體贊意ヲ表シ居ルモ米國政府ノ提議セントスト傳ヘラルル第二次軍縮會議ニ付テハ其ノ開催ノ時期場所討議ノ主要題目等ニ關シ具體的ノ提案アルニ非ラサレハ果シテ其必要ヲ認ム可キヤ否ヤ又其時宜ニ適スト認ムヘキヤ否ヤヲ決スルコト能ハス

五 大正十三年六月珍田「ブライアン」國務長官間ニ進行中ナリシ協約締結ノ交渉ヲ打切りタルハ當時此ニ依リテ懸案解決ノ見込ナシト認メタルニ因ル又當時米國當局ハ右ニ關スル我立場ヲ充分諒承シタルヲ以テ右ニ因リテ何等國交上惡影響ヲ及シタリト認メス

六 一九二四年米國移民法ニ對スル五月三十一日附日本政府抗議竝之ニ對スル六月十六日附米國政府回答ハ當時政府ヨリ公表シタル所ニシテ既ニ周知ノ事實ナリ其後ニ於ケル本件交渉ニ對スル日本政府ノ立場ニ就テハ既ニ本議會開會ノ當初本大臣ノ委曲說述シタル所ニシテ茲ニ再ヒ敘述ヲ要セサルヘシ又米國出生兒童ニ對スル市民權剝奪ニ關スル憲法修正案ハ米



國前議會ニ提出セラレタルモ目下開會中ノ同國議會ニ於テ提出セラレタルモノアルヲ聞カス

一九 對支外交ニ關スル質問

現内閣ノ對支外交ハ極東ニ於ケル日本ノ地位ニ省ミ遺憾甚タ多シ殊ニ事毎ニ英米其ノ他ノ諸國ニ追隨シ一ノ以テ自主的外交ヲ見サルハ國論ノ歸結ニ反スルモノト認ム政府ノ所見如何

十四年一月三十一日東幸治君ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ二月十六日幣原外務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

政府ハ對支外交ニ關シ列國トノ協調ヲ保ツト共ニ極東ニ於ケル日本ノ地位ヲ顧念シ我對支關係ヲ律シツツアリ徒ニ外國ニ追隨シタルノ事實ナシ

二〇 對支外交ニ關スル再質問

對支外交ニ關スル質問ニ對シ去ル二月十六日幣原外務大臣ノ答辯書ヲ受領シタルモ更ニ既往及將來ニ互ル事實ニ關シ尙幾多ノ疑問アリ一之ヲ紙上ニ列舉シ其ノ主意内容ヲ明ニスルハ到底

困難ナルノミナラス却テ誤解ヲ招クノ虞アルカ故ニ茲ニ之ヲ舉クルコトヲ避クルモ質問ノ趣旨ハ曩ニ提出シタル質問主意書ニ依リ自ラ明瞭ナルヲ以テ政府ハ國民ノ外交ニ對スル注意ヲ喚起シ其ノ理解ヲ増進スル爲ニモ更ニ適切ナル答辯ヲ與ヘラレントヲ望ム  
右質問ニ對シテハ口頭答辯ヲ望ム

十四年二月二十日東幸治君ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ三月二日幣原外務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

本年一月三十一日附東幸治君提出ニ係ル對支外交ニ關スル質問主意書ニ對スル答辯ハ同年二月十五日附本大臣ノ答辯書ニ記載セル所ニ何等加フルノ要ヲ認メス又政府ノ對支政策ハ本年一月二十二日本院ニ於テ加藤總理大臣竝ニ本大臣ノ述ヘタル所ニ依リ明ニシテ以テ國民ノ外交ニ對スル注意ヲ喚起シ其ノ理解ヲ増進スルノ目的ニ副フモノト信ス

二一 米及粃ノ關稅ニ關スル質問

政府ハ本年一月ヨリ八月末日迄米及粃ノ輸入稅ヲ撤廢シテ外米ノ購入ヲ保護スルモノノ如シ斯ノ如キハ昨年大旱ノ爲粒粒汗血ヲ以テ漸ク生産シ得タル内地米ノ價格ヲ不當ニ低落セシメ管ニ



今日ノ輿論タル農村振興ノ主旨ヲ減却スルノミナラス農家ノ意氣爲ニ消沈シテ食糧ノ充實ニ努カスル者ナク年々缺乏ヲ増大シテ自足ノ計永遠ニ期スルノ機ナカルヘシ況ムヤ億萬ノ國帑ヲ海外ニ投シテ他國農産ノ獎勵ヲ促スノ結果ヲ來スニ於テオヤ諸政ノ刷新ヲ標榜スル政府ハ斯ル惡策ヲ抛チ内地農産物ノ保護ト農村ノ發展ヲ圖ルノ趣旨ニ依リ寧ロ從來ノ稅率ヲ高メ農業獎勵ノ實績ヲ舉クルノ意ナキヤ

十四年二月三日多木久米次郎君ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ二月二十四日高橋農商務大臣、濱口大藏大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

政府ガ今回外米輸入稅ヲ免除シタルハ本年度ニ於ケル米穀ノ需給關係ヲ考慮シ端境期ニ於ケル約五百萬石ノ不足ヲ外米ノ輸入促進ニ依リ緩和セムトスルニ由ル是即外米ヲ可成廉價ニ輸入シ内地米ノ消費節約ヲ圖リテ米穀需給ノ調節ニ努メ以テ端境期ニ於ケル米價ノ暴騰ヲ抑制シ國民生活ノ安定ヲ期セムトスルモノニシテ米穀法ニ依ル政府當然ノ責任ナリ固ヨリ農村ヲ振興シ食糧ノ自給政策ヲ確立スルノ必要ナルコトハ政府モ夙ニ之ヲ認メ銳意努力ヲ怠ラスト雖モ現下ノ實情ニ於テハ自給自足ノ域ニアラサルカ故ニ需給關係ニ於テ不足ノ年ニ在リテハ外米ノ輸入ニ俟タサルヘカラサルハ蓋シ已ムヲ得サル所ナリ

之ヲ過去ノ實例ニ徵スルニ米穀法施行前ニ於テモ米價暴騰ノ際ニ於テハ米穀數量ノ不足ヲ緩和スル爲緊急勅令ニ依リ關稅ヲ免除シテ外米ノ輸入ヲ促進セシカ同法施行後ニ於テハ米穀需給推算ニ依リ相當量ノ不足ヲ生スル見込ナルトキハ毎ニ之ガ免除ヲ爲シ來レリ此ノ沿革ニ徵スルモ本年度ニ於テ輸入稅ヲ撤廢スルハ當然ナルノミナラズ之カ爲内地米價ノ急變センコトヲ慮リ同時ニ曩ニ買換ノ爲メニ賣却シタル二十六萬石ノ身代米買入ヲ發表シタル次第ニシテ其ノ結果市場ヲ動搖セシムルコトナキヲ得タルニ徵スルモ何等農村振興ノ主旨ヲ減却スルモノニ非サルヲ知ルヘシ尙農産物ノ關稅率ノ改正ニ關シテハ目下政府ニ於テ研究中ナリ

二二 米及粃ノ關稅ニ關スル再質問

曩ニ米及粃ノ關稅ニ關スル質問主意書ヲ提出シタル所未ダ演述ヲ爲ササルニ先チ政府ノ答辯ヲ得タルハ恐縮ニ堪ヘスト雖尙甚タ要領ヲ得サルヲ遺憾トシ再ヒ左ノ質問ヲ爲サムト欲ス  
第一 米及粃ノ關稅撤廢ハ國產保護ノ趣旨ニ悖ラサルヤ  
米及粃ノ關稅ヲ設定スル所以ノモノハ畢竟自國ノ實業生産ヲ保護セムトスルニ在リ然ルニ今回右關稅ヲ撤廢シ價サヘ價格ノ點ニ於テ輸入性ノ熾烈ナル外米ヲ一層輸入シ易カラシムルカ如キハ内地産業ヲ保護獎勵スルノ趣旨ヲ沒却シ寧ロ我カ内地ノ米價ヲ暴壓シテ農業經營ノ根據ヲ覆



シ農家ヲ塗炭ニ苦シメ却テ他國ノ農産ヲ獎勵スルモノト謂ハサルヘカラス此ノ如キハ政府ニ於テ當該關稅設置ノ精神ヲ全然逆用スルモノニ非サルナキヤ

第二 米穀ノ關稅撤廢ハ果シテ社會政策ノ目的ニ合スルヤ

政府ハ米穀ノ關稅ヲ撤廢シテ消費者ノ利益ヲ圖ルヲ以テ社會政策ノ一部ト解スルモノノ如シ然レトモ社會政策ナルモノハ比較的富メル者ヨリモ貧シキ者ヲ保護シ少數者ヨリモ多數者ノ利益ヲ圖ルヲ以テ基礎ト爲ササルヘカラス今我ガ農民ハ全國人口ノ六七割ヲ占ムル多數者タルノミナラス其ノ境遇ハ商工ヲ偏重シテ農業ヲ輕ムスル歷代政府ノ方策ニ依リテ疲弊困憊ノ極地ニ陥リ殆ト其ノ生ヲ維持スルノ苦惱ニ泣キツツアル場合外ニハ過重ナル公課ニ屈服シ内ニハ未曾有ノ早害ト戰ヒ全精力ヲ傾倒シテ漸ク國民食糧ヲ供給シツツアリテ消費者タル貴族官吏軍人教員學者商工業者等ニ比シ貧富ノ差生活ノ程度處生ノ安否日ヲ同シウシテ語ルヘキニ非ス政府ハ眞ニ此ノ富メル少數者殊ニ社會ノ上流階級ノ爲可憐ナル全國農民ヲ犧牲ニ供スルヲ以テ社會政策ナリト解セラルルヤ此ノ如キハ社會政策ニ藉口シテ關稅ヲ翻弄スルノ謗ナキヤ否ヤ

第三 總テノ物價中米價ノミヲ抑壓スル爲政府カ有ユル努力ヲ傾クルノ根據ハ那邊ニ在リ

營業自由ノ今日政府カ獨リ米價ノ抑壓ヲ異トセス却テ之ヲ善政ノ如ク曲解スルハ蓋常習ノ然ラ

シムル所ナリト雖凡ソ諸多ノ政治施設中農業ニ對スル壓迫程殘忍酷薄ナルハナク農民ヲ蹂躪スルコト牛馬羊豚ヨリモ甚シキヲ以テ善政ト爲サハ天下又惡政ナルモノ存在セサルヘシ假ニ政府ノ暴壓ニ依リ農家ハ米一石ニ付五圓ヲ損失シタリトセムカ六千萬石ニテ三億圓ト爲リ十圓ノ壓迫ハ無慮六億圓ニ達ス之ヲ換算スルニ五十圓ノ米ナラハ千二百石四十圓ノ米ナラハ千五百石ヲ減收スルニ等シク又或ハ百億圓ノ負債ヲ爲シ六朱ノ利子ヲ收ムルト同様ナリ今次農村振興ノ爲政府ハ二百五十萬圓ヲ支出スト聞クモ一町村僅ニ二百圓ヲ出テス之ヲ六億ノ損害ニ比スレハ九牛ノ一毛ノミ殊ニ昨大正十三年度産米ハ稀有ノ早害ニ依リ減收幾何ヲ生スヘキヤ殆ト憂虞ニ堪ヘサリシモ農家ハ自存自活ノ唯一方法トシテ畢生ノ力ヲ米作維持ニ注キ應急的灌漑設備ノミニ投シタル經費ハ全國ニテ二億圓以上ヲ算ス況ヤ此ノ爲消耗シタル心身ノ勞苦ヲ顧ミレハ一石五十圓ノ米價モ到底之ヲ償フヘキニ非ス從テ自然ノ需給ニ委ヌルコト一般物價ト平等ナラシメハ必スヤ五十圓ヲ下ラサルヘシ然ルニ政府ハ百方手段ヲ盡シテ之ヲ壓迫シ今ヤ外米カ初ヨリ精白サレテ而モ石價僅ニ二十五圓ヲ上ラス運賃安ク爲替關係又低落ナルヨリ最輸入ノ便利ナル年柄ニ拘ラス尙且關稅ヲ撤シテ輸入ヲ獎勵スル結果内地米ハ既ニ四十圓以下ニ下レリ則チ農家ハ少クトモ一石十圓ヲ壓制セラルル次第ニシテ政府ノ一令ハ克ク千二百萬石ノ收穫ト此ノ價六億圓ノ米産ヲ我ガ農家ヨリ掠奪シ去ルモノナリ一般物價等シク此ノ種ノ手段ヲ採ラハ尙忍フヘシト



雖他ハ總テ自然ノ需給ニ委スルノミナラス内地産業ヲ獎勵シ國帑ノ流亡ヲ防クカ爲ニハ彼ノ毛織物ノ如キ數千萬人ノ需要者ヲ犧牲トシテ二三ノ製造會社ヲ保護スヘク現在高率ノ輸入稅ヲ一層増額セムト企テツツアルニ非スヤ此ノ如クシテ政府カ有ユル物價中獨リ米價ノミヲ暴壓スル所以ノモノハ何ソ若米ハ主食料ナルカ故ニ然リト謂ハムカ砂糖ハ如何鹽ハ如何魚類ハ如何食料以上生活ニ大切ナル衣服ハ如何住宅ハ如何惟フニ其ノ根據アルニ非ス只現政府カ諸政刷新ヲ標榜スルニ拘ラス日常刺戟セララル所ノ上流方面若ハ商工方面ニ囚ハレ農民ノ從順ヲ奇禍トシテ彼等ノ犧牲タラシムルノ惡政策ヲ蹈襲シ無考察ニモ此ノ愚擧ヲ敢テセシモノカ然ラサレハ外米輸入業者ニ動カサレシニ非サルナキヤヲ虞ル此ノ點ニ關シ敢テ政府ノ主旨ノアル所ヲ聽カムトス

第四 關稅撤廢ハ農民生活ノ實質ヲ考慮シタル上ノ措置ナリヤ否ヤ  
 農家ハ米以外ニ經濟及收入ノ道アルモノニ非ス只賣ル米アリテコソ粗服ヲモ購ヒ鹽砂糖醬油ヲモ求メ低級ナカラ子孫ヲ教育シ又實ニ苛酷不相當ナル公課ヲ濟スルニ拘ラス政府ノ一令忽チ價格ノ幾割ヲ奪取セラレ一石ヲ賣リテ或期ノ租稅ヲ納メ得ル者カ一石何斗ヲ賣ラサルヘカラス其ノ關係タル恰モ農家ニ對シテハ一圓ノ貨幣ヲ七八十錢ニ強制通用セシムニ等シク而モ此ノ強制年年苛烈ヲ極ムルニ於テ農業者何ヲ以テカ家業ヲ勤ミシ國產ノ增加ニ勵ムノ意氣アルヲ得ム誠

ニ米價暴壓ハ農家ノ急所ヲ衝キ其ノ止メヲ刺スモノナリ既ニ死命ヲ制シツツ口ニ農村振興ヲ唱ヘ或ハ農家經濟ノ調査ヲ爲ス如キ之ヲシモ國本主義ノ農業政策ト稱シ得ヘキヤ之ヲシモ陛下ノ赤子ヲ治ムルヲ道ト爲シ得ヘキヤ從順羊ノ如キ農民ト雖此ノ惡虐非道ナル政策ノ實質ヲ知ラハ豈默々トシテ死ヲ擇フモノナラムヤ敢テ問フ政府カ關稅ヲ撤廢シテ我カ農業ヲ壓搾スル所以ノモノハ農家カ米價ヲ以テ唯一生存ノ道ト爲ス實地ノ狀態ヲ充分考慮シタル上ノ措置ナリヤ

第五 米價抑壓策ハ農工商ノ對抗的思想ヲ煽揚シ生産消費共斃ヲ誘發セサルヤ  
 農業モ亦一ノ營業ニシテ商業工業ト經營ノ趣旨ヲ異ニスルモノニ非ス從テ全國民ノ過半ヲ占ムル農業者ヨリ之ヲ觀レハ人間生命程重キハナク此ノ生命ヲ保持スルハ米穀ナレトモ必スシモ内地米ニ限ルニ非ス只味美ニシテ產額豐ナラサルカ故ニ内地米ハ值貴ク味劣リテ產量饒多ナルカ故ニ外米ハ低廉ナルノミ人若價ノ廉ナルヲ望マハ宜シク外米ヲ食スヘシ美味ニシテ而モ值ノ安キヲ願フ如キハ本來無理ナル要求ナリ然ルニ生産者ノ死活問題ヲモ顧ス只管價格ノ廉ナルヲ期シ此ノ無理ノ要求ヲ增長セシムルモノヲ現政府ノ米價政策トス凡ソ物ニハ程度アリ狀況アリ此ノ程度ヲ超越セス此ノ狀況ヲ無視セサル範圍ニ於テハ多少ノ緩急亦恕スヘシト雖往年外米ノ石價三十圓ヲ昇リナカラ旺ニ輸入セラレシ時代アルヲ回想セハ今日諸物價高騰ノ折柄二十五圓ノ外米ハ寧ロ安價ナルモ尙之ニ満足セス國產獎勵ノ神符タル關稅ヲ洞開シテ輸入ニ便スル如キハ全



然程度ヲ超越シタル亂暴ノ沙汰ト謂ハサルヘカラス其ノ結果外米ノ招來ヲ増加スレハ可ナリトセムモ何ソ知ラム我カ買氣ノ爲產地ノ思惑ヲ煽リ益價格ヲ高メ海外放流ノ國帑ヲ巨額ナラシムルハ火ヲ觀ルヨリモ瞭ナリ之ニ反シ内地米ノ生産者タル農民ハ諸般ノ原因ニ依ル生産費ノ騰貴ト旱害ニ基ク收穫減ノ爲平年以上ノ米價ナラサレハ生存ノ危急ニ關スル際關稅撤廢ノ暴舉ニ脅迫サレ二割以上ノ損害ヲ以テ泣ク泣ク賣却スルノ餘儀ナキニ至レリ是ニ依テ之ヲ觀ルニ政府ハ農工商ノ三大生産事業中農業ノミハ之ヲ營業視セス私財ヲ以テ公益ヲ圖ルノ慈善事業ト看做スモノノ如シ而モ慈善事業ナラハ課稅ヲ除キ一切ノ負擔ヲ免スヘキニ其ノ實苛斂誅求至ラサルナキハ何ソヤ殊ニ本員ノ問ハムト欲スル所ハ此ノ如キ農業撲滅政策ニ依リ農民タル者自カラ思想ノ惡化ヲ來スハ勿論消費者側ニ於テモ生産狀況ノ如何ヲ問ハス只米價ノ低廉ヲ要求スルノ權利アルカ如キ思想ヲ增長シテ食糧ノ需給益乖離シ自他共ニ倒ルルノ境涯ニ至ラサルナキカノ一事ニアリ

第六 米價暴壓ニ關スル特別施設ヲ廢シ農業ヲ他ノ營業ト平等ナラシムル必要ナキヤ  
政府ハ農村選出議員ノ悉ク在京セル議會開會中ヲモ憚ラス米穀ノ關稅撤廢ヲ斷行シ其ノ言明ヲ爲シテ曰ク「從來ノ如ク十一月十二月ノ米出盛時期ニ之ヲ實行セス一月二十六日ニ至リ始テ撤關セシハ農家ニ最同情アル所以ナリ」ト此ノ言一應美ナルニ似タレトモ元來關稅撤廢ハ内地凶

作ノ場合ニ限り而モ外米ノ買付困難ナルヲ理由トスヘキヤ茲ニ喋言ヲ須タサルヲ以テ今回ノ如ク凶作ニモ非ス外米ノ輸入ハ稀ニ容易ナル年度ニ輕輕シク之ヲ實行スルハ根本既ニ法ノ精神ヲ沒却ス焉ムン時期ノ問題ナラムヤ殊ニ政府ノ農業ニ對スル思想ハ此ノ撤關ニ現ハレタルカ如ク所謂踏ムタリ蹴タリ慘忍ノ限リヲ盡シツツ「殺スヨリモ寛ナリ」ト謂フノ謂ナリ其ノ言明何ソ夫レ痛切ナルヤ之ヲ彼ノ工業品ニ二割乃至十割ノ關稅ヲ課シテ國產擁護ノ名ヲ附シ或ハ各種ノ商業ニ補助獎勵金ヲ支出シ堂々タル實業家ニ臺灣朝鮮樺太等ニ於ケル利權ヲ付與スルト對比セハ踏躐の同情死命の同情トモ稱スヘキカ而モ權力ヲ以テ正義ヲ紊リ辭ヲ同情ニ託スルカ如キ詭辯ハ我カ農民ノ甘受シ能ハサル所ナリ敢テ問フ政府ハ何等特別ノ事情ナキ今日須ラク平等ノ原則ニ依リテ我カ農業ニ對シセメテ其ノ經營ヲ可能ナラシムル爲米價ヲ普通ノ需給ニ委シ殊更外米輸入ニ利益ヲ圖ルカ如キ施設ヲ見合ス必要ヲ認メサルヤ

第七 米穀法廢止ノ要ナキヤ

米穀法ハ米產ヲ増加シ自給自足ヲ圖ルト共ニ價格ヲ維持セシムルノ目的ヲ以テ本來農家利益ノ爲ニ立法セラレシニ拘ラス政府ハ終始此ノ武器ヲ濫用シテ農民ヲ苦シメ唯一ノ收入タル米價ヲ抑制シテ今ヤ疲憊ノ極點ニ墮セシメタリ是レ勿論運用其ノ當ヲ得サルニ因ルト雖抑モ亦法其ノモノカ國情民意ニ適セサル點アルニ因ル況ヤ投機師ノ注目機關タルカ如キ立法以外ノ弊ヲ伴フ



ニ於テオヤ本法制定ノ始忌ハシキ鈴辨殺シノ不祥事件ヲ發生セシカ如キ暇ラレタル法律カ國民ノ福祉ヲ齎スニ適セサルハ因縁アリト謂フヘシ政府ハ我カ農業ノ發達ノ爲之ヲ廢スルノ要ヲ認メサルヤ

第八 政府ノ希望スル米價引下ハ幾何ノ程度ニアリヤ  
政府ハ外米輸入ヲ獎勵スルト共ニ内地米二十五萬石ヲ買フヘク或ハ既ニ買入ヲ了シタリト聞ク内地米買入ハ安キニ買ヒテ米價ヲ高ムルノ途ニ利用スルコト全然不可能ニシモ非サルヲ以テ世間其ノ善惡ヲ計リ兼ヌルノ趣アリト雖外米輸入ノ大獎勵ト同時ニ買入ルルカ如キ其ノ意推シテ知ルヘク恐ラクハ萬一米價擡頭ノ場合投資捨賣ヲ爲シテ之ヲ下落セシムルノ毒藥ニ應用セラルルモノナラム茲ニ於テカ政府ハ元來幾何ノ單價迄米價ヲ下落セシムルヲ以テ満足セラルルヤ即チ自稱社會政策ノ見地ニ基キ大正十三年度内地産米ノ適當ナル價格ハ幾何ノ程度ト看做サルルヤ

第九 悲慘ナル農家ノ境遇ヲ改善スル必要ナキヤ

政府カ諸多ノ物價中獨リ米價ヲ抑壓スルノ基礎ニ付テハ上來質問スル所ニシテ其ノ不法不當ナル沙汰ノ限リト謂フヘシ今之ヲ各國ノ農政ニ鑑ミレハ英國ヲ除ク外米佛獨伊ノ如キ何レモ輸入農産物ニ對シテ從價三割乃至三割五分ノ關稅ヲ課シ以テ國産獎勵ノ實ヲ擧ケツツアリ我カ國ハ

土地狹少ニシテ器械ヲ用キルノ餘地ナク其ノ農業ハ眞ニ盈裁的ナレハ營業トシテ收支相償ハサルヲ常トス故ニ若之ヲ世界ノ競争ニ委シテ大陸地方ノ農業ト角逐セシメハ忽チ廢類シテ全食糧ヲ海外ニ仰クノ慘境ニ陥ツルコト識者ヲ俟タヌ現在既ニ萎靡不振ノ狀ヲ呈シ農民ノ苦況名狀シ難ク米ヲ作ル者米ヲ食フ能ハス晨ニ星ヲ戴キ夕ニ月ニ嘯キ實ニ粒粒汗血ノ結晶タラサルハナシ見ヨ四千萬ノ農民ハ寒キニ泣キ炎暑ニ焦ケ勞ヲ牛馬ト争ヒ糟粕ニタモ飽カス其ノ慘苦罪人ヨリモ甚シキニ拘ラス只義勇奉公國民ノ食糧ヲ作ルカ爲甘ムシテ一生ヲ塗炭ニ供ス眞ニ氣ノ毒ノ至リ憐ムヘキノ極タリ然ルニ世ノ豪富ニ至リテハ先年露國ニ賣リタル商品代金七千萬圓カ革命ノ結果回收不能ニ陥レハ政府代テ之ヲ支拂ヒ今次京濱地方ノ震害アルヤ責任支出ヲ以テ一億六千萬圓ヲ國庫ヨリ出金シ尙一億圓ノ支拂保證八千萬圓ノ火災見舞金五千萬圓ノ低利資金ヲ支出セシ外復興復舊ニ十億圓以上ヲ投シ更ニ大正十七年迄營業稅所得稅ヲ免除シ平素ニ於テモ或ハ破綻セル銀行倒レムトスル政商ヲ救済スヘク巨費ヲ傾ケ或ハ取引所鐵商人船會社製絲家等ノ救済保護保證ヲ爲ス爲國民膏血ノ集積タル國費ヲ補給シ貸與シ運用シタルモノ幾億萬圓ナルヲ知サルニ反シ此ノ氣ノ毒可憐ナル我カ農業ニ對シテ營ニ保護獎勵ヲ爲ササルノミナラス僅少ナル産米ノ減少モ之ヲ口實トシテ僅ニ存スル農産保護ノ關稅ヲ撤シ價格ノ暴迫ニ依リ農民ヲ九地ノ底ニ蹴落ス如キ行爲ヲ敢テス泰西諸國ノ農政ニ比シテ天地霄壤ノ差アリト謂フヘシ政府ハ農民モ



亦 陛下ノ赤子ナルコトヲ體シ一視同仁ノ策ヲ以テ之ヲ遇スルノ意ナキヤ是レ本員ノ特ニ問ハムト欲スル所ナリ

第十 都市偏重ノ弊ヲ改メ地方ヲ振興スル必要ナキヤ

輓近政府ノ行フ所倍倍商工業ヲ重ムシ農業ヲ無視スル結果各種ノ公益的施設ノ如キモ之ヲ地方ニ奪ヒテ之ヲ都會ニ注クノ傾向愈著シキニ至レリ即チ財政窮乏ノ對策上行政整理ヲ標榜スルニ拘ラス東京橫濱ノ復興ヲ機トシテ都市ヲ飾ルカ爲十數億圓ノ巨費ヲ投スルモ地方ニ於テハ港灣河川道路鐵道學校等其ノ改修建設ヲ中止シ若ハ三割五割ノ斧鉞ヲ加ヘテ經濟分配ノ途ヲ杜絶シ多數ノ失職者ヲ出シテ地方文化ノ發達ヲ沮ミ剩ヘ射幸的復興債券ヲ發行シテ枯渴セル地方資金ヲ吸收シテ之ヲ都會地ノ用ニ供シツツアリ更ニ彼ノ預金部流通ノ迹ヲ見ルニ數十億圓ノ低利資金ハ概ネ船會社大銀行政商生絲業者等商工方面ニ運用セラレ回收不能ニ終ルトモ責任ヲ問ハサル程ナルニ地方ノ爲施設セシモノアリヤ想フテ此ノ點ニ至レハ等シク帝國ノ臣民ニシテ政治的待遇ノ厚薄宛ラ國ヲ異ニスルノ感ナクムハ非ス此ノ點ヨリ觀ルモ政府ハ無闇ニ米價ヲ壓迫シテ農民ヲ國民中ヨリ驅除スルカ如キ政策ヲ中止シ地方ヲ振興シテ都鄙ノ融和平等ヲ圖ルノ必要ヲ認メサルヤ如何

第十一 農業ヲ保護獎勵シテ米穀ノ積極的増産ヲ圖ルノ要ナキヤ

關稅撤廢ノ動機ハ大正十三年度産米ノ不足ヲ憂フル結果ナリト謂フ此ノ不足ヲ補フヘク外米ヲ輸入スルハ敢テ妨ケスト雖开ハ今日ノ價格ヲ以テ充分トス勿論安價ナレハ多多益欣ハシキモ其ノ爲關稅ヲ撤スルノ根據ナキハ上來質問セルカ如シ況ヤ昨年度モ不足今年度モ亦不足ト稱シテ絶エス關稅ヲ撤去シ低廉無比ナル外米ヲ輸入セハ何レノ年ニカ我カ産米ヲ獎勵シテ自足ノ計ヲ立ツルヲ得ム既ニ絶大ナル保護獎勵ヲ以テ商工業ノ發達ヲ圖ルモ彼等其ノ保護ニ狃レテ國家的産業ノ發展ニ獻身努力スル思想ナク國富毫モ振ハサル今日其ノ犧牲ニ供サレタル農業ハ固ヨリ衰頹シ米ヲ買フカ爲海外ニ投スル國帑ノミ年年増大シテ底止スル所ナカラムトス政府ハ寧ロ一大英斷ヲ以テ米價ノ暴壓ニ要スル費用即チ關稅撤廢ニ依リ損失スル税金外米管理費内地米買上保管賣下ノ損失額等ヲ舉ケテ産米増殖ノ途ニ用キ積極的増收ノ計ヲ行フ意思ナキヤ政府ニシテ銳意我カ農産ヲ獎勵セハ内地米トテモ五七百萬石ノ増收ヲ得ル洵ニ易易タルノミ麥ニ於テモ現在ノ作付反別ヲ計算スレハ反當リ一石五升ニ過キス獨逸ノ平均一石八斗以上ニ比シ四十八萬町歩ヨリ四五百萬石ノ増收ヲ期スルハ實ニ僅少ノ努力ヲ以テ足ル況ヤ朝鮮ハ水田ノミ百六十萬町歩ヲ有スルモ米産額ハ一千五百萬石ヲ超エス是レ水利ノ不完全又ハ水害地方ノ少カラサルニモ依レト第一ノ缺點ハ施肥ノ不充分ナルニ在リ何トナレハ現今肥料ノ爲費ス所ハ一反五七錢ニ止マル此ノ如クシテ收穫ヲ増サムトスルハ無法ノ甚シキモノナレハナリ從テ肥料ヲ國營トシ安價ニ



シテ多量ノ供給ヲ爲スコト今日ヨリ好機ナルハナク其ノ事情ハ内地モ共通ナリ又臺灣ニ於テハ年二回ノ收穫アリテ指導獎勵ノ途ヲ盡サハ多大ノ増産期シテ待ツヘシト雖爲政者ノ行フ所ハ實ニ價格ヲ壓制シ農業者ノ士氣ヲ挫クヲ以テ得意トスル外些ノ積極方針ヲ存セス豈痛嘆ノ極ナラヌヤ本員ヲ以テ之ヲ觀ルニ我カ産米一十萬石ノ増加ハ一見巨額ニ似タレト三百十萬町歩ノ水田ニ對シテ一反歩僅ニ三斗ノミスル少量ノ増減ハ眞ニ一舉手一投足ノ勞ヲ吝ムヤ否ヤニ依テ別レ農事ヲ司配スル農家一片ノ注意ト否ト精神ノ興起ト否トハ忽チ此ノ結果ヲ招來ス然ルニ政府意ヲ爰ニ用キス無謀ニモ關稅ヲ撤廢シテ農家ノ自暴自棄ヲ誘發ス知ラス我カ人口ノ増殖率ヲ以テスレハ三十年ヲ俟タスシテ一億ニ達シ四千萬石内外ノ食糧不足ヲ生スル曉政府ハ我カ農業ヲ虐待スル今日ノ如クニシテ克ク其ノ供給ヲ策シ得ルヤ

第十二 農政ノ各部ニ根本改善ヲ加フル必要ナキヤ  
米穀調査委員會ノ人選ヲ見ルニ例ヘハ農業的智識經驗アリテ我カ農業ノ發達ニ意ヲ用キル人ハ僅ニ農會側ノ矢作博士アルノミ藤山雷太氏及藤田四郎氏ノ如キ濫蓄ノ存スル所未タ之ヲ知ラスト雖其ノ閱歷及現在ノ地位等ヨリ觀テ農業ニ熱心ナリト信スル能ハス公私ノ言論ニ於テモ往往排農的卓見ヲ傳承スル人々ヲ相談相手トシテ米穀政策ヲ定メラレムトス政府カ農業憂護ノ念ニ乏シキ此ノ一事ヲ以テ窺フコトヲ得ヘク國產ヲ獎勵シテ食糧自給自足ノ計ヲ樹ツルカ如キハ

政府ノ念頭ニ存セサルヤ憂フ依テ政府ハ此ノ際當該委員會ヲ始農政ニ關スル諸施設中我カ農民ノ意思ヲ酌ムコト甚タ薄ク寧ロ之ニ反スル諸多ノ點ヲ根本的ニ改善シ農家ノ作業ニ安定ヲ與ヘ思想ノ惡化ヲ防止シテ一視同仁ノ實ヲ示スノ意思アリヤナシヤ

十四年三月七日多木久米次郎君ハ右再質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ三月二十四日高橋農商務大臣及濱口大藏大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

第一 米及粳ノ輸入ニ關稅ヲ賦課スルハ固ヨリ我國ノ農業ヲ保護セムトスルノ趣旨ニ存スルモ米穀ハ我國民ノ主要食糧品ナルヲ以テ其ノ需給ヲ調節シ市價ノ安定ヲ期スルノ必要緊切ナルモノアリ仍テ米穀法第二條ハ勅令ヲ以テ米穀ノ輸入稅ヲ増減又ハ免除シ得ル旨ヲ規定シタリ即本年度ノ如キ需給推算上多量ノ不足米ヲ生スル年柄ニ在リテハ關稅ヲ撤廢シ外米輸入ノ促進ヲ計ルハ寧ロ政府當然ノ責任ト信ス而モ政府ハ之カ爲米價ヲ不當ニ動搖セシメ農業ノ經營ヲ脅威セラレムコトヲ期シ曩ニ述ヘタルカ如キ種々ノ考慮ヲ廻シ之ヲ實行シタルモノニシテ其後内地及外米産地ノ米價ニ格別ノ影響ヲ與ヘサルニ徴スルモ今回ノ輸入稅免除カ何等農業經營ノ根據ヲ覆シ農家ヲ塗炭ニ苦シメ他國ノ農産ヲ獎勵スルモノニ非ラサルヲ知ルヘシ

第二 米穀ハ我國民ノ主要食糧品ニシテ國民生計費中重要部分ヲ占ムルカ故ニ米價ノ安定ヲ期



スルコトハ國民生活ノ安定ヲ期スル所以ニシテ何等小數者ノ利益ヲ擁護スルモノニ非ス

第三 政府ノ米穀需給調節策ハ單ニ米價ノ引下ノミヲ企圖スルモノニアラス米穀需給ノ過不足

ニ應シ引上引下兩者ニ資スヘキ機能ヲ兼備シ依テ以テ米價ヲシテ常ニ中正ヲ維持セシムルコ

トヲ理想トスルモノナリ而モ米穀ノミニ付特ニ斯ノ如キ調節策ヲ講スル所以ハ米穀カ我國民

ノ主要食糧品タルト同時ニ我國民ノ主要生産品ナルカ爲ナリ

第四 輸入税ノ免税ハ米穀法ノ運用上政府當然ノ責任ナルカ故ニ之ヲ實行シタルモノニシテ農

民生活ノ實質ヲ考慮シタルカ故ニ之カ爲米價ノ變動ヲ惹起セサラムコトニ意ヲ用ヒタリ

第五 政府ノ期スル所ハ米穀需給ノ圓滑惹イテ生産者ニモ消費者ニモ適當ナル價格ヲ維持スル

ニ在リ多量ノ内地米カ不足ナル年柄ナルコト明カナルニ拘ラス之ヲ唯成行ニ放任シ端境期ニ

至リテ米穀數量ノ不足ヲ告ケ一時ニ米價ノ暴騰ヲ來スカ如キコトアラハ却テ一般國民ノ思想

ヲ惡化セシメ農工商ノ對抗ノ思想ヲ煽動シ生産消費共弊ヲ誘發スル虞アルヘシ

第六 政府ハ何等米價暴壓ノ特別施設ヲ爲スモノニ非サルコトハ前記諸項ノ答辯ニテ自ラ明ナ

ルヘシ

第七 米穀法ハ從來政府ニ於テ實行シタル各種ノ米價調節策ノ實蹟ニ鑑ミ曩ニ米價調節調査會

ニ提出シタル常平倉案及臨時財政經濟調査會ニ諮問シタル米價調節法案ヲ基礎トシ兩會審議

ノ結果ヲ綜合シ考慮ノ末制定セラレタルモノナルコトハ猶何人ノ記憶ニモ新ナル處ナラム今  
同法運用ノ實蹟ニ鑑ミルニ同法制定後米價變動ノ幅ハ比較的縮少シ其效果少カラサルヲ知  
ルヘシ即チ政府ハ之ヲ廢止スルノ要ヲ認メサルノミナラス益之カ適切ナル運用ヲ計ラムトス  
ルモノナリ

第八 政府ハ徒ニ米價ヲ下落セシムルヲ以テ満足スルモノニ非ス關稅撤廢ニ依リ適當ナル時期

ニ所要數量ノ外米ノ輸入ヲ計ラムトスルモノニシテ大正十三年度ノ内地産米ノ價ハ今日ノ諸

種ノ事情ノ下ニ於テ目下ノ價格ニテ何等引下策ヲ講スルノ必要ナク之カ爲關稅免除ヲ爲シタ

ルニアラサルナリ

第九 前諸項ノ答辯ニテ自ラ明ナルヘシ

第十 關稅撤廢ハ無闇ニ米價ヲ壓迫スルモノニ非ス農民ヲ國民中ヨリ驅除スルモノニ非サルコ

トハ前諸項ノ答辯ニテ明ナルヘシ地方ヲ振興シ都鄙ノ融和平等ヲ圖ルノ必要ナルコトハ政府

モ夙ニ之ヲ認メ現ニ來年度豫算案ニ於テモ之カ爲メ諸種ノ經費ヲ計上シタル次第ナリ

第十一 耕作面積ノ擴張單位面積ノ增收ニ付テハ政府ハ常ニ努力ヲ吝マスト雖モ現在ノ實情ヲ

以テシテハ遺憾乍ラ需要ノ適合ヲ見ス之カ不足ハ必ス外米ノ輸入ニ依リテ之ヲ補充セサルヘ

カラサルナリ而モ其不足多量ナルニ拘ラス外米ノ輸入抄々シカラサルトキハ關稅ノ撤廢亦已



ムヲ得サルニ出ツ

第十二 前諸項ノ答辯ニテ自ラ明ナルヘシ

二三 長尾原田間鐵道ニ關スル質問

一 山陽九州鐵道大系ノ見地ニ於テ就中九州幹線鐵道トノ關係ニ於テ運輸交通其ノ他何レノ點ヨリ綜考スルモ長尾線ハ原田驛ニ接續スルヨリモ鳥栖驛ニ於テ接續スル方最適當ナルニ非スヤ

一 長尾原田間鐵道ハ其ノ線路自體ノミヲ算基トスレハ收支相償フノ見込ナキモノニ非スヤ若相償フトセハ數字的内容ハ如何

一 長尾線鐵道ハ太刀洗航空隊場附近ヲ通過シ鳥栖驛ニ於テ接續スル方國防上ノ見地ニ於テ大的ニ有利ナラスヤ

十四年二月三日加藤十四郎君ハ右質問主意書ヲ提出シタルモ二月十七日撤回セリ

二四 司法權ノ運用並司法事務能率増進ニ關スル質問

一 司法官憲ニ對スル吾カ國民ノ觀念ハ封建以來因襲ノ久シキ今ニ不安ト恐怖ノ念ヲ以テ迎ヘ親善ノ念乏シ斯クテハ國民保護唯一ノ國權行使タル司法威信ノ爲洵ニ憂慮ニ堪ヘス政治更新ノ秋ニ方リ國民ヲシテ司法官憲ニ對スル親善信賴ノ念ヲ深カラシムルコトニ關シ司法當局ハ如何ナル抱負ヲ有スルヤ

二 時代ノ進歩ト共ニ世相複雑トナリ爭訟事案ノ紛冗益多キヲ加フ殊ニ震火災後ニ於ケル帝都ノ法衙ニ於テ一層其ノ甚シキヲ認ム從テ事務澁滯シ民人ノ實生活ニ副ハサルノ憾アリ之ニ對シ當局ハ如何ナル所見ヲ有スルヤ

三 國家ノ根本組織ヲ脅威スル行動ニ對シ捜査上又處分上遺憾ノ點尠カラス罪形小ナリト雖現下ノ思想界ニ於テハ其ノ影響スル所甚タ大ナリト信ス之ニ對スル當局ノ所見如何

四 辯護士法改正法律案ハ明治四十五年以來屢議院ヨリ提出セラレ審議研究サルルコト十有三年然ルニ今ニ政府ハ其ノ提案ヲ爲ササルハ如何ナル理由ニ基クヤ時代ノ進運ニ伴ヒ辯護士ノ個性人格ヲ尊重シ辯護士團體ノ社會道德的向上ニ意ヲ致シタル改革ヲ速ニ爲ササルヘカラスト信ス當局ノ所見如何

五 陪審法施行ニ付司法當局ハ如何ナル準備用意ヲ爲シツツアリヤ

イ 陪審員タラムトスル民衆ニ對スル訓練



ロ 陪審裁判官タラムトスル者ニ對スル指導殊ニ修習遣外裁判官ヲ汎ク一般ヨリ選擇セサル理由

ハ 裁判所設備

- 六 檢事局カ不起訴書類ノ取寄ニ應セサルハ被疑者ノ名譽ヲ重ムスル趣意ナラムモ其ノ本人ニ於テ舉證上必要アル場合尙之ニ應セサルハ司法運用ノ根本精神ニ反セサルヤ
- 七 辯護士以外ノ訴訟常業者ニ對シ如何ナル取締ヲ爲サムトスルヤ殊ニ其ノ假裝又ハ信託的讓渡ノ行爲ニ對シ特殊立法ヲ爲スノ意ナキカ當局ノ所見如何
- 八 全國辯護士會長ヲ司法官會議ニ參加セシムルハ相互ニ司法事務ノ運用ヲ理解セシメ且同時ニ司法事務能率ヲ増進セシムルモノアリト信ス之ニ對スル政府ノ所見如何
- 九 辯護士及私立法律學校教授ヲ司法官及辯護士登用試験ノ試験委員ニ採用セサル理由如何
- 十 借地借家調停法施行後ノ成績如何具體的ニ答辯アリタシ

十四年二月三日黒住成章君ハ右質問主意書ヲ提出シ二月二十四日左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

私ハ司法權ノ運用ニ關スル件ニ付テ、司法大臣ニ以下數箇ノ質問ヲ致シタイト思ヒマス、我が國民ト司法官憲トノ關係ガ密接親善ナラザルハ立憲ノ本義ニ背キ、延テ司法ノ威信ヲ傷ケルコトヲ憂フル者デゴザイマス、此點ニ關シテ司法大臣ハ如何ニ考慮セラレテ居ルカ、御抱負ヲ承リタ

イ、時勢ノ進運ト民心ノ推移ハ、政治ニ、經濟ニ、教育ニ有ユル社會百般ノ問題ニ對シテ革新改善ガ行ハレテ居リマス、此場合ニ獨リ司法ガ超然タルコトハ出來ナイト思フノデアリマス、固ヨリ司法ハ司法獨特ノ職能ノアルコトハ申ス迄モゴザイマセヌガ、即チ社會ノ秩序ノ爲ニ中正不偏ガ司直ノ任デアリマスコトハ言フ迄モゴザイマセヌ、併ナガラ諸君、國民感情ニ背キ、民意ニ離レタ不羈獨立ハ、甚シキ時代錯誤デゴザイマシテ、又憲法第五十七條ノ精神ニ反シ、聖旨ニ副ヒ奉ラヌコトニナルト思フノデアリマス、司法ノ天職ハ申スマデモナク國民保護デゴザイマス、國權維持デゴザイマス、國民保護ノ國權行使ニ於キマシテ保護セラル、國民ニ、眞ノ諒解ヲ得セシメテコソ、正ニ立憲ノ本義ニ副フ司法權ノ運用デアルト考ヘルノデアリマス、斯様ニ致シマシテ心ヨリ司法處分ニ悦服モシ、尊信モ致シ、而シテソレガ現代ノ思潮ニモ副ヒ、斯ノ如クニシテ眞ノ司法ノ威重ヲ加フルモノデアアル、斯様ニ私ハ存ズルノデゴザイマス、今日我が司法官憲ト國民トノ關係ヲ、政府ハ如何様ニ見ラレテ居ルノデゴザイマスカ、司法當局ニ於テモ近代傾向ニハ心セラレマシテ、司法ノ社會化民衆化ニカメテオキデニナルコトハ認メルノデゴザイマス、併ナガラ何分封建以來其因襲ノ久シキ、今日尙ホ我が國民ハ徒ニ司法官憲ヲ恐レ、不安ノ念ヲ以テ迎ヘテ居リマシテ、親ミ尊信スルト云フ念ガナイ、此弊風ハ政府ニ於テ色々ノ事ヲ爲サルガ、尙ホ依然トシテ改マラヌノデアリマス、是ハ單リ刑事上ノ被疑者ト致シテノミデナク、證人參考人トシテモ、又民事上ノ事業ニ關シテモ同様デアアルノデアリマス、直接利害關係ヲ有シテ居リマシテモ、兎角裁判所ニ出入ヲスルト云フコトヲ我が國民ガ迷惑ガリ、ウルサガリ、而シテ出來得ル限り之ヲ避ケタガアル弊習ガアルノデゴザイマス、斯様ナ思想ハ殆ド我が國民ヲ通ジテノ弊風デアルト私ハ考ヘルノデアリマス、甚シキニ至リマシテハ、國民保護ニ司法程大切ナ又頼ラナケレバナラヌモノハナイ、然ルニ裁判所ニ出入セザルコトヲ何カ誇リノ如ク申ス者スラアルノデゴザイマス、思想ヲ融和スベク或ハ立法ニ、又年々司法當局モ訓令ヲ發セラレマシテ當該官憲ニ注意ヲ促サレテ居リマスガ、少シモ改マッタ跡が見エナイノデアアル、此觀念ノ容易ニ改マリマセヌノハ、國民ノ無理解ニ因ルコトモ一ツデゴザイマセウ、併ナガラ司直ノ府ニ在ル者ガ時代ノ進運ニ順應スル



考ヲ持チマシテ、至誠ト同情ヲ以テ是ガ立直シヲナスノ熱心ナル信念ニ稍乏シコキトモ確ニ原因  
 ノ一ツデアルト思フンデアリトス。今其遺憾ナル顯著ナル吾々ノ實感ノ點ヲ申上ゲテ見マズレ  
 バ、檢事局デモ豫審デモ裁判デモ多忙ナ人ヲ喚出シマシテ、サウシテ待タシテ置クト云フコトガ平  
 氣デ行ハレテ居ルノデアリマス、是デ國民ガ快感ヲ持ツ筈ガナイ、又殊ニ檢事局ノ如キ勿論事件  
 モ多數ゴザイマス爲デモアリマセウガ、朝喚出シテ晩マデ待タシテ置イテ、退廳時間ニ切迫致シ  
 テ廷丁ニ伺ヒマスルト今日ハ都合ガアル、明日來イトカ、又追テ喚出ストカ、斯様ナ風ニ致シマ  
 シテ空シク歸サレルコトガ稀デナイノデアリマス、全國此點ハ恐ラク同ジデアルト、信ジテ居リ  
 マスル、内容ヲ示サズニ「相尋ヌル儀有之云々」ト書イタ大キナ判ヲ押シタ葉書ガ檢事局カラ飛  
 ンデ參リマス、此葉書ヲ受ケマシタル人ノ感ジハ諸君如何デゴザイマセウ、單リ其人ノミナラ  
 ズ、斯様ナ場合ニ於キマシテハ一家擧ゲテ不安ニ打タレテ居ルノデアリマス、被疑者トシテ喚出  
 サレタノデアアルカ、參考人デアアルカ、自分ノ爲カ、他人ノ爲カ、何ノ用ダカ、唯徒ニ心配ヲ致シ、煩  
 悶ヲ續ケテ居ルノガ普通デアアル、是デハ諸君親シミ能ハヌノガ、人情デアリマセヌカ、此光景ハ  
 一度デモ葉書ヲ手ニセラレタ人、又斯様ナ事デ喚出サレテ終日人民控所デ待ツタ經驗ヲ御持ノ人  
 ハ、痛感セラレテ終生御忘レニナラヌコトデアラウト思フ、司法運用ノ衝ニ當ラレテ居ル人デア  
 リマシテモ、理由ナク人ヲ苦シメル悶エサセル、斯様ノ特權ハナイト思フ、搜查ト云ヒ、取調ト云  
 ヒ、彼等ノ努メ盡サザルベカラザルコトハ、皆吾々人類ノ共存共榮ノ爲デアアルノデゴザイマス、  
 參考人證人等ガ其司法運用ニ貢獻スベク、喚出サレルノモ同ジデゴザイマス、少シモ異ル所ハナ  
 イ、假令喚出サレル人ガ被疑者デアリマシテモ、同情アリテ欲シイ、温情ヲ以テ迎エテ貰ヒタイ、  
 苟モ職權ノ濫用ガアツテハナラヌト思フ、固ヨリ此種ノ事モ職權濫用ノ故意ハアリマスマイ、併  
 ナガラ、此苦痛ヲ受ケル側カラ之ヲ見マスルト、非常ナル職權濫用ト誤解ヲ致スノデゴザイマ  
 ス、是等ノ事ハ全國頻繁ニ在ルトハ私ガ申スノデハゴザイマセヌ、固ヨリ年々司法モ銳意向上  
 發展ニ努メラレ、進歩シツ、アルコトハ認メル者デゴザイマス、尙ホ人ニ依リマシテ多數吾々  
 ガ衷心ヨリ敬服スベキ者ノアルコトモ認メルノデアリマス、併ナガラ只今申上ゲルガ如キモ

ノガ百人ノ中一人アリマシテモ、我ガ封建以來長ク續キマシタ此因襲ト相俟ツテ、國民ノ司法官  
 憲ニ對スル宜カラヌ感ジト云フモノハ容易ニ改マラヌノデアリマス、新刑事訴訟法ノ成績ヲ見  
 マシテモ、諸君御承知ノ通り餘程人權尊重ニハ留意ヲ致シテ改正立法シタノデアアル、其籠ッテ居  
 ル人權尊重ノ精神ガ運用ノ跡ヲ見マシテ、中々期待ガ發揮セラレナイノデアリマス、私共ハ頗ル  
 遺憾ニ存ジテ居リマス、相變ラズ人ヲ調ベルノ中ニハ大キナ聲ヲ出シテ叱リ付ケル、又特ニ注  
 意致シテ改正シタ拘留期間ノ規定ノ如キモ屢更新ヲ致シテ、長イ拘留ヲヤツテ居ルモノモアル、  
 サウシテ調べタ結果ガ不起訴トナリ、豫審免訴トナリ公判ニ於テ判決ノ結果ガ無罪トナリマシ  
 テモ、氣ノ毒デアアル、相濟ヌ事ヲ致シタト云フ一ツノ責任感ト同情心ヲ有ツテ居ラレルカドウカ  
 フ私ハ疑フノデアリマス、稀ニアル質ノ惡イノニナリマス、己ノ檢舉搜查ガ不當デアッタニ拘  
 ラズ、不起訴若クハ豫審免訴ニデモナリマスルト、許シテデモヤツタガ如キ態度ヲ裝フ者ガアル  
 ノデアリマス、私ハ人ニ對シテ斯様ナ惻愍ノ情ナキ、責任觀念ノ乏シキコトデハ民心ガ離レマス  
 シ、遂ニハ司法全體ガ呪ハレルニ至リハシナイカト云フコトヲ頗ル遺憾ニ思フ者デゴザイマス、  
 斯ノ如ク國民ノ司法廳ニ對スル思想ハ、吾々ノ期待致シマス司法ノ眞髓ヲ容易ニ理解ラセナイ、  
 加之、更ニ弊風ハ續出致シテ居ル、裁判所ヲ忌嫌ヒマスル上ニ於キマシテ私ハ頗ル遺憾ノ點ガ多  
 イノデアリマス、ドウ云フ弊風ガ出テ居ルカト申シマスレバ、兎角裁判所ニ出入スルコトヲ避ケ  
 ル思想ハ、聽テ司法權運用ノ支障ニナリマス、差支ガアツテ出頭シナクテモ其例ガアル、事件ノ審  
 理ハ延ビルト云フコトニナル、又斯様ニ事件ノ進行ニ支障ヲ生ズルノミナラズ、本日司法省カラ  
 御提案ニナリマシタル、即チ辯護士ニ非ザル者ノ取締法ガ出タノデゴザイマスガ、此三百ノ跋扈  
 ヲ助長スルト云フコトニモナルノデアリマス、裁判所ニ出入スルコトガ嫌デゴザイマスカラ、此  
 虛ニ乘ジテ、此種ノ者ガ跋扈ヲ致ス、此弊害ハ各所ニ害毒ヲ流シテ居ルノデゴザイマス、是ハ本  
 日政府案ヲ御出シニナリマシタ點ガ明證サレテ居ルト思フ、加之私ノ心配致シテ居リマスルノ  
 ハ、斯様ナル理由無ク恐怖シ嫌ナ不安ノ思想ト云フモノハ遂ニ個性力卑屈、退嬰ニ陥リマシテ、  
 國民ノ新進氣鋭ノ發展性ヲ害スルコトニナリハシナイカラ恐ルルノデアリマス、社會各般有ス



ル更始一新ノ秋、民族精神ノ作興ニ苦心ヲセラレテ居リマスル我ガ政府、此誤レル因襲ヲ破ツテ、國民ト司法ヲ密接親善ナラシムル方策ニ付テ司法大臣ニ抱負無キヤ、御所見ヲ伺ヒマス、此點ニ關シテ所謂立テ直シノ一ツデゴザイマスガ、陪審制度、陪審制度ノ確立ハ洵ニ御同僚司法ノ民衆化ノ上ニ於キマシテ歡迎スベキデゴザイマス、而シテ同法ハ大正十七年度カラ施行セラレルコトニ相成ツテ居リマスガ、然ルニモ拘ラズ、今日猶ホ私ノ期待致シテ居リマスル所ノ其準備ハ遅トシテ進マナイノハ何故デゴザイマスカ、申スマデモナク法ハ死物デアアル、制度如何ニ善美ヲ盡シマシテモ、其運用ニ當ル人ヲ得ナケレバ效果ハ舉リマセヌ、況ヤ我國ニ於キマシテ新キ試ミデアアル、陪審制度、此運用ニ參畫致シマスル陪審員ニ若シ此理解ヲ缺イタト云フコトニナリマスルト、陪審ノ前途實ニ憂慮ニ堪ヘヌ次第デゴザイマス、本年ノ豫算ヲ見マスルト、此點ニ關シテ極メテ少額ノ金ヲ取ツテゴザイマス、世間傳フル所ニ依リマスルト云フト、活動寫真ノ映寫其他ノ他ノ宣傳ニ依テ是等ノ方面、即チ民衆ニ對スル一ツノ訓練ヲ致サル、御方針ノヤウニ承ツテ居リマスガ、如何ニモ寫真ニ依リマシテ陪審制度ノ形ハ理解セラレルデゴザイマセウガ、其事ニ當ツテ責任ノ重大ナル精神方面ノ導キハ如何ナル方法ニ依テナサルノデアアルカ、此點ヲ伺ヒタイノデアリマス、民衆ニ對スル訓練ノ方策ヲ御伺ヒ致スト同時ニ陪審裁判官タルベキ者ノ今日外國ニ派遣サレマシテ、陪審ノ見學セシメテ居ラレルノデゴザイマスガ、從來御派遣ニナツテ居ル人々ハ司法省ニ非ザレバ東京所在ノ判檢事、本年ハ漸ク此範圍ガ、擴張セラレマシテ、他ノ控訴院ノ所在地カラモ御採用ニナツテ居ルヤウデゴザイマスルガ、之ニ對シテ私ハ疑ヲ持ツノデアリマス、陪審制度ハ大正十七年ニナリマスレバ全國全體ニ施行セラレル法律デアアルノデアアル、而シテ是ガ運用適用ニ最モ訓練ヲ要スルモノハ全國ノ裁判所ノ判事ノ中カラデアアル、然ルニ一部ニ偏シタル判事、檢事ヲ歐米ニ派遣セラレマシテ、サウシテ全國ヨリ普ク之ヲ採用サレヌ、ト云フノハドウ云フ理由デアアルカ、私ハ寧ロ研究ヲ致スニ便利ヲ缺イテ居リマスル田舎ニ居ル判事檢事コソ、切ニ此訓練ガ第一デアアルト思フ、斯ク公平ニ致スコトハ時代ノ要求デアアルト信ジマスルガ、司法當局ガ此舉ニ出デラレヌノハ如何ナル理由デアアルカ伺ヒタイノデアリマス、私ガ曩ニ此法律

ノ審議ニ際シテ時ノ司法大臣ニ對シテ望ンデ置キマシタ辯護士デアリマス、司法三機關ノ一デアアルノミナラズ、此種ノ事業ノ成功ヲ期スル上ニハ判檢事、辯護士、所謂司法ノ三機關ノ訓練熟達ガ——相俟ツテ事ノ成功ヲ成スノデアリマス、時ノ司法大臣ハ私ノ質問ニ對シテ確カニ之ヲ承知シタ旨ノ御答辯デアリマシタノニ、今日未ダ一人ノ辯護士ヲ陪審見學ノ爲ニ海外ニ御出シニナラヌハ如何ナル理由デアアルカ、此點ヲ御伺致シマス、尙ホ豫算ノ關係モアルデゴザイマセウガ、全國地方裁判所ノ所在地ニ於テ陪審裁判ニ要スル總テノ建造物設備ヲシナケレバナラヌノニ、今尙ホ御著手ニナラヌ、寫真ヲ宣傳爲サレルモノノ方法デアアルト同時ニ、建物建築ヲナシ、其他總テノ準備ヲ早クヨリ致シテ、國民ヲシテ理解ノ便ヲ與ヘ、之ニ馴レシムルト云フコトモ、必要デアラウト思フノデアリマス、之ヲ爲サラヌノハドウ云フ譯デアアルカ、之ヲモ御伺致シマス、次ニ責任政治トシテ國民ヲ安ンゼシメ、又司直ノ任ニアル者ノ責任觀念ノ振作ヲ合理的ナラシムル最モ必要ナル無罪賠償ノ方策ヲ御立テニナルヤニ聞及ンデ居リマスガ、今尙ホ御提案爲サラヌハドウ云フ譯デアアルカ、爲サルノデアアルカ、爲サラヌノデアアルカ、之ヲ御出シニナルトスレバ何時御出シニナルノカ、之ヲ御伺致シマス、其次ニ御伺シマスノハ、民事裁判ノ裁判ノ結果ガ、國民ノ實生活ニ添ハヌ點ガアリマス、之ニ對シテ司法當局ノ御所見ヲ御伺致シマス、裁判ガ當事者ノ期待ヲ裏切ルト云フコトニナリマシテハ、私權救済ノ根本精神ニ反スルノミナラズ、是亦延イテ司法ノ威信ヲ損ズルノデアリマス、又一面思想ノ惡化ヲ助長スルコトニモナルト私ハ考ヘル、言フ迄モナク世ノ中ノ進歩ト共ニ日ヲ逐フテ世相ハ複雜ニナリマシテ、民事係争事件ハ頗ル紛更ヲ極メテ參ツテ居リマス、私ノ調べマシタ所ニ依ルト大正十二年度ノ全國區裁判所、及地方裁判所ノ繫屬事件ハ其數區裁判所ニ於テ通常訴訟事件ダケデモ約十八萬五千件デアアル、其他特別訴訟、非訟事件假差押、假處分、破産督促手續其他ノモノヲ合セマスト百萬件ニ達スルノデアリマス、地方裁判所ニ於テ是又通常訴訟ダケデモ五萬四千三百件デアアル、是ニ控訴ノ數ガ八千七百件デアアル、之ヲ合セマスト云フト六萬二千件ノ多キニ達スルノデアリマス、而シテ此區裁判所ト地方裁判所トヲ通ジテ單ニ通常訴訟事件ダケヲ合計致シマシテモ二十四萬八千件ノ多キニ上ッ



テ居ルノデアリマス、此中前年度ニ比シテ殖エテ參リマシタ數ガ表ノ示ス所ニ依リマスルト  
 二萬二千四十四件而シテ各裁判所ニ就テ之ヲ見マス、大正十二年度ノ震災ニ依テ東京、横  
 濱、千葉ノ如キ一時的事情ニ因ル減少ノ外ハ總テ増加ノ傾向ヲ持ッテ居ルノデアアル、殊ニ震災後  
 ノ東京裁判所ノ有様ヲ見マス、ト云フト甚シキ増加ヲ來シ而シテ事件ハ益紛更ヲ極メテ居ル、斯  
 様ナ事情デゴザイマシテ而シテ又從來三審ヲ通ジテ結審致シマスル此時間ヲ研究致シテ見マス  
 ト、長キハ數年ヲ要シ、短クモ一年以上ヲ要シテ居ルノデゴザイマス、勿論事件ニハ難易ガアリ  
 關係範圍ノ大小ガゴザイマスカラ、劃一的ニ速ニ解決ヲ望ムコトハ是ハ無理デゴザイマセウ、併  
 ナガラ斯ノ如ク事件ガ遲々ト致シマシテ進行致サヌ、斯様ナ譯デ數年ノ後勝訴ノ判決ヲ受ケマ  
 シテモ、波瀾多キ現代ニ於テ此人事ノ變遷ハ遂ニ執行不能ニ終ルノデアリマス、又最初求メタモ  
 ノモ時日ノ經過ニ依リマシテ其要ナキニ終ルモノモ少カラヌノデアリマス、斯様ニ當事者ノ境  
 遇ノ變化、目的物ノ消滅等ニ依テ出訴當時ノ目的ハ達セラレヌ、唯徒ニ費用ヲ掛ケ、感情ヲ害シ  
 合ツタケデ何モ得ルモノガナイト云フ結果ニ終リマシテハ、裁判ハ無意義デアアル、斯様ナ有様  
 ゴザイマシテハ、裁判ハ國民ノ實生活ニハ少シモ副ハヌ、私權保護ノ現實ヲ使命ト致シテ居リマ  
 ス、司法ノ威信問題デアルト私ハ考ヘルノデアリマス、此儘ニ放任シテ置ケバ、國民ハ遂ニ裁判  
 ヲ輕視シ、蔑視シ、或ハ厄介視スルト云フコトニナル虞ガアルノデアリマス、是ハ御承知ノ如ク  
 現行民事訴訟法ノ立法方ガ惡イノモ大ナル原因デゴザイマス、同時ニ司直ノ任ニアル者ガ大  
 イニ考慮ヲ要スル點ガ又ナキニ非ズト私ハ考ヘルノデアアル、之ニ對スル司法大臣ノ御所見ヲ伺  
 ヒタイノデゴザイマス、民事訴訟法ノ根本的ノ改正ヲ爲サルコト、信ジマスルガ、御研究ニ相  
 成ッテ居ルヤ否ヤ、何時御提出ニナルカ、其内容ノ一端ヲ伺ヘレバ伺ヒタイト思フノデアリマス、  
 尙ホ私ノ考デハ簡易事件ダケハ引離シテ迅速ニ終了セシメテ當事者ニ満足セシメルト云フ事ガ  
 極メテ必要デアアルノミナラズ斯ウナリマスレバ、司法事務ノ能率ヲ増進スルコトニモナルト思  
 フノデゴザイマスガ、此點ニ對シテ御考ナキカラ伺ヒマス、此場合ニ申シマスルガ、今日ノ裁判  
 ノ有様ヲ眺メテ見マスルト、元ヨリ年々進歩向上ハ致シテ居リマス、又判決ヲナサルコトモ段々

御上手ニナラレテ居ル、併ナガラ最モ留意セラル、點ハ判決ガ上ニ參ッテ取消、又ハ破棄サレヌ  
 コトニカヲ注ガレテ居ル傾ガアリハセナイカラ思フ、凡ソ裁判ノ結果ハ民事タルト、刑事タルト、  
 判決究極ノ目的ガ達セラレテ居ルカ居ナイカ、此點ニ思ヒ及ンデ居ラレルノデアアルカドウカト云  
 フコトヲ疑ハザルヲ得ナイノデアリマス、刑事裁判ニ致シマシテモ判決ヲシタ判事ガ監獄ニ行ッ  
 テ、其被告ノ服役状態ヤ遷善力不平等ヲ研究シタト云フコトヲ曾テ聞キマセヌ、又民事裁判ノ結果  
 モ判決後其判決ガ如何ニナリシヤ當事者ガ満足シテ居ルカ不平等カト云フコトニ顧慮セラレテ居  
 ル人モ餘リ我々ハ見受ケヌノデアリマス、即チ私ノ要望致シマスル所ハ、民衆ノ實生活ニ飽クマ  
 デモ副ハシムベク至誠ト同情ヲ以テ事ニ當ルト云フコトガ民心ヲ繋グ上ニ於テ刻下ノ急務デア  
 ルト信ズルモノデゴザイマスガ、此點ニ對シテ司法大臣ハ如何ナル御考ヲ持ッテ居ラレマスカ伺  
 ヒマス、其次ニ伺ヒマスルノハ甚ダ長クナッテ相濟ミマセヌガ、辯護士法ノ改正案ニ關シテ御伺  
 致シマス、辯護士法改正法律案ハ明治四十五年ノ第二十八議會以來既ニ四回議員ヨリ提出セラ  
 レマシテ、其度ニ特別委員ニ於テ慎重審議ヲ遂ゲラレテ居ルノデアリマス、然ルニ政府ハ爾來十  
 數年間相當御研究ヲ爲サレタコト、信ズルノデアリマスルガ、今尙ホ御提出ニナラヌノハ何故  
 デアルカ、此點ヲ御伺ヒ致シマス、吾々モ曾テ委員ニナリマシテ屢審議致シタ事ガゴザイマスル  
 ガ、或程度マデハ意見ガ一致致シテ居ルノデ僅カ、數個ノ點ガ司法當局ノ期待セラル、モノニ副  
 ハヌト云フノデ、今日尙ホ遲々ト致シテ居ルト私ハ拜察致ス、是ハ非常ナル時代錯誤デアルト思  
 フノデアアル、即チ吾々ノ改正ヲ要望致シマスルノハ先ヅ辯護士會自身ヲ法人ニセヨト云フ事、ソ  
 レカラ不合理極マル即チ司法ノ相對立スル判檢事辯護士ノ二機關ガアリマスルノニ、一方ノ機  
 關ノ監督下ニ、辯護士會ガ置カレテ居ルト云フコトハ頗ル不合理デゴザイマスカラ此監督ヲ司  
 法大臣ニ移ス、是ガ從來ヨリ叫バレテ居リマシテ、此點ニ付テハ諒解ガ得テ居ル筈デゴザイマ  
 ス、然ルニ最近伺ヒマス、ト云フト司法部内ニ委員會ガ設ケラレテ、サウシテ水曜日ニ一回宛毎  
 週才集リニナッテ御研究ニサレテ居ルト云フコトデゴザイマスガ、實ニ驚キ入ッタ悠長デアアル、如  
 何ヤウナコトヲ御審議ニナッテ居ルカ分ラヌガ、外間漏レ伺ヒマスルト云フト辯護士ノ、職務範



圍、今頃ニナリテ辯護士ノ定義ト云フヤウナモノ、即チ辯護士ト云フモノハ何ヲスルモノデア  
カ、斯様ナコトニ身ヲ婁シテ研究サレテ居ルト云フコトデア、又報酬ノコトニ付テモ、最モ重  
要ナル一ツノ難點ニナッテ居ルト云フコトヲ聞キ、私ハ特ニ遺憾ニ思フノデアリマス、辯護士ノ  
古イ沿革ハ如何ニモ取締ラレテ居ルコトデア、私ガ嘗テ調ベタノニ代言人ノ前ノ苦事師ヲ元  
ト、不淨門ヨリ出入ヲセシメテ居ルコトデア、自今表門ヨリ出入ヲ許ス、廷丁ニ門鑑ヲ示シテ許  
可ヲ得テ通行セヨト云フ達ガゴザイマシタガ、此思想ガ代言人規則トナリ、更ニ現行辯護士法ト  
化シ先ニ申シマシタ同法第十九條ノ如キ監督機關ノ不合理ヲ生ンダモノデアラウト思フノデア  
リマスガ、吾國民族ノ近代驚クベキ向上發展ヲ度外視シ、明治初年ノ思想ヲ以テ而モ質ノ變化ニ  
於テ他ニ類例ナキ辯護士ニテ組織サレテ居ル辯護士會ヲ取締ルト云フコトハ、互ニ耻カシイコ  
トデ、時代錯誤デアリマス、斯様ナ思想デ官僚諸公ガ此審議ニ身ヲ婁シテ居ラレルノデハナイ  
カ、若シ左様デアッタト致シマスレバ驚クベキコトデア、考ヘルノデゴザイマスガ、此點ニ關  
シテ辯護士法ノ研究審議ノ程度、又近ク御提案ニナルカドウカ、御研究中デアレバ願クバ從來ノ  
傳統的ノ官僚思想ヲ破ツテ、辯護士ノ人格ヲ尊重シ、サウシテ辯護士團體ノ社會道德的ノ向上ト  
云フモノニ意ヲ致サレテ成案ヲ得ラレンコトヲ切ニ望ミマス、其次ニ伺ヒマス、ハ、多年私ノ  
持論デア、ルノデゴザイマス、全國ノ辯護士會長ヲ司法官會議ニ參加セシメヨト云フ論デゴザ  
イマス、私ノ嘗テ先年質問致シマシタ場合ニ於キマシテ論ハ極メテ宜イガ、色々打合せヤ事務ノ  
都合ガアルノデ困ルト云フコトヲ、時ノ政府ガ御答辯ニナリマシタ、私ハ其時斯様ニ申シマシ  
タ、若シ官吏ニ對スルト同様ニ行カヌ問題ガアルナラバ、特ニ其點ダケハ別ニ致シテ宜シイデハ  
ナイカ、私ハ司法官會議ノ場合、其機會ニ、全國ノ辯護士會長ヲ之ニ參加セシムルト云フコトガ、  
司法事務ノ運用ヲ互ニ能ク理解セシメ、即チ相互ニ誤解ナカラシメ、同時ニ司法事務ノ能率ヲ増  
進スル上ニ於テ確ニ放果ガアルト私ハ實驗上カラ考ヘテ居ルノデアリマス、人ハ立場ヲ異ニシ  
タル者ノ間ニ諒解アル相互監視程有方ナルモノハナイノデアリマス、時ニ自分ガ常ニ裁判ニ參  
加ラセズシテ自分一人ノ觀ル所ヲ以テ報告スルト云フコトハ、頗ルハハ偏見デアツテ、公平デナ

イ、正當デナイト考ヘルノデゴザイマス、是等ノ問題ヲ下カラ常ニ見テ居ル一ツノ辯護士會ノ  
代表者ヲ加ヘマシタナラバ、必ズヤ相當ノ成績ヲ舉ゲ得ルコトハ信ジテ疑ハヌノデゴザイマス、  
現司法大臣ハ此全國辯護士會長ヲ司法官會議ニ參加セシメテ、司法運用ノ諒解ヲ良クシ、此司法  
事務ノ能率ヲ増進セシムルト云フコトノ御考ガアルカナイカ、御伺致シタイト思ヒマス、最後ニ  
今一ツ質問シタイ、是ヨリ伺フコトハ、目下審議中デア、ルヤカマシイ治安維持法ト、私ノ質問ニ  
ハ關係ハナイノデアリマスガ、是ト同様ニ國家ノ根本組織ヲ脅威スル行動ニ對シテ私共ノ見受  
ケマス、上ニ於テ、捜査上司法處分上、遺憾ノ點ガ少クナイノデアリマス、罪ノ形ハ小サクアリマ  
シテモ現下ノ思想界ニ及ボス影響ハ甚ダ重大デア、ルト思フ、之ニ對シテ從來ノ方針ニ付テ司法  
大臣ノ御意見ヲ伺ヒタイ、國家ノ根本組織ヲ脅威シ、危害ヲ加ヘントスル行爲ハ極メテ迅速ニ、  
其問題ノ大ナラザル中ニ、又傳波セザル中ニ之ヲ捜査シ、處分スルト云フコトハ治安秩序ヲ保持  
スル所以デアツテ我國今日ノ思想界ニハ極メテ必要ナコトデア、ラウト考ヘルノデアリマス、又斯  
様ナ事ハ我國體ヲ懷フ忠良ナル國民ノ舉ゲテ要望スルトコロデア、ラウ、勿論斯様ナ事ヲ私ガ質  
問スレバトテ、提案ニナッテ居リマス、治安維持法ノ良否ハ別デア、ル、即チ問題ノ適用ニ臨ンデ明  
確ヲ缺キ、吾々ノ自由ニ不安ヲ感ズルト云フガ如キ法制ニ對シテハ自カラ是ハ別箇ノ問題トシ  
テ研究スベキデアリマス、私ハ現行各法制ノ下ニ於テ論ヲ致シテ質スモノデアリマス、其行爲  
ノ輕重、大小ニ依テ治安警察法アリ、或ハ刑法アリ、出版法、新聞紙法アルニ拘ラズ、往々捜査ガ遂  
巡致シテ速ニ處分ヲナサル爲、社會ニ物議ヲ招イテ居ルコトハ少クナイノデアリマス、多クノ  
論ヲナスヨリ一ノ例ヲ示シテ私ノ意ノアル所ヲ申上ゲマス、一昨年十二月ト記憶致シテ居リマ  
スガ、共產主義者、社會主義者等ガ無政府主義者ノ大杉榮、伊藤野枝ノ遺骨ヲ擁シマシテ社會葬  
ヲ爲サントシタ事件デアリマス、其遺骨タルヤ既ニ遺族ガ葬祭ニ必要ナル吶佛トカ齒トカ重要  
ナ骨ハ除キ去ツタ一ノ殘餘ノ骨粉デアリマス、名ハ社會葬ト申シマスガ、我國ノ淳風、美俗ヨリ  
出デタル祖先神佛ノ祭祀トシテハアルベカラザル葬祭場ニ竹槍ヲ裝置致シマシテ、而モ全國一  
時ニ之ヲ行ツテ、斯様ナ宣傳ヲ爲シタルコトハ諸君御承知デゴザイマセウ、是ハ葬儀禮拜ガ主デ



ハゴザイマセヌ、目的ハ主義ノ宣傳デアアル、竹槍ノアリシコトハ事件自體輕微トハ云ヘ、正ニ犯罪デアツテ、一點ノ疑ガナイノデアリマス、斯ノ如キ葬儀ハ我が國法ノ下ニハ保護セラレテ居リマセヌ、淳風美俗保持ノ爲ニ設ケマシタ刑法ノ第二十四章、禮拜所及墳墓ニ關スル罪、之ヲ規定致シテ居ル精神ニ徴シマシテ、我國ニ於テ斯ノ如キ設備ノ社會葬ハ淳風美俗ヨリ出デタト云フコトヲ許サヌコトハ極メテ明白デアアルデアル、斯ノ如ク彼等ノ行爲ハ國法上許スベカラザルモノデアアルニ拘ラズ、之ニ手ヲ染メナカッタコトハ頗ル私ハ國家ノ爲ニ憂慮ニ堪ヘナイノデゴザイマス、此種ノ行爲ニ對スル司法當局ノ御處見ヲ伺ヒタイト思ヒマス、質問主意書ニ今一二、提出致シテ置キマシタガ本日政府御提出ノ法律案ニ依リマシテ解決ガ著キマシタモノモアリ、殘餘ハ枝葉ノ點デアリマスカラ他日ニ讓リ私ノ質問ハ是デ打切り終了致シマス、現小川法相ハ在野法曹ノ御出身デアラセラレ極メテ近代ノ民心ノ流レヲ能ク御理解ニナツテ居ラレ、而シテ因襲打破ニハ一雙眼ヲ持タレテ居ル、吾々ノ常ニ敬服シテ居ル御方デアリマス、十分ニ御答辯アラシコトヲ切ニ希望致シマス

之ニ對シ小川司法大臣ハ同日口頭ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

御答致シマス、只今黒住君ヨリ御述ニナリマシタル御質問中、御質問ノ根據トナリマシタル所ノ御意見ニ付キマシテハ、事務ニ適切ナル點尠カラズト考ヘルノデアリマス、又御列舉ニ相成リマシタル事柄ノ中ニハ、今日ノ時弊ヲ指摘セラレマシテ、其肯綮ニ當レルモノモ多クアルト考ヘマシテ大體ニ於テ私ハ御同感ノ意ヲ表明スル次第デアリマス、以下順次御答致シマスルガ、第一ノ御質問、國民ト司法官憲トノ間ニ親善信賴ノ念ヲ深カラシムルコトノ必要ニ付テ御述ニナリマシタ、此事モ大體ニ於テ御同感デゴザイマス、國民ハ司法權ヲ尊敬スルト同時ニ、之ニ對シテ十分ナル信賴ヲ有スルニ至リマセヌケレバ、司法權ノ完全ナル運用ヲ期待スルコトハ出來ナイト考ヘルノデアリマス、然ルニ今日迄ノ所ニ對シテ遺憾ナル點ガ多クアリマシタルコトハ、一般ノ周知ノ事實デゴザイマス、今日迄司法當局ニ於キマシテモ、或ハ又在野法曹諸君トノ間ニ於キ

マシテモ、是等ノ點ニ付キマシテハ、時々適切ナル御注意、御盡力モアリマシテ、黒住君ノ述ベタル如ク今日ハ餘程此點ニ付キマシテモ、改善ノ實ガ舉リマシタルコトヲ認メテ居ルノデアリマス、併ナガラ此司法官ナルモノハ其事務ノ性質上、動モスレバ、一般民衆ト遠ザカルコトガ多クノデアアル、接觸ノ機會ガ少イ、又官吏ノ職務ノ性質上、其尊嚴ヲ保ツコトガ洵ニ我國ノ司法官ノ如キ世界各國ニ殆ド類例ノ無イ程立派ナルモノデアアル、其嚴正公平ナルコトニ於テハ、何レノ國ノ判事ニ對シテモ、私ハ優ルアツテ劣ルナシト考ヘテ居リマス、併ナガラ又一面ニ於キマシテハ、民衆トノ親善關係ノ少イガ爲ニ、動モスレバ常識ヲ缺クト云フガ如キ非難ヲ受クルコトモ少クナイ、即チ質問者ノ擧ゲラレタル如キ訴訟手續ヲ進行スルニ付キマシテモ、或ハ人民ノ不便ヲ顧ミナイト云フヤウナ事柄モアリマス、又裁判ヲ下シマシテ、之ニ對シテ有スル所ノ責任觀念或ハ薄キデハナイカト云フガ如キ憾ミヲ懷カシムルコトモ往々ニシテアル、是ハ何トカシテ改メナケレバナラヌト云フコトハ申ス迄モナイコトデアリマス、併ナガラ是ハ其罪咎ニ裁判官ニ在ルノミナラズ、國民ノ方ニ於キマシテモ因襲ノ久シキ、司法權ニ對スル所ノ觀念ニ於テ未ダ發達ヲ致サズ、極メテ幼稚ナル點ガアル、此大切ナル司法權ノ重要ナル質問應答ニ付キマシテモ、先刻ノ如キ議場ノ中ヨリ甚ダ之ヲ輕ンズル風ノ見エルノハ、甚ダ私ハ遺憾ニ考ヘル、國民ガ斯ノ如キ人民ノ生命財産ヲ生殺與奪スル所ノ大切ナル司法權ヲ、斯ク輕ク見ルト云フコトデアリマシテハ、到底是ハ司法權ノ圓滿ナル運用ヲ見ルコトガ出來ヌノデアリマス、故ニ國民ノ方ニ於キマシテモ、ドウカ、今一層進歩致シテ、進ンデ裁判ノ信賴スベキモノデアアル、司法權ナルモノハ恐ルベキノミナラズ、信賴スベキ所ノモノデアアルト云フ所ノ觀念ヲ起シテ貫ハナケレバナラヌノデアリマス、今日マデ行政官ノ方面ニ於キマシテハ、行政官吏ハ其事務ノ性質上民衆ニ接觸スルコトガ多クイノミナラズ、明治維新以來中央ニ於テモ、地方ニ於テモ、各種ノ公ナル會議ヲ開カレ、或ハ縣會或ハ市町村會ノ如キ、國民ノ代表其人ガ行政官ニ接觸ヲ致シ、又行政官ト互ニ親密ヲ重ネル、斯様ナル事情ヨリシテ、行政官ノ方面ハ民衆トノ接觸ガ頗ル親密ニナツテ居リマス、遺憾ナガラ裁判官ノ方面ハ、斯ノ如キモノガナカッタモノデアリマスカラ、一層民衆トノ間ノ關係ガ疎隔ニ



ナタツカト考へマス、幸ニシテ先年陪審法が議會ヲ通過致シマシテ公布ニナリマシタ、是ニ於テ大正十七年ヨリ國民ハ即チ裁判ニ關與スルコトニ相成リマシタ、之ニ依テ裁判ノ中正公平ヲ期スルコトヲ得ルト同時ニ、裁判官其人モ亦民衆ニ接近スルノ機會ヲ得、民衆ノ精神ヲ理解スルノ機會ヲ得、兩者ノ間ニ於キマシテ注目スルニ足ル程ノ私ハ親密ノ程度ヲ増スコトガ出來ルデアラウト期待シテ居ル次第デアリマス、現ニ近年六大都市ニ於テ、御承知ノ通り借地借家調停委員ノ制度ガ設ケラレマシテ、裁判官民衆ト接觸ヲ致シマシテ、借地借家ノ諸種ノ調停ヲ試ミマシタ結果、借地借家ノ事件ニ於テ喜ブベキ結果ヲ見マシタルノミナラズ、裁判官其人ガ民衆ニ接觸スル機會ヲ得マシタガ爲ニ、其常識ヲ養フ點ニ於テ又人民ニ對スル思遣リノ厚クナリマシタ點ニ於テ、洵ニ喜ブベキ現象ガ出來タト考へテ居リマス、尙ホ法律制度ノ上ハ勿論デゴザイマスガ、司法當局ニ於テ行政上ノ權能ニ依テ、出來得ル限リハ御質問ノ精神ノ貫徹スルコトニ努メタイト考へテ居リマス、第二ハ陪審法ノ實行ニ付テノ御質問デゴザイマシタ、是モ御質問ノ通り、此制度ハ我國ニ於テ初テノ試ミデ、洵ニ日本ニ於ケル最モ重大ナル問題ノ一ツデアリマス、不幸ニシテ是ガ運用ヲ誤リマシタナラバ、法律ガ如何ニ立派デゴザイマシテモ、或ハ國民ハ其弊ニ堪ヘザルニ至ルカモ知レマス、當局ト致シマシテハ、此點ニ對シテ細心ナル注意ヲ拂ヒ、此初メテノ試ミニ對シテ、國民ヲシテ十分ニ陪審制度ノ精神ヲ理解セシムルコトニ努メタイト考へテ居ル次第デゴザイマス、是ガ爲ニ大正十四年度ノ豫算ニ於テ先刻黒住君モ申サレマシタ通り、少額デハアルカモ知レマセヌガ、今日財政困難ノ際ニ於テ、六萬圓ノ經費ヲ要求致シテアリマス、是ハ御尋ノ通り此金ヲ以テ或ハ文書、或ハ講演其他有ユル方法ヲ以テ此陪審法ノ精神ノ在ル所ヲ一般國民ニ理解セシムル爲ニ力ヲ盡スノ費用デアリマス、甚ダ少額デハゴザイマスガ、出來得ル限リノ經濟的ニ應用致シ、司法省ニ於テハ一致協力ヲ致シテ、此精神ノ徹底ヲ期シタイト考へテ居ル次第デアリマス、又獨リ國民ノミナラズ、裁判官ニ於テモ是ハ初メテノ試ミデアリマス、故ニ此陪審法ノ精神ヲ研究致シマスル事ニ付テハ、十分ナル注意ヲ拂フテ居ルコトハ勿論、諸外國ノ制度ニ於キマシテモ、出來得ルダケノ調査ヲ致シテ、研究モ致シテ居ル次第デアリマス、而シ

テ此調査研究ハ其成ルヲ告ルニ從テ、之ヲ一般ノ官吏ニ宣傳スルコトハ勿論デアリマス、併ナガラ單ニ机上ノ研究ノミヲ以テ足レリトスルモノデアリマセヌ、故ニ政府ハ司法官ヲ海外ニ派遣致シマシテ、歐米諸國ノ實況ヲ調査研究ヲ致シ、由テ以テ陪審法ノ運用ニ付テ遺憾ナキヲ期スル次第デアリマス、黒住君モ述ベラレル通り、既ニ東京、大阪、廣島、名古屋等ニ於ケル司法官ヲ海外ニ派遣ヲ致シテ居リマス、固ヨリ是ダケノ數ヲ以テ足レリトスル次第デハゴザイマセヌ、併ナガラ全國多數ノ司法官ヲ、一時ニ海外ニ派遣スルガ如キコトハ、經費ノ點ヨリ致シマスルモ、内地ノ裁判事務ノ關係ヨリ致シマスルモ、是ハ洵ニ困難ナ事デアアル、故ニ諸般ノ事情ヲ參酌致シマシテ、先以テ其急要トスル所ノ部分ダケヲ派遣致シタノデアリマス、當局ノ希望ト致シマシテハ、全國各地ノ人々ガ歐米諸國ノ實況ヲ觀察シテ貫ヘマスレバ、此上モナイ仕合デアリマス、併ナガラ是ハ恐ラクハ實行ガ困難デアリマス、然ラバ先以テ出來得ルダケノ人々ヲ派遣致シ、此派遣員ノ得マシタ所ノ經驗ト、其集メタ所ノ知識材料ハ、之ヲ悉ク全國ノ司法官ニ配付致シマシテ、其知識ト經驗ヲ全國ノ人々ニ利用ヲ致シテ貫ハウト考へテ居リマス、更ニ進ンデ財政其他ノ事情ノ許シマス限リハ、此外ノ地方ノ司法官マデニモ及ボシテ、外國ノ實況ヲ調査サセタイト云フ希望ヲ持ッテ居リマス、ソレニ付キマシテ黒住君ハ辯護士ヲ海外ニ派遣スルコトニ付テノ御質問ガゴザイマシタ、是モ私ハ御尤ト考へテ居リマス、併ナガラ先刻來申上ゲマス通り、先以テ今日ノ急トスル所ヨリ著手ヲ致ス次第デゴザイマス、然ルニ今回態々御質問モアリマシタノデゴザイマスカラ、在野ノ辯護士ヲ派遣スルニ付テハ、改メテ十分ナル攻究ヲ致ス考デゴザイマス、次ハ裁判所ノ設備ノ事デアリマス、裁判所ノ設備ニ付テハ、既ニ司法省ノ技師ヲ海外ニ派遣致シマシテ、此設備ニ關スル諸外國ノ實況ヲ研究致シテ居リマス、大體ニ於テ大正十四年度内ニ其結果ヲ得マスレバ、大正十五年、十六年ノ兩年度ニ於テ新ナル設備ヲスルコトハ、建築構造其他ニ付テ十分年月ニ餘裕ガアルト認メテ、居リマス故ニ、目下ハ研究ヲ重ネテ居ル次第デアリマス、左様御承知ヲ願ヒマス、次ハ裁判ニ於テ無罪トナッタ者ニ對スル補償ノ法律ノコトデアリマス、此事ニ付キマシテハ目下研究中デアリマシテ、今年帝國議會ニ法律案ヲ提出スルニ至ルヤ否ヤ、



今日ノ所デハ未ダ御答ヲ申上ダ兼マス、併ナガラ之ニ對シテハ十分ナル研究ヲ致シテ居ルト云フコトダケハ申上ダテ宜カラウト考ヘマス、ソレカラ第三ハ、裁判ガ國民ノ實生活ニ副ハザル所ノ虞ガアル、斯様ナ御質問デゴザイマシタ、是ハ亦私ハ御同感ニ堪ヘヌノデアリマス、是モ黒住君ノ述ベラレタル通り、近時訴訟事件ガ非常ニ激増致シマシテ、判檢事ノ數ニ對シテ事件増加ノ比例ガ餘程多イ、是ガ爲ニ事件ノ停滯スルコトモアルト考ヘテ居リマス、又或ル場合ニ於テ判檢事ノ能率ノ舉ル、擧ラヌト云フコトニ付テモ、或ハ多少疑問トスル點ガアルカトモ考ヘマス、是ハ第一ニハ先刻モ御述ニナリマシタ通り、現行ノ民事訴訟法ナルモノガ甚ダ其手續煩雜ニシテ、訴訟進行上ニ害ヲ及ボスモノト認メテ居リマス、民事訴訟法ノ改正ニ付テハ、先年來段々其計畫ヲ進メテ居ルコトハ御承知ノ通りデアリマス、即チ此改正ニ付キマシテハ、御質問ノ趣意ニ副フ如ク、成ベク訴訟手續ヲ簡便ニ致シテ、訴訟事件ヲ早く終了致シテ、人民ニ便利ヲ與ヘ、權利ノ伸張ヲ圖ルト云フ趣意モ十分ニ含メテ、改正ノ研究ヲ致シテ居ル次第デアリマス、而シテ今日ハ改正ノ事モ餘程進行致シテ居リマスルカラ、餘リ遠カラザル中ニ帝國議會ヘ提出スルノ運ビニナルカト考ヘテ居リマス、又先日御協賛ヲ願ヒマシタ裁判所構成法改正法律案ノ如キモ、矢張一面ニハ事務ヲ簡捷ニ致シ、國民ノ便益ヲ圖ルト云フ精神ヲ以テ、區裁判所ノ裁判權擴張ヲ致シマシタヤウナ次第デゴザイマス、尙ホ更ニ進ンデ裁判所ノ擴張、人員ノ充實、其待遇ノ向上、又判事檢事ノ事務能率ノ増進、是等ノ點ニ對シテモ出來得ルダケノ力ヲ盡シマシテ、今日マデノ弊害ヲ一掃シ、權利ノ伸張ト人民ノ利便ヲ圖リタイト云フ考デ、ゴザイマス、第四ノ御問ハ、辯護士法ノ改正ノコトデゴザイマス、辯護士法ノ改正ニ付キマシテハ、御質問ノ如ク大正十二年十一月辯護士法改正調査委員會ナルモノヲ設ケ、目下同會ニ於テ銳意研究中デアリマス、之ニ就テモ御質問ノ如ク中々種々ナル議論モアリマス、是ガ爲ニ段々時日モ遷延ヲ致シマシタガ、是亦餘リ遠カラザル中ニ其結果ヲ得ルコト、考ヘテ居リマス、政府ハ其結果ヲ參酌致シマシテ、政府亦政府ノ見ル所ヲ以テ、黒住君ノ憂ヘラレルガ如ク、時代錯誤ノ弊害ナキヤウ、只今御説ノヤウニ社會道德ノ向上、固ヨリ斯ノ如キ事ハ十分ノヲ念ト致シマシテ、改正案ヲ提出スル考ヲ持ッテ居リマス、次ハ司

法官會議ニ付キマシテ、辯護士會長ヲ之ニ參加セシメタラドウデアルカ、斯様ナ御問デアリマス、是ハ成程御陳述ノ如ク辯護士會長ヲ參加サセタナラバ、有益ナル點モ少クナカラウト考ヘテ居リマス、併ナガラ又此事務ノ打合、若クハ協議ノ事柄ノ中ニハ、裁判所長其他司法官ト辯護士ト共ニ協同シテ研究ヲスルコトノ出來ルモノモアリマスガ、出來ナイモノモアラウト思フ、併ナガラ只今御陳述ニナリマシタ御問ニ對シマシテハ、有益ナル點モ少クナイト考ヘマスカラ、此點ニ付キマシテハ更ニ改メテ十分ナル考慮ヲ盡シタイト考ヘテ居リマス、大體右ノ答辯ヲ以テ御諒承ヲ願ヒマス

越テ三月五日小川司法大臣ハ右質問中ノ第二、三、六、九、十項ニ對シ更ニ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

- 二 訴訟事務ノ處理ニ付テハ絶ヘス最善ノ努力ヲ致シツツアルニ拘ラス訴訟事件ノ激甚ナル増加ハ往々ニシテ事件ノ滯滞ヲ來サシムルノ已ムナキニ至ルヲ遺憾トス司法當局ハ民事訴訟法ノ改正ト相俟チテ裁判所ノ擴張、人員ノ充實、其ノ待遇ノ向上等ニ依リ今後益事件ノ處理ヲシテ敏活ナラシムコトヲ期スヘシ
- 三 國家ノ根本組織ヲ脅威スルカ如キ事犯ノ近時激増シタルハ遺憾ナリ司法當局ハ搜索並ニ處分ニ付細心ノ注意ヲ拂ヒツツアリ而シテ各個ノ事犯ニ付テハ之レカ訴追ヲ爲シ刑罰ヲ加フヘキヤ否ヤニ付テハ充分ナル考慮ヲ加ヘツツアリ從テ非違ヲ發見シタル場合ニ於テ事極メテ輕微ニシテ其ノ處罰ヲ適當ト爲ササル場合ニ於テハ不起訴ノ處分ヲ爲シタル事例アリ然



レトモ此ノ種ノ犯罪ニ付テハ罪形小ナル故ヲ以テ放置スルコトナク充分ナル意ヲ致スハ勿論更ニ進テ其ノ因テ來ル原因ヲ探究シ犯罪ノ防遏ニ付些ノ違算ナカラシメサルヘカラス

六 不起訴書類ヲ民事裁判ニ採用スルコトハ相當便宜アリト信スルモ之ニ依リ被疑者ノ名譽ニ影響ヲ來ス場合アルヘク又起訴猶豫若ハ微罪不檢舉ノ處分ヲ爲シタル案件ニ付テハ公益上之ヲ開示スルヲ適當トセサルモノアリ此ノ理由ニ因リ改正刑事訴訟法ハ其ノ第五十五條ニ於テ訴訟ニ關スル書類ハ公判開廷前ニ於テ之ヲ公ニスルコトヲ得スト規定シ趣旨ニ於テ不起訴記録ヲ他ニ提供スルコトヲ禁シタリ

九 辯護士又ハ私立學校ノ教授ヲ司法官又ハ辯護士試驗委員ニ採用セサルハ現今ノ試驗制度ニ於テ之ヲ許ササルニ因ル政府ハ該法制ヲ改正スヘキヤ否ヤニ付テハ充分ノ考慮ヲ爲スヘシ

十 借地借家調停法施行後ノ成績ハ別表ニ示ス如クニシテ極メテ良好ナリトス

追テ爾餘ノ質問ニ對シテハ曩ニ本會議ニ於テ答辯濟ニ有之候

二五 山縣伊三郎公一行佛領印度支那派遣ノ件ニ關スル質問

一 今回政府カ佛領印度支那ニ山縣伊三郎公一行ヲ派遣セルハ大正十三年五月「メルラン」總督來朝ニ對スル單ナル答禮ノ意味ナルヤ更ニ兩國ノ經濟的親善ヲ計ル目的ナルヤ

二 政府ノ派遣セル使節一行ハ如何ナル方針ニ依リ選任シタルヤ

十四年二月五日森田金藏君ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ二月二十三日幣原外務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

一 政府カ佛領印度支那ニ山縣公一行ヲ派遣セルハ主トシテ大正十三年五月「メルラン」總督來朝ニ對スル答禮ノ爲ニシテ兼ネテ日本印度支那間ノ經濟的接近ヲ圖ルニ在リ

二 政府ノ派遣セル使節一行ハ前項ノ目的ヲ以テ外務、大藏、農商務及陸海軍各省ヨリ簡選シタ

二六 北海道拓殖政策ニ關スル質問

北海道拓殖ノ促進ハ刻下帝國重要ノ國策タル人口調節ト食糧充實ノ解決ニ資スルノ方策ナリ然ルニ近年移民頓ニ減退シ拓殖ノ業遲滞トシテ進マズ斯ノ如キ所以ノモノ畢竟拓殖事業ニ對スル政府ノ施設常ニ姑息退嬰ニ失スルニ職由セスムハ非ス拓殖ノ前途洵ニ寒心ニ堪ヘス加之既定計畫ハ大正十五年ヲ以テ將ニ終了ヲ告ゲムトス宜シク此ノ時ニ方リ舊套ヲ擺脫シテ新計畫ヲ樹立シ停頓セル拓殖ノ局面ヲ展開シテ國家緊急ノ要求ニ策應セシムヘキナリ



左記事項ハ拓殖促進上緊要缺クヘカラサル施設ナリト信ス依テ之ニ對スル政府ノ所見ヲ問フ

- 一 北海道廳官制ヲ改正シ長官ノ地位ヲ昂上シ其ノ權限ヲ擴張シ以テ拓殖計畫ニ對シ自由手腕ヲ發揮セシムルノ意ナキヤ
- 二 北海道ニ特別會計制度ヲ布キ拓殖促進ヲ圖ルノ意ナキヤ
- 三 若前項ノ特別制度ヲ布クヲ不可ナリトセハ北海道ニ於ケル國庫ノ收入(鐵道其ノ他特別會計ニ屬スルモノハ之ヲ除ク)ハ之ヲ全部拓殖費ノ資源ニ充ツルノ意ナキヤ
- 四 政府ハ北海道事業公債ヲ發行シ拓殖費ノ資源ニ充テ其ノ促進ヲ圖ルノ意ナキヤ
- 五 政府ハ北海道大河川(二十六河川)ニ對シ速ニ根本的治水計畫ヲ確立シ其ノ實行ニ著手スルノ意ナキヤ
- 六 政府ハ北海道ニ地代農地ノ制度ヲ實施シ自作農ヲ創設スルノ意ナキヤ
- 七 政府ハ北海道ニ於ケル灌溉溝幹支線ヲ國費支辨ト爲シ土地開墾及改良事業費ニ對シ開墾助成法ニ等シキ補助ヲ與ヘ且既設土功組合改修工事ニ適當ノ補助ヲ爲シ併セテ其ノ經營ニ苦シム者ニ對シ救濟ノ途ヲ講スルノ意ナキヤ
- 八 政府ハ北海道ノ農業ヲシテ新生面ヲ打開セシムヘク有畜農業ヲ獎勵スルノ意ナキヤ
- 九 政府ハ北海道ニ於ケル漁港修築ノ方策ヲ確立シ海田開發ノ促進ヲ圖ルノ意ナキヤ

- 十 政府ハ北海道移民招徠ニ對シ積極的方策ヲ立ツルノ意ナキヤ
- 十一 政府ハ北海道ニ於ケル銀行貯金保險掛金等中央流入ノ弊ヲ矯メ併セテ郵便貯金ハ之ヲ全部北海道ニ於テ低利資金トシテ貸出ヲ爲サシムルノ意ナキヤ
- 十二 政府ハ北海道拓殖銀行法ヲ改正シ其ノ機能ヲ擴張シ割増債券發行ヲ許シ貸出資金ヲ豐富ニシ且利率ヲ低下セシムルノ意ナキヤ
- 十三 政府ハ北海道ニ於ケル鐵道敷設法ニ依ル豫定線ヲ府縣ノ夫レト分離シ特別敷設法ヲ設定スルノ意ナキヤ
- 十四 政府ハ北海道ニ於ケル遞信收益ハ之ヲ全部北海道ノ通信機關改善竝擴張ニ充ツルノ意ナキヤ
- 十五 政府ハ北海道大學ニ法文理ノ各科ヲ増置シ速ニ綜合大學ヲ完成スルト共ニ高等學校及高等專門學校竝高等師範學校ヲ新設スルノ意ナキヤ
- 十六 政府ハ北海道ニ於ケル各官廳所屬地ヲ整理シ其ノ不用ニ屬スル農耕適地ハ速ニ之ヲ解放スルノ意ナキヤ

十四年二月七日松實喜代太君ハ右質問主意書ヲ提出シ三月三日左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ



私ハ先月七日ニ北海道拓殖政策ニ關スル質問ヲ政府ニ提出シタノデアリマスガ、今日ニ至ルマデ其答辯ヲ得ナイノデアリマス、ソコデ據ロナク此演壇ニ立ツタ次第デアリマス、私ガ只今述ベント欲スル所ノ事ハ極メテ平凡デアリマス、而シテ其言フ所ハ多ク數字上ニ涉ルコトデアリマスカラ、諸君ノ御倦怠ヲ招クコトヲ恐ル、ノデアリマス、併ナガラ此問題ハ北海道ノ利害休戚ニ關スルコトガ頗ル大ナルモノガアルノデアアル、ノミナラズ、刻下帝國重要國策ノ一タル所ノ不足セル所ノ食糧ノ充實ヲ圖ルノ一端トモナリ、又過剩セル所ノ人口ノ調節ヲ圖ルノ一助トモナルノデアリマス、斯様ナ譯デ頗ル重大ナル事柄デアリマスカラ、暫時御辛抱ヲ願フテ御清聴ヲ煩シタイ次第デアリマス、諸君、北海道ノ拓殖ハ明治二年ニ開拓使廳ヲ札幌ニ置イタ、其時カラ始ツテ居ルノデアリマスガ、今日ニ至ルマデ星霜ヲ閱スルコトガ五十有七年デアリマス、此間政府當局ニ於キマシテハ、幾多ノ苦心、幾多ノ努力ヲ拂ツタノデアリマス、併ナガラ私共カラ考ヘマヌルト云フト、甚ダ遺憾ノ點ガ少クナイノデアリマス、然ラバ北海道ノ拓殖ノ程度度合ハ如何ナル程度ニナツテ居ルカト云フトコトヲ御尋ネニナリマセウガ、ソレニ對シテ一應申上ケテ、皆サンノ御參考ニ供サナケレバナラヌ事ガアルノデアリマス、先ヅ土地ニ付テ申シマヌルト云フト、北海道ノ農耕適地ハ色々之ニ就テハ議論モアリマヌルガ、私共ノ見ル所ニ依リマヌルト云フト、約二百萬町歩アルト見テ居ルノデアリマス、サウシテ現在ニ於テドレダケ開墾サレテ居リマヌルカト申シマヌルト云フト、約八十萬町歩開墾サレテ居リマヌルガ、其内二十萬町歩近クハ休耕地、即チ廢地ニ歸シテ居ルノデアリマヌルカラ、現在利用サレテ居ル所ノ面積ハ約七十萬町歩デアリマスカラ、此二百萬町歩ニ比シマヌルト云フト三分ノ一ニシカ達シテ居ラヌノデアリマス、又水田適地ハ、是モ見様ニ依テ色々違ヒマヌルガ、私共ノ見ル所ニ依リマヌルト約五十萬町歩アルノデアリマスルガ、此中現在ニ開ケテ居ル所ノ水田ハ約十二萬町歩デアリマス、サウシテ見マヌルト云フト、是モ四分ノ一程度ノ開發ガ出來テ居ルノデ、四分ノ三ハ尙ホ今後ニ屬シテ居ルト云フトコトニナルノデアリマス、人口ハドウナツテ居ルカト申シマヌルト云フト、現在ハ約二百五十萬デアリマヌルガ、是ハ將來拓殖完成ノ曉ニハ、何程ノ人口ヲ包容シ得ルカト云フトコトニナリマヌル

ト、是モ見様ニ依テ色々議論ガ岐レルノデアリマヌルガ、私ノ考ヘル所ニ依ルト云フト、北海道ノ將來ハ一千万人ノ人口ヲ包容スルニ敢テ難クナイト思フノデアリマス、ソレハ何故デアルカト申シマヌト、或ハ東北六縣ノ例ヲ引キ、或ハ色々他ノ例ヲ引イテ立論スル諸君ハ、五百萬或ハ六百萬位ニシカ計算ヲシテ居リマセウガ、私共ハ北海道ニ於テハ、四十億萬噸以上ノ石炭ヲ藏シテ居ルノデアリマヌルカラ、此石炭ニ依テ將來製造工業ガ盛ニ起ルト云フトハ、争フベカラザル事實デアアルノデアリマヌルカラ、是カラ推論致シマシテモ、北海道ニハ將來一千万人ノ人口ヲ包容シ得ルト云フトハ、敢テ架空ノ議論デナイト信ズルノデアリマス、然ラバ北海道ノ生産總額ハドウナルカト申シマヌルト云フト、大正八年ニハ北海道ノ生産總額ガ六億以上ニ達シタノデアリマス、併シ此大正八年ハ諸君ガ御承知ノ通り、一番景氣ノ好イ時デアリマシタカラシテ、是ハ先ヅ標準ト致スコトハムヅカシイト思ヒマヌルガ、大正十一年、二年、又昨年ノ生産總額ハ五億萬ヲ突破シテ居ルノデアリマス、之ヲ標準トスルコトハ敢テ不當デハナイト思フノデアリマス、ソレデ世人ハ多ク北海道ハ只今申シマシタ五億ノ四倍ノ生産總額ヲ舉ゲルコトハ難クナイト言ウテ居リマヌルガ、私ハ若シ北海道ノ利源ヲ最モ有利ニ開發シタナラバ、三十億ノ生産總額ヲ舉ゲルコトハ至難デナイト云フト信ジテ居ルノデアリマス、斯様ニ綜合シテ考ヘテ見マヌルト云フト、北海道ノ拓殖ハ先ヅ今日ノ現在ニ於テハ、四分ノ一程度デアルト私ハ信ジテ居ル、即チ四分ノ三ト云フモノハ今後ノ開發ニ俟タナケレバナラヌノデアリマス、今日マデ明治ノ初年カラ五十七箇年掛ツテ、四分ノ一ヲ開イテ居ルノデアリマスガ、若シ之ヲ此儘ニシテ進ンデ行ツタト致シマヌラバ、北海道ノ拓殖ノ完成スルマデハ、マダ二百年ヲ要スルト云フトコトニナルノデアリマス、此點カラ考ヘマシテモ、私ハ北海道ノ拓殖ノ前途ノ爲ニ甚ダ寒心ニ堪ヘナイト思フノデアリマス、倍テ諸君、北海道ノ拓殖ガ斯ノ如ク遅々トシテ進マナイ其原因ハ何處ニ在ルカト云フトコトヲ研究シテ見マヌルト、是ハ政府當局ノ施設經營ガ餘リニ因循姑息ニ流レ、其計畫ガ概テ消極ニ失シタノニ起因スルト斷ジテ差支ナイト思フノデアリマス、此事ハ私ノ一家言デハナイノデアリマス、昨年ノ夏總理大臣ノ官邸ニ於テ帝國經濟會議ノ總會ヲ開イタノデアリ



マスルガ、其總會ニ於テ移植民ノ保護獎勵ノ方策ニ付テ答申ヲ致シテ居ル、其一節ニ依リマスル  
ト、北海道移民ノ保護獎勵ノ方策ト云フノガアル、其冒頭ニ於テ——一寸朗讀ヲスルコトヲ許サ  
レタイノデアリマスガ、北海道ニ關シテハ明治初年拓殖使ヲ置イテヨリ既ニ五十有餘年、其開拓  
ニ努力セザルニ非ズト雖モ、朝鮮、臺灣、滿洲等ニ於ケル國力傾注ニ比シ、北海道ノ拓殖ニ力ヲ用  
ユルコト甚ダ少ク、既定ノ拓殖計畫アリト雖モ内容甚ダ不十分ニシテ、且ツ其拓殖計畫モ一般財  
政經濟ノ影響ヲ受ケ、屢變更ヲ來シ、一貫シタル計畫ヲ樹立スル能ハズ、北海道ノ拓殖ノ爲ニ設  
立セラレタル北海道拓殖銀行ノ如キ、未ダ當初ノ目的ニ副ハズ、加之諸官廳ノ北海道ニ對スル計  
畫ハ、動モスレバ連絡ヲ缺キ、其他ノ一般制度ニ關シテハ、各府縣ト同一ノ地位ヲ得セシムルニ  
急ニシテ、却テ國家的見地ヨリ北海道ノ拓殖ヲ全ウシ、又全國人口調節ノ爲ニ北海道ヲ經營スル  
ニ付テ頗ル缺如セルモノアリシハ、遺憾ニ堪ヘザル所ナリ云々トアリマス、之ヲ見マシテモ、從  
來北海道ノ此拓殖ニ對スル政府ノ施設計畫ト云フモノガ、甚ダ因循姑息デアアル、甚ダ消極ニ流レ  
タト云フコトハ、識者ノ意見ノ一致スル所デアルト信ズルノデアリマス、サウ致シマスルト、問  
題ハ如何ニスレバ北海道ノ拓殖ヲ促進シ、如何ニスレバ北海道ノ拓殖ノ完全ヲ期シ得ルカト云  
フコトノ問題ニ移ッテ來ルノデアリマス、之ニ就テ私ハ曩ニ十六箇條ノ箇條ヲ別ケマシテ、サウ  
シテ政府ニ質問シテ答辯ヲ要求シタノデアリマスルガ、遺憾ナガラ今日マデ其答辯ヲ得ナイノ  
デアリマス、ソレ故ニ甚ダ長クナッテ相濟ミマセヌガ、極メテ簡單ニ申上ゲテ其要領ダケヲ盡シ  
タイト思フノデアリマスカラ、ドウカ暫時御清聽ヲ御願致シタイ次第デアリマス、先ヅ第一ニ私  
ガ政府ニ問ハントスル所ハ、北海道廳ノ官制ヲ改正シ、長官ノ位置ヲ向上シ、其權限ヲ擴張シ、以  
テ拓殖計畫ニ對シ自由手腕ヲ發揮セシムルノ意ナキヤト云フコトデアリマス、此事ハ甚ダ一見  
不要ノ事ニ似テ居ルケレドモ、決シテサウデナイノデアリマス、ソレハ何デアルカト申シマスル  
ト、明治初年開拓使長官ヲ置イテヨリ、明治十五年ニ北海道ニ三縣分治ト云フコトガアリマシ  
タ、ソレマデノ間ト云フモノハ歷代ノ長官ハ政府ノ重要ナル位置ヲ占メテ、各省大臣——アノ時  
分ニハ卿デアリマシタガ、今日ノ所謂大臣デアリマス、各省大臣ト肩ヲ列ベテ居ッタノデアリマ

ス、併ナガラ只今申上ゲタヤウニ明治十五年ニ至ッテ三縣分治トナッタノデアリマス、ソレカラ續  
イテ明治十九年ニハ北海道廳ガ置カレテ、今日ニ至ッタノデアリマスルガ、此三縣分治以來ト云  
フモノハ、長官ノ地位ハ段々ト下ッテ來マシタ、隨テ人物モ下落ト言ッテハ失禮デアルカモ知リマ  
セヌガ、兎ニ角人物モ以前ヨリハ段々ト劣ッテ來タト云フコトハ、是ハ事實デアアルノデアリマス、  
ソレト同時ニ北海道ノ拓殖ト云フモノガ甚ダ振ハナイト云フコトモ、爭フベカラザル事實デア  
ルノデアアル、諸君、北海道ノ長官ガ此豫算ヲ要求スルニ當ッテ、年々歳々東京ニ出テ參リマシテ、  
サウシテ内務省トカ大藏省ノ屬僚ニ頭ヲ下ゲテ、洵ニ見苦シイ有様デアアルノデアリマス、私共ハ  
少クトモ此長官ノ地位ヲモウ少シ向上致シマシテ、適當ナル人物ヲ之ニ任用シ、サウシテ豫算閣  
議ニ發言權ヲ得ル位ニ地位ヲ向上シテ、サウシテ北海道ノ拓殖ヲ進メテ行キタイト云フ考ヲ疾  
クカラ持ッテ居ルノデアリマスガ、之ニ對シテ政府ノ所見ヲ伺ヒタイノガ第一デアリマス、第二  
ニハ北海道ニ特別會計制度ヲ布キ、拓殖促進ヲ圖ルノ意ナキカ、斯ウ云フコトデアアルノデアリマ  
スガ、此事ニ付テハ頗ル重要ナル事デ、詳細ニ申上ゲレバ少クトモ此事ダケデモ一時間ヲ要スル  
ト思ヒマスガ、是ハ詳細ハ略シマス、唯獨立會計、即チ特別會計ト云フコトニ付テハ吾々ハ五ツ  
ノ案ヲ持ッテ居ルノデアリマス、第一案ハ北海道内ニ於ケル所ノ稅務、農商、遞信鐵道ノ各行政ヲ  
北海道廳ニ統合シテ、サウシテ且ツ樺太廳ヲ北海道廳ニ併合シタイト云フ案デアリマス、第二案  
ハ第一案ノ中ノ鐵道ダケヲ除外シテ、即チ北海道ト樺太ヲ併合スル、斯ウ云フ案デアアルノデアリ  
マス、第三案ハ樺太ノ併合ヲ止メテ、北海道ニ於ケル所ノ稅務、大藏關係デアリマスガ稅務、農商  
務、遞信ノ各行政ヲ北海道廳ニ統合スルト云フ案デアアル、第四案ハ北海道並ニ樺太ノ鐵道及遞信  
ダケヲ除イテ、北海道ト樺太トヲ併セテ統治スルト云フノガ第四案デアアル、其次ノ案ハ北海道廳  
ト樺太ノ併合ヲ止メテ、北海道ノ鐵道ト遞信ダケヲ除イタ案、即チ北海道ニ於ケル大藏省ノ關係  
タル稅務、農商務ノ行政ダケヲ北海道廳ニ統合スル、斯ウ云フ案デアリマスガ、此五ツノ案ノ中何  
レヲ施行シテモ宜イガ、是非共北海道ニ特別會計制度ヲ布イテ費ヒタイト云フ希望ナノデアリ  
マス、只今申上ゲマシタヤウニ、是等ニ對スル詳細ノ說明ハ略シマスガ、此五案ノ中何レニ致シ



マシテモ、北海道ノ收入ヲ以テ、北海道ノ拓殖財源ニ充テ、サウシテ其不足ハ北海道ノ事業公債ヲ發行シテ、サウシテ拓殖促進ヲ圖リ、而シテ數年ニ至ッテ矢張北海道ノ收入ヲ以テ其元利ヲ償還スルト云フ案デアアルノデアリマス、假ニ最モ實行ガ困難ダト世間カラ見ラレル所ノ第一案ヲ實行スルト致シマシテ、ドウ云フコトニナリマスカト申セバ、十二箇年ニ約一億二千五百萬圓ノ公債ヲ發行シテヤレバ、樺太及北海道廳ノ拓殖ノ完成ヲ期スルコトガ出來ルノデアアル、サウシテ毫モ國庫ノ御厄介ニナラズシテ、北海道ノ收入ヲ以テ元利トモ償還ノ途ガアルノデアリマス、之ニ對シテ政府ハ如何ナル所見ヲ持ッテ居ルカト云フコトヲ御伺シタイノデアリマス、其次ニハ第三デアリマスガ、只今申上ゲタ所ノ特別會計制度ト云フモノヲ北海道ニ布クコトガ不可能デアルトスルナラバ、北海道ニ於ケル所ノ鐵道其他特別會計ニ屬スル所ノ收入ハ除キマシテ、其他ノ收入ヲ以テ全部北海道ノ拓殖費ニ充ルコトノ意ナキカト云フコトデアリマス、之ヲ全部北海道ノ拓殖財源ニ充ルコトガ出來ルトスレバ、北海道ノ拓殖ハ蓋シ面目ヲ改ムルコトガ出來ルト思フノデアリマス、全體是マデ何程ノ國費ヲ北海道ニ入レテ居ルカト云フコトヲ調ベテ見マス、明治二年開拓使以來、大正十二年度マデ四十六箇年デアリマスガ、此間ニ國費ヲ北海道ニ入レテ居ルコトガ八億三千五百萬圓デアアルノデアリマス、併シソレニ對シテ國庫ガ北海道ヨリ納メテ居ル所ノ金ハ何程アルカト云ヘバ、八億四千五百萬圓デアアルノデアアル、即チ差引一千萬圓ト云フモノハ國庫ガ北海道ヨリ餘計受取ッタト云フコトニナッテ居ルノデアリマス、此支出ノ内ノ八億何千萬圓ト云フモノハ、無論開拓使時代ニ官金ヲ濫費シタト云フヤウナ聲ガ囂々デアッタノデアリマスガ、ソレ等ノ費用モ此中ニハ含ンデ居ル、デアアルカラ是ハ今日ノ拓殖ヲ論ズル所ノ計算ノ基礎ニハナラズ、然ラバ最近ニ於テドウ云フコトニナッテ居ルカト申シマス、明治四十三年即チ現在ノ拓殖計畫ヲ定メタ其年カラ、大正十四年度——大正十三年度ト四年ハ豫算デアッテ、其他ハ總テ決算デアリマスガ、其間ニ國庫ガ三億八千八百五十餘萬圓ト云フモノヲ國庫ガ受取ッテ、ソレニ對シテ拓殖費トシテ國庫ヨリ支出シテ居ル金ガ二億九千六百三十餘萬圓デアリマス、即チ差引九千二百二十萬五千五百七十二圓ト云フモノハ國庫ガ餘計受取ッテ居ルト云フコトニ

ナル、一億萬圓ニ近キ金ヲ十六年間ニ北海道ヨリシテ國庫ガ餘計受取ッテ居ルト云フコトニナッテ居ルノデアリマス、吾々ガ主張スル點ハ此處ニ在ルノデアアル、北海道ハ之ヲ人ニ譬ヘテ見マス、ト、マダ未成年或ハ丁年ニ漸ク達シタカ達シナイカト云フ位ノ所デアアルノデアリマス、而モソレカラシテ斯ノ如キ大金ヲ搾リ取ルト云フコトハ、國家トシテ甚ダ遺憾ナ事デハナイカト思フノデアリマス、而モ明治初年カラ今日ニ至ルマデ二百五十萬ノ人口ヲ移シ、百萬町歩ノ田畑ヲ作リ、生産五億餘萬圓ヲ擧ゲル、斯ウ云フヤウナコトヲシテ、其上ニ多大ナ金ヲ北海道カラ捲上ゲルト云フコトハ、如何ニモ殘酷ナ處置デアアルト吾々ハ平素考ヘテ居ルノデアリマス、尙ホ此場合ニ於テ一言附加ヘテ置キタイノハ、或ル外國人ノ如キハ斯ウ云フコトヲ言ウテ居ル、北海道カラ金ヲ整理ダトカ緊縮ダトカ云ッテ拓殖費ヲ削ルガ如キハ、以テノ外ノ事デハナイカト云ッテ政府ノ遺方ヲ——現政府トハ申シマセヌ、歴代政府ノ遺方ヲ非難攻撃ヲシテ居ッテ笑ッテ居ルト云フ事實ガアルノデアリマス、是等ニ對シテ政府ハ如何ナル考ヲ持ッテ居ルカト云フコトノ所見ヲ伺ヒタイノデアアル、其次ノ第四ハ、政府ハ北海道事業公債ヲ、發行シ拓殖費ノ財源ニ充テ、其促進ヲ圖ルノ意ナキヤト云フノデアリマスガ、先刻申シマシタ所ノ特別會計制度ヲ布キ、或ハ又北海道ノ收入ヲ以テ北海道ノ拓殖ヲ進メルト致シマシテモ、ドウシテモ現在ニ於テハ十分ニ其拓殖ヲ進ムルコトハ出來ナイ、ソコニ於テ北海道事業公債ヲ發行シテ、一時此北海道ニ金ヲ往込ム必要ガアルノデアリマスガ、是ハ先程申上ゲマシタカラ詳細ハ略シマスルガ、之ニ對シテ政府ノ所見ヲ御伺シタイノデアリマス、第五ハ政府ハ北海道大河川二十六河川ニ對シ、速ニ根本的治水計畫ヲ確立シ、其實行ニ著手スルノ意ナキヤ、斯ウ云フ質問デアリマスルガ、元來北海道ノ河川ハ自然ノ儘ニ放任シテ、全く無防備ノ形ニアアルノデアリマス、其上ニ拓殖ガ進ムニ從ヒマシテ土砂ヲ流失シ、河底ヲ埋没シテ、サウシテ洪水ノ度ヲ繁クシ、而シテ其氾濫ノ程度ヲ甚大ニスルト云フコトハ今日ノ有様デアアルノデアリマス、其度ニ人畜ノ死傷、或ハ家屋竝ニ田畑農産物等ノ流亡、河岸ノ決潰等擧ゲテ見マスルト云フト、實ニ慘狀ヲ極メテ居ルノデアリマス、今北海道廳ノ調査ニ依ルト云フト、明治四十二年ヨリ大正九年ニ至ル十一箇年間ニ於ケル水害ニ起因スル所ノ損



害高ハ、四千六百四十九萬餘圓アルト云フコトデアリマス、之ヲ一箇年ノ平均ニ致シマスルト云フ  
 ト、四百二十二萬六千餘圓ト云フ多キニ達シテ居ルノデアリマス、之ヲ見テモ如何ニ其慘害ガ甚  
 シイカト云フコトハ想像シ得ルノデアリマス、各河川ニ對シテ治水工事ヲ施シタナラバ、是等ノ  
 慘害ヲ除去スル上ニ、浸水ノ爲ニ未ダ荒廢ニ歸シテ居ル土地ガ澤山アルノデアリマスガ、其開發  
 フ促スコトガ出來ルノデアリマスカラ、所謂一舉兩得デアアルノデアリマス、今北海道ノ調査ニ依  
 ルト云フト、ドウ云フ所ノ利益ヲ得ルカト云ヘバ、一箇年ノ平均ガ六百二十二萬餘圓ノ水害ニ依  
 テ起因スル所ノ損害ヲ免除シテ、且ツ先程申シマシタ浸水ノ爲ニ未開地ニナツテマダ荒蕪ニナ  
 テ居ル所ノ土地ノ八萬五千餘町歩ト云フモノヲ開墾シ得テ、サウシテソレヨリ生ズル所ノ利益  
 ハ一箇年ニ三千六十餘萬圓ヲ生ズルノデアアル、是マデ治水事業ハ消極事業ダトカ云フヤウナコ  
 トモ往々唱ヘラレテ居ルノデアリマスルガ、此點カラ見マシテモ決シテ此治水事業、即チ北海道  
 ニ於ケル治水事業ハ消極事業デハナクシテ、積極的事業デ、大ニ利益ヲ舉得ル所ノ仕事デアアルト  
 云フコトハ明デアアルノデアリマスガ、之ニ對スル政府ノ所見ヲ伺ヒタイノデアリマス、第六ハ北  
 海道ノ地代農地制度ヲ施行シ、自作農ヲ創設スルノ意ナキカト云フコトデアリマスガ、北海道ニ  
 ハ古キ時代ニ處分シタ大面積ノ土地ガ到ル處ニ在ルノデアリマス、是等ノ土地ハ個人ノ所有地  
 トナツテ居リマスルガ、地主ハ殆ド是迄ニ開墾ノ爲ニ力ヲ盡シテ最早行詰ツテ、サウシテ此上開墾  
 フスルコトノ力ガ無クナツテ居ルノデアリマスガ、ソレガマダ利用サレズシテ殘ツテ居ルモノガ、  
 只今統計ニ依リマスルト云フト——私ハ此數字ニ多少疑ヲ持ツテ居リマスルガ、ソレガ北海道ニ  
 ハ百二十萬町歩アルト稱シテ居ルノデアリマス、此土地ガ荒廢ニ歸シテ居ルバカリデナク、其土  
 地ノ爲ニソレヨリ奥ニ在ル所ノ未開地ノ開發ヲ妨ゲテ居ルト云フ土地ガ澤山アルノデアリマ  
 ス、ソレ等ノ土地ニ對シテ獨逸其他歐洲ノ諸國ニ於テ、古クカラ普ク行ハレテ居ル所ノ地代農  
 地、即チ「レンテンギューター」ト云フ制度ヲ實施シテ、サウシテ一面ニ於テハ自作農ヲ創設スル  
 ト同時ニ、他面ニ於テハ其土地ノ利用ヲ圖ルト云フコトガ蓋シ國家ノ急務デアラウト思フノデ  
 アル、北海道ニ於ケル現在ノ田畑地價ハ非常ニ安イノデアアル、サウシテ又澤山只今申シタヤウニ

アルノデアリマスカラ、國家ガ之ニ多少ノ保護ヲ加ヘサヘシタナラバ、現在ノ農業小作者ガ、小  
 作料ヨリ以上ノ負擔ヲシナクテモ、三十箇年以内ニ於テ其土地ノ所有者トナルコトガ出來ルノ  
 デアリマス、是等ニ對スル政府ノ所見ヲ伺ツテ見タイノデアリマス、第七ハ北海道ニ於ケル灌漑  
 溝ノ幹支線ヲ國費支辨トシ、又土地ノ開墾及改良事業ニ對シテ、開墾助成法ニ等シキ補助ヲ與  
 ヘ、且ツ既設土功組合改修工事ニ適當ノ補助ヲ爲シ、併セテ其經營ニ苦シム者ニ對シテ救濟ノ途  
 ヲ講ズルノ意ナキカ、是ハ北海道ノ者デナケレバ一寸興味ハナイノデアリマスガ、甚ダ御氣ノ毒  
 デアリマスガ、此事ニ付テモ一言辯明ヲ御許シテ願ヒタイ、先刻申シマシタヤウニ北海道ニハ五  
 十萬町歩ノ水田適地ガアツテ、其中ノ四分ノ一ト云フモノハ開カレタケレドモ、尙ホ四分ノ三ト  
 云フモノハ殘ツテ居ル、而シテ北海道ニ於ケル水田ヲ作ルト云フコトハ、府縣ノニ比ベルト比較  
 的經費ガ少クシテ、有利ノ事業デアアルノデアリマスガ、今日ノ北海道ノ農業者ハ創業勿々デアリ  
 マスルカラシテ、此水田ヲ開クト云フコトニ付テハ資金ガ缺乏シ、又北海道ニハ金融ガ甚ダ逼迫  
 シテ居ル結果トシテ、灌漑溝ノ仕事ヲ全部其地方ノ人民ニヤラセルト云フコトハ、寔ニ困難ナ事  
 ガアルノデアリマス、ソコデ北海道住民トシテハ是非トモ國費ヲ以テ灌漑溝ノ幹支線ヲ開墾  
 シテ貫ヒタイト、斯ウ云フ希望ヲ持ツテ居ル者デアリマス、ソレカラ北海道ノ造田ニ對シテハ、拓殖費  
 ノ中カラ幹線ノ工事費ノ約四割ノ補助ヲ與ヘルト云フコトニナツテ居ルノデアリマス、併ナガラ  
 補助スベキ金額ガ少クシテ、補助ヲ受ケタイト云フ其補助ノ申請ヲスル者ガ餘計アルガ爲ニ、今  
 日マデ實際ノ補助ヲ受ケテ居ルノハ、約工事費ノ二割四分ノ補助シカ是ガ無イノデアアル、之ヲ府  
 縣ニ於ケル所ノ開墾助成法ノ助成金ニ比ベルト、頗ル大ナル相違ガアルノデアリマス、今一例ヲ  
 申シマシテ皆様ノ御參考ニ供シテ見タイト思ヒマスガ、假ニ百二十町歩ノ造田ヲ爲スト云フコト  
 ハ、北海道ノ工事費ノ割カラ云フト九萬一千二百圓デ出來ルノデアリマス、之ニ對シテ只今申上  
 ゲマシタヤウニ、拓殖費ヨリ補助スル所ノモノガ幹線ニ對スル四割デアリマスルカラシテ、一萬  
 七千二百八十圓シカ補助ヲ得ラレヌコトニナル、之ヲ開墾助成金ノヤウニ、總工費ニ對シテ計算  
 ヲ致シマスルト云フト、一割八分九厘ト云フコトニナルノデアアル、併ナガラ府縣ノ開墾助成法ニ



依ル所ノ助成ハ、ドウナツテ居ルカト見マスルト、三萬九千九百八十二圓ノ助成金ヲ得ルコトニナルノデアリマス、即チ總工費カラ見マスルト四割三分八厘ト云フモノニ相當スルノデアアル、若シ之ヲ假ニ幹線ダケニ補助シテ割合ニ直スト云フト、ドウ云フコトニナルカト云ヘバ、北海道ハ先程申シマスヤウニ幹線ダケニ對シテハ四割デアリマスガ、府縣ノ助成金ヲ其様ニ割當テマスルト云フト九割二分六厘デアリマス、即チ府縣ト北海道トヲ比較致シマスルト、二倍三分二厘ト云フヤウナ大シタ徑庭ガアルノデアリマス、尙ホ序ニ茲ニ申上ゲテ置キタイノハ、府縣ノ開墾助成法ニ依ルト、畑ニ對シテモ相當ノ助成金ガアルノデアリマスガ、北海道ノ畑ニ對シテハ何等補助ハ無イノデアリマス、是ガ府縣ト大ニ其趣ヲ異ニシテ居ルコトニナルノデアリマス、又從來出來テ居ル所ノ灌漑溝ノ改修工事ニ對シテハ、何等其補助ノ途ガ開カレテ居ナイノデアリマス、是ハ北海道トシテハ甚ダ遺憾ニ考ヘテ居ルノデアリマス、又北海道ハ金利ガ非常ニ高イ爲ニ、總テノ事業ヲ起スニ大ナル困難ヲ感ジテ居リマスルガ、殊ニ水田ノ如キ餘リ有利デナイ所ノ事業ヲ起スニ至ツテハ、益困難ノ度ガ甚シイノデアリマス、現在北海道ノ土功組合デ其經營ニ苦ンデ居ルモノガ澤山アル、今北海道ニハ百八十九ノ土功組合ガ出來テ居リマスルガ、其中ノ大部分ハ此高利債ニ苦ンデ居ルノデアリマス、ドウシテモ差當リ一千萬圓ノ低利資金ヲ以テ此高利債ヲ借換ヘナケレバ立行カナイト云フヤウナ現狀ニ陥ツテ居ルノデアリマス、是等ヲ救フニハドウシテモ此高利債ヲ低利資金ニ借換ヘルト云フコトノ途ヲ開イテ戴カナケレバ、今ニ此土功組合ト云フモノハ破産ニ瀕セナケレバナラヌト云フヤウナ窮境ニ立ツテ居ルノデアリマスガ、之ニ對スル政府ノ所見ヲ御伺シタイノデアリマス、第八ハ「北海道ノ農業ヲシテ新生面ヲ打開セシムベク有畜農業ヲ獎勵スルノ意ナキヤ」ト云フコトデアリマス、北海道ノ畑作農業ハ全ク行詰ツテ居ルノデアリマス、府縣カラ北海道ヲ初メテ視察ニ行ツタ方ノ中デハ、北海道デ水田ヲ作ルト云フヤウナ馬鹿ナ事ガアルカト言ツテ、有名ナ人士ガ直チニ北海道ノ水田政策ト云フモノヲクサシ付ケルノデアリマスガ、決シテサウデナイ、北海道ノ今日ハモウ畑作農業ト云フモノハ全ク行詰ツテ居ルノデアアル、ソレハ民間ノ當業者モ多少ノ責任ハアリマスルガ、主トシテ農業上ノ獎勵ニ付テ其

方針ヲ誤ツタ結果、今日ニ立至ツタモノト斷ジテ差支ナイト思フノデアリマス、政府デハ——殊ニ農商務省ニ於テハ馬ヤ牛ヲ澤山ニ殖スト云フ獎勵方法ヲ講ジテ居ルノデアリマスガ、府縣ニ於テハ土地ハ少イ、又土地ノ價格ガ高イ爲ニ此獎勵ヲ十分ニスルト云フコトハ甚ダ至難デアルト思ヒマスガ、北海道ノ如キ廣大ナ土地ヲ有シ、又比較的安價ナル所ノ地價ヲ有シテ居ル北海道ニ於テ、此事ヲ試ミルト云フコトハ、蓋シ單リ北海道ノ農業ノ新生面ヲ打開セシムルノミナラズ、牛馬畜産ヲ獎勵スル上ニ於テノ方針トモ相一致シテ、非常ニ有益ナル事ト信ズルノデアリマスガ、此點ニ付テハ政府ノ御意見ハ如何デアルカ、御伺シタイノデアリマス、第九ハ「漁港修築ノ事デアリマスガ」政府ハ北海道ニ於ケル漁港修築ノ方策ヲ確立シ海田開發ノ促進ヲ圖ル意ナキヤ」北海道ハ私ガ申上ゲルマデモナク魚族ノ豐富ナルコトハ、所謂彼ノ諾威、或ハ加奈陀ナドノ三大海田ノ一デアルト稱サレテ居ルノデアリマスガ、近時ハ沿岸ノ漁業ハ漸次衰退ノ徵候ヲ呈シテ來タノデアリマス、併シ沖合遠洋ニ至ツテハ前途甚ダ有望デアリマスルガ、併シ根據地即チ此漁港ノ修築ガナイ爲ニ、之ヲ試ミマシテモ一朝風浪ノ爲ニ漁獲物ヲ流亡セシムルノミナラズ、人命ニ多大ノ損傷ヲ與ヘルト云フヤウナコトデ、甚ダ其發展ガ遅々トシテ進マナイ次第デアリマス、今北海道デ即チ道廳ノ調ベニ依リマスト云フト、有望ナル所ノ漁港ガ約六十餘ヲ算シテ居ルノデアリマス、勿論一時一齊ニ漁港ノ修築ヲ行フト云フコトハ困難デアリマセウケレドモ、之ヲ漸次緩急順序ヲ計リマシテ修築ヲ致シマシテ、サウシテ北海道ノ海田開發ヲ促進スルト云フコトニ致シマシタナラバ、單リ北海道ヲ益スルノミナラズ、又帝國ノ國富増進ノ上ニ於テモ多大ノ貢獻ヲ致スモノト信ジテ居ルノデアリマスガ、之ニ對シテ政府ノ所見ハ如何デアルカト云フノデアリマス、其次ノ第十ハ「政府ハ北海道移民招徠ニ對シ積極の方策ヲ立ツルノ意ナキヤ」此事ニ付テモ詳細ニ申述ブレバ多クノ時間ヲ要シマスカラ、極メテ簡單ニ申上ゲテ見タイト思フノデアリマスガ、今日ノ移民ニ對スル獎勵若クハ法規ハ隨分モウ古イノデアアル、即チ時代ニ適應セヌノデ、改正ヲスル必要ガアルノデアアル、殊ニ先刻モ申シマシタガ、開墾助成法ニ依ルト畑ニ對シテ助成金ガアルノデアリマスガ、北海道ノ開墾ニ對シテハ、何等此特典ハ無イノデアアル、又以前ニハ北海道ニ



移住スル者ニ對シテハ、汽車船舶ニ於テ運賃ノ減免ガ行ハレテ居ッテ、非常ニ移住民ガ其利益ヲ受ケタノデアリマスガ、今日ニ於テハソレハ全廢サレテ居ルノデアアル、故ニ北海道ノ移住民獎勵ニ對シテハ積極的ノ方策ヲ樹テ、サウシテ獎勵スルニ非ズンバ今後北海道ニ移住民ヲ招來スルコトハ甚ダ至難ナコトデアアルト私ハ信ジテ居ルノデアリマスガ、此點ニ對スル政府ノ所見ヲ伺ヒタイノデアリマス、第十一ハ「政府ハ北海道ニ於ケル銀行貯蓄保險掛金等中央流入ノ弊ヲ矯メ併セテ郵便貯金ハ之ヲ全部北海道ニ於テ低利資金トシテ貸出ヲ爲サシムルノ意ナキヤ」ト云フ、斯ウ云フ事デアリマスガ、拓殖事業ヲ勸メル上ニ於テ金融ガ重要ナル關係ヲ持ッテ居ルト云フコトハ、私ガ喋々スルマデモナイコトデアリマス、今北海道ノ金融ノ狀況、大正十二年デアリマスガ、其狀態ヲ見マスルト云フト、北海道拓殖銀行、是ハ特殊銀行デアリマスガ、此北海道拓殖銀行ノ募債額ハ一億二千萬圓バカリアッテ、ソレヲ資金トシテ貸出シテ居リマスガ、之ヲ除キマシテ其他ニ北海道ニ本店、支店、出張所ト云フヤウナモノヲ設ケテ居ル銀行ガ百十八アルノデアアル、百十八ニ對スル此預金ハ何程アルカト申セバ、一億五千二百七十餘萬圓アル譯ニナッテ居リマス、サウシテ其中テ北海道ニ於テ利用サレテ居ル所ノ金額ハドレ位アルカト申シマスルト、一億二千八十餘萬圓アル、即チ三千百餘萬圓ト云フモノハ北海道カラ銀行ノ手ニ依テ府縣ニ金ヲ持ッテ行カレテシマッテ居ルト云フ形デアアル、此外ニ生命保險或ハ火災保險、其他ノ保險ノ掛金トシテ、府縣ニ持ッテ行カレル所ノ金ハ判明ハ致シマセヌガ、蓋シ數千萬圓ニ達スルト私ハ信ジテ居ルノデアアル、是等ノ金ヲ北海道ニ融通スルコトガ出來タナラバ、北海道ノ産業資金ニハサマデ苦シマナイノデアリマス、ケレドモ奈何セン、今日ノ狀況ニ於テハ北海道カラ府縣ニ持ッテ行カレル、之ヲ政府ノ手デ何トカ出來ナイカト云フノデアリマスガ、政府ニ於テ、ソレハ民間ノ事ヲ仕事デアアルカラ干渉ハ出來ナイト斯ウ言フナラバ、次ニ私ハ斯ウ言フ事ヲ要求致シタイノデアリマス、ソレハ何デアアルカト云フト、郵便貯金デアリマス、先程申シマシタ郵便貯金ヲ、北海道ニ低利資金トシテ之ヲ融通スルコトガ出來ルナラバ、北海道ノ金融界ニ非常ナ便利ヲ得ルノデアリマス、大正十二年ニ郵便貯金カ何程アルカト云フト、約四千五百萬圓程アルノデアリマス、サ

ウシテ此中テ北海道内ニ融通サレテ居ル所ノ低利資金ハ約一千萬圓デアリマスルカラ、三千五百萬圓ト云フノガ郵便貯金ニ依テ北海道カラ府縣ニ——中央ニ持ッテ行カレテ居ル、丁度諸君御承知ノ通り、北海道ハ津輕海峽ニ依テ遮斷サレテ居ルノデアリマスカラ、丁度此金融或ハ物資ノ移出、移入ノ如キハ丁度外國貿易ノ如キ有様ヲ呈シテ居ルノデアリマス、左様デアリマスルカラ、北海道ハ多年各種ノ事業ガ行ハレ、或ハ又起ッテモ金利ガ高イ爲ニ十分ナル發達ヲ遂ゲ得ナイト云フノハ此ニ在ルノデアリマス、故ニ政府ハ此點ヲ救済スル上ニ於テ、何等カ相當ノ計畫ガナクテハナラヌト思フノデアリマスガ、之ニ對スル政府ノ所見ヲ伺ヒタイノデアリマス、其次ニ第十二ハ「政府ハ北海道拓殖銀行法ヲ改正シ其機能ヲ擴張シ割増債券發行ヲ許シ貸出資金ヲ豊富ニシ且利率ヲ低下セシムルノ意ナキヤ」先刻モ一寸申シマシタガ、北海道拓殖銀行ノ放資資金ハ一億二千萬圓バカリアルノデアリマスガ、北海道ノ生産總額ハ一箇年ニ五億萬圓以上、又不動産ニ於テモ田畑宅地、其他無慮五六億アルノデアリマス、ソレカラ北海道ニ本支店ヲ有シテ居ル會社ノ資本金ハ何程アルカト云フト、是モ古イ統計デアリマスガ、二億五千萬圓許リアルノデアリマス、ソレニ對シテ特殊銀行ト致シマシテ僅ニ一億二千萬圓ダケノ放資額デハ甚ダ貧弱ナルコトヲ感ゼザルヲ得ヌノデアリマス、殊ニ其金利ノ如キハ勸業銀行ニ比スルト云フト頗ル高率デアアル、北海道ニ於テ拓殖銀行ノ資金ガ少額デアッテ、金利ガ高率デアルト云フトト常ニ訴ヘテ居ルノハ、蓋シ當然ノ事デアルト信ズルノデアリマス、政府ハ臺灣開發ノ爲ニ富籤ヲ許シタ、或ハ又勸業銀行ノ社債或ハ又此復興公債ト云フヤウナモノニ對シテモ割増債券ヲ許シタ、又馬匹獎勵ノ爲ニモ此馬券發行ヲ許シテ居ル今日デアリマス、北海道ノ拓殖ヲ進ムル上ニ於テ、北海道拓殖銀行ニ割増債券ノ發行ヲ許シテ、北海道ノ資金ヲ豊富ニシ、サウシテ一面ニ於テハ此金利ノ低下ヲ爲サシムルト云フコトハ當然過ギル程當然デアルト思フノニ、今日マデ政府ガ其處置ヲ執ラヌト云フノハドウ云フ譯デアアルカ、苟モ此割増債券ノ如キハ、國ヲ舉ゲテ全廢スルト云フナラバ茲ニ議論ガ生ゼヌガ、只今申シマシタヤウナ方面ニ許シテ置イテ、北海道ニ限ッテ——國庫ニ於テハ澤山ノ金ヲ北海道カラ捲上ゲ、色ミノ事ヲシテ、サウシテ金融ニ至ッテ



ハ逼迫ヲシテ各種ノ事業ガ起ラナイト云フヤウナ場合ニ於テ、北海道ヲ救フノ途ハ或ハ此一點  
 デモ宜イカト私ハ考ヘテ居ルガ、政府ノ所見ハドウデアアルカ、御伺シタイノデアリマス、第十三  
 ハ「政府ハ北海道ニ於ケル鐵道敷設法ニ依ル豫定線ヲ府縣ノ夫レト分離シ特別敷設法ヲ設定ス  
 ルノ意ナキヤ」ト云フ事デアリマス、私ガ喋々スルマデモナク、鐵道ハ拓殖ノ先驅デアリマス、鐵  
 道ノ到ル所ニハ移民ハ招カズシテ來ルノデアリマス、又土地ハ自ラ開發サレルノデアリマス  
 ガ、今日北海道ニ敷設サレテ居ル所ノ鐵道ハ約千五百哩デアアル、面積ニ於テ之ヲ比例致シマスル  
 ト、府縣ノ半分ニモ達シテ居ラヌト云フヤウナ有様デアアル、而シテ緊縮トカ或ハ何トカ云フヤウ  
 ナコトデ、府縣ト一體ニ之ヲ繰延ベ、或ハ緊縮ヲ加ヘテ行クト云フコトハ、甚ダ其當ヲ得ナ  
 イト思フノデアリマスガ、以前ニハ北海道ニダケ北海道鐵道敷設法ト云フ特別ナル法律ガアッタ  
 ノデアリマスガ、今日ハ是ハ廢止ニナツテ、府縣ト同ジヤウニ所謂鐵道敷設法ノ制定ニ依テ一絡  
 ニサレテ居リマスガ、何等カ此形ヲ改メテ、府縣ノ此鐵道敷設法ト切離シテ、北海道ハ特別ノ方  
 法ニ依テ此鐵道ノ普及速成ヲ圖ル方法ハナイカト云フコトヲ質問シタイト思フノデアリマス  
 ガ、北海道ノ鐵道ハ拓殖鐵道デアリマスカラ、府縣ノヤウニ立派ナ鐵道ハ要セナイ、先ヅ簡單ナ  
 輕便鐵道デモ宜シイノデアリマスガ——幹線ハサウデアリマセヌガ、其他ノ支線ニ至リマスル  
 ト云フト、極メテ簡便ナモノデモ宜シイガ——デアアルカラシテ此府縣ノ立派ナ鐵道ノ敷設法ヨ  
 リ分離シテ、サウシテ北海道ニハ北海道ニ適スル鐵道敷設ノ方法ヲ設ケテ、サウシテ財政ノ緊縮  
 トカ、或ハ其他ノ方法ニ於テ、府縣ト一體ノ削減ヲ蒙ラヌヤウナ方法ヲ講ズル意思ガナイカ  
 ト云フコトデアリマス、之ニ對シテ政府ノ所見ヲ伺ヒタイノデアリマス、第十四ハ「政府ハ  
 北海道ニ於ケル鐵道收益ハ之ヲ全部北海道ノ通信機關改善並擴張ニ充ツルノ意ナキヤ」ト云  
 フコトデアリマスガ、北海道ニ於ケル所ノ通信事業ハ餘程利益ニナツテ居ルト私ハ見テ居ル  
 ノデアリマス、然ルニ此通信機關ノ改善擴張ハ之ニ伴ハナイ所ノ憾ミガアルノデアリマス、先  
 程モ申上ゲマシタ鐵道ト同ジヤウニ、此通信機關モ矢張拓殖ノ先驅デアアル、拓殖ノ先驅デナケレ  
 バナラヌモノガ、今日ノ有様カラ申シマスト云フト、拓殖ガ先ニ行ツテ、此交通機關鐵道ガ後カラ

附イテ居ル、後カラ附テ來テモ追附イテ來レバ、駈ケ附ケテ來レバ宜イノデアリマスガ、中ミサ  
 ウハイカヌ、移民ヤ土地ノ開發ハ先ニ行ツテ、後ロヘ向イテ鐵道ヤ交通通信機關ノ擴張ヲ手デ招  
 イテモ、ソレハ中ミ追附イテ來ナイ、甚ダ遺憾デアアル、此點ニ付テ政府ノ處見ヲ伺ヒタイノデア  
 リマスガ、今大正十二年度ノ北海道ニ於ケル通信機關ノ收支ヲ見マスト云フト——是ハ私ノ  
 調べタノデ、或ハ杜撰ノ誹リヲ招クカモ知レマセヌガ、私ハ大ニ杜撰デハナイ、正確ナルモノト  
 考ヘテ居ルノデアリマスガ、大正十二年度ニ於キマシテ、北海道ノ遞信收入ガ千二百二十五萬四  
 千九百九十八圓アルト信ジテ居リマス、其中デ遞信省カラ支出シタモノハ、何程アルカト云フト、九  
 百五十三萬五千五百圓アル譯デアリマス、内差引二百七十一萬八千六百九十六圓ト云フモノハ、  
 是ハ遞信省ノ收入ニナツテ居リマス、尤モ此中ニハ電信電話ノ公債ガ百萬圓餘リアリマスカラ、  
 ソレヲ差引キマシテ百六十七萬圓ト云フモノハ北海道ノ遞信省ノ此收入利益ニナツテ居リマス、  
 此收入利益ヲ北海道ノ交通通信機關ノ改良擴張費ト爲シテモ、北海道ノ通信機關ハ大ニ其面目  
 ヲ改メルデアラウト思ヒマスガ、之ニ對スル政府ノ所見ハ如何ト云フノデ伺ヒタイノデアリマ  
 ス、ソレカラ第十五ハ「政府ハ北海道大學ニ法文理ノ各科ヲ増置シ速ニ綜合大學ヲ完成スルト共  
 ニ高等學校及高等專門學校並高等師範學校ヲ新設スルノ意ナキヤ」是ハ私ガ喋々申上ゲルマデ  
 モナク、拓殖ノ事ハ獨リ物質的ノ開發バカリデハ其用ヲ爲サヌノデアリマス、即チ文化ノ向上ヲ  
 期スルト云フコトガ拓殖ノ重大ナル要件要素デナケレバナラヌノデアリマスガ、北海道ニ於キ  
 マシテハ地方費即チ應立學校トシテハ中學校、工業學校、商業學校、商船學校、水産學校或ハ高等  
 女學校、師範學校ト云フ風ニ、決シテ府縣ニ劣ラナイダケノ地方費ヲ以テ設備ヲシテ居ルノデア  
 リマス、併ナガラ國費ニ依テ設立サレテ居ル學校ハ、唯一ツ札幌ニ農科ト醫科ノ大學、即チ北海  
 道大學ガアル、又小樽ニ高等商業學校ガアルダケデアアル、此點カラ申シマシテモ、北海道ニ對シ  
 テ政府ガ教育上ニ、又文化ノ向上ニ向ツテ甚ダ其設備ガ遺憾デアアルト私ハ信ジテ居ルノデアリマ  
 ス、勿論此大學トカ或ハ高等學校トカハ、各地方デ要求シテ居ルノデアリマセウガ、北海道ハ氣  
 候ノ關係、又或ハ此北海道ノ地方ガ府縣ト違ヒマシテ、所謂植民地——所謂新シイ土地デアリマス



ルカラシテ、自ラ人間ノ氣風モ府縣トハ餘程趣ヲ異ニシテ居リマス、畏多イ話デアリマスガ、先年現皇太子殿下ガ北海道ニ行啓アラセラレタ際ニ、北海道人ガ御歡迎ヲ申上グルニ付テ、非常ニ熱心ヲ籠メテ御迎ヘシタコトガアル、ソレニ對シテ其當時ノ總理大臣ハ加藤友三郎サンデアリマシタガ、此人ヨリ吾々ハ承ツタノデアリマス、實ハ皇室ニ於カセラレテモ、北海道行啓ハ如何アラシカト御心配遊バサレタノデアアル、今回ノ行啓ニ對シテハ、北海道人ガ洵ニ忠誠ヲ披瀝シタト云フコトニ付テハ、皇室ニ於テモ大ニ御喜ビコナツテ居ルトノコトヲ聞イテ、サウシテ益北海道ノ爲ニ此忠誠ヲ致サナケレバナラヌト云フコトハ吾々ハ考ヘタノデアリマスガ、是等ノ點ニ對シテモ餘程當局ハ考ヲ茲ニ及ボサナケレバナラヌト思フノデアリマス、之ニ對スル政府ノ所見ハドウデアアルカ、御伺シタイ次第デアリマス、次ハ第十六、最後デアリマスガ「政府ハ北海道ニ於ケル各官廳所屬地ヲ整理シ其不用ニ屬スル農耕適地ハ速ニ之ヲ解放スルノ意ナキヤ」是ハ極メテ簡單ナ事柄デアリマスガ、北海道ニ於テ北海道廳ノ所管ニ屬スル、即チ國有未開地トカ、或ハ森林トカ云フモノヲ除キ、ソレカラ御料地ヲ除キマシテ、各官廳ノ有シテ居ル面積ハ、土地ガ約二十五萬町歩許リアルノデアリマス、其中ニハ無論官廳ノ必要ナル所モアリマセウガ、多クハ必要デナイ所ガアル、サウシテ其中ニ最モ農耕地トシテ適當ナル土地ガ多クアルノデアリマスガ、ソレヲ今日各官廳ガ閉シテ開放シテ居ラヌ、今日ハ北海道ノ拓殖モ段々進ンデ來テ居ル時デアリマスカラ、是等ヲ速ニ整理シテ開放シ、自作農ヲ創定スルト云フコトハ緊要ノ事柄ト思フノデアリマスガ、之ニ對スル政府ノ所見ハ如何デアアルカト云フコトヲ御伺シタイノデアリマス、尙ホ最後ニ一言致シタイノハ北海道ハ天惠ガ甚ダ薄イ土地デアアル、斯ウ云フコトヲ世人ハ言フ、天惠ガ薄イカラソナニ國費ヲ投ジテ仕事ヲスル必要ガナイデハナイカト云フコトヲ吾々ハ屢耳ニスル、是ハ甚ダ遺憾デアアル、先程モ申シマシヤウニ、是マデ何程ノ國費ヲ北海道ニ投ジテ居ルカ、即チ北海道ハ自給自足シテ、尙ホ國庫ニ幾何カノ金ヲ納メテ居ル、多クノ金ヲ投ズル必要ハナイト云フコトハ、此點デ分ルト思ヒマス、決シテ多クノ金ヲ投ジテ居ラヌ、北海道カラハ金ヲ貢イデ居ル、天惠ノ薄イト云フコトニ付テハ一言辯ゼザルヲ得ナイノデアアル、世人口ヲ開ケバ先ヅ北

海道ハ寒イカラ駄目ダ、雪ノ國ダカラ駄目ダト言フ、成程寒イ、雪ノ國ニハ相違ナイガ、之ヲ歐米各國ト比較シテ見ルト、ドウ云フコトニナルカト申シマスレバ、札幌ノ緯度ハ北緯四十三度四分デアリマス、華盛頓ノ緯度ハ三十八度五十五分、紐育ノ四十度四十五分、羅馬ノ四十一度五十四分ニ較ベマスレバ、無論寒イ、北方デアアル、併ナガラ維納也ノ四十八度十三分、巴里ノ四十八度五十分、倫敦ノ五十一度二十九分、伯林ノ五十二度三十分、莫斯科ノ五十五度四十五分、ペテルグラードノ五十九度五十六分ニ較ベルト、遙ニ札幌ハ南方デアツテ、暖氣デナケレバナラヌノデアアル、北海道ノ一番南ノ端ハ何處カト云ヘバ、松前郡ニ小サイ島ガアル、其南端ガ四十一度一分デアアル、又一番北ノ端ハ何處デアアルカト云ヘバ、占守島デアリマスガ、其北端ガ五十七度一分デアツテ、其中間ハ四十八度二十九分デアアルカラ、維納也ト巴里ノ間ニ位シテ居ルノデアリマス、此點カラ見マシテモ、決シテ北海道ハ氣候寒冷デアアル、天惠ガ薄イト云フ議論ハ成立タナイノデアアル、ソレカラ又次ニ衛生上保健上カラ申シテ見タイト思フガ、北海道ニ於ケル死亡率ハ府縣ト略同様デアリマスガ、其生産率ニ於テハ北海道ハ遙ニ府縣ニ優ツテ居ル、千人ニ付テ府縣ハ三十何人デアアルニ、北海道ハ四十何人ト云フ譯デ、千人ニ付テ十人餘ト云フモノハ北海道ノ方ガ生産力ガ強イデアアルカラシテ死亡ガ同率デアルト致シマスナラバ、北海道ハ出生率ニ於テ餘計デアリマスカラ、生産ハ北海道ハ千人ニ付テ十何人ト云フモノガ府縣ヨリ餘計デアアル、又壯丁ノ身長或ハ體重ヲ比較シテ見マス、北海道ノ壯丁ハ身長ニ於テハ府縣ノソレニ比シテ餘程高イ、體重ニ於テモ非常ニ重イ、私ノヤウナ低イ者ハ是ハ別デス、併シ私ハ北海道ニ生レタノデハナクシテ、府縣デ生レタノデアリマス、幸ニ北海道ニ來マシテカラ、斯ノ如ク叩イテモ潰レヌダケノ身體ヲ保持スルコトガ出來タ、是ハ北海道ノ氣候ノ御蔭デアリマス、ソコデ只今申シマシタ壯丁ノ身長ガドウカト云ヘバ、五尺二寸以上ノ者ハ北海道ニ餘計アル、隨テ五尺二寸以下ノ者ハ北海道ニ少イ、其割合ハ五尺二寸以上ノ者ハ百人ニ付テ北海道ノ壯丁ハ六十六人何分ト云フコトデアリ、府縣ノ壯丁ハ五十五人何分、十八何分カノ相違ガアル、五尺二寸以下ノ者ハ百人ニ付テ北海道ノ壯丁ハ三十三人何分デアアルガ、府縣ノハ四十五人何分、此所ニモ十何人ト云フ差ガア



ル、低イ方ハ府縣ノ方ガ餘計デアリ、高イ方ハ北海道ノ方ガ餘計デアアル、體重ハドウカト申セバ、  
 體重ハ府縣ノ壯丁ノ平均ガ十三貫七百匁デアリマスガ、北海道ノ壯丁ハ十四貫六七匁、即チ北  
 海道ノ壯丁ハ府縣ノソレニ比シテ八百匁乃至一貫匁ノ相違ガアルト云フコトニナッテ居リマス、  
 之ヲ見マシテモ如何ニ北海道ノ風土氣候ノ健康ニ適シ、衛生ニ適スルカト云フコトヲ證シ得テ  
 餘リアルト思フ、其他農業ニ於テモ先刻モ申上ゲマシタヤウ、又牧畜、水産ト云フヤウナ風ニ、各  
 種ノ事業ニ於テモ十分ニ致シテ居ルノデアリマス、森林ハ約二十五億萬石ノ用材ヲ藏シテ居ル  
 ト稱シ、石炭ハ四十億萬噸ヲ藏シテ居ルト云フコトデアアル、斯ノ如ク數ヘテ見マスト云フト、決  
 シテ北海道ハ天恵ガ薄イ譯デアリマスガ、北海道ハ決シテ見縊ッタモノデアリマス、私ハ  
 是デ結論ヲ付ケル譯デアリマスガ、要スルニ是マデ我國ノ國是ハ北守南進、即チ南ヘ南ヘト進  
 ダノデアリマスガ、過グル世界大戰ノ結果ニ依リマシテ、世界ノ大勢ハ大變化ヲ來シ、南方ハ各  
 國ノ勢力範圍ガ複雑ニナッテ居ルノデ、我國ノ勢力モ南方ニ伸ビルコトハ頗ル困難ナコトデアリ  
 マス、所ガ我國ニ取ッテ幸ナルコトニハ、北方ニ於テ非常ナル富源ヲ有スル所ノ薩哈噠トカ、沿海  
 州トカ、西伯利方面ガ吾々ノ前ニ解放サレタ——展開サレタノデアリマス、即チ吾々大和民族ガ  
 一大飛躍ヲ試ミルベキ好箇ノ場所ガ吾々ノ前ニ横ッタノデアリマス、然ルニ我ガ大和民族ハ暖氣  
 ニ馴レテ居ル爲デアリマスガ、北方ノ寒冷ノ地方ニ向ッテ發展スルコトヲ嫌フノデアリマス、此  
 點カラ申シマス、北方拓發ノ先驅ヲ爲ス者ハ此寒冷ニ馴レ、且ツ植民地の知識ト經驗ヲ有スル  
 所ノ吾々北海道人ガ其使命ヲ帯ビナケレバナラヌト吾々ハ信ズルノデアリマス、此使命ヲ全ウ  
 シ、使命ヲ果ス上ニ於テモ、先ヅ其地元タル所ノ北海道ノ拓殖ヲ完成スルコトガ先決問題デナケ  
 レバナラヌト私ハ信ジテ居ルノデアリマス、隨テ先程申シマシタヤウニ、北海道ノ開發ト云フコ  
 トハ食糧充實ノ上ニ於テモ、人口ノ調節ノ上ニ於テモ、又近時頻發セル所ノ勞働問題ヲ解決スル  
 上ニ於テモ、一日モ緊急缺クベカラザル所ノ事柄デアルト思フノデアリマス、故ニ甚ダ冗長ニ互  
 リマシテ多クノ時間ヲ費シテ恐縮デアリマスガ、此點ニ對シテ政府ノ所見ヲ御伺シタイノデア  
 リマス

之ニ對シ植原政府委員ハ同日口頭ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

只今北海道ノ拓殖ノ事ニ付キマシテ、松實君ガ熱心ニ御陳述ニナリマシタ幾多ノ箇條ノ中デ、遞  
 信所管ニ關スル事ダケヲ申述ベテ置キタイト思ヒマス、此所管ニ關スル事ノ中デ、御質問ノ要旨  
 ハ斯様デアルト諒解シマス、保險金ト郵便貯金ト北海道集メタモノダケハ、成ルベク北海道  
 拓殖ノ爲ニ北海道ニ還元スルヤウニスルト、是ガ一ツノ條項、モウ一ツノ條項ノ北海道ノ通信收  
 入ニ關スルモノヲ全部北海道ノ通信機關ノ改良ト擴張ニ支出シテ、以テ北海道ノ拓殖ニ努ムル  
 ヤウニト云フ御意嚮デアルト思ヒマス、郵便貯金ノコトハ御承知ノ如ク、預金法モ既ニ議會ヲ通  
 過致シタコトデアリマスカラシテ、之ニ依テ將來其運用ガサレルコト、存ジマスルカラ、其部分  
 ニ關スルコトダケヲ省略致シマス、保險ノ問題ニ付キマシテハ、遞信省所管ニ於ケルモノハ、簡  
 易保險ノ掛金デゴザイマス、是ハ私ガ申スマデモナク、簡易保險ハ一部社會事業ノ意味ヲ以テ取  
 扱ッテ居ルノデアリマスカラシテ、加入者ガ恩澤ニ浴スルヤウニ、加入地ニ殆ド全部ヲ還元スル  
 所ノ方針ヲ以テ取扱ッテ居リマス、隨テ北海道ハ松實君ノ縷々御陳述ニナリマシタ如ク、拓殖ト  
 云フ必要ナ事ガアリマスカラシテ、特ニ深甚ナル考慮ヲ費シマシテ、北海道ニハ簡易保險ノ金ハ  
 他ニ比例致シテ積立金ヨリ、ヨリ多クノ割合ニ貸付ケラレテ居ルコトヲ御承知ヲ願ヒタウゴザ  
 イマス、次ニ通信費ノコトデアリマスガ、通信費用ヲ全部通信機關ニ用キルト云フ原則ハ、マダ  
 打立テラレテ居ラナイノデアリマス、併ナガラ北海道ハ特殊ノ事情ガアルト云フコトヲ諒解致  
 シテ居リマスガ故ニ、北海道ニ對シテハ松實君ガ只今統計ヲ御舉ゲニナッテ居リマスルガ、遞信  
 省ノ統計ニ依リマスルト云フト、北海道ニ對シテハ通信ノ收入ヨリ、ヨリ多ク消費シテ居ルコト  
 ヲ御承知ヲ願ヒタイト思フ、松實君ハ大正十一年度ノ統計ヲ御取リニナリマシタガ、大正二年度  
 デシタカ——大正十一年度ニ於キマシテ通信收入ヲ北海道カラ得テ居ルモノハ七百九十萬圓デ  
 アリマス、然ルニ之ヲ北海道ニ對シテ九百萬圓以上支出シテ居リマス、大正十二年度ニハ北海道  
 ノ通信收入ハ八百六萬圓デアリマスガ、政府トシテハ八百九十九萬圓支出シテ、松實君ノ御趣意  
 ニ副フヤウニ政府デ十分之ヲ考慮シテ取扱ッテ居ルコトヲ御承知ヲ願ヒタイト思フノデアリマ



尙片岡政府委員ハ書面ヲ以テ答辯ヲ爲スヘキ旨ヲ述フ

越テ三月十日高橋農商務大臣、犬養遞信大臣、若槻內務大臣、岡田文部大臣、仙石鐵道大臣及濱口大藏大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

- 一 北海道廳官制ハ目下改正ノ意思ナシ
- 二 現在ノ所北海道ニ特別會計制度ヲ設クルノ意思ヲ有セス
- 三 北海道ニ於ケル國庫ノ收支ハ各種ノ關係ニ鑑ミ其全部ヲ擧ケテ之ヲ拓殖費ノ資源ニ充當スルノ意思ナシ
- 四 政府ハ財界ノ現況ニ鑑ミ既定計畫ノ公債支辨事業スラ之ヲ打切り又ハ繰延フルコトトシ且ツ緊急已ムヲ得サルモノハ其ノ全部又ハ一部ヲ普通財源ニ依リ遂行スルコトトナシ極力新規公債發行額ノ減少ニ努メツツアルヲ以テ現今ノ財政狀態ニ於テハ新ニ北海道事業公債ヲ發行スルノ意ナシ
- 五 北海道重要河川二十六ヶ川ニ對シテハ既ニ一應調査ヲ了セルモ其ノ全體ニ互ル所要工費ハ頗ル巨額ニ上ルヲ以テ財政ノ許ス範圍ニ於テ右河川中拓殖上ニ至重ノ關係ヲ有シ且ツ急施ヲ要スル河川ノ改修ヲ期スルコトトシ漸次他ニ及ホス方針ノ下ニ事業ヲ進メツ、アリ

六 地代農地ノ制度ヲ實施シ自作農ヲ創設スルニ付テハ之ニ伴フニ各種ノ保護施設ヲ以テスルニアラサレハ所期ノ目的ヲ達成スル能ハサルヲ以テ目下之カ方法等ニ關シ併セテ講究中ニ在リ

七 灌溉事業ニ對シテハ現ニ拓殖費ヲ以テ幹線工事費ノ四割ヲ補助シツ、アルモ北海道ニ於ケル水田造成ノ實狀ニ鑑ミ之カ助成ニ關スル方法ニ付テハ相當考慮ヲ要スヘキモノアリト認ム尙土地ノ開墾及改良事業ニ對スル助成ニ關シテハ開墾助成法ノ如キ開墾資金ニ對スル利子補給ノ方法ニ依ルヲ可トスルカ若ハ工費補助ノ方法ニ依ルヲ適當トスルカハ大ニ考究ヲ要ス既設土功組合ノ補助又ハ其ノ經營ニ苦シム土功組合ニ對シ低利資金ノ供給其ノ他償還年限ノ延長等ニ依ル救済ニ關シテハ目下考慮中ニ在リ

八 農業ノ合理的經營ヲ有スルカ爲有畜農業組織ト爲スヲ必要ナリト認メ之カ獎勵ニ努メ居ルモ尙適切ナル獎勵方法ニ付銳意考究中ナリ

九 漁港ニ關シテハ其ノ重要ト認ムルモノニ付一應調査ヲ了セルモ之カ修築ニ就テハ他ノ事業トノ緩急竝財源ノ關係等ヲ考慮シ努メテ其實現ヲ期セムトス

十 移民ノ招徠ニ關シテハ汽車汽船賃ノ割引移民世話所ノ開設及新植民地ニ對スル醫師ノ配全特別教授所ノ設置等ノ外保護移住ノ實施竝ニ之等移民ノ入地ニ便スル爲殖民軌道ノ敷設ヲ



圖リツ、アルモ、今後益進テ移住獎勵ニ努ムコトヲ期ス

十一 政府ハ北海道ニ於ケル銀行貯金ノ中央ヘノ流入ニ付テハ成ル可ク之ヲ避ケシムル方針ナリ

簡易保險積立金ノ運用ニ付テハ現ニ資金還元ノ趣旨ニ依リ放資シ全然其ノ弊ナシ又郵便貯金ニ付テハ之ヲ預金部資金トシテ有利確實ナル方法ヲ以テ國家公共ノ利益ノ爲ニ之ヲ運用セムコトヲ期シ之カ爲ニ公債地方債其ノ他ノ債券ノ引受ケ又ハ買入等ノ方法ニ依リ運用シ居ル次第ニシテ郵便貯金ノ全部ヲ其ノ地方貸出ニ使用スルコトハ實行上困難ナリ然レトモ地方低利資金ノ潤澤ヲ圖ルコトニ付テハ常ニ最善ノ考慮ヲ拂ヒ今後ニ於テモ一層此ノ點ニ重キヲ措ク考ヘナリ

十二 現在北海道拓殖銀行ハ北海道及樺太ノ拓殖資金ノ供給ヲ目的トシテ長期資金(不動産貸付)及短期資金(普通銀行業)ノ融通ニ汎ク應ジツ、アリテ現行法上其ノ機能ノ發揮ヲ努力セル今日ニ於テハ此上法律ノ改正ヲ必要トセサルヘク又同行ニ割増金附債券ノ發行ヲ認ムルコトハ不可ナリト信ス

十三 鐵道敷設法中北海道ニ於ケル豫定線ニ付テハ政府ハ府縣ニ於ケル夫トハ全ク考慮ヲ異ニシ敷設實行計畫ニ就テモ沿道住民若クハ物資ノ多寡ヲ標準トセス專ラ地方拓殖ヲ以テ主眼

トシツツアリ故ニ故ラニ法律ヲ別ニセサルモ拓殖ノ目的ヲ達スルニ支障ナシ從テ特別ノ敷設法ヲ設クルノ必要ヲ認メス

十四 北海道ニ於ケル通信事業ノ收支ハ其ノ收入ハ支出ヲ償フニ足ラサル現状ナルモ本道ニ於ケル通信機關改善擴張ノ急務ナルヲ認メ收支ノ如何ニ關セス豫算ノ許ス範圍内ニ於テ著々實行ニ務メツ、アリ

十五 北海道ニ於ケル高等教育機關ノ施設ニ關シテハ政府ハ財政ノ關係ト時勢ノ進運トニ鑑ミ漸次之カ整備ヲ期セントス

十六 北海道ニ於ケル各官廳所屬地ノ整理ニ關シテハ政府ハ銳意之カ促進ヲ圖リ其ノ不要ニ屬スルモノハ速ニ之ヲ解放シテ處分シツ、アリ其ノ農耕適地ニ付テハ可成其ノ目的ニ副フ様處分ヲ爲ス見込ナリ國有財産調査會モ亦國有財産整理促進ノ目的ヲ以テ設置セラレタルモノニシテ之カ整理ニ盡力シ居レリ

二七 筑後川改修工事ニ關スル質問

一 第一回第二回筑後川改修工事カ其ノ成績ニ於テ不十分ナルヲ免レサリシハ該川ノ流勢ト有明海ノ潮力關係ヲ重視セサルニ職由スルモノノ如シ政府ハ第三回ノ現改修工事ニ當リ斯ノ點ニ



鑑ミ十分前弊ヲ改メ得ルノ自信アリヤ

一 今回ノ改修工事タルヤ福岡縣三井郡金島放水路以上ノ流域ニ對シテハ頗ル惡水疏通ノ道ヲ講シ得ルノ觀アルモ該方面以下ノ沿岸流域一帶ニ關シテハ一朝洪水ニ際シ現在ヨリモ却テ被害ノ程度ヲ甚大ナラシムルノ缺點ナキヤ

一 既設各放水路ニシテ本流ニ變形セシメラルル地點ニハ舊流域トノ關係ヲ善處スル爲政府ハ水門或ハ橋梁等ノ附帶工事ヲ施設セラルルノ意思アリヤ

十四年二月十日加藤十四郎君ハ右質問主意書ヲ提出シ其ノ趣旨辯明ヲ爲スニ先チ二月二十四日若槻內務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

一 筑後川第一回改修ハ航路改良ヲ目的トスル低水工事ニシテ第二回改修ハ主トシテ久留米市以下ニ於ケル高水防禦ヲ目的トスル工事ナリシ所今回ノ改修ハ更ニ久留米市ノ上下流ヲ通シ高水防禦工事ヲ施行スルモノニシテ政府ハ第一回ノ改修計畫以來河水ノ流勢ト有明海ノ潮力關係ハ固ヨリ之ヲ重視シ夫々適應ノ方策ヲ講シ第一回及第二回改修共充分其ノ計畫ノ豫期セル目的ヲ達シタルモノト認ム尙ホ今回ノ改修ニ因リテハ全川ヲ通シ更ニ一層ノ好成績ヲ擧ゲ得ルモノト確信ス

二八 普選實施後ノ對策並外交問題ニ關スル質問

一 普通選舉法實施後ニ於テ國民思想ニ及ホス影響之ニ對スル政府ノ政策並産兒制限ト殖民政策トニ關スル政府ノ所見ヲ問フ

一 駐米駐支使臣ノ外交失敗ニ對シ外務當局ノ責任ニ付國民外交ノ見地ヨリ政府ノ執ルヘキ處置如何

十四年二月十二日兒玉右二君ハ右質問主意書ヲ提出シ其ノ趣旨辯明ヲ爲スニ先チ二月二十四日幣原外務大臣及若槻內務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ



一 選舉法改正後ノ對策

普通選舉法ヲ實施シ國民ノ參政權ヲ適當ニ擴張スルハ國民ノ政治的思想上良好ナル影響ヲ與フルモノト認ム尙將來政府ハ益國民一般ノ政治的思想ノ涵養ニ付留意スル所アラムトス現下ノ狀勢ニ於テハ產兒制限ノ必要ナシト認ム尙植民政策ニ就テハ移植民思想ノ普及ニ力ムルト共ニ其ノ實際ニ就キ可成各般ノ便宜ヲ供與セントス

一 外交問題

政府ハ駐米駐支使臣ノ外交失敗ノ事實ヲ認メス

二九 國民教育ノ實質改善ニ關スル質問

現時勤勞ヲ厭ヒ遊惰ヲ好ミ儉素ヲ侮リ浪費ヲ獎メ綿服ヲ斥ケ絹布ヲ纏ヒ粗餐ヲ蔑ミ美食ヲ嗜ムノ風潮頓ニ瀾漫シ醇正厚重ニシテ廉耻ヲ尙ヒ恭謙禮讓ニシテ節制ヲ守ルノ國民精神ハ其ノ影ナク浮華輕佻ニシテ生業ヲ勵マス權矯詭激ニシテ名利ヲ趁フ底ノ思想ノミ跳梁跋扈スルニ至レリ此ノ如キハ我カ國民カ急激ナル時勢ノ變化ニ衝動セラレ殆ト内省ノ違ナクシテ徒ニ物質文明ノ皮相ニ惑溺シタル結果ナルモ國民教育ニシテ其ノ道ヲ誤ラサラムカ維新後約六十年ノ今日ニ於テハ皇國固有ノ思想ト歐米ノ文化トヲ調節シ練熟サレタル社會ヲ形成セシナラムニ惜ムラクハ

學問章句ノ末ニ拘リ實用ノ才能ヲ授クル能ハス又特ニ毅然タル人格ト堅忍不休ノ精神トヲ涵養シテ自治的國民タリ自世的國民タラシムルコトニ殆ト意ヲ注カサリシ爲今日ノ惡傾向ヲ誘ヒ惰民充滿ノ社會ヲ現出セシ主因タラスムハ非ス殊ニ小學校ハ六箇年ノ義務年限ニ於テ總日數二千百九十日中實際ノ授業日數ハ千五百日前後ニ過キス家人カ星ヲ戴ヒテ出テ星ヲ戴ヒテ歸リ流汗淋漓辛勞慘憺タル農村ノ憂時ニ際シ數日間學業ヲ休ミ剩ヘ一箇月近クノ間ハ毎日二三時ノ授業ヲ爲スニ止マル如キ何ニ依テ兒童ノ腦裡ニ勤勞ノ精神ヲ鼓吹シ得ヘキヤ其ノ他要スルニ今日ノ教育カ精神的ニハ剛毅健實ノ思想ヲ裏切り物質的ニハ國富充實民力發揚ノ基礎タル勤勞ヲ厭忌スルコトハ心アル者ノ憂ヲ齊フスル所ナリ依テ政府ハ之ヲ矯正シテ國民教育ノ充實改善ヲ圖ル爲左記諸項ヲ實施スルノ意思ナキヤ否其ノ利害得失ニ關スル政府ノ意見ヲモ併セテ明示セラレムコトヲ望ム

- 一 義務教育ニ於テ實際ノ授業時間ヲ増加シ休業日數ヲ短縮シテ内容充實ヲ期スルハ勿論課目ノ配當等ニ於テモ經濟及產業ニ關スルモノヲ多量ナラシムルノ必要ヲ認メサルヤ
- 二 手工ハ實ニ勤勞ノ神聖ヲ教フルモノニシテ輔導其ノ道ヲ失ハサレハ我カ國民カ生産ニ勤勞シテ自立自活ヲ圖ルノ根本思想ヲ養成シ得ヘク現ニ貧シキ家庭ニ生ヒ立チシ兒童カ紙函製造乃至狀袋貼等ニ依リ指頭ノ働ヲ以テ學業ノ餘暇一日二三十錢ヲ獲ルノ例枚舉ニ違アラス



今全國八百萬ノ小學生徒ニ國富產出ノ大精神ヲ涵養スル爲手工ノ科目ヲ增課シ且學校ノ指導ヲ以テ實用的ノ手工品ヲ造ラシメムカ一人一日十錢ヲ獲ルトスルモ總計八十萬圓トナリ一年三億圓ノ巨額ニ達ス從テ此ノ一大興國的教育ニ對シ來ル大正十五年度ヨリ増額ヲ聲明セル義務教育費國庫負擔額二千萬圓ヲ主トシテ運用スルハ最機宜ヲ得タルモノト謂フヘシ若六千萬圓ノ總額ヲ漫然タル用途ニ費消セハ兒童一人ニ對シ一日二錢ノ割合ヲ以テ惰民養成ノ資トナルニ過キス而モ政府ハ増額スヘキ二千萬圓ノ負擔額ヲ如何ナル用途ニ充テムトスルカ

三 今日ハ科學ノ時代ニシテ理化學應用ノ知識ヲ有スルト否トハ國民力現在及將來ニ處シテ克ク發展ヲ期シ得ルヤ否ノ分岐點ナリ米國カ在學生全般ニ互リ化學分析ノ器具ヲ一人一箇宛備付居ルカ如キ教育ニ對スル朝野ノ思想ヲ窺フニ足ラム然ルニ我カ國ノ各地方ハ教育費ノ負擔ニ苦シミ僅ニ二千萬圓ノ補給増加スラ一年ヲ俟ツ能ハサル状態ニアルヲ以テ此ノ上何等ノ設備ヲ爲スノ力ナキヤ明ナリ政府ハ今日ノ學校設備ヲ以テ充分ナリトスルヤ若其ノ不備ヲ認ムレハ國庫負擔額ノ使途ニ就テ考慮スル所ナキヤ

四 教育費國庫負擔額ノ加重ハ其ノ責政府ニ在リ先年歐亂ノ好況時代民力ヲ考察セスシテ小學校教員ニ不當ナル増給令ヲ發シ平均十六圓内外ノモノヲ一躍七十圓ニ昇ラシメシ爲小學校

長ノ給料ハ教育ヲ指導監督スル視學ハ勿論一郡ヲ主宰スル郡長ヨリモ將又身命ヲ賭シテ國家ノ治安ニ盡ス警察官ヨリモ高給トナリ勤儉質素ノ美風忽チ地ヲ拂フテ詰襟ハ折襟トナリ銀時計ハ金時計ニ變シ奢侈ノ惡風靡然トシテ育英ノ源ヨリ發シ山村水廓ニ至ル迄之ヲ時代化セシメ今ヤ經濟界ノ逆轉ニ逢フモ此ノ俸給令ノ嚴存下ニ地方負擔ノ苦痛除キ難キ實情ニアリ政府ハ果シテ現在ノ俸給ヲ適當ナリトシ奢侈ノ弊風ニ對シテ矯正ノ途ヲ講セサルヤ就中如上ノ責任ト共ニ財政困難ノ爲小學校教員俸給ノ全部ヲ國庫ヨリ支出シ難ク二千萬圓ノ増額スラ十五年度ニ非サレハ捻出シ能ハサルノ事實ニ鑑ミ右俸給令ニ對シテ考慮スル所ナキヤ

五 我カ國ノ官界ハ今ヤ法學萬能ニ陥リ法學士ニ非サレハ人ニ非サルノ觀ヲ呈ス中央官衙タル各省ノ高等官カ殆ト法學士ヲ以テ滿タサレ産業ヲ統督スル農商務省ノ如キモ商業工業農畜畜産林業鑛山漁業ニ至ル迄法律萬能ノ極度ヲ現シツツアリ是レ農工商ノ實地ヲ識ル者ニ官吏タルノ力アルモノ存セサルニ因ルカ抑官吏ノ事務ハ實地ノ産業ニ通スル者ニテハ執リ難シト認ムルニ因ルカ其結果官吏ノ爲ス所具ニ人民ノ苦疾ヲ察シ勤勉努力ノ力福祉ヲ圖ルノ思想殆ト乏シク繁文褥禮些些タル形式ヲ答メ法律ノ傘下ニ踟躕シテ實質ヲ顧ミス一件書類ノ決裁ニ數十日ヲ費スモノアリテ何ノ爲ノ官衙ナルヤヲ疑フ場合尠カラズ殊ニ一郡ノ主宰



タル郡長ノ如キハ經驗常識ニ富ミ學說理論ヨリモ實際ノ施設實地ノ處分ニ於テ郡民ノ全階級ヲ悅服セシムルノ社會的識量アルヲ要スルニ拘ラス近時乳臭未タ去ラサル黃口法學士ヲシテ專ラ之ニ當ラシムル如キ非難ノ聲轟然トシテ生シ廢止ノ議アル寧ロ當然ト謂フヘシ而モ之ヲ廢シテ府縣ノ出張所ヲ置クトモ當該所長ニシテ依然常識ナキ法學士ヲ用キハ毫モ廢所ノ意義ナキノミナラズ其ノ爲節シ得ル經費果シテ幾何ソヤ此ノ如キ無謀ノ整理ヲ試ムルヨリモ郡ヲ併合シテ郡長其人ニ適材ヲ登用セハ治蹟ノ發揚セララルコト今日ノ比ニ非ザルヘシ諸政ノ刷新革正ヲ期スル政府ハ此等ノ弊害ヲ認メサルヤ殊ニ高等學府中實學ヲ修ムル者カ常ニ官界ヨリ疎セラレ法學出身者ノミ重用セララルコトカ國家社會ニ對シテ利ナラストセハ之ヲ革新スル爲官吏登用ニ關スル法規ヲ改善スルト共ニ學校ノ組織制度ニ付テモ相當考案スル必要ナキヤ

十四年二月十四日多木久米次郎君外一名ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ三月二日加藤內閣總理大臣及岡田文部大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

國民教育ヲ振興シテ剛毅堅實ノ思想ヲ涵養シ且國富ヲ充實シ民力ヲ發揚スルハ政府ノ銳意力ヲ盡シツ、アル所ナリ

- 一 義務教育ニ於テ其ノ教授時數ヲ増加シ休業日數ヲ短縮スルハ兒童心身發達ノ情況ニ顧ミ遽カニ之ヲ實行スルコトヲ得ス但シ教材中經濟及產業ニ關スルモノヲ加フルハ常ニ當局ノ意ヲ用フル所ナリ
- 二 生徒兒童ニ勤勞ノ念ヲ養ハシムルコトハ絶エス意ヲ用フル所ナリ然レトモ義務教育費國庫負擔額ノ増加ハ明年度ニ於テ之ヲ實施セントスルノ意嚮ナルモ其ノ用途等ニ關シテハ目下詳細ニ之ヲ陳述シ得ルノ程度ニ達セス
- 三 科學ノ尊重ニ就キテハ常ニ當事者ヲ策勵シテ之カ進步ヲ促シツ、アレハ今日ノ學校教育ハ一般ニ舊時ノ觀ヲ改メタレトモ今後尙一層力ヲ盡スノ必要アリ但シ國庫負擔額ノ使途ニ關シテハ前項述フル所ノ如シ
- 四 小學校教員等ノ俸給ハ今日ノ時勢ニ照シ不當ニ多額ナリト認メス然レトモ教育者ヲシテ卒先シテ勤儉質素ノ美風ヲ守ラシムルハ極メテ緊要ナルヲ以テ政府ハ種々ノ機會ヲ利用シ之カ督勵ニ努力シツ、アリ
- 五 質問ニ謂フカ如ク官界カ法學萬能ノ弊ニ陥リタルノ事實ハ之ヲ認メ難シ而シテ各官廳高等官中事務ヲ掌ル者ニ法學ノ素養深キ者多キハ職務ノ性質上或ル程度迄ハ止ムヲ得サル所ニ屬スルモ之ト共ニ官吏ニハ法學以外ニ行政上必要ナル諸種ノ學識經驗ヲ要スルハ勿論ニシ



テ此等ノ點ハ任用上現ニ深ク意ヲ用フル所ナリ

三〇 大正十四年度豫算案ニ關スル質問

- 一 政府ハ大正十四年度豫算款項中憲法竝會計法ニ違反セル事項ナシトスルカ
- 二 憲法竝會計法ニ違反セル豫算案ニ對シ政府ノ責任觀念如何
- 三 政府ハ憲法竝會計法ニ違反セル豫算案ニ對シ帝國議會カ之ヲ審議スルノ義務アリ將又權限アリト爲スヤ
- 四 政府ハ憲法竝會計法ニ違反セル豫算案ト雖多數ヲ以テ可決確定シ得ルモノト爲スカ
- 五 政府ハ憲法竝會計法ニ違反セル豫算案ニ對シ 御裁可ヲ仰カムトスルカ

十四年二月十四日清水市太郎君ハ右質問主意書ヲ提出シ其ノ趣旨辯明ヲ爲スニ先チ二月二十四日濱口大藏大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

- 一 大正十四年度豫算款項中憲法竝會計法ニ違反セル事項ナシ
- 二 乃至五ハ一ニヨリ了知相成度

三一 大藏省預金部ニ關スル質問

大藏省預金部ヨリ民間事業會社ヘ貸付タル低利資金ニ對シ速ニ之カ回收又ハ整理ヲ爲スノ必要アルヲ認ム之ニ關スル政府ノ所見如何

十四年二月十四日平井光三郎君ハ右質問主意書ヲ提出シ其ノ趣旨辯明ヲ爲スニ先チ二月二十四日濱口大藏大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

大藏省預金部ヨリ民間事業會社ニ對シ融通シタル資金ニ付テハ政府ハ其ノ融通ヲ受ケタル會社カ完全ニ融通條件ヲ履行シツツアル以上契約期限ニ先チテ之ヲ回收スルコト能ハサルモノト認ム但シ此等ノ事業會社中經營困難ニ陥リ今後預金部融通資金ノ元利拂ニ支障ヲ來ス如キ處アルモノニ對シテハ目下資金經由ノ特殊銀行會社ヲシテ其ノ整理ノ方法ニ付鋭意調査講究ヲ遂ケシメツツアリ

三二 食糧問題ニ關スル質問

我カ國ノ食糧ハ今ヤ殆ト行詰リニ瀕シ更ニ百般ノ對策ヲ實現スルモ久シカラスシテ復行詰ラムトスルノ實勢殆ト明瞭ナルカ如シ政府ハ如何ノ方策ヲ以テ之ニ對セムトスルカ



十四年二月十九日建部遜吾君ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ三月二日高橋農商務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

食糧ノ生産ハ産額年々増加スト雖モ國民ノ需要ハ其レ以上ニ増加スルノ趨勢ニ在ルカ故ニ政府ハ將來一層耕地ノ改良擴張品種及耕種方法ノ改良肥料ノ改良増殖病菌害蟲ノ驅除豫防等ニ力ヲ致シ農産食糧ヲ増加シ又各種ノ方法ヲ講シテ畜産及水産食糧ノ増加ヲ計リ更ニ朝鮮臺灣トモ相連繫シテ供給ノ増加ニ付劃策スル所アルヘク然モ尙其ノ需要ヲ充スコト能ハサル部分ニ付テハ之ヲ外國ヨリ仰キ輸出貿易ノ振興ヲ計リテ之カ補填ヲ爲スノ外ナカルヘシ而シテ消費調節ノ爲行フヘキ直接間接ノ諸方策アルモ何レモ遽ニ多大ノ奏効ヲ期シ難キヲ遺憾トスト雖モ是亦國民ノ自覺及工夫ヲ促スト共ニ之ニ對シテ注意努力スル所アラントス

### 三三 皇室費外六件ニ關スル質問

#### (一) 皇室費ニ關スル件

皇族ノ増加、國運ノ進展、物價ノ騰貴ト共ニ、皇室ノ御費用モ亦自ラ増加スベキハ必然ノ理勢デアル。然ルニ我皇室費ハ、明治二十二年度ニ於テ參百萬圓(當時政府ノ總歲出ハ約八千萬圓)ニ決

定セラレテヨリ、明治四十三年度ニ於テ四百五拾萬圓(當時政府ノ總歲出ハ約五億七千萬圓)ニ増額セラレタニ過ギナイ、則チ國費ハ二百割増加シタガ、皇室費ハ、僅カニ五割増加シタニ過ギナイ。

若シ明治二十二年度ノ國費八千萬圓ガ、今日約六億圓ニ増加シタノヲ以テ、國運ノ進展ト物價ノ騰貴ニ伴フ當然ノ結果ナリト云ハバ、皇室費モ亦國費ト同率則チ二拾倍ニ増加シ、六千萬圓ト爲ツテ然ルベキ筈ダ。

然ルニ皇室ニ於カセラレテハ、當ニ右ノ如キ増加ヲ要求セザルノミナラズ、却テ數々内帑ノ費用ヲ節シテ、國費ヲ補助シ給フタ。

皇室スラ、既往三十六年間ニ於テ、僅々五割ノ増加ヲ以テ其經費ヲ支辨シ得タル事實ヲ見レバ、政府ガ其經費ヲ二拾倍ニ増加シタノハ不當ナヤウダ。特ニ現内閣ハ、我財政狀態ノ危險ナル事ヲ熟知スル者ナルガ故、タトヘ皇室ノ標準通りニ經費節減ヲ斷行スル能ハザルマデモ、セメテハ八九億圓程度ニ切り下グベキ筈ト思ハル(ソレデモ尙ホ皇室費ノ五割増加ニ對シ政費ハ百割ノ増加トナル)

(イ) 政府ハ、現在ノ皇室費ヲ以テ、適當ナル金額ト考フル乎。

(ロ) モシ之ヲ不適當ト考ヘルナラバ、其増額案ヲ提出スルノ意旨アル乎。



(ハ) モシ其意旨ナシトセバ、皇室費ヲ標準トシテ更ニ大ニ政費ヲ節約シ、一ハ以テ勤儉ノ聖旨ニ奉答シ一ハ以テ財政ノ危急ヲ救フノ必要ヲ認メザル乎。

(二) 内大臣府廢止ニ關スル件

大政輔弼ノ重責ハ國務大臣ノ負フ所斷シテ外間ノ容喙ヲ許スベキデナイ、彼ノ内大臣ノ「常侍輔弼」ナルモノハ政務以外ノ宮廷事項ニ限ルベキモノデアル。加之ナラズ既ニ宮内大臣ガ宮廷事項ノ輔弼ニ任ズル以上ハ、別ニ内大臣ヲ置クノ必要ハナイ。明治十八年太政大臣ヲ廢シ新ニ總理大臣ヲ置クニ方リ多年其職ニ在リタル三條太政大臣ノ任所ニ窮シタル結果、一時ノ機宜トシテ、内大臣ナルモノヲ設ケ、宮内大臣ノ職責ノ一部ヲ割テ之ニ分與シタニ過ギナイ。元來内大臣ハ君國ノ必要ニ應ジテ設ケタモノデハナク、唯目前ノ情實ノ爲ニ設ケタ冗官贅吏ニ過ギナイ。三條内大臣ハ善ク此事情ヲ熟知シテ居ラレタカラ、修身職分ヲ越エテ政治ニ干涉スルガ如キコトハナカッタ。然ルニ近來ノ内大臣ハ傲然トシテ王者ノ師ヲ以テ自ラ任ジ我コソハ帝王ノ政治的指導者ナリト謂ハン許リノ顔色ヲ爲シ内閣更迭等ノ事アル毎ニ必ズ之ニ干涉スル。僭越不謹慎ノ至リデアル。

加藤内閣ハ内大臣府ノ廢止ヲ奏請シ、以テ閣臣輔弼ノ大義ヲ正シ兼テ宮中府中ノ分界ヲ明確ニスル意圖ナキ乎。

(三) 元老ノ暴慢無禮ニ關スル件

内閣ハ百政ノ由テ出ヅル所閣員ノ任免ハ 天皇ノ大權中最モ重大尊貴ナモノデアル。故ニ元老其他何人ヲ問ハズ之ニ關シテ 陛下ヨリ御諮問ヲ受ケタ場合ニハ、其事柄スラモ之ヲ外間ニ漏洩セズ、閣臣ノ任免ハ、一ニ 陛下ノ聖斷ニ出タコトヲ中外ニ示ス様ニ心懸ケナケレバナラス。又内閣組織者ノ氏名ヲ奉答スルニ方ツテモ、數名ヲ列叙シ以テ取捨選擇ノ餘地ヲ存置スベキ筈ダ。然ルニ元老等ハ常ニ此注意ヲ怠リ、暴慢無禮ノ振舞ヲ爲スガ爲、遂ニ世人ヲシテ内閣組織者ノ選定權ハ 陛下ニ在ラズシテ元老ニ在ルカノ如ク妄想セシムル様ニ爲ツタ。是ニ於テカ政機一タビ動ケバ世上ノ耳目ハ 陛下ニ注ガズシテ元老ニ注ギ、大小政治家ハ沼津(兩陛下下避寒地)ニ拜趨セズシテ興津(元老ノ病臥地)ニ膝行ス。識者ガ藤原氏ノ全盛時代ヲ聯想シテ切齒扼腕スルモ、蓋シ偶然ニ非ズト思ハレル。事實此ノ如キモ、現内閣ハ尙大權下ニ移リ朝威冒瀆セララル憂ナシトスル乎。

(四) 元老廢止ノ必要ニ關スル件

元老ナルモノ能ク人臣ノ禮節ヲ解シ、其言動ヲ謹慎スルモ、尙ホ其存在ハ昭代ノ一大汚點タルヲ免レナイ。況ヤ其暴慢無禮ナル傲然内閣製造者ヲ以テ自ラ任ジ、白晝公然皇威ヲ汚瀆シテ顧慮スル所ナキニ於テオヤ。前ニ加藤友三郎總理ノ病歿スルヤ元老等ハ山本伯ヲ奏薦シテ非常ノ醜態



ヲ暴露シ、次デ清浦子ヲ奏薦シテ亦大ニ世上ノ物議ヲ招イタ。元老若シ臣節ヲ知ラバ奏薦其人ヲ誤リタル失態ニ對シテ罪ヲ引キ杜門二年再ビ政治ニ容喙セザル可キ筈ナルニ、恩寵ニ狃レ恬然トシテ其罪責ヲ感ゼザルモノノ如シ。之ガ爲世道人心ヲ壞亂シ君國ヲ危殆ニ導クコト幾ンド疑フ容ルルノ餘地ガナイ。

現内閣ハ朝權下移皇威汚損ノ一大根源タル元老ノ廢止ヲ奏請スル意思ナキ乎。

(五) 樞密院ノ改革ニ關スル件

世界廣シト雖モ、今日我國ニ存在スルヤウナ樞密院ハナカラウ。何レノ文明國ニ於テモ、樞密顧問ハ舊世界ノ遺物ニシテ、今日デハ有名無實ノ隱居役名譽職タルニ過ギナイノニ、我國ノ顧問官ハ各種ノ政務ニ容喙干涉シ、以テ、數々行政立法ノ事務ヲ阻碍シ、且ツ内閣ヲ危地ニ陥レル事モアル。

我國ノ憲法ト勅令ニ依テ見ルモ、樞密院ハ元來 天皇ノ最高諮問府ニシテ、重要ノ國務ヲ審議スベキ所デアアル。然ルニ比年以來屬僚上リノ人物ヲ以テ之ニ充テタル爲メ、顧問官ノ資質漸ク低下シ、遂ニ法制局參事官ヲ以テ自ラ任ズルモノガ多數ヲ占ムルニ至ツタ。彼等ハ大所高所ヨリ重要ノ國務ヲ審議セズシテ、常ニ御諮問事項ノ枝葉末節ヲ論難辯詰シ、法文ノ字句條章等ヲ加除修正スルヲ以テ、其本分ト心得テ居ル、之ガ爲メ責任ノ所在ヲ紊亂シ、政務ノ進行ヲ妨碍スルコト

尠少デナイ。

又内閣ハ國家ノ爲メ樞密顧問等ノ非違ヲ矯正スル事ヲカメズ、却テ之ニ屈從阿付シ、以テ自ラ其威信ヲ毀傷スルノミナラズ、兼テ彼等ノ心得違ヲ助長シ、以テ益々政務ノ進行ヲ妨碍セシム。彼此互ニ過謬ヲ重ネテ、交モ政務ノ澁滯ヲ招致ス。此ノ如キハ樞密院設置ノ本旨ニ非ルコト勿論デアアル。

樞密顧問ハ終身官デハナイ。内閣ハ何時デモ其任免黜陟ヲ奏請スル事ガ出來ル。又御諮問事項ハ御沙汰書及ビ勅令ヲ以テ容易ニ之ヲ増減スル事ガ出來ル。現ニ大隈侯ノ如キハ、在野黨ノ首領板垣伯ト會見シタルノ故ヲ以テ諭旨免職サレタコトモアル。

(イ) 政府ハ樞密院官制ヲ改革シテ、大ニ顧問官ノ員數ヲ増加シ、歐洲諸國ニ於ケルガ如ク一タビ内閣大臣トナリタル者ハ勿論、大使其他重要ノ位置ニ就キタルモノハ、悉ク之ヲ樞密顧問ト爲シ、兼テ其俸給ヲ削除シテ名譽職ト爲スノ意思ナキ乎。

(ロ) 若シ右ノ意思ナシトセバ、目下ノ應急手段トシテ心得違ノ顧問官ノ罷免ヲ奏請シ、以テ其本分ニ還ラシムルノ意思ナキ乎、

(六) 陸海軍大臣ノ任用資格ニ關スル件

陸海軍大臣、朝鮮臺灣兩總督、關東州都督等ヲ軍人ニ限ルノ制度ヲ改善シ、文武對等ノ實ヲ擧グベ



シト云ヘル意見ハ、政界多年ノ輿論ニシテ右ノ内總督、都督ダケハ其官制既ニ改正セラレタルモ獨リ陸海軍大臣ニ至テハ、依然トシテ軍人獨占ノ舊制ヲ存シテ居ル。山本内閣、原内閣ノ如ク憲法擁護ヲ標榜セザリシモノト雖尙ホ不充分ナガラ指ヲ右等官制ノ改善ニ染メタ。憲政擁護ヲ絶叫シテ起テル加藤内閣ガ此點ニ就テ、未ダ何等施爲スル所ナキハ、天下ノ齊シク失望スル所デア

(七) 陸海軍犯罪者ノ特別待遇ニ關スル件

陸海軍ノ現役軍人及軍屬ハ、軍律犯罪ニ非ル常事犯ト雖モ、陸海軍治罪法ノ各第一條ニ依リ、軍法會議ニ於テ之ヲ審判スル規定ニシテ、事實上一種ノ治外法權ヲ有シテキル。且軍法會議開否ノ鍵ハ、常ニ陸海軍大臣ノ掌中ニ握ラレ、事件毎ニ判官ヲ任命スルノミナラズ理事、主理、憲兵等ガ上司ニ對シテ無勢力ナル結果ハ、自ラ軍紀ノ弛廢軍人ノ腐敗ヲ誘致スル事ニナル。軍人ハ常事犯罪者トナリテモ尙ホ特別待遇ヲ受ケテ居ルノダ、

軍事法廷ガ如何ナルモノデアルカハ、甘粕事件ノ際始メテ法廷ヲ公開シタル爲暴露シタル失態ニ徴シテモ粗ボ想像スル事ガ出來ルデアラウ。現内閣ハ軍人軍屬ト雖モ詐欺、收賄、強盜ノ如キ普通罪ヲ犯シタ場合ニハ、普通裁判所ヲシテ之ヲ審理セシメ以テ、司法權ノ尊嚴ヲ回復スル意思ナキ乎。

十四年二月二十日尾崎行雄君ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ三月二十二日加藤内閣總理大臣、宇垣陸軍大臣、財部海軍大臣及小川司法大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

一、皇室ニ關スル件

皇室ニ於カセラレテハ毎々萬事御質素ヲ旨トセラル、コトハ之ヲ拜察スルタニ恐懼ニ堪エサル所ナリ明治四十三年皇室費増額以來經費愈御多端ト拜察シ奉リタルトキアリタルニ拘ラス歴代内閣ニ於テ別ニ皇室費増額ノ詮議ヲ進メタルコトヲ聞カサルハ蓋シ前述御儉徳ヲ仰キ奉リタルモノト察セラル現内閣ニ於テモ本件ニ付未タ詮議ニ入りタリト謂フコトヲ得サルモ將來ニ對シテハ政府ニ於テモ諸般ノ情狀ヲ考查シ考慮ヲ盡サムト欲ス

二、内大臣廢止ニ關スル件

政府ハ内大臣ノ存置ニ依リ宮中府中ノ別ヲ紊リ閣臣輔弼ノ職責ヲ妨クルモノアリト認メス

三、元老ノ暴慢無禮ニ關スル件

政府ハ所謂元老ノ暴慢無禮及之ニ依ル朝威冒瀆ノ事アルヲ認メス

四、元老廢止ノ必要ニ關スル件

政府ハ所謂元老ノ廢止ナルコトニ付考慮シタルコトナシ



五 樞密院ノ改革ニ關スル件

政府ハ樞密院ニ付質問ノ如キ改革ヲ行フノ意圖ヲ有セス

六 陸海軍大臣ノ任用資格ニ關スル件

陸海軍大臣ノ任用資格ニ付テハ適材ヲ適所ニ置クノ精神ヲ以テ相當考慮ノ必要アリト認ムルモ其ノ關係スル所廣ク且重大ナルヲ以テ周到ノ研究ヲ爲スノ要アリ目下之カ調査中ニ屬ス

七 陸海軍犯罪者ノ特別待遇ニ關スル件

軍法會議ハ軍紀維持ヲ目的トスル機關ナリ然ルニ現役軍人及軍屬ノ犯罪ハ軍律犯罪ニ非サル常事犯ト雖モ軍紀維持ニ直接ノ關係アルヲ以テ之カ審判ヲ軍法會議ノ所管トスルハ軍隊成立上必要ナリト認ム又軍刑事裁判ニ關シテハ大正十年四月陸海軍治罪法ヲ廢シテ新ニ軍法會議法ヲ制定シ以テ其ノ審判ニ付他ノ干涉ヲ受クルコトナカラシメ其ノ他辯論ノ公開辯護、上訴方法等裁判ノ威嚴信用ヲ確保スルノ規定ヲ設ケタルヲ以テ質問ノ如キ虞ナシ

三四 農村保健衛生ニ關スル質問

國民體軀ノ健否ハ國家ノ進運ニ最重大ナル關係ヲ有ス而シテ強健ナル國民ノ體格ハ農村ニ於テ保持増進セラルルモノナリ然ルニ我カ國ノ農村ニ於ケル衛生施設ノ不備ト農民ノ經濟的窮迫ノ

爲ニ農村居住者一般ノ健康狀態ハ近時誠ニ寒心ニ堪ヘサルモノアリ是レ實ニ國家社會ノ重大問題ニシテ速ニ適當ナル方策ヲ講セサレハ國家ノ前途ニ憂慮スヘキ事態ヲ誘起スルニ至ルヘシ此ノ事實ニ對シ政府ハ如何ナル方策ヲ採ラムトスルヤ

十四年二月二十一日湛增庸一君ハ右質問主意書ヲ提出シ其ノ趣旨辯明ヲ爲スニ先チ三月三日若槻内務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

我國ニ於ケル農村衛生ニ關シテハ曩ニ大正五年六月二十七日内務省ニ保健衛生調査會ノ設置セラルルニ當リ特ニ農村衛生ニ關スル部門ヲ設ケ次テ之カ改善ニ資スル目的ヲ以テ大正七年七月九日同會聯合主査會ノ決議ニ基キ我國農村衛生狀態ノ實地調査ヲ施行スルニ決シ本省ハ直接全國九ヶ所ノ農村ニ就キ之カ實地調査ヲ行フト共ニ一面ニ於テハ大正十年以降各地方廳ヲシテ本省援助ノ下ニ同一標準同一調査方法ニ依リ各地方農村ニ就キ同様調査ヲ施行セシメ現在尙引續キ調査中ニ屬ス從テ之カ總成績ヲ舉クルヲ得サルモ本省ニ於ケル調査成績ニ依レハ現今我農村衛生上注意スヘキ事項ト認ムヘキハ農村住民人體寄生蟲蔓延ノ著シキコト、各種疾病ノ多キコト、農村住民體格ノ優良ナラサルコト、農村飲料水ノ不良ナルコト、醫療機關ノ不備ナルコト、乳兒死亡ノ多キコト、農村住宅ノ不衛生的ナルコト、農村住民保健知識ノ特ニ缺乏セルコト、等ヲ



擧ケ得ヘク更ニ地方廳ニ於ケル全成績ノ完成ヲ見レハ略全國ノ狀況ヲ推定スルヲ得ルニ至ルヘシ、而シテ既ニ現在ニ於テ全國農村ヲ通シ其蔓延ノ明カナル人體寄生蟲ノ驅除ノ如キ不良ナル飲料水ノ改善ノ如キ、補助其他ノ方法ニ依リ地方ヲ督勵シツツアルモ全般ニ互ル全般ノ改善ニ關シテハ一面基礎調査ノ進捗ト相俟チ又中央及地方財政ノ許ス範圍ニ於テ速ニ方策ヲ確立シ之カ實行ヲ期セムトス

三五 外交ニ關スル質問

一 大正十一年六月二十八日馬賊ノ襲撃ヲ受ケタル頭道溝事件交渉ノ顛末及之カ解決ノ見込如何竝本件ニ付大正十一年九月以來今日ニ至ル迄數年ノ久シキニ互リ交渉再開セサル理由如何

一 大正九年十月二日馬賊ノ襲撃ヲ受ケタル琿春事件交渉ノ顛末及之カ解決ニ付見込如何竝本件ニ付大正十二年七月以來交渉再開セサル理由如何  
本質問中解決ノ見込ニ付テハ特ニ詳細ナル答辯アラムコトヲ望ム

十四年二月二十一日戸澤民十郎君ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ二月二十八

日幣原外務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

琿春、頭道溝兩事件ニ關シテハ事件發生以來政府ハ銳意之カ解決ニ努メ支那側ニ對シ累次交渉ヲ重ネ之カ急速解決方ヲ期シツツアリ此際質問中掲ケラレタルカ如キ詳細ノ事項ニ涉リテ答辯スルハ時機宜キヲ得サルモノト認ム

三六 善良ノ風俗公ノ秩序ニ關スル質問

善良ノ風俗ヲ守リ公ノ秩序ヲ維持スル精神著シク廢弛シ破倫ノ行ヲ敢テシテ恥ス痴態ヲ演シテ憚ラス世道人心ヲ蠹毒シ民心ノ作興得テ望ムヘカラス俗風ノ肅正亦期スヘカラス政府ノ之ニ對スル所見如何

十四年二月二十四日永峰與一君ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ三月三日若槻内務大臣及岡田文部大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

近時動モスレハ人心弛緩シ時ニ人倫ノ道ヲ誤ル者アルハ政府ノ深ク遺憾トスル處ナリ政府ハ益教育ノ改善振興ヲ圖リ特ニ國民道德ノ涵養ニ努ムルト共ニ社會教化施設ニ依リ國民精神ノ作興ヲ促シ時弊ヲ矯メムコトヲ期シ現ニ努力シツ、アリ



三七 在上海邦人經營諸紡績工場ニ於ケル同盟罷業ニ關スル質問

一 本年二月初旬在上海ノ内外紡績株式會社ニ勃發セル大同盟罷業ト之レト相呼應シテ我カ在上海諸紡績工場ニ續發セル前代未聞ノ大同盟罷業ノ原因結果ニ對シ政府ハ如何ナル所見ヲ有スルヤ

二 右ノ大同盟罷業ハ之ニ對スル根本對策ヲ講スルニ非スムハ其ノ禍ヲ再ヒスルノ怖アリト信ス政府ハ如何ナル對策ヲ講セムトスルヤ

三 今回ノ大同盟罷業ニ對スル對策ノ如何ニ依リテハ獨リ我カ對支紡績業ノミナラス在支邦人ノ發展上容易ナラサル結果ヲ惹起スルモノト信ス政府ハ此ノ點ニ就キ如何ナル手段ヲ以テ善處セムトスルカ具體的御説明ヲ請フ

十四年二月二十六日柏田忠一君ハ右質問主意書ヲ提出シ其ノ趣旨辯明ヲ爲スニ先チ三月七日幣原外務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

一 本年二月在上海邦人經營紡績工場ニ發生セル同盟罷業ハ單純ナル勞働爭議ニ非スシテ外部ヨリノ煽動ニ基ク疑アリ政府ハ右取締ニ關シ支那中央竝地方官憲等ノ注意ヲ喚起スルト共

ニ邦人ノ生命財產保護ニ關シ必要ノ措置ヲ講シタルカ幸ニシテ各工場共既ニ操業ヲ再開セリ

二 同盟罷業カ勞働爭議ニ關スル限リ政府ハ當業者ニ必要ナル注意ヲ與ヘ勞資協調ノ實ヲ擧ケシムルニ努力スヘシト雖勞働者以外ノ者カ勞働者ヲ粧ヒ之ヲ煽動セルノ疑アル以上及フ限リ事實ヲ搜索シ適當ノ對策ヲ講セントス今日ニ於テ右對策ヲ具體的ニ聲明スルハ公共ノ利益ニ反スルモノト認ム

三 本件ニ關シテハ政府ハ質問ノ趣旨ト所感ヲ同ウス之ニ處スルノ手段ニ至リテハ前項答辯ヲ參照セラレムコトヲ望ム

三八 在上海邦人經營諸紡績工場ニ於ケル同盟罷業ニ關スル再質問

一 過般ノ邦人經營紡績會社ノ同盟罷業ノ背後ニ左傾團體ノ煽動アリシコトハ豫想ニ難カラザリシ所ナルカ果然露國共產黨政務局亞細亞宣傳部カ露國上海領事ヲ使喚シ資金ヲ供給シ或ハ他ノ方法ヲ以テ援助ヲ與ヘタルコト此ノ程ニ至リ判明セリ此ノ點ハ既ニ罷業當時英國ノ「ノースチャイナ、デリーニウス」紙ノ報道スル所ナリシカ政府ハ日露條約ノ成立セル今日如何ナル對策ヲ以テ此ノ善後ニ處セムトスルカ具體的方法如何



- 二 上海共同租界ハ國都都市トシテ其ノ都市ノ公安ト秩序トハ國際的ニ之ヲ維持セサルヘカラスト信ス而シテ此ノ都市ノ市民タル邦人ノ生命身體並財產カ脅威ヲ受クルコトニ對シ政府ハ國際的ニ如何ナル方法ヲ以テ之カ對策ヲ講セムトスルカ
- 三 今回ノ同盟罷業ニ對シ政府ハ我カ在上海日本總領事ヲシテ領事團會議開催ヲ提議セシメテ善後策ヲ講シタルコトアリヤ若アリトセハ其ノ内容結果如何
- 四 今回ノ同盟罷業以來邦人從業員ニシテ生命身體ノ不安ヲ感シ安ムシテ業務ニ就クコト能ハサル狀態ニ在リ不安ノ結果ハ動搖ヲ來シツツアリト聞クスノ如キハ我カ對支發展上自由シキ大事ナリ政府ハ速ニ之カ對策ヲ講スルニ非スムハ容易ナラサル結果ヲ惹起セムトス政府ノ之ニ對スル意見如何

十四年三月二十日柏田忠一君ハ右再質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ三月二十五日幣原外務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

- 一 本年二月在上海邦人經營紡績工場ニ發生セル同盟罷業ノ背後ニ一種ノ煽動行爲アリタルハ否定シ難キ所ナルモ政府調査ノ結果ハ質問ノ如キ事實ト符合セス
- 二 上海共同租界内秩序維持ニ關シテハ現行制度ノ下ニ於テ適當ノ措置ヲ執リツ、アリ
- 三 政府ハ今回ノ罷業ヲ以テ領事團會議ニ依リ解決スヘキ性質ノモノト認メサリキ素ヨリ事態國際的協力ヲ要スル場合ニハ必要ニ應シ領事團會議ニ提議スルコトアルヘシ
- 四 在留邦人ノ生命財產保護ニ關シテハ政府ハ常ニ機宜ノ措置ヲ講シツ、アリ

三九 海事官増員ニ關スル質問

行政財政整理ノ爲メ冗員ガ淘汰セララルノハ當然ダガ而シ一面國家トシテノ機能ヲ十分發揮シ且國運ノ隆昌ヲ促進スル上ニ於テ有ヨリ無ニ無ヨリ有ニ聲息相通ズル策ヲ講ヅルコトモ亦ヨリ以上剴切ナル整理要項デアラネバナラヌト考フルノデアリマス

我邦ニ於ケル船舶ノ管掌ハ各其ノ所屬ヲ一定セラレ之ヲ擔任セル海事官ガ直接船舶ノ検査ヲ司リ實際ノ事務ヲ取扱ツテ居ラルノデアアル

私ノ茲ニ質問セントスル熊本遞信局海事部下關出張所ノ管轄區域ハ下關市門司市若松市八幡市其他山口福岡大分ノ三縣各地ニ跨リ且船舶、船舶ト言ツテモ鐵船アリ木船アリ西洋型日本型等千態萬狀デアアルガ此等多數船舶異動隻數等ヨリ打算シ海事官ノ定員ガ甚ダ少イノデアアル



此ノ海事官ノ定員ハ何ノ標準ニ據リ決定セラレタルモノカ不明デアアルガ單ニ關門若倉ノミニテモ所謂出船千艘入船千艘デ古今名實共日本一デアリ附近又大小ノ船渠、造船所數多アリ從テ新造船多ク之ガ龍骨据付ケヨリ進水ニ至ル迄及機關部ノ検査、定期、特別検査及海難衝突其他ノ事故頻出到底現在定員ノ海事官ノミヲ以テシテハ船舶、造船業者ノ要望ニ副フ能ハザルノミナラズ海事官トシテノ職責ヲ盡ス上ニ於テモ甚ダ遺憾ノ點ガ多カラウト想ハルルノデアアル

船舶検査ノ精粗ハ一朝有事ノ場合生命財産ニ關係ヲ及ボスノミナラズ之ガ遲速奈何ハ海運界造船界ニ多大ノ影響ヲ與ヘ延イテ世界ノ通商貿易ニ尠カラザル波動ヲ及ボスコトハ敢テ贅言ヲ俟タザル所デアアル而モ法律ハ此等小數海事官ノ検査ヲ經ザレバ如何ナル大船巨舶ト雖モ猥リニ之ヲ動カスコトヲ許サヌノデアアル其ノ爲斯業者ノ蒙ル打撃即チ營業收入ノ減少、滯船料及其ノ他有形無形ノ損害ト苦痛トハ到底擧ゲテ數フコトガ出來ナイノデアリマス

前述海事部下關出張所ノ如キ海事官少數ノ爲日曜祭日ノ區別ナク船渠、造船所及船舶業漁業者カラ検査ヲ追ラレ休息ノ時間モ無キ位繁劇ヲ極メテ居ルノデアアル此ノ事實カラ歸納シテ如何ニ海事部下關出張所海事官ノ人員不足デアルト云フコトガ想像ニ難クナイノデアリマス

本員ハ國家經濟及通商貿易促進ノ上カラ相當海事官ノ増員ヲナシ如上ノ缺陷ヲ補ハルルコトハ假令財政整理ノ際トハ申シ乍ラ少許國費ノ増加ヲ來スモ國家トシテ得ル所ハ其ノ失フ所ニ百倍

千倍スルモノト確信スルノデアリマス

前述ノ意味ニ於テ左ノ各項ニ付政府ノ御意見ヲ伺ヒタイノデアリマス

- 一 政府ハ海事行政ノ實狀ニ鑑ミ其ノ機能ヲ充分ナラシムル爲熊本遞信局海事部下關出張所海事官ヲ増員シ事務ノ簡捷ト敏活ヲ圖ラルル御考ハアリマセンカ
- 二 萬一海事官増員不可能トスレバ例ヘバ門司稅關ガ彦島ノ如キ船渠造船業者ノ多數アル所ニ派出所ヲ設置シ特ニ内外船舶ノ利便ヲ計リ居レル如ク海事官ヲ此ノ地ニ駐在セシメ兩兩相俟チ十二分ノ能率發揮ト斯業界ノ改善啓發ニ資セラルルノ御考ハアリマセンカ
- 三 財政其ノ他ノ御都合上海事官増員ガ不可能トスレバ請願巡查ノ制アル如ク民間ニ於テ之ガ増員ニ要スル經費ヲ寄附スレバ政府ハ此ノ國民ノ要望ヲ許容セラルルデアリマセウカ
- 四 稅關ガ日曜祭日又ハ開廳時間前後臨時開廳ヲ爲シ開廳料ヲ徵收シ居レル如ク海事部ニ於テモ之ト同様ノ方法ニ依リ國家及國民ノ福利増進ヲ圖ラルルノ御考ハアリマセンカ
- 五 仄聞スル所ニ依レバ熊本遞信局長崎海事部ヲ門司ニ移轉セラルルトノコトナルガ事實デアリマスカ果シテ事實トスレバ其ノ實現ノ時期ヲ承リタイ又此ノ場合下關出張所ノ存廢乃至權限擴張ハ如何ヤウニナルノデアリマスカ



十四年二月二十七日秋田寅之助君ハ右質問主意書ヲ提出シ其ノ趣旨辯明ヲ爲スニ先チ三月七日犬養遞信大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

熊本遞信局海事部下關出張所ニハ現在相當數ノ検査官ヲ配置シ隨時管内各地ニモ出張シテ常ニ検査ノ完全ト迅速トヲ期スルノミナラス必要ノ場合ニハ休暇日検査ヲモ執行スルコトトセルヲ以テ同地方面ニ於ケル船舶検査上支障ナシト認ム而シテ將來假リニ同地検査官ノ増員ヲ必要トスルコトアリトスルモ船舶検査ノ如キ其性質上純然タル監督事務ニ從事スヘキ官吏ニ要スル經費ヲ民間ノ寄附ニ俟ツカ如キハ検査ノ嚴正公平ヲ期スル上ニ於テ頗ル考慮ヲ要スルコトト思フス尙熊本遞信局海事部ハ追テ門司ニ移轉セシムル豫定ナルモ下關出張所ノ存廢ニ付テハ其ノ際諸般ノ事情ヲ參酌シ決定スル見込ナリ

四〇 海事官増員ニ關スル再質問

海事官増員ニ關スル本員ノ質問ニ對シ犬養遞信大臣ノ御答辯ニ接シタルコトハ欣幸トスル所デアリマス然レドモ尙意ヲ盡サザル所アリ依テ茲ニ再質問ヲ爲ス所以デアリマス  
一 熊本遞信局海事部下關出張所ハ現在相當數ノ検査官ヲ配置アリトノ御答辯デアリマス其ノ相當數トハ何カ標準デモアルノデセウカ又現在ノ定員數ハ何時頃決定セラレタモノデア

リマスカ本員ノ記憶ニ依レバ約十年前以前モ此ノ位ノ定員デハナカッタカト思ヒマスガ如何デアリマセウカ

二 隨時管内各地ニ出張常ニ検査ノ完全迅速ヲ期シテ居ラルルトノコトデアアルガ現在海事部下關出張所ニハ僅ニ船部四名機關部三名デ此ノ小數ノ海事官ヲ以テ山口福岡大分ノ各縣ニ跨リ検査ヲ遺憾ナク迅速ニ執行セラルルト謂フコトハ事實不可能デハナイカト考フルノデアリマス即チ當業者側カラ觀ル事實ハ寧ロ此ノ御聲明ト反對ノ現象ヲ呈シテ居ルノデアリマシテ御答辯ノ迅速ヲ期ストカ期セラルトカ謂フコトハ直覺ノ豫想デアツテ之ガ具體化サレ實現セザル限り其ノ期待ハ遂ニ裏切ラレタルモノト謂ハネバナラヌノデアリマス

三 海事官現在ノ定員ニテ船舶検査上支障ナシトノ御答辯ハ海事官トシテ職務執行上痛痒ヲ感ゼザルモノト解セラレタル如クナルモ本件質問ノ主意ハ海事官職務執行上支障ノ有無ヲ云爲セルヨリモ寧ロ一刻千金ヲ爭フ當業者ノ社會的使命ニ稽ヘ現在ノ苦衷ヲ除却シ検査ノ迅速ヲ實現スベク海事官増員ヲ必要トスルモノデアツテ政府ト立論ノ根據ヲ異ニシテ居ルノデアリマス  
四 本員ノ調査スル所及下關商業會議所ヲ始メ船渠造船所船舶業者等本件ニ對スル意見乃至希望ヲ綜合考覈シマスルト現在ノ定員ニテハ確ニ不足ヲ訴ヘテ居ル依テ現在定員ニ加フルニ



船體部二名機關部二名ヲ増加シ一般民衆ノ便益ヲ計ラルルコトハ一面政府ノ期待ヲ實現セラルルコトナリ所謂政府御答辯ノ相當數配置ニ該當スルモノト信ズルデアリマス

五 政府ハ現今ノ狀況ヲ當業者ノ各方面ニ互リ御調査ニナツテ本員ノ質問ト符合スル場合ハ増員セラルルデアリマセウカ御考ヲ御伺ヒ致シタイノデアリマス

試ニ本員ノ調査シマシタ總計材料ノ一端ヲ御參考ニ供シテ本件ノ解決ニ資シタイト存ズルデアリマス

海事部下關出張所事務統計

	文書受發數	管内造船數	船舶法事務件數	検査隻數
大正十一年	一五、七三四	一六 <sup>隻</sup>	一九、八〇一	一、〇〇七 <sup>隻</sup>
同十二年	一七、七八八	一五	二〇、四九四	一、一一七
同十三年	一九、一六三	三一	二〇、〇四八	一、一七三

此ノ統計表ニ依テモ各項トモ比年増加シテ居ルコトガ瞭カデアリマス

十四年三月十七日秋田寅之介君ハ右再質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ三月二十四日犬養遞信大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

管海官廳ニ對スル船舶検査官ノ配置ハ各其地方ニ於ケル検査事務ノ繁閑ニ應シ其員數ヲ按配スルコト、セルカ熊本遞信局海事部下關出張所ニ對シテモ上述ノ趣旨ニ基キ漸次検査官ノ増配ヲ行ヒ現ニ相當ノ員數ヲ存シ居レル義ニシテ此際更ニ之ヲ増加セシメ得ルニ於テハ夫丈ケ検査上便宜ヲ加フルハ勿論ナルヘキモ右ハ目下ノ財政状態ニ鑑ミ遽カニ之カ實現ヲ期シ難シ

四一 港灣行政統一ニ關スル質問

一通商貿易上ノ機關及其ノ行政事務ヲ統一シテ英國ノ如クニ内閣直屬ノ下ニ港灣行政廳ヲ特設シテ目下内務大藏兩省其ノ他地方廳等分掌ノ制度ヲ改廢シ其ノ便益ヲ企畫スルノ意思ナキヤ

一本邦ニ於テモ自由港制度ヲ設クルノ意思ナキヤ

一内地及殖民地ノ鐵道新線ノ完成ニ從ヒ交通網ノ變化ヲ來シ之カ連絡機關ニ供スル港灣ノ修補又ハ新設ハ國策上政府直轄國費ヲ以テ工事ヲ施行スルノ意思ナキヤ

一河川法及道路法等ノ法規ハ既ニ具備セリ然ルニ我カ邦未タ港灣法ノ制定ナキハ行政上ノ一大缺陷ナリト認ム之ニ對スル政府ノ所見如何



十四年三月二日三善清之君ハ右質問主意書ヲ提出シ三月十日左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

政府ニ向ッテ港灣行政ノ統一ニ關シマシテ質問ヲ致スノデアリマス、先ヅ第一ハ通商貿易上ノ機關及其行政事務ノ統一ヲ、英國ノ如クニ内閣直屬ノ下ニ港灣行政廳ヲ特設シテ、目下各省ニ分轄割據シテ居ル事務ヲ統一スルコトヲ便利ナリトシテ質問ヲ致スノデアリマス、第二ハ本邦ニ於キマシテモ自由港ヲ一二箇所設置スルノ必要ガアリハシナイカト斯様ナ質問デアリマス、第三ハ内地及植民地ノ鐵道網ガ次第ニ擴張シマスルニ從ヒマシテ、交通網ガ變化致シマス、其ノ變化ニ從ッテ是ガ聯絡機關ニ供スル港灣ノ如キハ、政府直接ニ工事ヲ爲シ、國費ヲ以テスベキモノデアラウト考ヘマス、此點ニ向ッテ政府ノ答辯ヲ煩ハス者デアリマス、第四ハ河川法、道路法、鐵道法等ハ既ニ具備シテ居リマス、然ルニ港灣法ノ未ダ具備シナイハ、國家行政ノ上ニ於テノ缺陷デアリマス、此點ヲ政府ニ質問ヲ致スノデアリマス、由來我國ハ封建時代ニ於キマシテ大船巨舶ノ造船ヲ禁ジ、國民ノ海外通商貿易ヲ禁ジマシタ爲ニ、海事思想ガ非常ニ遲レテ居リマス、ソレガ現在ノ港灣行政ノ上ニモ大ナル缺陷ヲ來シテ居ルノデアリマス、此問題ニ付キマシテハ積年政府ニ於テモ研究ヲ致シテ居リマス、又民間ノ大ナル船舶業者及貿易業者ニ依テ政府ニ建言モ行ハレテ居ルノデアリマス、本員モ亦數年前ニ於キマシテ、政府ニ向ッテ建議ヲ致シマシタガ、未ダ實現ヲ致サナイノデアリマス、仍テ本日此質問ヲ提出シタ譯デアリマス、要スルニ港灣ハ國家ノ港灣ト地方ノ港灣ガアリマス、國家ノ港灣ハ國際上ノ機關デアアル、國際上ノ通商貿易ノ機關デアアル、又國內ニ於ケル商業經濟ノ大機關デアリマスカラ、其行政ガ現在ニ於キマシテハ或ハ遞信省ニ或ハ農商務省ニ或ハ大藏省ニ、或ハ内務省ニ——殊ニ内務省ニ屬スルモノハ多ク地方廳府縣知事ノ職權ニ屬シテ居リマス、ソレガ爲ニ港灣行政ノ統一ガ甚ダ複雑、甚ダ敏活ヲ缺イテ居リマス、出入船舶ガソレガ爲ニ平均八時間位ノ外國船ガ時間ニ於テスラ損ヲ致ス、斯様ナ不經濟ノ現狀デアリマス、一日モ早ク此行政機關ヲ統一ヲシナケレバ相成ラヌ、隨テ大正十三年ニ於キマシテ此特別委員ヲ置キマシテ、委員長ニ水野鍊太郎君ガナリマシタ、政府ニ建議ヲ致シマシタ、其建議ニ依リマスルト、只今申シマシタ各省各個ニ分レテ居ル事務ヲ統一致シマシテ、一等

港即チ國ノ港灣ノ在ル所ニハ港灣行政廳ヲ英國ノ如ク置キタイ、其處デ總テノ事務ヲ纏メタイ、斯ウ云フ既ニ建議ニナッテ居リマス、ドウカ是ガ一日モ速ニ實現ヲシタイモノデアルト考ヘマス、御承知ノ如ク只今ノ國家ノ港灣ト申シマスルモノハ横濱、神戸、下ノ關、敦賀、之ヲ以テ國ノ港灣トシテ居リマスケレドモ、其當時建議致シマシタノニハ大阪、名古屋ノ如キモ加ッテ居リマス、二等港灣トシテ國家ガ半額補助、或ハ三分ノ一ノ補助ヲシテ居ルモノハ十數箇所アル、是モ亦更ニ調査ノ上デ統一シナケレバ相成ラヌト考ヘルノデアリマス、是等ハ極メテ行政上必要ナ事デアリマスルカラ、政府ハ如何ナル所見ヲ持ッテ居ルカ、此答辯ヲ御願シタイノデアリマス、第二ノ自由港制度ハ世界ノ何レノ國ニモアルノデアリマセウガ、歐洲各國ニ於テハ既ニ二三箇所アリマシテ、隨分或ル場合ニ於テハ是ハ便利ナモノデアリマセウ、本邦ニ於テモ一二箇所ハ設ケル方ガ、商業上或ハ通商貿易上利益デアルト考ヘマス、政府ハ如何ナル所見デアルカ、第三ノ問題ハ申スマデモナク、斯様ナ所ハ幾ラモアル、段々鐵道網ガ新ニ出來マシテ、隨テ海陸ノ連絡ガ變ッテ參ル、然ルニ其地方ニ依テハ地方費デ以テ半額補助ヲ得タ位デハ到底出來ナイト云フ場合ガ起ル、然レドモ今日マデ多ク從來ノ成行ニ任セテ、多少迂廻シテ時間ニ於テ一日位違ッテモ、現狀デウツチャッテ置クト云フ有様デアアル、斯様ナ所ニ付テハ、港灣政策ノ上ニ於テ政府ハ注意ヲ拂ッテ、其改革ヲヤラナケレバナラヌコトデアルト考ヘマス、之ニ就テ政府ハ如何ナル所見ガアルカ、第四ノ港灣法ハ既ニ政府ニ於テハ案件ヲ附シテ草案ガ出來テ居ッタノデアリマス、然ルニ前年港灣調査會ナルモノガアリマシテ、港灣調査會ハ多ク各省ノ官吏、即チ次官ノ如キ者ガ多ク之ニ委員デアリマシタ、矢張從來ノ因襲ニ因ハレテ各省事務ノ割據スル弊害カラ、遂ニ纏ラナカッタト云フコトデアリマス、甚ダ國策上ニ於テ遺憾デアリマス、港灣法ガ出來マスレバ自然ニ等港灣、二等港灣ト云フモノ、區別ガ出來ル、即チ道路ニ於テモ國道ノ中ニ於テモ、國庫ガ全部負擔シテヤルベキ國道モアリ、或ハ國道ノ名ヲ存シテ居ッテモ今日ハ縣道ニ劣ルヤウナモノモアル、一ノ法案ヲ作ッテ、議會ニ於テ通過シタ其法律ニ依テ此統一ヲ圖ラナケレバイケナイ、現在ノ儘ニ在リマシテハ既ニ十四五アリマスルモノ、半額ノ補助ヲ受ケテヤル港灣ノ如キモノモ、何等



國家ニ法規モ無イ、其地方ニ於ケル或ハ政黨ノ關係上、其運動ノ威力アルモノニ依テ效ヲ奏スル  
ト云フガ如キハ、國家ノ爲ニ甚ダ憂フベキ事デアリマス、即チ法規ヲ設ケテ是ガ統一ヲスルコト  
ハ刻下ノ急務デアルト考ヘマス、之ニ就キマシテハ色々意見モアリマスケレドモ、質問ハ是デ打  
切リマス

之ニ對シ植原政府委員ハ即日口頭ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

三善君ノ御尋ハ内務、大藏、鐵道、遞信、此四省ニ關係スルコトデアリマスガ、遞信省所管ニ關ス  
ル事ダケヲ御答致シテ置キタイト思ヒマス、遞信省所管ニ關スルコトデ、海軍部ト航路標識管理  
所ヲ港灣行政統一ノ部分ニ入レテハ如何カト云フ御趣意ト思ヒマス、御承知ノ如ク燈臺ハ港灣  
カリデゴザイマセヌ、日本ノ重要ナル岬岬其他船舶ノ航行スル所ニ一般ニ在リマスノデ、港ノ在  
リマス所ノ一二箇所ノ燈臺ノミヲ、港灣行政ノ統一ノ中ニ入レテ管理致シマスコトニナリマシ  
タナラバ、却テ航路標識ノ上カラ申シマスレバ、不便デナカラウカト云フヤウニ考ヘテ居リマス、  
又海軍部ノコトデアリマスガ、是ハ船舶ノ検査モ、亦船員ノ乗組モ、或ハ解雇ノ場合ヲ公認スルコ  
トヲ致シテ居ルノデ、港ニ於ケル仕事ダケヲ掌ツテ居ルノデナイ、船舶ガ何所ニ於キマシテモ、航  
行中デアリマシテモ、碇泊中デアリマシテモ、如何ナル場合ノコトデモ海軍部デ之ヲ所管スルコ  
トニナツテ居リマスカラ、三善君ノ御意見ノ如ク、是ガ實行出來マスカ出來マセヌカ、頗ル疑問ト  
致シテ居ルノデアリマスガ、折角ノ御質問モゴザイマシタカラ、十分ニ考慮致ス考デアリマス、  
其他ノ管掌ノ事ハ多分書面ヲ以テ御答ニナルコトダラウト思ヒマス

右ニ對シ三善君ハ書面答辯ヲ希望スル旨ヲ述フ

越エテ三月十日加藤内閣總理大臣、若槻内務大臣及濱口大藏大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

一 港灣ニ關スル行政事務ノ統一ニ關シテハ政府ハ常ニ意ヲ用ヒツツアルトコロニシテ最近ニ於

テハ之カ爲メニ内務省所管府縣港務部ノ事務ノ一部及農商務省所管植物検査ノ事務ヲ稅關ニ  
移シ以テ目的達成ノ一端ヲ實現シタリ而シテ港灣ニ關スル行政事務ハ其ノ内容ニ於テ各般ノ  
事務ヲ包含シ其ノ性質上各省所管事務ト實質離ルヘカラサルノ關係ヲ有スルモノアリテ其ノ  
凡テノ事務ニ就キ各省ヨリ分離シテ獨立行政廳ヲ特設スルハ却テ事務ノ複雜ヲ來シ延イテハ  
行政ノ敏活ヲ缺キ一般ノ利便ヲ阻害スルノ虞ナシトセ目下政府ニ於テハ質問ノ如キ内閣直  
屬ノ特設官廳ヲ置クノ意思ヲ有セス

一 自由港制度ハ主トシテ仲繼貿易ヲ發達セシムル爲設ケラルルモノナルモ我國ニ於テハ之カ爲  
ニ保税倉庫及假置場等ノ制度アリ且我仲繼貿易ノ實況ニ鑑ミ自由港制度ハ現行制度ニ比シ必  
スシモ適實ナリト認メ難シ仍テ政府ハ目下自由港制度ヲ採用スルノ意思ヲ有セス

一 我國港灣修築政策ニ關シテハ曩ニ港灣調査會ニ諮詢シテ北海道ヲ除キ全國ニ互リ第一種重要  
港及第二種重要港通シテ二十四港(別表參照)ヲ選定シ第一種重要港ハ國費ヲ以テ修築シ第二  
種重要港ハ地方ノ經營ニ任シ國ハ財政上ノ都合ニ依リ之ニ助力ヲ與フルコトトシ既ニ青森港  
若松港ハ其ノ工ヲ了シ其他ハ伊萬里港ヲ除キ工事施行中ニ屬ス而シテ之カ選定ニ際シテハ内  
地及殖民地ノ鐵道新線ノ完成ニ伴フ交通網ノ變化ヲモ考慮セラレタルモノナリ故ニ之等ノ工  
事終了スルニ於テハ鐵道連絡上甚シキ支障ナキモノト認ム



然ルニ現今ニ於ケル我國ノ財政狀態ニ鑑ミルトキハ其ノ修築工費ノ全部ヲ國ニ於テ負擔スルカ如キハ不可能ノコトニ屬ス

北海道ノ諸港ニ付テモ其ノ主要ナルモノニ關シテハ既ニ其ノ工ヲ竣ヘ又現ニ施行中ニ屬スルモノアルモ尙今後必要ニ應シ財政ノ如何ヲ考慮シテ之カ實行ヲ期セムトス

一港灣法ニ付テハ夙ニ其必要ヲ認メ目下内務省ニ於テ調査中ニ屬スルモ未タ議會ニ提案ノ運ヒ至ラス

第一種重要港

神戸港 門司港 下關港 敦賀港 橫濱港

第二種重要港

鹽釜港 新潟港 長崎港 清水港 境港 高松港 今治港 小松島港 鹿兒島港 伏木港  
青森港 四日市港 名古屋港 那覇港 船川港 大阪港 若松灣 伊萬里 東京

四二 煙害防止水源涵養ニ關スル質問

一栃木縣上都賀郡足尾銅山附近ニ其ノ水源ヲ發シ群馬縣山田郡新田郡邑樂郡及栃木縣西部一端ヲ灌溉スル渡良瀨川ハ逐年其ノ流量減退シ灌溉用水ノ不足ヲ來スニ至レリ殊ニ大正十三年

ノ大旱魃ニ際シテハ果然未曾有ノ大渇水ヲ來シ旱害ノ慘禍ヲ被リ農村ノ死活問題トシテ今尙人心恟恟タルモノアリ渡良瀨川減水ノ原因タルヤ主トシテ足尾銅山煙毒ノ爲其ノ水源地域一帯ノ山林枯死荒蕪ニ歸シタルニ因ル政府ハ足尾銅山ニ於ケル鑛毒煙毒除害命令ノ勵行ヲ怠レルモノニ非スヤ

一政府ハ足尾銅山煙毒除害命令ヲ勵行スルト共ニ渡良瀨川水源涵養ノ爲其ノ水源地域ニ於ケル荒廢セル山林ノ保護復舊ノ方策ヲ實施シ且渡良瀨川上流沿岸ノ砂防工事ヲ實施完成シ以テ其ノ流域ニ於ケル農村ノ危機ヲ救済スルノ最急務ナルヲ認メサルヤ

十四年三月二日武藤金吉君外一名ハ右質問主意書ヲ提出シ其ノ趣旨辯明ヲ爲スニ先チ三月十日高橋農商務大臣及若槻内務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

一政府ハ足尾銅山製煉所ヲ中心トスル渡良瀨川水源地ノ荒蕪ニ關シテハ之カ除害設備トシテ從前鑛煙ノ中和或ハ稀釋ヲ行ハシメタルカ更ニ除害上有效ナル電氣收塵裝置ヲ設置セシメ相當ノ效果ヲ收メツツアリ猶除害設備ノ操作ニ就テ常ニ監督ヲ懈ラス

一渡良瀨川水源涵養ニ關シテハ足尾銅山ニ於テ諸種ノ扞止工事植樹ヲ行ヒ明治四十三年ヨリ大正十二年ニ至ル期間ニ之カ經費約四十七萬圓ヲ支出セリ今後引續キ此等ノ事項ヲ施行スル計



畫ニシテ政府ハ常ニ其ノ施業ヲ監督シ勵行ヲ圖レリ  
國有林地ニ就テハ明治三十年以來政府ニ於テ扞止工業ヲ施行シ其ノ施設費トシテ既ニ七十九  
萬圓ヲ支出シ別ニ荒廢地復舊事業費トシテ約二萬圓ヲ支出セリ今後ニ於テモ引續キ工事實施  
ノ豫定ナリ

尙渡良瀨川上流沿岸ニ對シテハ砂防工事施行ノ必要アリト認め目下調査攻究中ニ屬ス

#### 四三 松村大分縣知事ノ暴政ニ關スル質問

一現內閣成立後松村義一氏大分縣知事トシテ赴任スルヤ陽ニ所謂綱紀肅正ヲ高唱シ陰ニ憲政會  
大分縣支部ノ陳情ニ聽キ大小官吏數百名ヲ鹹首シ主トシテ同支部幹部ノ獻策ヲ容レ大小ノ  
縣施設殆ト悉ク憲政會擴張ノ手段ナリト謂フモ誣言ニ非サルヘキノ情態ニシテ其ノ暴政今之  
ヲ列舉スルニ遑アララス如キ事相ハ知事トシテノ職務執行上相當ノ措置トシテ認容セラル  
ルモノナリヤ如何

二大正十四年度大分縣通常縣會ニ於テ青莖検査ノ件米生産検査ノ件道路修繕費ノ件ノ三件ヲ縣  
會ニ於テ原案ヲ修正可決ヲ爲シタリ然ルニ松村大分縣知事ハ右縣會ノ議決ヲ否認シ原案執行  
ノ申請ヲ爲シタルニ內務大臣ハ右ニ對シ原案執行ヲ認可シタリト聞ク右ハ如何ナル理由ニ因

リ知事ノ申請ヲ認可シタルモノナリヤ其ノ理由ヲ明示セラレタシ

十四年三月五日吉良元夫君ハ右質問主意書ヲ提出シ其ノ趣旨辯明ヲ爲スニ先チ三月十七日若槻內  
務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

大分縣知事ノ期スル所ハ綱紀ノ肅正ニ在リ官吏吏員ノ進退其ノ他縣ノ施設ニ於テ政黨派ニ偏  
倚セル措置アリト認めス

大正十三年通常縣會ニ於ケル議決事項中青莖検査費、米穀検査所費及道路修繕費ニ對スル縣會  
ノ議決ハ公益ヲ害シ收支ニ關スル不適當ノ議決ト認めタルヲ以テ府縣制ノ規定スル所ニ從ヒ知  
事具狀ノ通り指揮シタル次第ナリ

#### 四四 樺太常備軍ニ關スル質問

日露交渉成立ノ結果北樺太派遣軍ノ撤退斷行ハ既定ノ事實ナルカ之レト同時ニ吾カ南樺太ニア  
ル後方守備隊ヲモ撤兵セラレムトス然ルニ撤兵後ニ於ケル樺太ノ警備ニ付テハ未タ何等ノ聲明  
ナカリシ爲島民ノ憂懼惜ク能ハサル處ナリ目下北樺太ニ於テ帝國派遣軍撤退ノ說傳ハルヤ在住  
者ハ不安ノ念ニ驅ラレ島外ニ轉セムトスル者日ヲ逐フテ其ノ多キヲ加ヘ人心恟恟安住スル所ヲ  
知ラサルノ觀アリ從來樺太ノ地タル動モスレハ赤化的危險思想ヲ有スル露支鮮人頗ル多キハ既



往ノ事實ニ徴シテ明ナリ若南北全島ヨリ總テノ兵備ヲ撤退セムカ更ニ西比利亞方面ヨリ北樺太ニ渡來シ延テ南北國境ヲ越エテ南來スルハ自然ノ趨勢ナリ惟フニ吾カ南樺太ハ領有以來二十年粒粒辛苦ヲ重ネ今ヤ漸ク其ノ一部ニ基礎ヲ築キ僅ニ前途ノ曙光ヲ認ムルニ至リタルニ際シ島民ハ殊ニ將來帝國民族ノ北方發展ノ第一線ニ立チ其ノ使命益重大ナルニ拘ラス島民ノ生命財產ニ對シ其ノ保障ナク警備ニ缺クル處アラムカ往年ノ慘憺タル尼港事件ヲ追想シ眞ニ深憂ニ堪ヘサルモノアリ斯クテハ實ニ國威ヲ失墜スルノミナラス我カ國策タル北方開發ハ其ノ根柢ヲ破壞セラルルニ至ルヘシ即チ斯ノ如キ不安ノ狀態ヲ續クルニ於テハ島民ハ永久の事業ヲ樹立スルニ躊躇スルノミナラス人心萎靡荒廢シ産業不振ニ陥リ退島スル者續出スルニ至ルハ火ヲ賭ルヨリ明ナリ政府ハ樺太島民ノ生命財產ヲ保護シ恟恟タル人心ヲ安定セシメ漸次同島ノ壯丁ヲ收容訓練シ剛健ナル民風作興ニ資スル爲南樺太ニ陸軍兵備ヲ常置スルノ意ナキカ

十四年三月五日黒住成章君ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ三月十九日宇垣陸軍大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

政府ハ日露國交ノ恢復セル今日ニ於テハ兩國民間ニ存セル從來ノ交誼ニ鑑ミ質問書ニ述フルカ如キ憂慮ヲ要セサルモノト認ム然レトモ將來萬一ノ事件發生スル場合アラハ臨機適宜ノ處置ヲ

採ルヘシ

#### 四五 賣國的行爲取締ニ關スル質問

字内列國ノ對立スルヤ所謂五間即チ鄉間内間反間死間生間ノ盛ニ用役セララルハ平時ト戰時トヲ問ハス國際關係古今ノ通勢ナリ道路傳フル所ニ據レハ近時外國ヨリ使嗾若ハ資金ヲ受ケテ帝國社會ノ秩序ヲ紊亂シ思想ヲ紛更シ風俗ヲ糜爛シ軍機若ハ廣義ニ於ケル戰爭能力ノ祕密ヲ竊ミテ之ヲ外國ニ致サムトスル者往往之レ有リト謂フ政府ハ此ノ種ノ事實ヲ認ムルヤ若之ヲ認ムトセハ政府ハ之ニ對スル豫防回復取締懲罰ニ關シ從來如何ナル方策ヲ講シタルカ茲將來ニ對スル計畫如何

本質問ニ對スル政府ノ答辯ハ文書ヲ以テシ若ハ祕密會議ニ於ケル口頭陳述ヲ以テスル等政府ニ於テ適當ト認ムル方法ヲ取ラレタシ

十四年三月七日建部遜吾君ハ右質問主意書ヲ提出シ其ノ趣旨辯明ヲ爲スニ先チ三月十七日宇垣陸軍大臣、財部海軍大臣、若槻內務大臣及小川司法大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

賣國的行爲取締ニ關スル質問ハ適當ノ機會ニ祕密會議ニ於テ口頭陳述スヘシ



四六 思想善導ニ伴フ特殊機關設置ニ關スル質問

下關港ハ歐亞連絡地點トシテ將又文化ノ輸入及世界交通經濟ノ要衝ニ當ル上ヨリシテ此地ニ國費支辨ニ依ル特殊機關ヲ設置シ國家ノ體面ヲ維持スルト同時ニ國運ノ伸張ト社會民衆ノ安寧幸福ヲ講ズルコトハ甚ダ緊要ノ義ト信ズルモノデアリマス

晝夜間斷ナク陸ニ海ニ汽車ニ汽船ニ乗降吞吐來往スル世界各國人ノ頭腦ニ向ツテ先ヅ下關テフ日本ノ玄關ニ於ケル感情乃至感想ハ我が國ニ對スル第一印象ヲ印スルモノデアラネバナラヌノデアリマス

然ルニ此ノ樞要ナル地點即チ單ニ通商貿易ノ港ト謂フヨリモ今日ノ場合國際的ニ於テ幾多重要ノ意義ガ含マレテ居ル下關ニ國家トシテノ特殊機關ノ施設ガナク只纔ニ地方官憲ノ微温的取扱ニ依リ日日ヲ糊塗シテ行ク如キ狀態ノ下ニ置カレテアルコトハ社會ノ實情乃至世界ノ思潮カラ謂ツテモ甚ダ面白クナイ現象ト謂ハネバナリマセム

今私ハ日本ノ玄關タル下關ニ思想善導ト其ノ設備ニ就キ國費支辨ニ依ル或特殊機關設置ノ急要ヲ認メ左ノ諸項ニ就キ政府ノ御所見ヲ承リタイノデアリマス

一 各國ノ貴顯紳士紳商乃至觀光團等ニ對スル國際的待遇及渡來鮮人取締緩和策並日支親善ノ

實ヲ舉グル爲メ相當機關ヲ設クルコトハ帝國隆興上將來至大ノ影響アルモノト認ムルノデアリマス

二 朝鮮ニ於ケル諸種陰謀團ハ今尙跡ヲ絶タザルノミナラズ赤化セル鮮人ノ共產主義者ハ今後日露通商ノ開カルルニ乘ジ續續押シ寄セ來リ遂ニ一大波瀾ヲ湧起スルデアラウ又鮮内主義者等ハ日露間障壁ノ撤廢セラレタコトヲ喜ビ之ト共ニ一段緊張シ歩調ヲ揃ヘ組織的ニ進出ヲ企テテ居ルト謂フコトデアアル又最近日露ノ國交回復ヲ動機トシテ無政府主義共產主義等ノ過激思想ハ其ノ銳鋒ヲ露骨ニ現ハシ來ルハ火ヲ賭ルヨリモ瞭カナル所ニ付下關ニ適當ナル取締及善導機關ヲ設置シ之ヲ防止スルコトハ最モ必要デアルト信ズルノデアリマス

三 汽車汽船其ノ他交通ノ便ヲ利用シテ乗降去來スル幾多ノ荷客ニ附隨シテ時ニ諸種惡疫傳染病等ノ輸入セラルル危險ハ敢テ想像ニ難クナイデアリマス此等モ宜シク第一線ニ於テ之ヲ發見シ撲滅スルニ非ザレハ其ノ病勢遂ニ各地ニ傳播シ停止スルコト困難ニ陥ルノデアリマス是モ相當機關ヲ設ケ未然ニ防禦スルコトガ必要デアルト考フルノデアリマス

四 如上ノ點カラ綜合考察シマスルト下關ハ日本ノ玄關トシテ將々東洋ノ咽喉トシテ思想上カラ謂ツテモ國際的ノ立場カラ謂ツテモ將又國權ノ維持國威ノ發揚ト謂フ點カラ論ジテモ常ニ第二戰線ニ立ツテ帝國ノ興廢ト最モ密接ナル鍵鑰ヲ把握シテ居ルモノト信ズルノデアリマス



五 先般小山檢事總長ガ下關ニ出張セラレ警察署ヲ巡視シテ其ノ貧弱ニ驚カレタト謂フ話デア  
 ルガ事實スル國際的主要ナル立場ニ在ル國家ノ機關ガ一地方費支辨ノ下ニ其ノ面目ヲ維持シ  
 機能ヲ完カラシメヤウトスルノハ根本的ニ其ノ觀念ヲ誤ツテ居ルノデハナイカト考ヘラルル  
 ノデアリマス此ノ警察ト謂フコトニ關聯シテ今下關ヲ中心トスル近縣ニ於ケル警察官ヲ調査  
 シテ見マスルト大略デアリマスルガ福岡縣ガ千五百四十七人廣島縣ガ千二百五十人長崎縣ガ九  
 百十七人山口縣ガ一番少クテ七百六十人前後トノコトデアルガ此ノ定員ハ其ノ縣ノ面積トカ  
 人口ヲ標準トシ決定セラレタルモノナルカ否寡聞ニシテ之ヲ知ラザルモ面積ヤ定著セル人口  
 ニ依リ決スルコトハ按配宜シキヲ得タモノデナイト考フルノデアル然ルニ下關警察署ハ定員僅カ  
 百人巡查一人ノ受持戸數三百人口千二百ヲ負荷シテ居リ其ノ中カラ更ニ請願巡查其ノ他市外  
 ノ派出所十三人ヲ差引クト残り八十七人内外ニテ下關全市ノ安寧秩序ヲ取締リ其ノ餘力ヲ割  
 キ日本ノ玄關デアリ世界ノ交通路タル下關來往内外人ノ警備ニ任シ事故ヲ未然ニ防ギ事後ニ  
 處理セネバナラヌノデアリマス之ハ警察廳舍ノ外觀ニ對シ併セテ内容ノ貧弱ヲモ例證トシテ申  
 上ゲタモノデアツテ決シテ多數警察官ノ垣ヲ作ツテ交通ノ整理トカ主義者ヲ取締ラレタイト  
 謂フノデハナイ只現在ノ制度ハ設備ニ於テモ内容ニ於テモ環境ニ順應シテ發達シテ居ナイカ  
 ラ相當警察官増員ノ必要ガアラウト考フルノデアリマス

六 下關通過世界各國人ノ待遇方ヲ改善シ利便ヲ計リ十分快感ヲ與ヘ目的ヲ達セシメ最モ愉快  
 ニ其ノ行程ヲ娛シマシムルト同時ニ一面此ノ地ヲ濾過地トシテ不逞ノ徒ヤ主義者ノ侵入脱走  
 ヲ防遏スル爲メ第一關門ノ守備ヲ嚴ニシ國政ノ賜達ト邦家ノ安泰ヲ期スルハ洵ニ緊要ト信ズ  
 ルノデアリマス而シテ之ガ局ニ當ル者ニハ時代ニ一隻眼ヲ有スル新人ノ必要モアラウ語學ニ  
 堪能ナ明敏ナ士モ必要デアラウ或ハ思想ニ於テ理解ヲ持チ適從ヲ誤ラザル檢察官ノ必要モア  
 ラウスノ如ク有爲有能ノ士ヲ選任シテ或特殊機關ヲ別ニ設置スルカ或ハ下關警察署内ニ増設  
 シ以テ國家ノ機能ヲ完カラシムルト同時ニ國交ノ親善ヲ加ヘ社會ノ安寧ト民人ノ共存共榮ヲ  
 計ルコトハ對内外政策上ノ見地ヨリシテ最モ機宜ニ適セルモノト信ズルノデアリマス況ンヤ  
 治安維持法實施ヲ急要トセラルル政府ニ於テハ此等諸種ノ點ニ一考察ヲ加ヘラルルコトハ他  
 ノ政策ト相俟チ甚ダ必要デアラウト信ズルノデアリマス

十四年三月九日秋田寅之介君ハ右質問主意書ヲ提出シ其ノ趣旨辯明ヲ爲スニ先チ三月十七日若槻  
 内務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

政府ハ渡來外人ノ待遇、親善其ノ他各般ノ涉外事項ニ關スル設備並無政府主義者、共產主義者等ニ  
 シテ内地ニ渡來スルモノニ對スル取締、善導的措置及檢疫等ニ就テハ從來常ニ周到ナル注意ヲ拂



ヒ國內一般ニ涉リ特ニ涉外須要府縣ニ對シテハ必要ナル施設、實行ヲ爲シツ、アリ山口縣ニ對シ國費ヲ以テ現ニ警察官ノ要員ヲ増置シアルハ此趣旨ニ基キ必要ヲ特ニ考慮シタルモノナリ  
現在ニ於テ特ニ同地ニ特殊機關ヲ設置スルコトハ未タ其ノ必要ヲ認メサレトモ政府ハ常ニ注意ヲ怠ラサルヲ以テ時勢ノ進運ニ應シ適切ナル措置ヲ講スヘキコトヲ期スルモノナリ

四七 思想善導ニ伴フ特殊機關設置ニ關スル再質問

思想善導ニ伴フ特殊機關設置ニ關スル本員ノ質問ニ關シ若槻內務大臣ノ御答辯ニ接シマシタガ尙意ヲ盡サザル所ガアリマスカラ茲ニ重ねテ再質問ヲ爲ス所以デアリマス

- 一 內務大臣ノ御答辯ニ依リマスルト本員ト同様政府ニ於テモ斯ル機關ノ必要ヲ認メテ居ラルルコトハ根本ニ於テ本員ト意見ヲ同ウスルモノニテ本員ノ甚ダ満足スル所デ御座イマス
- 二 只問題ハ政府竝本員所期ノ目的ガ現在ノ貧弱ナル機關ヲ達セラルルヤ否ヤト云フ事實問題ニ直面シテ居ルノデアリマシテ机上ノ空理究論デハナイノデアリマス
- 三 山口縣廳カラ特別高等警察官ガ一二人派遣セラレテ居ルノハ本員モ疾ニ承知シテ居リ無論有ルハ無キニ優ルノデアリマスルガ本員ノ考ハ現在ノ機關ガ微弱ニシテ到底國際的ニ世界ノ大勢ニ順應シ政府所期ノ目的ニ副フ所以デナイト斷言シテ憚ラナイノデアリマス依テ實

情ヲ開陳シテ政府ノ御所見ヲ伺フノデアリマス

- 四 下關ニハ毎日關釜連絡船ニ依テ多數ノ内外人ガ來往スル就中朝鮮人ノミニテモ千人以上ニ達シ其ノ大半ハ職ヲ求ムルニ由ナク下關驛内外及附近ヲ右往左往シ又白衣ノ儘地上ニ起臥シテ居ルノデアリマス此等ハ今日吾等ノ同胞デアアル此ノ大多數ノ同胞ガ漫然トシテ内地ニ渡來スル結果一定ノ職業ニ有リ就ク迄ニハ相當ノ日子ヲ要スル下關ニハ此等鮮人ノ指導就職ノ機關トシテ日鮮親和會ト謂フ私設ノ機關ヲ設ケ市民モ後援シテ當面ノ救濟乃至急要ニ應ジテ居ルガ何分潮ノ如ク寄せ來ル多數鮮人ニ對シ到底満足ヲ與ヘ調節ヲ完ウスルコトハ不可能デアリマス此ノ虛ニ乘ジ不逞鮮人ナドノ誘惑ガアリ左ナキダニ生活ノ安定ヲ得ザル所ニ此ノ誘惑ハ大ナル衝動ヲ與ヘ所謂左傾的ニ思想ノ惡化ヲ招來スベキハ人情ノ歸趨トシテ免レザル所ト考フルノデアリマス又同ジ朝鮮人ニシテ浮浪ノ徒ハ前陳ノ就職口ヲ搜シツツアル鮮人ニ甘言ヲ以テ所持ノ金品ヲ奪取スル如キコトハ日日起ル悲劇デアアル是レ畢竟設備機關ノ不備不完全ニ起因スルト考フルノデアリマス之ニ對シ內務大臣外務大臣朝鮮統治ノ當局者ノ對策ガ承リタイノデアリマス
- 五 現在ニ於ケル政府ノ謂ハルル機關ハ單ニ表面ヲ糊塗スルニ過ギナイ世界各國各人各様ノ思想ト目的ヲ抱イテ渡來スル外人ニ對シ申譯的ニ二三ノ檢察官ヲ駐在セシムルトモ此等小數



ノ限リアル精力ヲ以テ此ノ限リナキ往來ノ多數人況ンヤ露西亞朝鮮支那人ト自由ニ會話ノ出來ル人ナキニ於テハ應待ニモ不便ヲ感ジ取調ヲ爲スコトモ不能デアリ徒ラニ相互ノ疑惑ト惡感ヲ挑發シ意思ノ疏通ヲ缺キ國情ヲ誤解セシメ色色ノ行違ヲ生ズルデアリマス歐米ノ單純ナル觀光團位ナラ山陽ホテルノ事務員デモ濟ムガ之モ現在ノ制度デハ聊カ覺束ナク存ズルデアリマス此等ハ主トシテ機關ノ不完備ト語學ノ不十分ニ胚胎スルデアツテ政府ノ現狀肯定ト本員ノ見ル所トハ大ナル逕庭ガアルデアリマス依テ更ニ御考ヲ伺ヒタイノデアリマス

六 内外人ノ意思ノ疏通ヲ圖リ其ノ眞目的ヲ探究スル上ニ於テモ語學(特ニ露語支那語朝鮮語)ニ堪能ナル人ヲ此ノ地ニ配置スルコトハ最モ必要デアアル本員ハ現在ノ設備ガ國際的ニ何等ノ意義ヲ爲サザルノミナラズ政府ノ所期ニモ副ハザルモノト考フルノデ此ノ點能ク政府ニ於テモ實狀ヲ調査セラレ相當規模ノ特殊機關ヲ設置セラルルコトヲ急要ト認ムルモノデアリマス

七 下關ハ貴顯ノ御通過頻繁ナル所デアアル而モ現在ノ如キ姑息ノ狀態ニ置カレテ萬一不敬事件ヤ重大事件發生ノ場合政府ハ上 皇室ニ對シ奉リ下國民ニ向ヒ如何ナル責任ヲ負ハルルヤ尙此ノ機會ニ於テ本員ノ情報ニ接セル左記鮮人ノ最近ノ行動ハ最モ深憂ニ値スルモノノ如

大體クデアル政府ノ之ニ處セラルル御觀察ト而シテ御對策ヲ承リタイ

イ 赤化宣傳露領沿海州地方竝「ニコリスク」地方ノ朝鮮人ノ近況

ロ 「シヤトル」ニユヨルク「布哇」ホノルル」ノ鮮人ノ活動ノ近況

ハ 雷鮮團(在北京北京ノ金元鳳ヲ首領トスル義烈團ト竝ビ稱サルモノ)ノ近業

ニ 高麗共產黨首領在露領事李東輝ノ朝鮮左傾策宣傳

ホ 在上海朝鮮人共產黨員呂運亨ノ近狀

是等ハ皆警備ノ緩漫ナル下關ニ殺到スルニ非サルカト思考ス外務大臣内務大臣朝鮮總督府ニ御所見ヲ伺ヒタイノデアリマス

十四年三月十九日秋田寅之介君ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ三月二十四日幣原外務大臣及若槻内務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

涉外警察事務ニ従事スルカ爲山口縣ニ配置シタル現在ノ警察官ハ全國各開港場等ノ狀況ニ鑑ミ彼此權衡ヲ考ヘ適當ニ定メタルモノナレハ政府ハ之ヲ以テ不充分ナリトハ認メ難ク現ニ關係外國語ニ通曉セル者ノ配置ニ意ヲ用ヒアレハ他ノ方面ト連絡シ相當ノ成績ヲ收メツ、アルモノト認ム下關ハ内地朝鮮間ノ交通ノ衝ニ當レルヲ以テ朝鮮人ノ往來頻繁ナルモ同地方ニ浮浪シ又ハ永ク滯



在スルカ如キ者ハ比較的多カラサルヘシ一部少數ノ不良ナル朝鮮人其ノ他ノ混入防止ノ處置ヲ怠  
ラス尙警衛警戒ニ就テハ警察官吏ノ職務應援ヲ爲サシムル等政府ハ深甚ノ注意ヲ拂ヒ取締上遺漏  
無キヲ期シツ、アリ  
終ニ朝鮮人ノ海外各地ニ於ケル各種ノ行動ニ對スル情報ハ政府モ亦之ヲ接手スルモノアリト雖之  
カ對策ハ目上警察下ノ機密ニ屬スルヲ以テ答辯シ難シ

四八 永樂銀行支拂停止ニ關スル質問

近年銀行業界ニ破綻續出シ曩ニ積善銀行高知商業銀行京和銀行等アリテ多數ノ預金者及株主ニ  
甚大ノ損害ヲ被ラシメタリ前記銀行外銀行業者ノ無謀無責任ナル經營ノ結果經濟界及人心ニ至  
大ノ恐怖ヲ抱カシメ當局ノ之ニ對スル監督權ニスラ不審ノ思ヲ爲ス今日又復高田商會ト姉妹關  
係ヲ有スル永樂銀行ノ支拂停止ヲ見タリ大藏當局ノ現今ニ於ケル銀行監督上ノ處置及永樂銀行  
ニ對スル所見及善後策等ニ就キ政府ノ所信ヲ質シタシ

十四年三月十日筒井民次郎君ハ右質問主意書ヲ提出シ其ノ趣旨辯明ヲ爲スニ先チ三月十七日濱口  
大藏大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

銀行業ニ對スル監督ニ付テハ政府ハ常ニ最善ノ努力ヲ盡シツ、アルモ尙大正九年財界ノ反動及  
過般震災ノ影響ヲ受ケ銀行中ニ破綻ヲ生シタルモノ尠カラサルハ寔ニ遺憾トスル處ナリ  
永樂銀行ニ付テハ目下整理中ナルヲ以テ政府ハ預金者ノ損害ヲ出來得ル限り尠カラシムル爲銳  
意其ノ督勵ニ努メツ、アリ

四九 山林政策ニ關スル質問

一 我カ國ニ於ケル森林ノ面積樹種別樹齡別及作業種別ノ面積蓄積ハ未タ其ノ調査ノ完全ナル  
モノナク爲ニ森林政策ヲ論シ木材ノ需給ノ關係ヲ調査シ若ハ造林經營上ノ計畫ヲ立ツルニ  
方リ何等據ルヘキ材料ナク殆ト五里霧中ヲ彷徨スルノ狀況ナリ之レ民間ノ林業ヲ獎勵シ帝  
國ノ林業政策ヲ樹ツル所以ニ非ス速ニ之等森林ノ基本的調査ヲ完成シテ林業ノ狀況ヲ明ニ  
シ以テ官民據ル所アラシムルコト焦眉ノ急務ナリト信ス此ノ點ニ關シテ政府ハ如何ナル處  
置ヲ取リツツアリヤ

十二 近來町村ニ於テハ監督官廳ノ認可ヲ得山林反別稅タル町村特別稅ヲ新設シ之ヲ賦課スルモ  
ノ漸ク多キヲ加フ此ノ反別稅ノ誅求ハ林業計算ノ根柢ヲ破壞シ斯業ハ爲ニ漸次滅亡ノ外ナ  
ク山林保護ノ政策ニ悖ルモノト信ス依テ政府ハ宜シク將來斯稅ノ新設ヲ拒否シ且現存ノモ



ノニ付テハ速ニ之ヲ撤廢スルヲ要スルモノト認ム政府ノ所見如何

十四年三月十二日村山喜一郎君ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ三月二十四日高橋農商務大臣、若槻内務大臣及濱口大藏大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

一 御料林及國有林ニ在ッテハ森林面積其ノ他質問者ノ掲クル事項ニ付テ完全ナル調査アリ公私社寺有林ニ在ッテハ市町村ヲシテ調査セシメタル森林ノ樹別見込面積及伐採造林ニ關スル統計アリテ相當ノ資料ヲ供シツ、アリ而シテ民有森林ノ面積其ノ他質問者ノ掲クルカ如キ事項ニ付キ正確ナル統計アルコトハ森林政策ヲ計畫實行スル上ニ於テ利便尠カラサルハ疑ナキ處ナリ然レトモ如斯調査ニ付テハ少カラサル經費ヲ要スルヲ以テ今日直ニ之ヲ實行スルコトハ困難ナレトモ考慮中ニ屬ス

二 山林反別割ノ設定ニ付テハ篤ト其ノ地益ヲ調査シ他ノ土地ノ負擔程度トモ較量シ相當負擔餘力アリト認ムル場合ニ於テ之ヲ許可シツ、アルモノナリト雖尙其ノ負擔ニ關シテハ他日稅制調査ノ際他ノ地方稅ト併セテ充分考究ヲ遂クヘシ

五〇 國際勞働會議ノ決定ト我カ立法院ノ權限ニ關スル質問

一 國際勞働會議ハ大正八年其ノ第一回會議ヲ米國ワシントン市ニ開キテヨリ回ヲ重ヌルコト既ニ六、毎回我カ國ヨリ政府資本家勞働者ノ各代表參加シ討論表決ヲ爲シタルヤ言フ迄モナシ今期議會ニ於テ審議セラレタル大正十四年度追加豫算案ニハ第七回勞働會議參列ノ費用十一萬六千八百七十三圓ノ要求アリ然ルニ右等會議ノ經過内容我カ國ニ於ケル取扱等ニ付テハ未タ曾テ我カ立法院ニ正式報告セラレ又ハ付議セラレタルコトナシ今回第七回勞働會議參列ニ付テモ其ノ議題ノ如何サヘ議會ニ報告セラレズ是レ本員ノ甚タ遺憾トスル所ナリ本員ハ勞働會議ト立法院トノ關係ハ次項質問ニ牽聯シテ一言スルカ如クナリト信スレトモ斯ル解釋問題ハ格別トスルモ勞働會議ノ決定ハ多クハ立法手段ヲ以テ解決スヘキ案件ナリ從テ立法院ノ方針ト密接ノ關係アリ政府ハ過去ニ於ケル勞働會議ノ經過内容及我カ國ニ於ケル取扱ノ一切ヲ適當ナル方法ヲ以テ帝國議會ニ報告又ハ付議セラルルト同時ニ本年度開會ノ第七回勞働會議ニ付テモ其ノ各議題ニ關スル政府ノ所見ヲ開陳セラレ度シ

二 勞働會議ノ決定ト立法機關ノ權限ニ關スル觸釋問題ハ平和條約第四百五條第五項ノ解釋ニ依リテ決セラレル同條項ニ曰ク

「各加盟國ハ總會終了ノ時ヨリ一年ノ期間内ニ——又若シ特別ノ事情ノ爲一年ノ期間内ニ事ヲ運フ事カ不可能ナル場合ニハ出來得ル丈早キ時ニ且如何ナル場合ニモ總會ノ會議



終了ノ時ヨリ十八箇月ヨリ遅レサル期間内ニ——法令ノ制定又ハ其ノ他ノ措置ヲ執ル爲ニ其ノ問題ヲ取扱フ權限ヲ有スル機關ニ勸告又ハ條約案ヲ付議スルコトヲ約ス」ト我カ政府ハ從來右條項中ノ「權限ヲ有スル機關」ハ我カ國ニ在リテハ樞密院ナリト解釋シ來リタルモノノ如シ立法院ト勞働會議トヲ絶縁シタルハ此ノ解釋ニ基クモノノ如シ現内閣ハ依然此ノ解釋ヲ套襲スルヤ之ヲ套襲ストスレハ其ノ根據如何

三 從前ノ解釋ハ左ノ各事實ヲ參照スレハ誤解ナルコト明白ナルカ如シ左ノ各項ニ對スル政府ノ所見如何

(イ) 右平和條約第四百五條中ニハ「條約批准ノ爲メニ權限アル機關」ニ付議セヨト言ハス「法令ノ制定又ハ其ノ他ノ措置ヲ取ル爲其ノ問題ヲ取扱フ權限アル機關」ニ付議セヨト言ヘリ條約原文ハ茲ニ引用スル自由ヲ有セサレトモ(尤モ衆議院規則ヲ斯ノ如ク解釋スルコトニハ異議アレトモ)宜シク右原文ノ御參照ヲ乞フ之ニ依レハ元來「權限アル機關」ニ付議スル所以ノモノハ批准ノ爲ニ非スシテ立法其ノ他ノ爲ナルコト明ナリ立法ノ爲ト謂フ以上ハ權限アル機關トハ立法院ナルコトハ自明ノ理ナリ我カ國ニ於テハ帝國議會ト解スヘキハ當然ナリ

(ロ) 元來平和條約ノ原案ニハ「權限アル機關」ト言ハスシテ直截ニ「立法院」ト在リタルモノナ

リ然ルニ斯クテハ米國ノ如キ聯邦組織ノ國家ニ於テ各州ニ於ケル規則ノ制定權ヲ「立法院」ノ文字ニテ包括シ得ルヤ否ヤノ疑義ヲ生スヘシト爲シ「權限アル機關」文字ニ改メタルニ過キス其ノ内國法規制定ノ機關ノ意味ナルコト明白ナリ當時原案説明者タル英國代表ハ曰ク「抑々諸國政府ヲ拘束スルカ如キ決議ヲ通過シ得ル國際的立法院ト謂フカ如キモノノ成立スル時期ハ未タ到達セスト雖然モ勞働總會ノ三分ノ二ノ多數カ贊成セル如キ事項ニ付テハ諸國ノ立法院ニ其ノ意見ヲ表明スル機會ヲ與フヘキコトヲ各國政府ニ要求スルコトハ國際勞働法制ノ發展上ヨリ見テ極メテ重要ナル點ナリ」ト其ノ文意歷然タルモノアルニ非スヤ而シテ平和條約ニ參加セル各國ハ皆代議政體ノ邦國ナリシヲ以テ茲ニ謂フ權限アル機關又ハ立法院ト謂フハ各國議會ヲ指セシコトハ問ハスシテ知ルヘキノミ從テ我カ國政府モ當時此ノ「權限アル機關」又ハ「立法院」トハ我カ帝國議會ナルコトヲ承認シ之ヲ列國環視ノ席ニ公言セリ蓋條約案又ハ勸告ヲ權限アル機關ニ付議スルノ時期ハ原案ニハ一年ト在リシヲ特別事情アルトキハ十八箇月迄延長シ得ルコトト爲シタルハ我カ國ノ要求ニ基クモノナリ我カ國ノ此ノ要求ヲ爲シタルハ我カ帝國議會ハ一年一回ノ開會ナルコト及其ノ會期カ三箇月ニ過キササルヲ理由トセシモノナリ今國際勞働法制定委員會議錄第十一號ヨリ日本代表落合公使ノ陳述ヲ引用スレハ左ノ如シ



「落合公使……原案中一箇年ノ期間ハ日本ノ議會ハ通常一年ニ一回ノ開會ニシテ其ノ會期ハ唯タ三箇月間繼續スルノミナル事情ト對照スレハ餘リ短期ニ失スト考フ……」ト依之觀之我カ政府亦條約及勸告付議ノ機關ハ帝國議會ナルコトヲ承認セルモノナリト言フヘシ今之ヲ忘レタルカ如クニシテ顧ミサルハ何ノ理由ナルカヲ解スルニ苦シムヘ加之我カ國內法的ノ觀察ヲ下スモ我カ國樞密院ハ天皇至高ノ顧問府ナリ天皇大權行使ノ内部的諮問府ナリ之ヲ以テ立法又ハ其ノ他ノ措置ノ權限機關ナリト爲スハ我カ憲法ノ精神ヲ紛更スルノ嫌アリ

(ニ) 天皇ノ大權ヲ行使セラルルニ付之ニ諮問セラルヘシト雖 天皇ハ樞密院ノ答申如何ニ拘束セラレ給ハサルコトハ言フ迄モナシ之ヲ權限アル機關ト爲スヘキヤ暫時靜思スレハ各人自ラ其ノ意義ヲ發明スヘシ

(ホ) 且勸告ノ如キハ樞密院官制第六條ニ依ルモ之ヲ樞密院ニ付議スヘキ明文ナシ樞密院ヲ此ノ場合ニ於ケル「權限アル機關」ト爲スコトノ不合理ナルコト一層明白ナルヘシ

(ハ) 或ハ曰ク憲法第十三條ニ依レハ條約締結ノ大權ハ天皇ニ屬ス本件モ亦之ヲ議會ニ問フノ限ニ在ラスト

然レトモ平和條約第四百五條ハ勞働會議ノ條約案ヲ批准スルヤ否ヤヲ權限機關ニ付議セ

ヨト云フニ非ス立法其ノ他ノ措置ノ爲立法議會ニ付議セヨト言フナリ此ノ場合此ノ條約ノ主旨ニ從ヒ立法其ノ他ノ措置ノ爲條約案及勸告ヲ議會ニ問フコトハ毫モ 天皇ノ大權ニ増損スルコトナシ

四 以上要之第二第三項ノ事項ニ付政府ノ所見ヲ問フ 尙此ノ解釋問題ノ解決如何ニ拘ラス第一項ノ報告ヲ要求ス

十四年三月十七日清瀨一郎君ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ三月二十六日幣原外務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

- 一 從來ノ勞働總會ノ會議事項、會議ノ經過、採擇ノ決議等ハ其ノ都度適當ナル方法ヲ以テ之ヲ一般ニ公表シ又ハ必要ナル方面ニ配布シ來レリ政府ハ今日特ニ之ヲ帝國議會ニ報告シ又ハ付議スルノ意思ナシ
- 二 勞働條約案ハ總會出席代表委員カ各別ニ爲シタル表決ノ三分ノ二ノ多數ヲ以テ採擇スルモノナルヲ以テ一種ノ決議タルヘキモノニシテ條約ノ如ク各國ヲ拘束スルノ力ナシ從テ條約案ニ拘束力ヲ與フルカ爲更ニ之ヲ各國ノ權限アル機關ノ議ニ付シ其ノ可決ヲ俟テ條約トシテ之ヲ批准セシムルノ制ヲ定メタルモノナリ右平和條約ノ目的ニ鑑ミ更ニ我國內法ノ規定



ニ照シ樞密院ハ同條約第四百五條ニ所謂權限アル機關ナリト解スヘキモノト認ム  
尤モ條約案ハ何レモ國民ノ權利及產業トニ重要ナル關係ヲ有スルモノナルヲ以テ政府ハ從  
來實際ノ運用ニ於テハ政府力之ヲ國內ニ實施スルヲ適當ナリト認メタル條約案ニ付テハ先  
ツ其ノ内容タル事項ヲ法律案トシ帝國議會ノ協贊ヲ得タル上樞密院ニ付議スルノ手續ヲ執  
リ居レリ

三 (イ) 第二項ニ對スル回答ニ依リ自ラ明カナリト認ム

(ロ) 質問書ニ記載スル通右第四〇五條第五項ノ「權限アル機關」ハ原案ニ於テハ「立法府」ナ  
ル文字ヲ使用セルカ米國及帝國等ノ提議ニ依リ之ヲ「權限アル機關」ト改メタルモノナリ  
從テ「權限アル機關」ノ如何ハ各國國內法ニ依リ定ムヘキモノニシテ必スシモ之ヲ立法議  
會ニ限定スルモノニアラス

(ハ) 講和會議國際勞働法委員會第十一回會議ニ於テ帝國委員落合公使ヨリ勞働總會採擇  
ノ條約案又ハ勸告ヲ「權限アル機關」ニ付議スル期間ヲ延長セムコトヲ提議シタルハ事實  
ナルモ落合公使ハ第十回會議ニ於テ帝國議會ニ付議スル件ニ付テハ明ニ意見ヲ留保シ且  
前記期間延長ノ提議ヲ爲スニ當リテモ尙右留保ヲ維持スルコトヲ條件トセリ更ニ同公使  
ハ同委員會第二十六回會議ニ於テ「日本ニ於テハ批准ニ關スル件ハ樞密院ニ屬シ議會ニ

屬セサルヲ以テ英國案(最終案ニ非ス)ハ帝國憲法ト合致スルヤ否ヤニ付疑問アリ」云々  
ト聲明シタリ從テ講和會議ノ當時ニ於テ帝國委員ハ「權限アル機關」ハ帝國議會ナリト解  
スルノ態度ヲ採リタルモノニ非サルコト明カナリ

(ニ) 以上ノ回答ニ依リ自ラ明カナリト認ム  
（ホ）勸告ニ付テハ從來之ヲ樞密院ニ付議セス各主管者ニ於テ其採否ヲ決シ之ヲ國內ニ實施  
十四年ニスルニ當リ必要アルトキハ立法其ノ他必要ナル手段ヲ執リ居レリ  
(ヘ) 以上ノ回答ニ依リ自ラ明カナリト認ム

四 以上ノ回答ニ依リ自ラ明カナリト認ム

五一 對米外交ニ關スル質問

- 一 亞米利加合衆國ノ日本移民排斥ニ關シ昨年七月貴衆兩院ハ決議ヲ以テ政府ニ對シ之カ解決  
ヲ迫レリ其ノ後政府ノ採リシ處置經過及今後ノ對策如何
- 二 亞米利加合衆國ハ在留日本人及支那人等ニ對シ漸次其ノ權利ヲ剝奪セリ而シテ今ヤ在留國  
民ハ經濟的活動ハ勿論財產及生命ニ對シテモ迫害ヲ受ケツ、アリ政府ハ之ニ對シ在留國民  
保護ノ任ヲ盡シタリト思フヤ如何又向後日本國民ノ子孫タル合衆國民ニ對シテモ其ノ權利



ノ縮小ヲ圖ラムトスルノ虞アリ二重國籍法廢止ノ今日特ニ深甚ノ注意ヲ要ス是等ニ對スル政府ノ所見及對策如何

三 亞米利加合衆國政府及國民ハ支那及南米中等ニ於テ日本國民ノ活動及移住ニ關シテ之ヲ阻止セムトスルノ傾向アリト認ム政府ノ之ニ對スル所見及對策如何

四 亞米利加合衆國大統領ハ第二華府會議ヲ開催セムトスルノ意アリト聞ク政府ニ對シ之ニ參加ヲ申込タルヤ而シテ政府ハ之ニ應スルノ意思アリヤ如何又前項ノ如キ現下ノ事情ニ於テ日本帝國ノ威信ト國民ノ權利ニ對シ平和ノ根本的保證ヲ得スシテ漫然之ニ參加スルハ當ヲ得スト認ム政府ノ所見如何

十四年三月十七日田淵豐吉君ハ右質問主意書ヲ提出シ其ノ趣旨辯明ヲ爲スニ先チ三月二十三日幣原外務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

一 帝國政府ハ昨年七月ノ貴衆兩院ニ於ケル決議ノ趣旨ニ從ヒ日米問題解決ノ爲努力シ既ニ我意ノ在ル所ヲ米國政府ニ充分徹底セシムルノ處置ヲ講シタルモ其ノ詳細ニ至リテハ未タ發表ノ時期ニアラスト思料ス政府ハ今後ニ於テモ本問題解決ノ爲常ニ努力ヲ吝マサル覺悟ナリ

二 帝國政府ハ海外在留帝國臣民ノ權利擁護ノ爲適當ノ處置ヲ講シ其ノ保護ニ付最善ヲ盡シツツアリ合衆國議會ニ於テ同國內ニ生レタル歸化不能外國人ノ子ニ同國國籍ヲ附與セサルコトヲ目的トスル憲法改正決議案ノ提出ヲ見タルコトアルモ同案ハ成立ニ至ラサルハ勿論之ニ對シ贊同ヲ表スル者極メテ稀ナル實情ナリ

三 帝國政府ハ亞米利加合衆國政府カ支那及中南米諸國ニ於テ日本臣民ノ活動及移住ヲ阻止セムトスルノ傾向アルコトヲ認メス又其國民中ニ於テモ同様ノ傾向ニ付特ニ指示スヘキ具體的事實アルヲ認メス

四 帝國政府ハ未タ亞米利加合衆國政府ヨリ第二華府會議開催ノ招請ニ接セス從テ之ニ對スル贊否ハ今日豫メ之ヲ言明スルノ限リニアラス

五二 兩國國技館ニ於ケル國民大會不法解散ニ關スル質問

一 憲法政治ニ於テ言論集會ノ自由ハ最之ヲ尊重セサルヘカラス然ルニ大正十四年三月十五日午後一時開會ノ兩國國技館ニ於ケル國民大會ハ衆議院議員選舉法改正ニ對スル國民輿論ノ歸趨ヲ決定スヘク純正普選派ノ一派ト與黨三派代表者ノ立會演說會ニシテ其ノ靜肅ト公平ヲ期セムカ爲各派カ申合ヲ爲シ豫メ警視總監ノ諒解ヲ得タルニ拘ラス開會時間ニ先ツコト



- 三時間ニ於テ解散ヲ命シタルハ實ニ不法ノ解散ナリトス内務大臣ノ所見如何
- 二 内務大臣ハ將來言論集會ニ對シ其ノ開會前ニ解散ヲ爲シ言論集會ノ自由ヲ雍塞スルノ方針ナリヤ又斯ル方針ヲ以テ警察官ニ命令ヲ發シタルコトアリヤ斯ノ如キハ實ニ言論ノ壓迫ニシテ集會ノ自由ヲ雍塞スルモノナリトス
- 三 言論ノ集會ニ對シ會場ノ設備未タ整ハス司會者カ入場拒絶セルニ拘ラス開會前三時間ニ先チ警察官ハ職權ヲ以テ聽衆ヲ入場セシメタリ是レ職權ノ濫用ナリトス内務大臣ノ所見如何
- 四 大正十四年三月十二日兩國國技館ニ於ケル國民大會開催ノ宣傳ヲ爲スヘク豫メ警視廳ノ諒解ヲ得テ貨物自動車ニ乗車シテ芝區南佐久間町通ニ出ツルヤ突如其ノ進行ヲ阻止シ和合俱樂部前ニ於テ普選聯盟派ト小衝突ヲ來シタル時ニ際シ負傷者ノ加害者搜索ヲ名トシテ現場ヨリ遠ク隔リタル錦町署外神田署四谷署其ノ他八警察署ニ於テ合計百五十一名ヲ檢束シタリ犯罪者搜查ヲ名トシテ多數ノ人民ヲ檢束シ其ノ檢束スルニ當リ亂打亂蹴著衣ノ引裂等ヲ爲シ負傷者ヲ出シタルカ如キハ人權蹂躪ノ甚シキモノナリトス内務大臣ノ所見如何
- 五 以上ノ如ク集會ノ雍塞言論ノ抑壓人權ノ蹂躪ハ立憲治下ニ於テ看過スヘキモノニ非ス内務大臣ハ此ノ責任ヲ如何ニ處置セムトスルヤ

十四年三月十九日中林友信君外一名ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ三月二十四日若槻内務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

- 一 共同一定ノ目的ヲ以テスル多數ノ會同即集會ノ事實アルトキハ假令開會ノ旨ヲ宣フル以前ト雖モ治安警察法ノ適用ヲ受クヘキハ當然ナリ質問ノ件ハ警察官ニ於テ安寧秩序ヲ保持スル爲メ必要ト認メ治安警察法第八條第一項ヲ適用シ解散シタルモノニシテ不法ノ處分ニ非スト認ム
  - 二 内務大臣ハ言論集會ニ對シ自由ヲ雍塞スルカ如キ方針ハ絕對ニ之ヲ有セス亦之ヲ警察官ニ命シタルコトナシ唯タ法令ニ依リ正當ナル取締ヲ爲スカ爲メ必要ト認ムル場合ハ開會ノ旨ヲ宣フル以前ニ於テモ集會ヲ解散スルコトアルヘキハ治安維持上已ムヲ得サル所ナリ
  - 三 司會者カ入場ヲ拒絶セルニ拘ラス開會前三時間ニ於テ警察官カ職權ヲ以テ聽衆ヲ入場セシメタリトノ事實ハ之ヲ認メス
  - 四 警察官ハ行政執行法第一條ニ依リ暴行、鬭爭又ハ公安ヲ害スル虞アル者ニ對シ之ヲ豫防スル爲メ必要ナリト認メ檢束シタルモノナリ犯罪搜查ノ爲ニ之ヲ爲シタルモノニ非ラス
- 負傷者アリタリト言フハ檢束處分ニ當リ暴行ニ出テタル者ヲ警察官ニ於テ取鎮メムトシタル際暴行ヲ止メサルカ爲メ自ラ致傷シタルモノト認メラル



五 内務大臣ハ集會ノ雍塞、言論ノ抑壓人權ノ蹂躪等ノ事實アリタルコトヲ認メス

五三 學位請求者ノ提出シタル論文審査ニ關スル質問

- 一 明治三十一年勅令第三百四十四號學位令、大正九年勅令第二百號學位令第四條及東京帝國大學學位規則第三條ニ依リテ大正十三年二月以前ニ東京帝國大學法學部ニ論文ヲ提出シ學位ヲ請求シタル者ニ對シ審査未了ニ屬スル件數如何
- 二 大正七年九月中東京帝國大學法學部ニ論文ヲ提出シテ學位ヲ請求シタル者ニ對シ七年ノ久シキニ互ル今日尙審査未了ニ屬スルモノアリ之レ明ニ東京帝國大學學位規則第七條ノ審査委員ハ一年以内ニ教授會ニ其ノ審査ノ結果ヲ報告スヘシトノ規定ニ反スト思フ之ニ對スル政府ノ所見如何
- 三 若東京帝國大學學位規則第七條但書ニ依リ特別ノ事情アリテ教授會ノ議決ニ依リ審査期限ヲ延長シタルモノナリトセバ其ノ特別ノ事情及教授會ニ於テ其ノ延長ノ議決ヲ爲シタル事實ノ有無如何
- 四 前項ノ特別ノ事情ナク又教授會ニ於テ延長ノ議決ヲ爲シタル事實ナシトスレハ審査委員及東京帝國大學總長ハ其ノ職務ヲ曠廢シタルモノト信ス之ニ對スル政府ノ所見如何

十四年三月二十日禰苗代君ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ三月二十四日岡田文部大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

- 一 大正十三年二月以前東京帝國大學法學部ニ提出セラレタル論文ニシテ審査未了ニ屬スル件數五件ナリ
- 二 三、四、大正七年九月ニ提出セラレタル論文ニ關シテハ東京帝國大學學位規則第七條ノ適用ナシ

五四 衆議院解散ニ關スル質問

民心ニ感孚スヘキ普通選舉ノ大御心ハ反テ頑迷ノ謠言ニ依テ汚サレムトシ貴族院ノ改革モ民福ノ爲ニ去テ顧ミルモノナカラムトス此ノ際政府ハ衆議院議員選舉法改正法律案兩院通過後直ニ議會ヲ解散シ政府ノ至誠ヲ宣明シテ民意ニ問フノ意思ナキヤ

十四年三月二十二日兒玉右二君ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ三月二十四日加藤内閣總理大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ



政府ハ衆議院議員選舉法ノ改正ニ伴ヒ當然衆議院ノ解散ヲ奏請スヘキモノト認メス

五五 震火災被害地ニ於ケル郵便貯金、日本銀行發行兌換券及勸業債券ニ關スル 質問

大正十二年九月一日ノ震火災被害地ニ於ケル左記諸件ニ對スル政府ノ處置如何

一 各種郵便貯金ノ内死亡者又ハ行衛不明者ノ通帳焼失シタルモノニシテ期限内ニ届出ナキモノ又ハ届出タルモ通帳番號預金高不明ノ爲預金ヲ請取ルコトノ能ハサルモノノ總額及之ニ對スル政府ノ處置

二 日本銀行發行兌換券ノ焼失セシモノ凡ソ一億圓以上トノ推定アリ通貨流通高ノ増減ハ經濟界ニ影響スル所尠カラス之ニ對スル政府ノ處置

三 勸業銀行債券ノ焼失シタルモノニシテ番號不明ノ爲公示催告手續不可能ノモノニ對スル政府ノ處置

十四年三月二十二日太田信治郎君ハ右質問主意書ヲ提出シ未タ日程ニ上ラサルニ先チ三月二十四日犬養遞信大臣及濱口大藏大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

一 イ、郵便貯金預ケ人中死亡者又ハ行衛不明者ノ通帳焼失シタルモノニシテ大正十二年勅令第四百四十七號ノ申告期間中申告ナカリシモノノ數及其ノ預金額ハ貯金原簿焼失後ノ今日調査ノ途ナク從テ不明ナリ

ロ、通帳記番號若クハ預入高不明ノモノニ就テハ預入者ノ記憶ヲ喚起セシメ得タルモノハ申告書ヲ受付ケタルモ絶對不明ノモノハ之ヲ受付ス隨テ其ノ數及金額不明ナリ

二 兌換銀行券ノ焼失高ハ之ヲ推定スルコト困難ナルヲ以テ發行銀行ニ對スル處置ニ付テハ政府ニ於テ未タ講究スルニ至ラス

三 震災ニ因ル焼失勸業債券ノ救濟ニ付テハ同行ニ於テ出來得ル限リノ便法ヲ講シツ、アルヲ以テ政府ニ於テハ此ノ上特別ノ施設ヲ爲ス必要ナキモノト認ム

緊急質問及答辯

一 貴族院制度改革ニ關スル緊急質問

右ハ大正十三年十二月二十七日山本悌二郎君之ヲ提出シ即日議事日程ニ追加シテ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ



貴族院制度改正ノ問題ハ、多年識者ノ間ニ論議サレツ、アッタノデアリマスル、清浦内閣ノ成立ニ依テ更ニ激成サレテ、遂ニ此問題ハ天下ノ輿論トナッタノデアアル、此輿論、此國民ノ意思ニ基イテ第四十九議會ニ於テ貴族院制度改正ニ關スル建議案ガ提出サレテ、大多數ヲ以テ通過シタノハ諸君御承知ノ通りノ次第デアアル其後ノ經過ニ付テ私ハ政府當局ニ向ッテ問ハント欲スルノデアリマス、其問ハント欲スル點ハ二ツニ存シテ居ルノデアリマス、其第一點ハ第四十九帝國議會、衆議院ニ於テ通過シタル貴族院制度改正ニ關スル建議ニ對シテハ、政府ハ如何ナル措置ヲ執リツ、アリヤト云フコトニ於テハ疑ヲ容レマセヌ、併ナガラ特ニ此機會ニ於テ具體的ニ明カナル答辯ヲ望ムト云フコトニ於テハ疑ヲ容レマセヌ、第二點ハ、政府ハ貴族院制度改正ニ關シテ本期議會中ニ之ヲ解決スルノ意思アリヤ否ヤト云フコトデアリマス、固ヨリ此點ニ對シテモ政府ハ其進捗ヲ圖リツ、アルト云フコトハ聞イテ居リマス、サリナガラ此點ニ關シテモ、亦同ジク此衆議院ニ於テ明カナル答辯ヲ望ムモノデアリマス、言フマデモナク政治ノ要諦ハ時ノ勢ヲ利導スルニ在ルノデアリマス、一度天下ノ勢成ルニ當ッテハ、此勢ハ其前途ニ横ハル所ノ何物ヲモ突破シ、何者ヲモ破碎シ去ラズン、止マナイノデアリマス、故ニ聰明ナル政治家トシテハ、此勢ヲ善導シ利導シテ、之ヲ社會國家ノ向上發展ニ資スルノデナクテハナリマセヌ、此點ニ關シテハ政府當局ハ固ヨリ如才ノナイコト、存ジマス、私共ハ政府ガ此貴族院制度改正ノ問題ヲ一日モ速ニ解決セント努力シツ、アルト云フコトハ疑ヒマセヌ、故ニ此機會ニ於テ此點ニ關シテ更ニ具體的ニ、更ニ明確ニ責任アル當局者ノ答辯ヲ望ム次第デアリマス

右ニ對シ横田司法大臣ハ口頭ヲ以テ左ノ如ク答辯ヲ爲セリ

山本悌二郎君ノ御質問ニ對シテ答辯ヲ致シマス、政府ハ貴族院制度ノ改正ニ關スル國論ノ歸趨ニ鑑ミ、是ガ改正ノ爲ニ特ニ調査委員ヲ設ケテ、私モ其一人トシテ今鋭意調査中デアリマス、固ヨリ吾々ノ考ハ今期議會ニ提出スル覺悟デアリマス、近ク成案ヲ得テ相當ノ機關ニ諮リ、次イデ

天下ニ公ニスルノハ遠クハアルマイト信ズルノデアリマス、此段御答致シマス

二 遞信省補助航路船舶沈没ニ關スル緊急質問

右ハ十四年三月十七日橋本喜造君之ヲ提出シ同日議事日程ヲ變更シテ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

我が長崎縣下ニ於キマシテ、世界ノ海運史上ニ未ダ曾テ見ザル所ノ大不祥事ガ出來タノデアリマス、ソレハ長崎五島間ノ定期航路ノ汽船デアリマスル第六宇和島丸ノ沈没デゴザイマス、此船舶ハ長崎五島間ノ定期航路ヲ致シテ居リマシテ、去ル十一日ノ夜九時長崎港ニ於キマシテ、貨物約千、乘客百十七名、更ニ船員二十餘名ヲ乗セマシテ五島ニ向ケテ出帆致シタノデアリマス、サウシテ其當夜即チ十二日ノ午前二時、長崎港ヲ去ルコト僅ニ三十哩ノ地點ニ於キマシテ、此船舶ハ何レノ個所ヨリカラカ分リマセヌガ、船底ヨリ浸水スルコトガ分ッタノデアリマス、サウ致シマシテ午前六時ニ至リマシテ、既ニ浸水益深クシテ、機關室マデ浸水致シマシテ、遂ニ汽鐘ニ火ヲ焚クコトガ出來ズ、機械ガ止ッタノデアリマス、ソコデ船長ハ乘客ヤ或ハ船員ニ向ヒマシテ、最早浸水益強イ、如何ニシテモ助カルコトハ出來ヌノデアリマス、諸君ハ此本船ト共ニ運命ヲ決セラレンコトヲ望ムト云フヤウナ宣告ヲ致シマシタノデアリマス、ソコデ船員ハ申スニ及バズ、百十七名ノ乘客ハ取ルモノモ取敢ヘズ上ヲ下ヘト騒動致シマシテ、阿鼻叫喚殆ド此世ナガラノ生地獄デアルト云フヤウナ状態デアッタノデアリマス、ソレカラ浸水ハ益強クナリマシテ、十二日ノ午後二時ニ至リマシテ正ニ本船ハ沈没ノ状態ニナッタノデアリマス、ソコデ船長ハ「ボート」或ハ傳馬ヲ下シマシテ、諸君ノ自由ニ御任セ致シマスカラ、各々急ニ本船ヲ御去リニナル方ハ御去リナサイト云フ命令ヲ下シタノデアリマス、然ルニ乘客トシテ誰一人本船ヲ去ル者ハ無カッタ、併ナ



ガラ其中船員ノ或者、或ハ乗客ノ氣ノ早イ者ハ、其「バッテリー」ニ數十人共ニ飛乗ッタノデアリマス、ソレガ爲ニ「バッテリー」ハ沈没致シマシタ、ソコデ傳馬船ニ船員三名、乗客十三名、合計十六名ノ者ガ乗リマシテ、サウシテ運ヲ天ニ任セテ、波ノ間ニ任セテ、サウシテ其儘櫓モ持タズシテ漂流シテ居ッタデアリマス、幸ニシテ一隻ノ傳馬ガ助カリマシテ、翌十三日熊本縣天草郡高濱村ニ漂著致シマシテ、助カッタデアリマス、殘ル所ノ者ハ全部本船ト運命ヲ共ニシテ、海底ノ藻屑トナッタデアリマス、是ガ暴風トカ或ハ不可抗力デアラナラバ、諦メルコトモ出來マスルケレドモ、此本船ノ出帆ノ十一日ト云フモノハ、其日ハ稍風ガ強カッタケレドモ、十一日ノ晚景ヨリ風ニナリマシテ、サウシテ本船ガ愈風デアラカラ長崎港ヲ出帆スルト云フ間際ニ於テ、夜九時ニ長崎港ヲ出帆シテ、十一日カラ翌十二日ニ掛ケテハ何等ノ波モナク、風モナク、海上ハ平穩無事デアッタデアリマス、サウシテ本船ハ老朽船ナルガ爲ニ自然ノ浸水デアッテ、風波ノ爲デモ何デアリマセヌ、自然ノ浸水ノ爲ニ本船ハ沈没致シマシテ、百餘名ノ生命ヲ海底ノ藻屑ト化セシメタデアリマス、御承知ノ通り本船ハ明治三十四年ニ伊豫國ノ宇和島汽船會社ガ、大阪ノ空幾太郎ト云フ船大工ガアリマス、之ニ拵ヘサセマシテ、サウシテ宇和島大阪間ヲ約二十年間航海サセマシテ、最早危險デアルト云フコトデハ豫備船ト致シマシテ、或ハ繫泊セシメ、或ハ航海ヲサセタデアリマス、之ヲ數年前五島汽船ガ買收シテ、サウシテ長崎五島間ノ定期航路ニシタノデアリマス、其後ニ九州汽船ト云フモノト五島汽船ガ合併致シマシテ、新興汽船會社ト云フモノヲ拵ヘテ、今日ノ船主ハ新興汽船ナルモノデアリマス、五島汽船會社ナルモノハ此船ヲ十二萬圓ト云フ價格ヲ以テ船舶出資ト致シマシテ、此新興汽船會社ヲ拵ヘタデアリマス、其當時是ガ五島汽船會社デ、マダ新興汽船會社ニナル前デゴザイマスルガ、本黨ノ牧山耕藏君ガ本船ニ對シテ五島長崎間ノ定期航路ヲヤル、ソレデ補助金ヲ要求スルト云フコトデ建議案ヲ出シマシテ、二萬圓ノ航海補助金ガ政府ヨリ出ルコトニナッタデアリマス、サウシテ今此二萬圓ノ補助金ト云フモノハ繼續致シテ居リマス、是ハ取りモ直サズ我ガ帝國ノ遞信省ノ補助航路デアリマス、此建議案ガ出マシタトキニ、私ハ斯ノ如キ考朽船ヲ定期航路ニ使フト云フコト、或ハ之ニ對シテ遞信

省ガ航海補助金ヲヤルト云フコトハ何事デアルカ、一朝過失ガアッタナラバ其責任ハ何人ガ持つカ、御承知ノ通り船舶ト云フモノハ生命ニ限ガアリマス、軍艦ハ十年、普通商船ハ十五年、木船ハ八年若クハ十年ト云フコトデアリマス、八年若クハ十年ノ生命ノ船舶ガ本年二十五年目ノ船デアリマス、此建議案ガ出タ時ハ二十三年目ノ船デアリマス、此二十三年目ノ船ニ對シテ補助金ヲ與ヘルト云フコトハ、何事デアルカト云フコトヲ以テ私ハ反對シタデアリマス、然ルニ政黨内閣ト云フモノハ妙ナモノデアリマシテ、遂ニ二萬圓ノ補助金ヲ與ヘマシテ、此航海ヲ今尚ホ續ケテ居リマス、其時ニ私ガ申シマシタル所ノ、一朝事アッタラバドウスルカ、必ズ近イ中ニ斯ウ云フ事ガアルニ違ヒナイト云フコトヲ私ハ言ッタデアリマス、其豫言ガ今日當リマシテ、サウシテ斯ノ如キ悲惨事ヲ來シタト云フコトハ、返スミモ残念デアリマス、又政府ニ於キマシテモ、木船ト云フモノハ十年經ッたらバ役ニ立タナイト云フコトハ十分ニ分ッテ居ル、鐵船ハ丈夫デアリマシテ水ガ浸込ミマセヌガ、木船デアリマスレバ海中ニ浮イテ居リマスレバ必ズ水ガ浸込ム、甲板ト肋骨ヲ縫ウテ居ル所ノ釘ガ必ズ腐ッテ、サウシテ切レテシマフ、假令切レナクテモ木ト木トノ間ニ割目ガ入ッテ、釘ヲ見ルト或ハ針金ノヤウニ針ミタイニナル、既ニ危險ナルコトハ何人モ知ッテ居ル、何人モ知ッテ居ルニ拘ラズ、政府當局ハ今尚ホ之ニ補助金ヲ與ヘテ居ルデアリマス、斯ウ云フヤウナ事デゴザイマスカラ、政府其ノモノモ全ク之ニ關シテ責任ガ無イト云フコトハ出來ヌデアリマス、又茲ニ五島カラモ電信或ハ手紙ガ參ッテ居ルデアリマスガ、牧山君ニ頼メバ如何ナル事モ出來ルト思ッテ、牧山君ニ明細書ヲ送ッテアルカラ、ドウカ今後五萬圓ニ目下ノ補助金ヲ増シテ吳レト云フ茲ニ書留ノ手紙ガ參ッテ居リマス、五島ノ福江ノ村長出口本吉ト云フ者カラ尙ホ二三日前電信ガ參リマシテ、牧山君ニ依頼ノ航路補助金ヲ宜シク頼ムト云フノモ參ッテ居ル、牧山君ニ頼メバ何デアモ彼デアモ出來ルヤウニ思ッテ居ル、ソコデ私共ハ斯ノ如キ老朽船、而モ利益ノアッテ補助金ナドヲヤル必要ガナイ所ノ航路ニ補助金ヲ出シ、或ハ斯ノ如キ老朽船ニ今尚ホ續ケルト云フコトハ言語道斷デアアル、是ハ全ク政府ノ怠リデアリマス、又過日無線電信ノ強制据附ト云フコトガアリマシタガ、是ハ二千噸以上ノ船舶デアリマス、二千噸以上ノ船舶



ト云フナラバ、貨物船デアッタナラバ僅カ二十人カ二十五人ノ船員デアリマスガ、客船ハ三百噸、四百噸デモ客ノ定員ハ二百人デ、船員ハ二十五人乗ルデアリマス、ソレデ此船客ナルモノニハ二千噸デハイケナイ、千噸若ハ五百噸ノ船デモ定員二百人以上乗ル船舶ニ對シテハ、ドウシテモ無線電信ヲ据附ケナケレバナラヌ、又貨物船トシテハ三千噸以上ノ船ニ無線電信ヲ据附ケルナラバ、是ハ寧ロ當リ前デアルト申シマシタ、而モ協議會ヲ開イテ相談シタノデアリマスガ、遂ニ私ノ意見ヲ容レラレナクテ、二千噸以上ノ貨物船ニハ無線電信ヲ附ケル、而モ二百人、三百人ノ定員ヲ有シテ居ル沿海航路、或ハ近海航路ノ客船ニハ無線電信ヲ附ケル必要ガナイト云フコトニナッタノデアリマス、若シ此船ニ無線電信ガアッタナラバ、前夜ノ二時カラ午後二時マデ漂流シタノデアリマスカラ、必ズ船員ガ助カルデアリマス、ソレデ唯無線電信モ空ニ囚ハレ、或ハ形式的ニヤルヤウナ譯デアッテ、實際無線電信ハドノ位效力ヲ有スルモノデアルカ政府當局モ考ヘラレンコトヲ希望致シマス、又此船舶ガ十二萬圓トシテ新興汽船會社ハ出シテ居ルガ、幾ラ最良目ニ見テモ何人ガ評價シテモ、本船ハ二萬圓以上ノ價值ハナイデアリマス、之ヲ十二萬圓ト云フ評價ヲ致シマシテ、サウシテ會社ヲ組織シテ居ル、第一此會社其モノガ間違デアル、然ラバ保險ハドウカト云フト、總テノ保險會社ハ之ヲ拒絕致シマシテ、此船ハ保險ヲ附ケル資格ガナイト總テノ保險會社ハ引受ケマセヌ、引受ケナイガ爲ニ此船體ハ保險ガ無い、無保險デアアル船ガ沈没シテ十二萬圓ノ船價ハ損シテ居リマスケレドモ、一文モ保險金ガ取レナイ、又十一日ハ前ニ申上ゲマシタヤウニ、十一日ハ少々時化デアリマシタケレドモ、十二日ハ決シテサウデナイ、時化デナクテ沈ンダト云フコトハ、全ク天災不可抗力デナイ、不可抗力デナクシテ沈没シタト云フコトハ、取モ直サズ船主其者ノ責任デアリマス、之ニ對シマシテ船主ハ無限ノ責任ヲ負ハナケレバナラヌ、私共立法府ニ立ッテ奔走ヲ致シテ居リマスノモ、結論ト致シマシテハ生命ノ安定ヲ保タンガ爲デアリマス、此百十七名ノ生命ニ對シテ、政府竝ニ此汽船會社——新興汽船會社ハ絕對ノ責任ヲ持タナケレバナラヌ、又無限ノ責任ヲ持タナケレバナラヌデアリマス、是ガ不可抗力デアアルナラバ萬已ムヲ得マセヌケレドモ、不可抗力デナイト云フコトハ是ハ確カデアリ

マス、諸君ガ御承知ノ通り何レニモ測候所ナルモノガアリマシテ、「ウエザーチャート」ガアッテ、「ウエザーチャート」ガ毎日出テ居リマス、ソレヲ見レバ十二日ノ風力ハ幾ラカト云フコトハ明デアリマス、此時ハ南風デアッタノデアリマス、強風デモ烈風デモアリマセヌ、無論暴風デモナイノデアリマス、ソレデ自然ニ浸水スルヤウナ老朽船ニ補助金ヲ與ヘテ、今尙ホ補助ヲ繼續サレテ居ルト云フコトハ言語道斷デアリマス、ソレデ私ハ之ニ對シマシテ、政府ノ御考ヲ茲ニ聽ク積リテ居リマスガ、之ヲ約メマシテ二項ニ分チマス、政府ハ此航路ニ對シマシテ尙ホ繼續的ニ補助金ヲ給與スル御積リデアリマスカ、是ガ第一、第二問ハ尙ホ本邦ニ於キマシテ、此航路ト殆ド同ジ航路、又本船ト同様ノ年齢ヲ持ッテ居ル所ノ老朽船ガアリマス、是ハ樺太トカ、北海道トカ、朝鮮總督府、斯ウ云フモノハ實際其通り之ニ對シテ今後ドウ云フ事ヲ爲サル御積リデアアルカ、又此第六宇和島丸ノ沈没ニ對シテ、百十七名ノ生靈ニ對スル政府ノ御考此百十七名ノ生靈ニ對シテ、而モ其遺族ニ對シテ政府ハドウ云フ處置ヲ執ラレルカ、又之ニ對シテハ相當ノ救恤ヲシナケレバナラヌト思ヒマスガ、其救恤ノ方法竝ニ其程度、或ハ給與スベキ金額ガ分ッテ居ルナラバ、其金額マデ併セテ御知ラセテ願イタイノデゴザイマス、之ヲ以テ質問ノ終リト致シマス

右ニ對シ同日植原政府委員ハ口頭ヲ以テ左ノ如ク答辯ヲ爲セリ

只今ノ橋本君ノ御尋ニ對シテ御答致シマス、長崎縣長崎市ト玉浦間ヲ航行ノ際ニ於キマシテ、新興汽船會社所有ノ宇和島丸ガ十二日海上ニ於キマシテ遭難致シ、多數ノ人命ヲ失ヒマシタコトハ實ニ遺憾至極デアリマス、生命ヲ失ハレタ諸君ニ對シテハ勿論ノコト、是等ノ遺族ニ對シテモ實ニ御同情ニ堪ヘナイ次第デアリマス、此事ハ既ニ天聽ニ達シマシテ、御下賜金ノ御沙汰マデゴザイマシタコトデ、實ニ恐懼ニ堪ヘザル次第デゴザイマス、橋本君ノ御質問ニ對シテ、事ヲ明瞭ニ致シマスガ爲ニ、事實ノ相違モゴザイマスルカラ、今日マデ政府ノ調査ニ依リマシテ得マシタ所ノモノヲ一應御傳ヘラ致シ、而シテ具體的ニ御述ニナリマシタ所ノ御質問ノ箇條ニ對シテ御答ヲ致シタイト思ッテ居リマス、新興汽船會社ノ所有ニ屬スル第六號宇和島丸ガ、長崎玉浦線ニ就航



中本月十一日午後九時五島福江ニ向ケテ航行中、風波ニ出遭ヒマシテ浸水致シタノデアリマス、其事ガ傳ハリマシタノデ、佐世保ノ鎮守府カラハ五隻ノ驅逐艦ヲ出動セシメ、又九州汽船會社カラモ相當ノ船ヲ出シマシテ、有ユル搜索救助ニ努メタノデゴザイマス、サウシテ努力ハ致シマシタケレドモ、船ニ段々水ガ入りマシテ、火ヲ焚クコトモ出來ズシテ、乗客ト船員ハ端艇ト傳馬船ニ乘リマシテ船ヲ遁レ出デタノデアリマス、サウシテ傳馬船ニ乘リマシテ避難致シタ者ガ、肥前ノ野母、樺島ノ南方ノ沖ニ遁レマシテ、サウシテ風波ノ爲ニ漂著致シタ、此傳馬船ニ乘ッテ居リマシタ者ガ船員、事務長、賄長、給仕三名、乘客十三名、都合十六名助カリマシタノデ、總テノ乘客船員ヲ合シテ百二十二名ノ中、助カリマシタ者ガ十六名、其他ハ全部御説ノ如クニ海底ノ藻屑ニナッタコトデ、洵ニ御氣ノ毒千萬デゴザイマス、サウシテ只今マデ得タ所ノ報告ニ依リマスト云フト何ニ致セ殘リマシタ所ノ者ニ依リマシテ、其當時ノ狀態ヲ知ルヨリ致方ガアリマセヌ、船員トシテ殘リマシタ所ノ者ハ、事務長ト賄長ト給仕ト三人ノ傳フル所ニ依テ事實ヲ知ルヨリ致方ガナイ、船ハ肥前ノ野母ト樺島沖ノ南方ノ沖合ニ於テ顛覆シタカノ如ク思ハレテ居ルノデアリマス、其他ノ細カシイ事實ニ付キマシテハ、マダ詳報ヲ得テ居リマセヌ、今日マデ手ニ得マシタ所ノ確報ト申シマスモハ、是ダケデアアルコトヲ御承知ヲ願ッテ置キタイノデアリマス、ソコデ只今橋本君ノ御説ニモゴザイマシタ通り、此航路ハ補助航路デアリマス、補助航路デアリマスケレドモ、遠洋航路ノ補助トハ性質ガ違フノデゴザイマシテ、本州ト離島間ノ航路ニ付テハ、海上ニ於ケル一種ノ縣道ノ延長ノ如クニ考ヘテ居ルノデアリマス、ソレ故ニ斯様ナ一ツノ縣ト其縣ニ屬シマスル所ノ離島トノ間ヲ航行スル所ノ船舶ハ、直接ニ地方長官ガ取扱ウテ居ルコトニナッテ居ルノデアリマス、其必要ガアル場合之ヲ政府カラ補助ヲ致スト、斯ウ云フ立前ニナッテ居ルノデ、大正十一年度以來此長崎ノ航路ニ對シテ二萬圓補助スルコトニ致シテ居リマシテ、一萬圓ハ此新興會社ニ補助ヲ致シ、他ノ一萬圓ハ九州汽船會社ニ補助スルコトニ相成ッテ居ル譯デアリマス、併ナガラ此二萬圓ヲドウ云フ風ニ取扱ウカト云フコトニ付キマシテモ、之ヲ直接管轄シテ居ルノハ地方長官デゴザイマシテ、勿論地方長官ハ遞信省ノ認可ヲ受ケナケレバナリマセヌケレドモ、直接

取扱ッテ居ルノハ地方長官ガ取扱ッテ、遞信省ノ認可ヲ得テ、サウシテ此金ヲ補助會社ニ交付シテ居ルト、斯様ナ次第ニナッテ居ルノデアリマス、ソコデ橋本君ハ、補助航路ノ船舶ニ付キマシテハ十五箇年以上ノ老朽船ニ付テハ補助ヲ致サナイコトニナッテ居ルト、斯様ナ御説モアリマシタノデアリマスガ、遠洋航路ノ補助ニ付キマシテハ御説ノ如クデアリマス、併ナガラ斯ウ云フ近海沿海ノ航路ニシテ、地方長官ガ主管トシテ居ルモノニ付キマシテハ、左様ノ規定ガ無イノデアリマス、而シテ之ニ補助ヲ與ヘルニ付キマシテモ、帝國議會ノ協贊ヲ經マシタ其方針ニ基キマシテ、政府ハ補助ヲ與ヘテ居ルコト、御承知ヲ願ッテ置キタイノデゴザイマス、次ニ橋本君ノ御意見ニ無線ノ事モゴザイマシタガ、斯様ナ事モ起ルコトヲ承知致シマスルガ故ニ、船舶無線法案ヲ此議會ニ提出シテ、諸君ノ御協贊ヲ仰イダ譯デアリマス、ソレカラ此事ニ付テハ、政府ハ絶對ニ責任ガアル、此船ノ沈ンダコトハ風波デナクシテ、船自體ガ惡イト云フ御説モアッタヤウニ承知シテ居リマスガ、ドノ船ニ對シテモ、遞信省ハ定期ノ検査ヲ致スノデアリマス、此船ヲ検査致シタノハ昨年ノ四月一日ニ検査ヲシテ居ルノデアリマス、而シテ其當時ノ狀態ニ於キマシテ、相當ニ航海ニ適スルト認メナイ以上ハ、許ス氣遣ハナイノデアリマス、而シテ橋本君ノ御説ハ、此當日ハ風波無シトノ御意見デゴザイマシタケレドモ、左様デハゴザイマセヌ、何故ナラバ十二日ニ遭難ヲ致シタ船舶ガ可ナリ多數デアリマス、丁度汽船長久丸ハ十二日ノ午後二時、此新興汽船會社ノ宇和島丸ノ遭難シタト同時刻ニ、大隅カラ鹿兒島ヘ航行中遭難シタ所ノ事實モアルノデアリマス、又發動機船デ行衛不明ニナッタモノガ二隻アリマス、帆船デ遭難致シマシテ顛覆シタモノガ廣島沖ニ於テアリマス、又吳ノ所管内ニ於キマシテ八十噸バカリノ船ガ沈沒致シタコトモアリマス、鳥取縣方面ニ於キマシテ漁船十數隻ノ行衛不明ニナッタ事實モアリマス、當日各地カラ參リマシタ所ノ主トシテ日本海、九州沖カラ參リマシタ所ノ情報ニ依リマスト、可ナリ此日ニ風波ガアリマシテ、遭難致シテ居ルモノガ多數ニ上ッテ居ル所カラ見マスルト、橋本君ノ只今御述ベニナッタ、全ク海上平穩デアリマシテ、此船ガ惡クテ水ガ這入ッタト云フ所ノ事實ハ、政府當局トシテ未ダ認メルコトハ出來ナイノデアリマス、勿論是等ノ浸水ノ原因ニ付キマシテハ、十分ナル調査ヲ



得テ居リマセヌ、餘リニ事實ガ新シイコトデ、唯電報ニ依リマシテ此報告ヲ得テ居ルノミデアリ  
 マスカラ、ソレ以上ノ報告ニ付テハ何等得テ居ル所ガ無イカラ、更ニ正確ナル事實ノ報道ヲ得マ  
 シタナラバ、御知ラセ致ス機會ガアラウト思ヒマス、最後ニ橋本君ガ三ツノ質問ヲ掲ゲテ爲サレ  
 マシタ事ニ付テ御答致シマス、政府ハ此航路ニ付テヨリ多クノ補助ヲスルカ、斯様ナ御質問デア  
 タト思ヒマス、政府デハ此航路ニ付キマシテ、年々二萬圓ノ補助ヲ致スコトハ、議會ノ協賛ヲ經  
 テ居リマス、而シテ將來ノ事ハ主トシテ議會ガ定メルコトデアリマスケレドモ、政府ノ見ル所ニ  
 依リマスルト、此新興會社ガ此航路ニ依リマシテ年々相當ナ利益ヲ占メテ居リマス、會社ノ計算  
 ニ依リマシテモ、昨年ノ收支決算ニ依リマスルト、一萬七千圓位ノ利益ヲ占メテ居リマスルガ故  
 ニ、政府ノ見ル所ニ依リマスレバ、是レ以上ノ補助金ハ此航路ニ補助スル必要ハナカラウト、只  
 今ノ場合ハ考ヘテ居リマス、更ニ次ノ御質問デアリマシタ、老朽船ニ對シテドウスルカ、遠洋航  
 路ニ付テハ御承知ノ如ク補助船船、船齡ヲ十五箇年ニ制限シテ居ルコトハ、橋本君御承知ノ如  
 クデアリマス、ソレカラ歐羅巴戰争後、海運事業界ガ極メテ不況ニ陥リマシタ結果、新造船ガ少  
 ク老朽船ガ多クナッタト云フコトハ、橋本君ノ能ク御承知ノコトデアラウト思ッテ居リマス、而シ  
 テ此老朽船ニ對シマシテモ、出來得ルダケ船船ノ検査ヲ嚴重ニ致シマシテ、生命財産ノ安全ヲ圖  
 ルヤウニ、將來トモ尙ホ十分ニ注意ヲ致スコトヲ御承知ヲ願ッテ置キタイノデアリマス、ソレカラ  
 第三ノ御尋デゴザイマス、是等ノ死亡シタル者、遭難シタル者ニ對シテ政府ハ如何ニ處置スルト  
 云フコトノ問題デアリマス、既ニ御下賜金ノ救恤金モゴザイマス、又是等ニ對シテハ汽船會社モ  
 相當ニ考慮致シマセウ、又ソレヲ監督致シテ居ル所ノ縣廳ニ致シマシテモ、ソレ等ノ事實ニ依リ  
 マシテ、相當ノ處置ヲ致スダラウト考ヘテ居リマス、具體的ノ事ニ付キマシテハ、只今ノ場合ソ  
 レ以上ノ事ヲ申上ゲルダケノ程度ニ進ンデ居ラヌコトヲ御承知願ッテ置キマス

橋本喜造君ノ再質問

只今政府委員カラ大變御深切ナ御答辯ヲ戴キマシタガ、御答辯中ニ大分違ッテ居ル事ガアリマ

スカラ、之ヲ私申上ゲテ置キタイト思ヒマス、政府委員ハ十一日、十二日、詰リ遭難當時ハ大分  
 ノ時化デ、長久丸ガ何處デ沈ンダ、或ハ日本海ニ於テ汽船ハ何隻無クナッタト云フヤウナ御話ガ  
 アリマシタガ、是ハ日本全體ノ遭難船ヲ御調べニナッタ結果デアラウト思ヒマスガ、此長崎港附  
 近ニ於テサウ云フヤウナモノガ有ツタカ、無カッタカ、ドウモ遠方ノモノヲ持ッテ來テ、サウシテ長  
 崎附近ガ時化デアッタト云フガ、此風ト云フモノハ何哩ノ間ヲ吹クモノデアルカ、ソレハ程度ガ  
 アリマス、兎ニ角測候所ト云フモノガアリマシテ、其日ノ風ノ方向ガ書イテゴザイマスカラ、之  
 ヲ御持チニナッタナラバ御示シテ願ヒタイ、ソレカラ戰後ニナッテ海運界ガ不況ニナッテ新造船ガ  
 少クナッタト云フ御話デアリマシタガ、是ハ全ク間違デアリマシテ、歐羅巴戰争中ニ隨分船ハ殖エ  
 マシタ、約百五十萬噸ノ船ガ殖エマシテ、戰後ニ海運界ガ悲況デアリマス爲ニ、百五十萬噸ノ船  
 船ハ殆ド遊ンデ居リマシテ、如何ナル立派ナ船デモ求メルコトガ出來ルノデアリマス、斯ノ如キ  
 二十五年以上ノ木船ヲ用キル必要ハ更ニ無イノデアリマス、其邊ノ事ハ或ハ官吏ノ方デアリマ  
 スレバ、或ハ船舶ノ事ヲ知ラヌ方デアリマスレバ、知ラヌト云フノガ寧ロ當然ダラウト思ヒマス

植原政府委員ノ應答

橋本君ハ如何ナル根據ニ依リマシテ、此當日長崎一帯ガ平穩無事デアッタト仰シヤルカ存ジマ  
 セヌガ、中央氣象臺ノ報告ニ依リマシテモ、三月十二日長崎一帯、九州沖ハ相當暴風デアッタコト  
 ヲ事實證明致シテ居リマス、ソレノミナラズ只今申上ゲタ遭難船ノ多數ハ、九州ノ鹿兒島沖カラ  
 下ノ關、鳥取縣ヘ掛ケテノ一面デアアルコトヲ御承知ニナリマシタナラバ、政府ノ申上ゲルコトガ  
 確實デアアルト信ジテ居リマス

三 電氣事業者取締ニ關スル緊急質問

右ハ十四年三月十七日土屋興君之ヲ提出シ同日議事日程ヲ變更シテ提出者ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明



諸君、私ハ會期ノ切迫セル今日、特ニ緊急質問ノ機會ヲ御與ヘ下サレタル三派諸君ノ寬厚ナル雅量ニ對シテ謹ンデ敬意ヲ表スル者デアリマス、私ノ質問ハ極メテ簡單デアリマスガ、而モ其實タルヤ國民ノ實生活ヲ脅威スル極メテ重大ナル問題デアリマス、私ハ電燈電力供給ノ任ニ在ル電氣事業者ノ取締ニ對シテ、遞信當局ニ質問ヲ致ス者デアリマス、諸君、近頃吾々ノ家庭ニ供給セラル、所ノ電氣ハ甚シク暗イ、其光モ特ニ鈍イノデアリマス、十燭ヤ十六燭ノ電球ヲ以テハ新聞スラ讀ミ得ナイト云フヤウナコトモ聞ケアルノデアリマス、是ハ申上ゲルマデモナク電氣事業者ガ一定ノ電壓ノ送電ヲ爲サズシテ、甚シク低キ電壓ノ下ニ送電ヲ致シマスル結果、斯ノ如キ不都合ヲ生ズルノデアリマス、家庭ニ於テ夜間新聞紙ヲ讀ミ得ナイト云フガ如キコトハ、甚シク不自由不便ノ事デアリマスルガ、尙且ツ之ヲ忍ブベシトスルモ、工場ヲ經營スル者、家内工業ヲ營ム者、或ハ家庭ニ於テ手内職ヲ致シマスル者ガ、電氣光力ノ鈍イガ爲ニ夜業ヲ撤廢シナケレバナラヌト云フガ如キコトハ、洵ニ忍ブベカラザル事デアリマス、殊ニ電壓ガ甚シク低イガ爲ニ、工場ノ「モーター」ヲ動かスコトガ出來ナイデ、全然工場ノ作業ヲ荒廢ニ歸スルト云フガ如キニ至ツテハ、洵ニ悲惨ナル事實デアリマス、而モ斯ノ如キ事實ガ一日ヤ二日デハナク、數箇月ニ互ツテ繼續シテ行ハレルト云フニ至ツテハ、其慘害蓋シ測リ知ルベカラザルモノガ存スルノデアリマス、今ヤ電氣事業者ノ設備怠慢ヨリシテ起ル、斯ノ如キ損害ノ爲ニ、電氣事業者ヲ呪フ聲ト云フモノハ勃然トシテ全國ニ起リツ、アルノデアリマス、私ハ先頃伊豆方面ニ旅行ヲ致シタノデアリマスルガ、温泉宿ノ電燈ガ非常ニ暗イ、殆ド光ヲ放ツテ居ルト云フヨリハ、唯赤イ色ヲ呈シテ居ルノミデアリマス、八疊ノ部屋デアツテ、四五尺ヲ隔テ、相對シテ居ル者ノ顔ガ殆ド見ルコトガ出來ナイト云フヤウナ状態デアアル、立ツテ電球ヲ檢シマスルト云フト五十燭ノ「タンクステン」電球ガ點サレテ居ルヤウナ状況デアアル、宿ノ主人ヲ呼ンデ、何トカ電氣ハナラナイモノデアアルカト云フコトヲ交渉致シマスルト云フト、イヤ此地方ハ例年十一月カラ三月四月ニ互ツテ斯ノ如キ事ガ毎年繼續セラレルノデアリマス、而シテ電氣會社ニ向ツテ電氣ヲ明ルクシテ貰ヒタイト云フコト

ヲ交渉致シマスルト云フト、サウ云フ我儘ヲ言フ者ニ向ツテハ今後電燈ヲ供給シテヤラヌト云フコトヲ言ハレルカラ、マダ斯ウ云フ暗イ電燈デモ蠟燭ヲ點スヨリカ宜シイト云フノデ我慢シテ居ル次第デアリマス、然ラバ料金ハドウナルノデアアルカト云フト、料金ハ明ルカラウガ暗カラウガ、一定料金ヲドンク徴收セラレルノデアアル、私共ノ不平ハ尙ホ忍ブベシデアリマスガ、附近ノ工場ヲ營ム者ニ向ツテハ實ニ氣ノ毒デ、電氣ガナイ爲ニ工場ハ殆ド休止ヲ致シテ居ルト云フコトヲ申スノデアリマス、翌日宿屋ヲ出デテ附近ヲ視察致シマス、製氷ノ工場ト云ハズ、煉乳ノ工場ト云ハズ、鐵工所ト云ハズ、鑛山ト云ハズ、何レモ休止ヲシテ居ル状態デアリマス、就テ之ヲ質シマス、殆ド數箇月ニ互ツテ甚シキ低キ電壓ノ下ニ送電ヲセラレマス關係カラ、「モーター」ヲ動スコトガ出來ナイ結果、事業ヲ曠廢シテ居ルト云フコトヲ申ノスデアリマス、諸君、私ハ歸來各地ニ就テ取調ヲ致シテ見マス、今ヤ二三ノ大電燈會社ヲ除クノ外ハ完全ナル送電ヲ爲シテ居ルト云フ電氣事業者ハ無イノデアリマス、而モ電氣事業者ニ依テ電氣ノ需要者ニ被ラシムル損害ニ至ツテハ、事實上救済ノ途ガ無イノデアリマス、諸君、吾々ハ憲法ニ於テ生命財産ノ安全ヲ保障セラレテ居ル、吾々ハ不當ニ何人ヨリモ自己ノ有スル財産ヲ侵害セララル、コトハナイ、吾々ハ又不當ニ他人ノ財産ヲ侵害スルコトガ出來ナイト同時ニ、若シ不當ニ他ヨリ吾々ノ財産ニ損害ヲ加ヘラレタル場合ニ於テ、吾々ハ之ニ向ツテ即時ニ賠償ヲセシムルコトガ出來ルノデアリマス、是ガ吾々ガ文明國民トシテ存在ヲスル所以デアリ、又文明國民タル意義ガ茲ニ存スルノデアリマス、然ルニ電氣事業者ニ向ツテ損害恢復ノ途ガ無イト云フニ至ツテハ、蓋シ聖代ノ不祥事デアルト言ハザルヲ得ナイノデアリマス、是ニ於テカ私ハ默サント欲シテ默スルコトガ出來ナイ、五千萬國民ノ爲ニ立ツテ此壇上カラ我國ノ多クノ電氣事業者ノ不當ヲ鳴ラシ、其反省ヲ求メテ以テ需要者ノ被ル所ノ損害ヲ、幾分ナリトモ輕微ナラシメントスルト同時ニ、是ガ監督ノ任ニ在ル遞信當局ニ向ツテ警告ヲ與ヘテ、以テ適當ナル監督、適當ナル取締ヲ爲サシメ、又法規ノ不備ニ對シテハ新ナル制定ヲ要求シテ、以テ國民塗炭ノ苦ミヲ除カントスルノガ只今質問セムトスルニ至ツタ所以デアリマス、併ナガラ私ハ極メテ時間ヲ制限セラレテ居リマスカラ、時間ヲ短縮致シ



マニル都合上、質問ノ要旨ヲ朗讀致シタイト思ヒマス、第一ハ電氣事業者ハ電氣事業法ニ依リ施行規則第五十一條ニ依テ一定電壓又ハ一定電流ヲシテ百分ノ四以上ノ變動ヲ起サシメザルコト、電燈供給ノ場合ニアツテハ技術上已ムヲ得ザルモノヲ除クノ外光力ニ不定ヲ生ゼシメザルコトヲ要求セラレテ居ルノデアリマス、但シ是ハ特殊ノ事由アル場合ニ於テ遞信大臣ノ認可ヲ得タルモノハ、百分ノ四以下ノ電壓ニテ送電スルヲ得ルコト、シテアルノデアリマス、例年十二月ヨリ三月ニ互リテ、電氣事業者ガ公然低キ電壓ノ送電ヲナスハ、主務省ノ認可ニ依テヤツテ居ルモノデアアルカドウカ、若シ主務省ノ認可ニ依テ爲サレツ、アルモノトスレバ、主務省ハ公然盜賊ヲ爲スト同一ノ行爲ヲ公認スルト何等選ブ所ハナイ、公然公認ヲ致シテ居ルト云フコトニ相成ルノデアリマス、サウデナイナラバ施行規則第五十一條ハ空文トナリツ、アル譯デアリマシテ、當局ノ監督不行届、怠慢ノ罪ハ免レナイ所デアラウト思フノデアリマス、第二ハ、主務大臣ハ電氣事業法第六條ニ依テ公益上必要ナリト認メタル時ハ、電氣事業者ニ對シテ料金ノ制限、其他電氣供給ノ條件ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトガ、出來ルノデアリマス、何故ニ主務大臣ハ只今御話シタヤウナ場合ニ料金ノ引下ダ、又ハ免除、其他適當ノ救済ヲ當業者ニ御命ジニナラナイカ、聞ク所ニ依レバ米國アタリデハ僅カ半日半夜ノ停電デスラ一箇月分ノ電氣料ヲ拂ハヌコトニナツテ居ルト云フヤウニ聞イテ居リマス、第三ハ、主務大臣ハ電氣事業法第十四條ノ二ノ規定ニ依テ、天災其他ノ事故ニ依テ電氣工作物ノ障害ヨリ生ズベキ電氣ノ供給、又ハ使用ノ停止ヲ豫防セシムル爲ニ、公益上必要アリト認ムル場合ニ於テハ、電氣事業者ニ對シテ電氣ノ流用ヲ命ズルコトガ出來ルノデアアル、湯水期ニ際シ、水量減少ノ爲メ發電ノ不足ヲ來シ、其結果電氣ノ供給又ハ使用ヲ停止スル場合ニ於テハ、主務省ハ電氣事業者ニ對シ、隣接セル電氣事業者トノ間ニ互ニ電氣ノ流用ヲ命ジテ、需要者ノ損害ヲ少カラシムル處置ヲ致スコトガ出來ナイノデアアルカ、假ニ電氣事業法第十四條ノ二ノ規定ニ依テ之ヲ爲シ得ザルトスルモ、斯ル處置ハ電氣事業法第六條ノ規定ニ依テ、當業者ニ對シテ豫メ平時ニ於テ之ヲ命ジ、萬一ノ場合ノ準備ヲ爲サシメ得ルデハナイカ、第四、電氣需要者ガ契約ヨリモ甚シク光力ノ不足セル電氣ヲ供給セラレ、又ハ全ク使

用ニ堪ヘザル低キ電壓ニテ電氣ノ供給ヲセラレ、或ハ不時ニ電氣ノ供給ヲ拒絶セラレ、之ガ爲ニ其事業ニ不測ノ變動ヲ生ジ、莫大ナル損害ヲ被ルモ事實上救済ヲ受クルノ途ハ無イノデアアル、一例ヲ舉ゲレバ工場ヲ經營スル者、又ハ手内職ヲ爲ス者ガ光力不足ノ爲ニ夜業ヲ停廢シ、或ハ電壓低キ爲メ「モーター」ヲ動かカス能ハザル理由ニ依テ全然作業ヲ休止シ、而モ斯ル狀態數箇月ニ涉リ、其損害真ニ測リ知ルベカラザルモノアルモ、損害ハ賠償セラレナイノデアリマス、此場合需要者ガ電氣事業者ニ向ッテ損害ノ賠償ヲ求メンカ、彼等ハ供給區域ヲ獨占スル專賣事業ナルニ依テ、傲然タル態度ヲ以テ之ヲ拒否シ、且ツ斯ル要求ヲ爲ス者ニ向ッテハ電力ノ復活セル場合、送電ヲ拒絶スベキコトヲ仄カシテ威嚇スルヲ常ト致シマス、第五ハ、電氣供給事業者ハ電氣事業法施行規則第五十條ニ依テ、需要者ニ對シテ正當ノ理由ナクシテ電氣ノ供給ヲ拒絶スルヲ得ザルコトヲ規定セラレテ居ルノデアアル、隨テ需要者ヨリ損害ヲ申込ミタリトノ理由ニ依テ、故意ニ供給ヲ拒絶スルコトハ出來ナイ筈デアリマス、併ナガラ遞信省ノ監督不行届ノ結果、事實上獨占事業ナルガ故ニ甚シキ專横暴ヲ彼等ハ敢テシテ、第五十條ノ如キハ今ヤ全ク空文トナツテ居ルノデアリマス、第六ハ、電氣供給ノ如キ公益的獨占事業ニ對シテハ、當局ハ特ニ嚴重ナル監督取締ヲ爲スノ必要ガアリマス、又需要者ノ被ル損害ノ救済ノ如キモ、弱キ立場ニ在ル需要者ヲシテ遺憾ナカラシムルニ就テハ、法律上ノ保護ヲ必要トスル、即チ需要者ハ其損害ヲ直接當業者ニ申出スコトナク、之ヲ監督官廳ニ申告シ、監督官廳ハ當業者ニ向ッテ賠償ノ支拂、又ハ適當ナル救済ヲ命ズルノ規定ヲ設クルガ如キ、或ハ損害ヲ申出テタルガ爲ニ、將來故意ニ送電ヲ拒絶シ、又ハ不公平ナル取扱ヲ爲シタル時ハ、斯ル電氣事業者ニ對シテハ嚴罰ヲ科シ、場合ニ依テハ營業ノ許可ヲ取消スノ規定ヲ設クルガ如キ、極メテ必要ナ事デアルト思フノデアリマス、第七ハ從來主務省ノ方針ヲ見ルニ、電氣事業者ヲ保護シ、一般需要者ヲ保護セザルノ傾向ガアル、公益的性質ヲ有スル獨占的事業ニ對シテハ特ニ嚴重ナル監督ヲ爲シ、獨占ノ弊ニ陥ラシムルコトナキヲ要スルノデアアル、殊ニ民衆内閣ヲ標榜セル現政府トシテハ、特ニ弱キ立場ニ在ル需要者ニ向ッテ保護セラレシコトヲ望ムノデアリマス、第八ハ、水力發電ニ依ル電氣事業者ニ對スル主務省ノ營業許可ノ方



針ハ、最低水量ニ於ケル發電力ヲ限度トシテ許可シツ、アル筈デアラウト思フノデアリマス、然ルニ今日ノ如キ不都合ヲ生ズルト云フノハ、要スルニ當業者ガ許可ヲ得ル場合ニ爲ス最低水量ノ申請ニ僞リガアルカ、許可ノ場合當局ノ調査ガ杜撰デアアル爲デアアルカ、當業者ガ定時發電力以上ノ供給契約ヲ敢テ爲シ、不當利得ヲ得ントシテ故意ニ過大ノ契約ヲ平時ニ於テ爲ス爲メカ、三者何レカニ歸スルノデアアル、當局者ハ是等ノ點ニ就テ調査ヲ進メタ事實ガアリマスカドウカ、之ヲ伺ヒタイノデアリマス、第九ハ、從來主務省ノ方針ハ水力主義ニ偏重シテ、火力設備ヲ疎外シタル結果、今日ノ如キ失態ヲ演ジタルモノト思ハレルノデアアル、水力發電ニ依リ電燈電力ノ供給ヲ爲ス者ニ對シテハ、必ズ火力設備ヲ併セ設クルコトヲ命ジ少クモ許可發電力ノ三割ニ相當スル火力設備ヲ爲サシメルノ必要ガアラウト思フ、第十八ハ、資力不十分ナル者、發電力少ナキモノニ電氣供給ノ事業ヲ爲スコトヲ許可スルコトハ、絕對ニ避ケナケレバナラヌコトデアアル、資力豐富ニシテ大規模ノ經營ヲ爲ス者ガ、需要者ニ損害ヲ與フルノ程度ハ比較的少イケレドモ、資力少キ小規模ノ經營ヲ爲ス者ガ需要者ニ與ヘル損害ニ至ッテハ、極メテ深刻ニシテ悲慘ナルモノガアルノデアリマス、當局ハ將來斯ル不完全ナル電氣事業者ヲ認めザルト同時ニ、現ニ營業ヲ許可シツ、アル者ニ向ッテハ、極力其設備ノ完備ヲ期シ、需要者ニ不測ノ損害ヲ被ラシメヌヤウ御注意願ヒタイノデアリマス、私ハ以上十項ニ向ッテ何卒御懇篤ナル御答辯ヲ要求致シタイノデアリマス

植原政府委員ノ應答

只今土屋君カラ電氣事業ノ監督其他ニ付キマシテ、十項ニ互ル御質問ガゴザイマシタ、御陳述ノ中ニハ御意見モアリ、御希望モ多カッタヤウデアリマスガ、御質問ハ極メテ多岐ニ互ルコトデアリマスカラ、書面ヲ以テ御答辯申上ゲタ方ガ宜カラウト思ヒマス、御意見御希望ノ所ハ謹ンデ拜聽致シテ置キマス

右ニ對シ土屋君ハ左ノ如ク意見ヲ述フ

是ハ極メテ國民ノ生活ヲ脅威スル問題デアリマスカラ、私ハ遞信大臣ノ御答辯ヲ要求致シタノデアリマスケレドモ、貴族院ノ委員會ニ於ケル御都合ニ依リテ御出席ガ願ハレズ、只今植原參事官カラ代ッテ御答辯ガアッタノデアリマスガ、極メテ重大ナ問題デアアルガ、多岐ニ互ッテ居ルカラ文書ヲ以テ答辯スルト云フ御話デアリマシタ、是ハ洵ニ遺憾ナ事デアリマシテ、願クハ此議場ニ於テ政府ノ意ノ在所ヲ御聲明下サルコトガ、洵ニ國家國民ノ爲ニ、當業者ニ向ッテ警告ヲ與ヘル意味ニ於テ、殊ニ願ハシキコトデアアルト信ズルノデアリマスカラ、私ハ特ニ政府當局ニ向ッテ再考ヲ願フ者デアリマス、併ナガラ若シ政府當局ガ之ヲ爲スト云フコトヲ欲シナイ、是非文書ヲ答辯シタイト云フナラバ、何卒私ガ質問ヲ致シタル趣旨ノ存スル所ヲ能ク御諒解ニナッテ當業者ヲ鞭撻シ十分ナル監督取締ヲ將來ニ於テ御與ヘニナリ、國民塗炭ノ苦ミヲ御救済アラントヲ希望スル者デアリマス

次テ三月二十四日犬養遞信大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲セリ

第一、電氣事業法施行規則第五十一條但書ノ規定ハ極メテ特殊例外ノ場合ヲ豫想セルモノニシテ未タ之ヲ適用シタル事例ナシ而シテ電氣事業者ノ電氣供給狀況ニツキテハ監査ヲ執行シ或ハ設備ノ改善ヲ爲サシメ又ハ電力充實ノ方策ヲ講セシムル等施行規則第五十一條ノ原則ニ牴觸セシメサル様努力シ居レリ

第二、公益上必要ト認ムル場合ニハ事業法第六條ヲ適用スルノ方針ナリ

第三、電氣ノ流用ハ平素ヨリ出來得ル限り事業者ヲシテ之ヲ爲サシメツ、アリ然レトモ今回ノ如キ全國的ノ渇水ニ對シテハ何レモ他ニ流用シ得ルノ餘地少ナキヲ猶其程度ノ緩急ニ應シ出